

上大島御伊勢遺跡 薬師遺跡 萬行遺跡

(主)前橋安中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第701集
上大島御伊勢遺跡・薬師遺跡・萬行遺跡

(主)前橋安中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二二

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



上大島御伊勢遺跡
薬師遺跡
萬行遺跡

(主)前橋安中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)に伴う
埋藏文化財発掘調査報告書

2022

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋藏文化財調査事業団

序

西毛広域幹線道路は、「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」のひとつとして計画され、前橋市、高崎市、安中市、富岡市の主要4市を結ぶ延長27.8kmの広域道路として設計されました。この広域幹線道路の整備によって、県央地域と県西部地域のアクセス性向上はもとより、道路ネットワーク網の強化が図られることで県西部地域の社会・経済活動の拡充・発展がおおいに期待されています。

この道路の整備計画路線は、榛名山の山麓から西毛地域の主要河川流域を横断する地域に及んでおり、古来よりの歴史遺産も各地に多く残されています。また、地中に遺された埋蔵文化財の分布が濃密なことでも知られており、道路整備工事に伴って事前の発掘調査が行われた遺跡も少なくありません。西毛広域幹線道路の高崎西部工区では、平成26年度に薬師遺跡と萬行遺跡、令和2年度には上大島御伊勢遺跡の発掘調査が実施されました。本報告書では、この三遺跡の発掘調査成果をまとめてあります。高崎市上大島町にある上大島御伊勢遺跡では、江戸時代前期の墓地や、天明三年の浅間山噴火災害からの復旧遺構が確認されました。高崎市箕郷町下芝にある薬師遺跡と萬行遺跡では、平安時代の集落と水田、中世の墓地や水路群などが明らかとなりました。これらは、地域に根差した風土のなかで、それぞれの歴史的背景のもとに生まれては消えていった過去の貴重な歴史遺産であります。このような歴史的価値を持つ埋蔵文化財の詳細な記録を後世に残し、その歴史的意義を問うことは私共に託された重要な使命と考えております。本報告書に記載された記録のひとつひとつが、当地域の歴史的事実を明らかにするための確かな史料となり、ひいては群馬県の歴史像構築に寄与することを期待してやみません。

発掘調査から本報告書の上梓に至るまで、関係機関や地域住民の方々から篤い御理解と御協力を頂きました。ここに改めて感謝申し上げ、序といたします。

令和4年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 向田忠正

例 言

1 本書は、(主)前橋安中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)整備事業に伴って発掘調査が実施された上大島御伊勢遺跡(高崎市遺跡番号04022)、薬師遺跡(高崎市遺跡番号03380)、萬行遺跡(高崎市遺跡番号03379)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 調査対象となった地番は以下のとおりである。

上大島御伊勢遺跡：群馬県高崎市上大島町444、446

薬師遺跡：群馬県高崎市箕郷町下芝薬師553、556、565、566、567、569、570、572、573、574、575、578

萬行遺跡：群馬県高崎市箕郷町下芝萬行763-1、763-5、763-6、764-1

3 事業主体者 群馬県高崎土木事務所

4 調査主体者 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 発掘調査面積

上大島御伊勢遺跡：2172.1㎡

薬師遺跡：6464㎡

萬行遺跡：656㎡

6 発掘調査の期間と体制は以下のとおりである。

上大島御伊勢遺跡

履行期間 令和2年4月1日から令和2年12月31日

調査期間 令和2年4月1日から令和2年4月30日

調査担当 新井 仁(主席調査研究員) 本田寛之(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 有限会社毛野考古学研究所

遺構測量委託 アコン測量設計株式会社

薬師遺跡・萬行遺跡

履行期間 平成26年3月31日から平成26年9月30日

調査期間 平成26年4月1日から平成26年7月31日

調査担当 松村和男(主任調査研究員)、相京建史(専門調査役)

遺跡掘削工事請負 株式会社シン技術コンサル

遺構測量委託 アコン測量設計株式会社

7 整理業務の期間と体制は以下のとおりである。

上大島御伊勢遺跡

履行期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日

整理期間 令和3年4月1日から令和3年6月30日

整理担当 大西雅広(専門調査役)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物実測・写真撮影、遺物観察表執筆

縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員・資料統括) 陶磁器：大西雅広(専門調査役)

石器・石製品：岩崎泰一(専門調査役) 金属製品：板垣泰之(専門員)

保存処理 板垣泰之(専門員) 関 邦一(専門調査役)

薬師遺跡・萬行遺跡

履行期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日

整理期間 令和3年6月1日から令和4年1月31日

整理担当 大木紳一郎(専門調査役)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物実測・写真撮影、遺物観察表執筆

土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役) 陶磁器：大西雅広(専門調査役)

石器・石製品：岩崎泰一(専門調査役) 金属製品：板垣泰之(専門員)

保存処理 板垣泰之(専門員) 関 邦一(専門調査役)

- 9 上大島御伊勢遺跡と薬師遺跡出土人骨の鑑定分析は、新潟医療福祉大学の奈良貴史教授にお願いした。また薬師遺跡・萬行遺跡の発掘調査で土層のプラントオパール分析を株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 10 発掘調査記録及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 11 発掘調査と報告書作成に関して、高崎市教育委員会には諸々の便宜を図って頂いた。ここに記して感謝に替えます。

凡 例

- 1 本書で使用した座標は、平面直角座標第IX系(JGD2000)である。遺構個別図では座標値m単位の下三桁で表記してある。
- 2 遺構図中の北方位記号は座標北を示している。
- 3 遺構図と遺物実測図の縮尺は各図に示してある。
- 4 遺構図断面と等高線に示した数値は標高値を示している。
- 5 遺構名称は原則として発掘調査時点で付されたものを用いたが、変更した場合は旧名称を()内に記してある。また調査時点で付した「住居跡」は、本報告で「竪穴建物」に改称している。なお、保管された記録類については、旧名称のまままで登録してある。
- 6 土層と遺物の色調表記には、『新版 標準土色帖』(1997農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修)を用いた。
- 7 本報告で用いたテフラの略名称は町田洋・新井房夫1992『火山アトラス』(東京大学出版会)に従い、以下の通りとした。

As-A：浅間A軽石 天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う軽石

As-B：浅間Bテフラ(軽石) 天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴うテフラ

Ir-FP：榛名ニツ岳伊香保テフラ 6世紀前半の榛名山噴火に伴うテフラ

Ir-FA：榛名ニツ岳渋川テフラ 6世紀初頭頃の榛名山噴火に伴うテフラ

As-C：浅間C軽石 3世紀後半から4世紀初め頃の浅間山噴火に伴うテフラ

As-YP：浅間板鼻黄色軽石

8. 遺構図に用いたトーン及び記号は以下の通りか、各図中で示してある。

 礫範囲

 As-B

 炭化物

 攪乱

 古銭

 内黒

目 次

序

例言 凡例

第1章 上大島御伊勢遺跡

第1節 発掘調査の経過と方法	1
1 調査に至る経過	1
2 発掘調査の方法	1
第2節 周辺の環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	3
第3節 確認された遺構と遺物	7
第4節 まとめ	31

第2章 薬師遺跡・萬行遺跡

第1節 発掘調査の経過と方法	33
1 調査に至る経過	33
2 発掘調査の方法	36
第2節 周辺の環境	37
1 地理的環境	37
2 歴史的環境	37
第3節 薬師遺跡で確認された遺構と遺物	42
1 竪穴建物(42) 2 水田(57) 3 溝(59) 4 掘立柱建物(64)	
5 礎石列・沢遺構(69) 6 墓塚・土坑(70) 7 ビット(71)	
8 方形区画(71) 9 畠(72) 10 出土遺物(72)	
第4節 萬行遺跡で確認された遺構と遺物	165
1 溝(165) 2 土坑・ビット(166)	
第5節 薬師遺跡・萬行遺跡の理化学分析	172
1 萬行遺跡・薬師遺跡のプラント・オパール分析	172
2 薬師遺跡出土人骨の人類学的報告	175
第6節 まとめ	180

写真図版

抄録

挿図目次

第1図	上大島御伊勢遺跡の位置	1	第64図	1-2区 As-B下水田	105
第2図	遺跡周辺の地形(陰影起伏図)	2	第65図	1-5・6区 As-B下水田	105
第3図	周辺の遺跡	3	第66図	1-3区 As-B下水田と5号溝	106
第4図	調査区位置図	6	第67図	1-3区 As-B下水田と1号畦・2号畦	107
第5図	調査区全体図	14	第68図	1-3区 As-B下水田と2号畦・10号溝	108
第6図	1号復旧坑	15	第69図	1-4区 As-B下水田	109
第7図	2・3号復旧坑	16	第70図	2-2区 As-B下水田西半部	110
第8図	4号復旧坑	17	第71図	2-2区 As-B下水田東半部	111
第9図	5号復旧坑	18	第72図	2-3区 As-B下水田中央部	112
第10図	6号復旧坑	19	第73図	1号溝	113
第11図	畦状道溝	20	第74図	2号溝	113
第12図	1号畦状道溝、2号畦状道溝	21	第75図	3・4号溝	113
第13図	1号から6号土坑	22	第76図	6・7・8・9・10・12・13号溝	114
第14図	7号から11号土坑	23	第77図	14号溝	115
第15図	7号から10号土坑、12号土坑、13号土坑	24	第78図	15号溝	116
第16図	1・2号溝	25	第79図	26号溝	116
第17図	2号溝、3号溝	26	第80図	16・17号溝と3号畠	117
第18図	4号溝、5号溝、石列	27	第81図	22・25号溝	118
第19図	6号溝、7号溝	28	第82図	27・28・29号溝	118
第20図	出土遺物	29	第83図	31~37・51~54号溝断面	119
第21図	築師遺跡と萬行遺跡の位置	33	第84図	39号溝	119
第22図	築師遺跡と萬行遺跡の調査区配置図	35	第85図	38・49・56号溝	120
第23図	築師遺跡の基本順序	36	第86図	44~48・50~55・57~60号溝	121
第24図	築師遺跡と萬行遺跡周辺の地形	38	第87図	61~71号溝と4号畠	122
第25図	築師遺跡と萬行遺跡周辺の遺跡分布図	39	第88図	1号掘立柱建物	123
第26図	1号型穴建物および1・2・3号型穴建物断面	83	第89図	2号掘立柱建物	124
第27図	2号型穴建物	84	第90図	3~8号掘立柱建物	124
第28図	3号型穴建物	85	第91図	10・11号掘立柱建物	125
第29図	4号型穴建物	85	第92図	12号掘立柱建物	126
第30図	5・8号型穴建物	86	第93図	13号掘立柱建物と1号櫓列	126
第31図	6号型穴建物	86	第94図	14・15号掘立柱建物	127
第32図	7・9号型穴建物	87	第95図	16号掘立柱建物	128
第33図	10号型穴建物	87	第96図	17号掘立柱建物	128
第34図	11号型穴建物	88	第97図	18号掘立柱建物	129
第35図	12号型穴建物	88	第98図	20号掘立柱建物	129
第36図	12号型穴建物掘り方と竈・ピット断面	89	第99図	19・21・25号掘立柱建物	130
第37図	13号型穴建物	90	第100図	19・21・25号掘立柱建物柱穴断面	131
第38図	14・36号型穴建物	90	第101図	22・24号掘立柱建物	132
第39図	14号型穴建物竈	91	第102図	26号掘立柱建物	133
第40図	36号型穴建物竈	91	第103図	27号掘立柱建物	133
第41図	15号型穴建物	92	第104図	28号掘立柱建物	134
第42図	16号型穴建物	92	第105図	29号掘立柱建物	134
第43図	17号型穴建物	92	第106図	礎石列	135
第44図	18・19号型穴建物	93	第107図	1号竈道溝	136
第45図	20号型穴建物	94	第108図	火葬土坑・墓壇(1)	137
第46図	21号型穴建物	95	第109図	1-6区墓壇群配置状況	138
第47図	22・23・41・42号型穴建物	95	第110図	火葬土坑・墓壇(2)	139
第48図	24・33号型穴建物	96	第111図	墓壇	140
第49図	25号型穴建物	96	第112図	土坑(1)	141
第50図	26・27号型穴建物	97	第113図	土坑(2)	142
第51図	28号型穴建物	97	第114図	土坑(3)	143
第52図	29号型穴建物	97	第115図	土坑(4)	144
第53図	30号型穴建物	98	第116図	ピット(1)	145
第54図	31号型穴建物	98	第117図	ピット(2)	146
第55図	32・40号型穴建物	99	第118図	1-6区(2)群配置状況	147
第56図	34号型穴建物	99	第119図	ピット断面(1)	148
第57図	35号型穴建物	100	第120図	ピット断面(2)	149
第58図	37号型穴建物	100	第121図	方形区画道溝	150
第59図	38号型穴建物	101	第122図	1号畠	150
第60図	39号型穴建物	101	第123図	1・2号型穴建物出土遺物	151
第61図	43・44・45・46号型穴建物	102	第124図	3・4・5・7・8・10号型穴建物出土遺物	152
第62図	1-3・4区 As-B下水田	103	第125図	12・13・18・26号型穴建物出土遺物	153
第63図	2-2・3区 As-B下水田	104	第126図	20・32・33・36・38・43・44号型穴建物出土遺物	154

第127図	講・孤立柱建物・土坑・ピット出土遺物	155
第128図	火葬土坑・墓壇出土銭貨	156
第129図	墓壇・土坑・溝出土の銭貨・鉄器・石造品	157
第130図	遺構外出土の土器・陶磁器	158
第131図	遺構外出土の銭貨・石器・石造品	159
第132図	萬行遺跡全体図	168

第133図	1～7号溝・1号高断面	169
第134図	1～4号土坑・1・2号ピット	170
第135図	萬行遺跡・築師遺跡における植物柱體体分布図	173
図版1	萬行遺跡・築師遺跡から発出した植物柱體体	174
写真1	築師遺跡火葬土坑・墓壇出土人歯骨	179

表目次

上大島御伊勢遺跡

第1表	上大島御伊勢遺跡周辺の遺跡一覧	5
第2表	出土遺物観察表	30
築師遺跡		
第3表	築師遺跡と萬行遺跡周辺の遺跡一覧	40
第4表	竪穴建物一覧表	73
第5表	溝一覧表	74
第6表	孤立柱建物一覧表	75
第7表	孤立柱建物柱穴一覧表	76
第8表	礎石列一覧表	79
第9表	火葬土坑・墓壇一覧表	79
第10表	品一覧表	79
第11表	土坑一覧表	80
第12表	ピット一覧表	81
第13表	竪穴建物出土遺物観察表(土器)	159
第14表	溝出土遺物観察表(土器・陶磁器)	160
第15表	孤立柱建物出土遺物観察表(陶磁器)	160

第16表	火葬土坑・墓壇出土遺物観察表(土器・陶磁器)	160
第17表	ピット出土遺物観察表(土器・陶磁器)	161
第18表	火葬土坑・墓壇・ピット出土遺物観察表(銭貨)	161
第19表	竪穴建物・土坑出土遺物観察表(鉄器)	163
第20表	土坑出土遺物観察表(石造品)	163
第21表	遺構外出土遺物観察表(土器・埴輪)	163
第22表	遺構外出土遺物観察表(陶磁器)	164
第23表	遺構外出土遺物観察表(銭貨)	164
第24表	遺構外出土遺物観察表(石器・石造品)	178

萬行遺跡

第25表	溝一覧表	170
第26表	土坑一覧表	170
第27表	品一覧表	170
理化学分析		
第28表	分析資料一覧表	171
第29表	試料1g当たりのプラント・オパール個数	172
第30表	面計測値積	178

写真目次

上大島御伊勢遺跡

Pl. 1	1 調査区全景(南西から)	1
	2 調査区北東部(南西から)	2
	3 調査区北東部(南西から)	3
	4 調査区中央部(南西から)	4
	5 調査区中央部西側(南西から)	5
Pl. 2	1 1号復旧坑確認状態(南から)	1
	2 1号復旧坑上層断面(西から)	2
	3 1号復旧坑上層断面(西から)	3
	4 1号復旧坑全景(西から)	4
	5 1号復旧坑全景(東から)	5
	6 2号復旧坑確認状態(南西から)	6
	7 2号復旧坑上層断面(南西から)	7
	8 2号復旧坑全景(南西から)	8
Pl. 3	1 3号復旧坑上層断面(南東から)	1
	2 3号復旧坑全景(北東から)	2
	3 4号復旧坑全景(南西から)	3
	4 4号復旧坑全景(南東から)	4
	5 4号復旧坑東側(南東から)	5
	6 4号復旧坑東側(北東から)	6
	7 4号復旧坑西側(北西から)	7
	8 4号復旧坑上層断面(南西から)	8
Pl. 4	1 4号復旧坑上層断面(南西から)	1
	2 4号復旧坑上層断面(南西から)	2
	3 5号復旧坑確認状態(北東から)	3
	4 5号復旧坑上層断面(南西から)	4
	5 5号復旧坑上層断面(南西から)	5
	6 5号復旧坑全景(北東から)	6
	7 5号復旧坑西側(北東から)	7
	8 6号復旧坑全景(北東から)	8
Pl. 5	1 6号復旧坑上層断面(西から)	1
	2 6号復旧坑上層断面(西から)	2
	3 石列全景(北から)	3
	4 石列全景(西から)	4
	5 石列中央部(西から)	5
	6 石列北側(西から)	6
	7 石列南側(西から)	7
	8 1号鞋状遺構全景(北東から)	8
Pl. 6	1 2号鞋状遺構全景(北西から)	1
	2 1号から3号土坑全景(北東から)	2

	3 1号土坑全景(北東から)	3
	4 2号土坑全景(北東から)	4
	5 3号土坑全景(北東から)	5
	6 4号土坑全景(北東から)	6
	7 4号土坑南側(北西から)	7
	8 4号土坑北側(北西から)	8
Pl. 7	1 6号土坑全景(北東から)	1
	2 7号から9号土坑全景(北西から)	2
	3 7号から11号土坑全景(北西から)	3
	4 12号土坑全景(南東から)	4
	5 1号溝南東側(南東から)	5
	6 1号溝中央部(北西から)	6
	7 1号溝北西部(南東から)	7
	8 1号溝北西部(南東から)	8
Pl. 8	1 1号溝北西部(南東から)	1
	2 2号溝全景(北から)	2
	3 2号溝中央部(北から)	3
	4 2号溝全景(北から)	4
	5 3号溝全景(南東から)	5
	6 5号溝全景(北から)	6
	7 6号溝全景(南東から)	7
	8 7号溝全景(北東から)	8
Pl. 9	出土遺物	

築師遺跡

Pl. 10	1 調査区1-2区と背景の権名山(S→)	1
	2 1-5区調査状況(S→) 微高断面で全城に地山礫が露出する。	2
Pl. 11	1 2-2区上層断面(N→) 中位白色層は浅間B軽石の一次堆積物	1
	2 2-1区上層断面(S→)中位に浅間B軽石	2
	3 権名山泥流堆積物(6世紀代)	3
Pl. 12	1 1-6区竪穴建物南側調査状況(N→)	1
	2 1号竪穴建物(W→)右は2号竪穴	2
	3 1号竪穴建物上層断面B-B'	3
	4 1号竪穴建物遺物出土状況	4
	5 1号竪穴建物糞(30003)出土状況	5
Pl. 13	1 2号竪穴建物桶出土状況(W→)	1
	2 2号竪穴建物上層断面(S→)	2
	3 2号竪穴建物竪坑出土状況(W→)	3
	4 2号竪穴建物東遺物出土状況	4

	5	2号型穴建物の根石土留施設		2	26号型穴建物(中央)と隣接遺構(SW→)
Pl. 14	1	3号型穴建物全景(W→)		3	1-6区東平遺構跡(S→)
	2	3号型穴建物遺物取上げ作業		4	26・27(左下)号型穴建物検出状況(SW→)
	3	3号型穴建物北西遺物出土状況		5	26号型穴建物調査状況(SW→)
	4	3号型穴建物前(30016)出土状況		6	26号型穴建物上層断面B-B'
Pl. 15	5	3号型穴建物前(30025)出土状況		7	26号型穴建物掘り方全景(SW→)
	1	4号型穴建物検出状況(SW→)	Pl. 30	1	27号型穴建物検出状況(SW→)
	2	4号型穴建物掘り方近断面		2	28号型穴建物検出状況(SW→)
	3	4号型穴建物遺物(30017)出土状況		3	28号型穴建物調査状況(SE→)
	4	4号型穴建物上層断面(SW→)		4	28号型穴建物掘り方全景(SE→)
	5	5号型穴建物検出状況(N→)		5	29号型穴建物検出状況(W→)
Pl. 16	6	5号型穴建物地山露出状況(N→)		6	29号型穴建物調査状況(W→)
	7	5号型穴建物遺物(30022)出土状況		7	29号型穴建物掘り方全景調査状況
	8	5号型穴建物遺物(30023)出土状況		8	29号型穴建物掘り方全景(W→)
	1	6号型穴建物検出状況(N→)	Pl. 31	1	30号型穴建物検出状況(W→)北に方形落ち込み
	2	7号型穴建物検出状況(W→)		2	30号型穴建物掘り方上層断面B-B'
	3	8号型穴建物検出状況(N→)		3	30号型穴建物掘り方状況(W→)
	4	8号型穴建物中央部遺物出土状況		4	30号型穴建物北壁遺物出土状況
Pl. 17	5	8号型穴建物遺物(30026・30027)出土状況		5	30号型穴建物掘り方全景(W→)
	6	9号型穴建物検出状況(S→)	Pl. 32	1	31号型穴建物検出状況(W→)
	7	10号型穴建物検出状況(W→)		2	31号型穴建物調査状況(W→)
	8	10号型穴建物北面検出状況		3	31号型穴建物掘り方断面と埋土断面B-B'
	1	11号型穴建物検出状況(W→)		4	31号型穴建物掘り方全景(W→)
	2	11号型穴建物掘り方埋土断面		5	32号型穴建物検出状況(W→)
	3	12号型穴建物全景(N→)		6	32号型穴建物掘り方全景(W→)
	4	12号型穴建物南半上層断面(E→)		7	40号型穴建物掘り方全景(W→)
Pl. 18	5	12号型穴建物東平上層断面(S→)		8	40(左)・32(右)号型穴建物掘り方埋土断面(W→)
	1	12号型穴建物電 後世柱穴が掘り抜く	Pl. 33	1	34号型穴建物検出状況(W→)
	2	12号型穴建物Pit 4		2	34号型穴建物掘り方全景(W→)地山露が露出
	3	12号型穴建物Pit 3		3	35号型穴建物検出状況(W→)
Pl. 19	4	12号型穴建物電突口遺物出土状況		4	37号型穴建物掘り方全景(E→)
	5	12号穴建物掘り方全景(W→)		5	38号型穴建物全景(N→) 31号溝(左)、12号型穴(右)
	1	13号型穴建物検出状況(W→) 下に14号型穴建物が 見える。	Pl. 34	6	39号型穴建物検出状況(W→)
	2	13号型穴建物電突口		7	左から43・44・45号型穴建物検出状況(NE→)
	3	13号型穴建物室内土境		8	40号型穴建物掘り方断面検出状況(E→)
Pl. 20	4	13号型穴建物床面に散在する土器片		1	1-4区(手前)、2-3区(奥)の水田調査全景(SE→)
	5	13号型穴建物上層断面A-A'		2	1-3区1号畦と15号溝(S→)
	1	14(上)・36号型穴建物全景(W→)		3	1-3区2号畦(S→) 右は10号溝
	2	14(上)建物遺物全景(W→) 構築材の大小礫は崩落する。		4	1-3区西端水田区画(E→)
	5	14(上)・36号型穴建物掘り方全景(W→)	Pl. 35	1	1-3区西端水田区画(W→)
Pl. 21	2	14号型穴建物電突口部遺物出土状況		2	1-3区水田面検出状況(SW→)
	3	14号型穴建物電線断面		1	1-3区水田面と水路の10号溝(S→)
	4	14号型穴建物掘り方		3	1-3区水田面と5・11号溝(S→)
	5	14(上)・36号型穴建物掘り方全景(W→)		4	1-3区水田面と上層断面(S→)
	6	1-4区西平水田面検出状況(E→)		5	1-4区西平水田面掘り方全景(W→)
Pl. 22	1	36号型穴建物全景(E→)		6	1-4区畦状部分(左)と42号溝(S→)
	2	36号型穴建物電線検出状況		7	1-4区水田面検出状況(E→)
	3	36号型穴建物上層断面A-A' (N→)	Pl. 36	1	1-1区・2-1区水田調査状況(E→)
	4	36号型穴建物電線(遺物)30053ほか出土状況		2	1-2区浅間B群石堆積状況(SE→)
	5	36号型穴建物掘り方		3	2-2区水田面検出状況(E→)
Pl. 23	1	15号型穴建物検出状況(W→)		4	2-2区水田面検出状況(W→)
	2	15号型穴建物掘り方調査		5	2-2区水田区画(S→)
	3	16号型穴建物検出状況(W→) 上は15号型穴建物	Pl. 37	6	2-3区水田と敷高地の境界(N→)
	4	16号型穴建物掘り方調査		1	1-4区水田面(中央・左白色部)と 水路の49号溝(中央縦断)(N→)
	5	16号型穴建物掘り方埋土断面		2	1-4区水田区画(S→) 中央に大甍
Pl. 24	1	17号型穴建物検出状況(S→)		3	1-4区水田区画(S→) 左側に石列
	2	17号型穴建物上層断面 右側に16号型穴		4	1-5区水田区画(E→)
	3	手前から20・18・24号型穴建物検出状況(W→)		5	1-6区水田区画(N→)
	4	18号型穴建物電	Pl. 38	1	2-1区1号溝上層断面(W→)
Pl. 25	5	18号型穴建物電線断面		2	1-5区40号溝検出状況(S→)
	1	19号型穴建物検出状況(N→)		3	1-5区2号溝検出状況(W→)
	2	19号型穴建物掘り方断面(N→)		4	1-5区2号溝上層断面
	3	20号型穴建物検出状況(W→)		5	1-3区5(左)・11(右)号溝検出状況(S→)
	4	20号型穴建物上層調査状況(S→)		6	1-3区5号溝上層断面(S→)
Pl. 26	5	20号型穴建物上層断面(NE→)		7	1-3区10号溝検出状況(S→)
	1	20号型穴建物掘り方調査	Pl. 39	8	1-3区10号溝上層断面(SW→) 白層が浅間B群石
	2	20号型穴建物掘り方調査		1	1-3区12号溝(S→)
	3	20号型穴建物電線断面		2	1-3区13号溝(S→)
	4	20号型穴建物電線断面調査と炭化物層		3	1-5区38号溝(W→)
Pl. 27	5	20号型穴建物掘り方		4	1-5区42号溝上層断面(S→)
	1	20号型穴建物床面遺物(30043)出土状況		5	1-4区43号溝検出状況(N→)
	2	20号型穴建物前庭穴脇遺物(30044・30043)出土状況		6	1-4区49号溝(中央縦断)全景(S→)
	3	20号型穴建物電突口遺物出土状況		7	1-5区39号溝上層断面
	4	20号型穴建物床面遺物(30046)出土状況	Pl. 40	8	1-5区40号溝検出状況
Pl. 28	5	21号型穴建物掘り方全景(W→)		1	1-3区溝群(E→) 7(左)8(右)号溝が並走し、 10号溝が縦断
	1	21号型穴建物掘り方調査		2	1-3区7号溝の掘り跡
	2	21号型穴建物西壁面(E→)		3	1-3区8号溝上層断面
	3	22・23・41・42号型穴建物の重複状況(S→) 左上は15号型穴		4	1-3区14号溝上層断面
	4	24・33(右)号型穴建物検出状況(W→)		5	1-3区14号溝全景(E→)
Pl. 29	5	33号型穴建物上層断面(N→)	Pl. 41	1	1-2区調査状況全景(E→)
	1	25号型穴建物掘り方全景(N→)			

	2	1-2区16号講全泉(S→)	PL 55	1	1-6区20号孤立柱建物と周辺遺構(SE→)
	3	1-2区17号講出土状況(S→)		2	1-6区20号孤立柱建物(W→)
	4	1-2区17号講土層断面	PL 56	1	6区21・25号孤立柱建物(S→)
	5	1-2区水田区画とこれを切る16号講(N→)		2	1-6区22号孤立柱建物(S→)
PL 42	1	1-5区調査状況全泉(N→) 中央を横断する31・32号講		3	1-6区24号孤立柱建物(N→)
	2	1-5区33-37号講(S→) 中央を35・36号講が横断する		4	1-6区26号孤立柱建物(S→)
PL 43	1	1-5区27-31号講(E→) 中央を横断する31号講。		5	1-6区27号孤立柱建物(S→)
		右から27・28・29号講が並走		6	1-6区28号孤立柱建物(N→)
	2	1-6区31号講(N→)		7	1-6区29号孤立柱建物(N→)
PL 44	1	1-5区27号講全泉(W→)	PL 57	1	2区6号土坑(大甕土坑)検出状況(N→)
	2	1-5区27号講土層断面		2	2区6号土坑の炭、灰、骨片出土状況
	3	1-5区28号講全泉(W→)		3	2区6号土坑の炭と骨片出土状況
	4	1-5区28号講土層断面		4	2区6号土坑土層断面
	5	1-5区29号講全泉(W→)		5	2区6号土坑下層の炭と灰の堆積
	6	1-5区29号講土層断面	PL 58	1	2区6号土坑(竈竈)
	7	1-5区30号講検出状況(S→)		2	2区7号土坑(竈竈)
	8	1-5区32号講土層断面		3	2区9号土坑(竈竈)
PL 45	1	1-5区33号講検出状況(W→)		4	1区15号土坑(竈竈)
	2	1-5区33号講土層断面		5	1区17号土坑(竈竈)(S→)
	3	1-5区34号講(S→) 左の31号講に並走	PL 59	1	1区18号土坑(竈竈)全泉(S→)
	4	1-5区36(右)・37号講重複状況(E→)		2	18号土坑底面と銭貨出土状況(E→)
	5	1-5区35号講土層断面		3	1区18号土坑土層断面と埋埋面状況
	6	1-5区36号講土層断面		4	1区19号土坑(竈竈)全泉(E→)
	7	1-5区37号講検出状況(E→)		5	1区19号土坑かわらけ出土状況
	8	1-5区37号講土層断面		6	1区19号土坑銭貨出土状況
PL 46	1	1-4区講群(E→) 左から44・45・46・47・48号講		7	1区23号土坑(竈竈)(W→)
	2	1-4区44号講土層断面		8	1区23号土坑土層断面
	3	1-4区45号講土層断面	PL 60	1	1区23号土坑弾出土状況
	4	1-4区46号講土層断面		2	1区23号土坑底面と銭貨出土状況
	5	1-4区47・48号講土層断面		3	1区24号土坑(竈竈)全泉(S→)
PL 47	1	1-4区東端の講群(S→)		4	1区25号土坑(竈竈)全泉(W→)
	2	1-4区51号講土層断面		5	1区26号土坑(竈竈)全泉(W→)
	3	1-4区東部の講群(S→) 右端白色部が51・52・53号講		6	1区36号土坑(竈竈)と銭貨出土状況(SE→)
	4	1-4区54号講土層断面 55号講が切る		7	1区43号土坑(左) 42号土坑(右)(W→)
	5	1-4区55号講 号群から分岐、横断する		8	1区43号土坑(大甕土坑)全泉(E→)
PL 48	1	1-4区57-60号講(E→)	PL 61	1	1区43号土坑(大甕土坑)検出状況 煙道部に焼土、土坑内に骨片と炭片
	2	1-6区61・62号講(N→)		2	1区43号土坑土層断面
	3	1-6区64号講(W→)		3	1区43号土坑骨片出土状況
	4	1-6区66号講土層断面		4	1区43号土坑銭貨出土状況
	5	1-6区講群 高の可能性あり、堅穴建物を切る		5	1区43号土坑骨片 中央付近にもみられる
PL 49	1	2-2区1(右)・2号孤立柱建物(S→)	PL 62	1	1区45号土坑(大甕土坑)全泉(W→)
	2	1号孤立柱建物1号柱断面		2	1区45号土坑検出状況(E→)
	3	1号孤立柱建物2号柱断面		3	1区45号土坑内に散乱する骨片と炭片
	4	1号孤立柱建物3号柱断面		4	1区45号土坑底面付近の骨片出土状況
	5	1号孤立柱建物4号柱断面		5	1区45号土坑(手前)と43号土坑(奥)
	6	1号孤立柱建物5号柱断面	PL 63	1	1区46号土坑(竈竈)検出状況(E→)
	7	1号孤立柱建物6号柱断面		2	1区46号土坑の骨片と銭貨出土状況
	8	1号孤立柱建物7号柱断面		3	1区46号土坑銭貨出土状況
	9	1号孤立柱建物8号柱断面		4	1区48号土坑(竈竈)土層断面
	10	2号孤立柱建物2号柱断面		5	1区48号土坑銭貨出土状況
PL 50	1	2-2区孤立柱建物群(S→)		6	1区48(左)・51号土坑(右)
	2	2-2区孤立柱建物群(W→)		7	1区49号土坑検出状況(W→)右はP27
PL 51	1	1-2区10号孤立柱建物(SE→)		8	1区49号土坑かわらけ出土状況
	2	10号孤立柱建物P 1	PL 64	1	2区1号土坑断面
	3	10号孤立柱建物P 2		2	2区2(左)・3号土坑断面
	4	10号孤立柱建物P 3		3	2区4号土坑断面
	5	10号孤立柱建物P 4		4	2区5号土坑断面
	6	10号孤立柱建物P 6		5	1区8号土坑全泉(S→)
	7	1-2区11号孤立柱建物(S→)		6	1区11号土坑断面
	8	1-2区12号孤立柱建物(S→)		7	1区12号土坑断面(櫛形跡)
	9	12号孤立柱建物P 2		8	1区13号土坑断面
PL 52	1	1-2区13号孤立柱建物(S→)		9	1区21号土坑断面
	2	13号孤立柱建物P 1断面		10	1区22号土坑断面
	3	1-2区1号櫛列(S→)		11	1区27号土坑断面
	4	2-3区15号孤立柱建物(N→)		12	1区33号土坑全泉(E→)
	5	2-3区14号孤立柱建物(E→)		13	1区34号土坑全泉(S→)
PL 53	1	1-5区16号孤立柱建物(N→)		14	1区35号土坑全泉(S→)
	2	16号孤立柱建物P 2断面		15	2区37号土層断面
	3	16号孤立柱建物P 3断面	PL 65	1	2区38号土坑断面
	4	16号孤立柱建物P 6断面		2	2区39号土坑全泉(S→)
	5	1-4区17号孤立柱建物(E→)		3	1区40号土坑全泉(E→)
	6	17号孤立柱建物P 1断面		4	1区41号土坑全泉(E→)
	7	17号孤立柱建物P 2断面		5	1区42号土坑全泉(W→)
	8	17号孤立柱建物P 1検出状況		6	1区42号土坑遺物出土状況
	9	17号孤立柱建物P 3断面		7	1区44号土坑弾出土状況
	10	17号孤立柱建物P 3検出状況		8	1区47号土坑全泉(W→)
PL 54	1	1-6区18号孤立柱建物(E→)		9	1区63号土坑断面
	2	1-6区19号孤立柱建物(W→)		10	1区64号土坑断面
	3	19号孤立柱建物P 5・P 40断面		11	1区65号土坑断面
	4	19号孤立柱建物P 3断面		12	1区66号土坑(S→)
	5	1-6区19号孤立柱建物(N→)		13	1区67号土坑断面

第1章 上大島御伊勢遺跡

第1節 発掘調査の経過と方法

1 発掘調査に至る経過

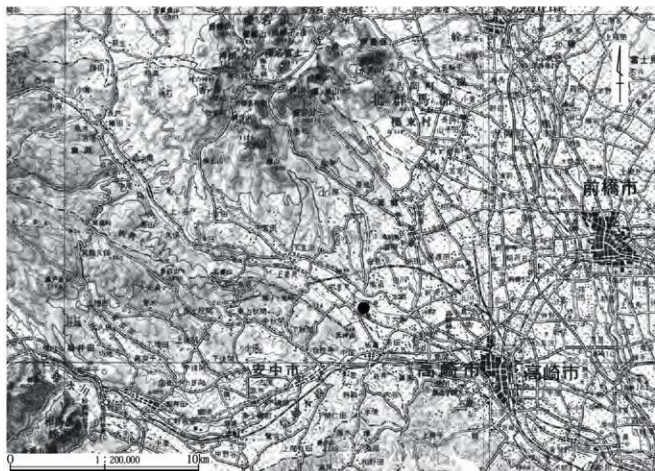
西毛広域幹線道路は、前橋市と富岡市をつなぐ延長27.8kmの道路である。本道路は大規模災害時の支援物資輸送等、県民の安全な暮らしや企業等の安定した経済活動支援及び周辺地域の渋滞緩和、物流の効率化、観光振興による西毛地域のさらなる発展への寄与を目的として計画された。とりわけ、高崎市箕郷町下芝から高崎市下里見町間の高崎西工区4.7kmは交差点混雑の大幅緩和が期待されている。

本書で報告する上大島御伊勢遺跡付近には、周知の埋蔵文化財包蔵地(市町村遺跡番号 H130)が存在すること

から、高崎土木事務所は、県文化財保護課に対し試掘・確認調査を依頼した。県文化財保護課は、令和元年度に試掘・確認調査を実施し、江戸時代の復旧坑等の存在を確認した。これにより、発掘調査が必要と判断され、結果を高崎土木事務所に通知し、令和2年4月1日から同年4月30日を調査期間として公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を受託し、本調査を実施した。

2 発掘調査の方法

発掘調査地点は道路に挟まれた水田であることに加え、調査期間1か月、面積2172.1㎡と小規模のため調査区は設定しなかった。発掘調査にあたっては、バックホーにより表土掘削を行った後、簡簾を用いて遺構確認を行った。遺構確認後は、発掘作業員による遺構掘削、調



第1図 上大島御伊勢遺跡の位置(20万分の1地勢図「長野」「宇都宮」使用)

査担当による遺構断面、埋没土観察と記録を行った後、写真撮影や平面図作成を行った。

遺構写真撮影はデジタル一眼レフカメラとプロローニー判モノクロフィルム使用の6×7判一眼レフカメラを用い、調査担当者が撮影を行った。遺構平面図作成の基準は、平面直角座標系第IX系(平成十四年国土交通省告示第九号)を使用した。本報告に際し、全体図ではXY座標値をm単位の数値で表記し、遺構個別図では、座標値m単位の下の3桁を略記した。なお、測地系は世界測地系に基づく日本測地系2011(JGD2011)である。

第2節 周辺の環境

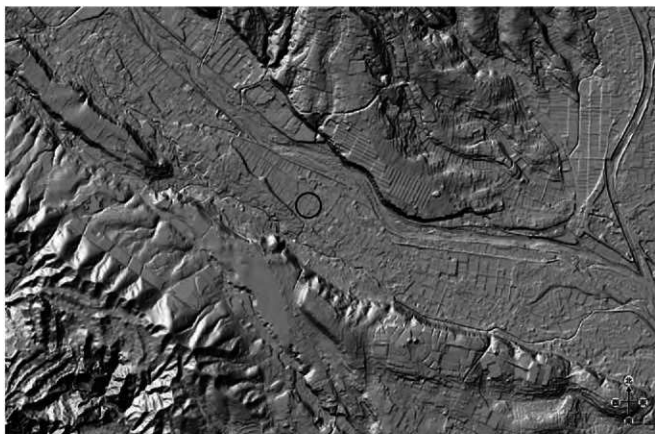
1 地理的環境

上大島御伊勢遺跡は、高崎市上大島町に所在する。遺跡が所在する上大島町は「榛名地域」と呼称される。榛名地域は平成18年10月1日合併以前の群馬郡榛名町域を指す。以下に使用する「榛名地域」は合併前の榛名町域を指

している。また、榛名地域の区分は榛名町成立以前の旧群馬郡室田町、旧群馬郡久留馬村、旧碓氷郡里見村域を「地区」として使用する。更に小区域名として、本郷地区等の現行町名を地区として使用する。

榛名地域は榛名山山頂から南麓、および烏川右岸の秋間丘陵(安中市)までを範囲とする。上大島御伊勢遺跡が所在する榛名山南東麓から里見地区の地形形成は、榛名山の噴火と烏川をはじめとする河川が密接にかかわり、火砕流台地、河岸段丘、低地等に分けられている。

約5万年前に榛名山の噴火に伴って発生した室田火砕流は、十文字台地、本郷台地、更には烏川対岸の里見台地を形成した。烏川右岸の里見地区では、烏川により上位、中位、下位の河岸段丘が形成されている。なお、中位段丘は室田火砕流(里見火砕流)に覆われており、里見台地と称されている。低位段丘と烏川の間には低地が形成されており、ここに報告する上大島御伊勢遺跡の調査地点はこの低地部分に位置する。調査地の標高は134.5m前後である。



第2図 遺跡周辺の地形(陰影起伏図)
国土地理院ウェブサイト(<https://maps.gsi.go.jp/>)陰影起伏図に遺跡位置を追加

2 歴史的環境

旧石器時代

当遺跡周辺において旧石器時代遺跡の調査例は少なく、本郷鶴栗遺跡(21)においてAs-YP直下から剥片2点が出土している程度である。

縄文時代

榛名地域の縄文時代遺跡は、榛名山麓の台地と烏川右岸の上位河岸段丘上に存在する。台地上に立地する遺跡としては中尾根遺跡(15)や日輪遺跡(17)があり、中尾根遺跡からは縄文時代早期の撫糸文や押型文土器、日輪遺跡からは前期の土器が出土している。しかし、両遺跡共に明瞭な遺構は確認されていない。高崎市箕郷町に所在する茅畑遺跡(31)では前期から後期の土器が出土しているが、量的に少なく遺構も確認されていない。

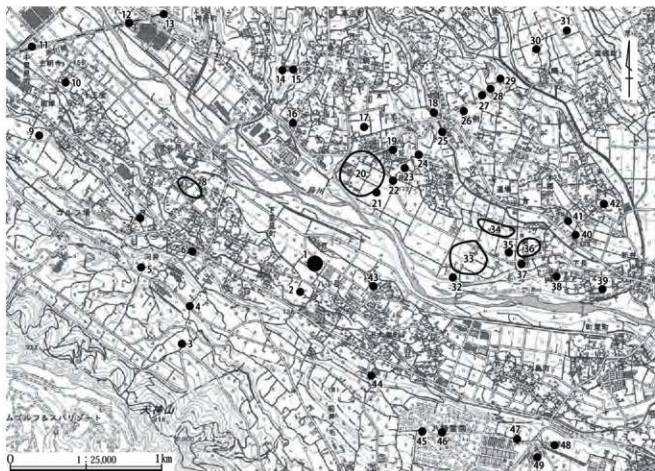
烏川右岸の里見地区では中里見中川遺跡(11)、中通遺跡(6)、下里見上ノ原・中原遺跡(4)が存在するが、遺構は下里見上ノ原・中原遺跡において前期の竪穴建物が調査

されている他は土器が出土した程度である。なお、中通遺跡と中里見中川遺跡からは晩期の土器が出土している。

里見地区に隣接する八幡丘陵および剣崎では若田原遺跡(45)、剣崎長瀬西遺跡(48)、大島原遺跡(49)が調査され、剣崎長瀬西遺跡では竪穴建物3棟などが確認されている。

弥生時代

榛名山南東麓の台地上に存在する嶋上I遺跡(30)では後期の竪穴建物15棟が調査されている。榛名地域南東端にあたる室田火砕流台地(本郷台地)先端および一段下がった段丘にかけての一带は稲荷森遺跡(39)や寺内遺跡(38)、道場II遺跡(34)、蔵屋敷遺跡(36)、蔵屋敷II遺跡(36)など、弥生時代後期の遺跡が密に分布する。中でも稲荷森遺跡は弥生時代後期の竪穴建物7棟が調査されるとともに、古墳時代前期の竪穴建物4棟も存在し、古墳時代前期まで継続的に集落が営まれていた。また、稲荷森遺跡の西側300mほどに所在する寺内遺跡では、後期の竪穴建物1棟が確認されている。更に、近接する供養塚遺跡からは、稲荷森遺跡出土土器より古い時期の後期



第3図 周辺の遺跡(2.5万分の1地形図「下室田」使用)

土器が出土している。なお、後期竪穴建物3棟が確認された葺屋敷遺跡、おなじく後期の竪穴建物1棟が調査されている道場Ⅱ遺跡や後期の竪穴建物1棟が調査されている葺屋敷Ⅱ遺跡の距離は極めて近く、深い関連性を有した遺跡もしくは一つの大規模遺跡であろう。

烏川を挟んだ対岸に位置する剣崎長瀬西遺跡(48)でも後期の集落が確認されており、弥生時代後期集落遺跡が集中する地域となっている。また、剣崎長瀬西遺跡に近接する若田坂上遺跡(47)では弥生時代後期の礫床墓が発見され、鉄剣や人形土器も出土している。礫床墓は里見地区の下里見宮谷戸遺跡(8)でも確認されている。

古墳時代

古墳時代になると当該地域の遺跡数は急増し、集落と古墳を合わせると、奈良・平安時代の遺跡数をうわまわる。古墳時代初期の遺跡は少ないが、弥生時代後期集落が多く存在する本郷台地付近に位置する麻干原遺跡(42)や稲荷森遺跡(39)において集落が展開している。また、本郷台地には4世紀前半に築造されたと推定される全長73mの前方後円墳、本郷大塚古墳(33)も築造されている。

5世紀中葉から6世紀になると、極名地域の南東に隣接する八幡丘陵、剣崎丘陵に、剣崎長瀬西遺跡や剣崎長瀬西古墳、積み石塚古墳群が築かれ、集落からは韓式系土器が出土するなど、渡来系氏族の存在を伺わせる。烏川を挟んだ対岸の極名地域本郷地区でも、稲荷森遺跡(39)の小石塚古墳群が築かれるとともに、韓式系土器が出土した葺屋敷遺跡(36)や寺内遺跡(38)が存在する。

6世紀から7世紀には上大島御伊勢遺跡に近い里見地区や烏川左岸の久留馬地区に相次いで古墳が築造され、里見地区では上位河岸段丘、里見台地(中位河岸段丘)、下位河岸段丘に群集墳が形成された。集落では、下里見宮谷戸遺跡(8)において5世紀代の竪穴建物が調査されており、5世紀代から古墳が築造されていた可能性も想定されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代では多くの遺跡で集落が確認され、平安時代を中心として広範に集落が展開していた様子が看取される。

信仰に係わる遺跡では、瓦の散布から、「群馬県で最も早い時期に建立された寺院のひとつ」とされていた本郷奥原遺跡(19)と本郷奥原遺跡の瓦散布域を発掘調査し

た本郷満行原遺跡(23)は7世紀後半から9世紀の寺院と考えられている。また、この地には7世紀前半から末にかけて築造された本郷奥原古墳群が存在し、両者の密接な関係も指摘されている。

生産跡では烏川によって形成された低地と台地を流れる河川が形成した谷底平野に水田が営まれたようで、当該地域では中里見中川遺跡(11)、神戸岩下遺跡(12)、下里見天神前遺跡(2)、下里見宮谷戸遺跡(8)でAs-B下水田、中通遺跡(6)ではAs-B下畠が調査されている。

中世

当該地域における中世遺跡の発掘調査例は極めて少なく、中世遺物の出土も少ない。しかし、地域の中世史を物語る城郭は存在する。

高浜の砦(坂上城)は箕輪城の支城で、永禄9年(1566)の武田信玄による箕輪攻撃はこの砦の奇襲から始まったとされる。

七曲の砦については詳細不詳であるが、存続期間は16世紀と推定されている。

御門城は南北朝時代、長尾景高の子、景忠が築いたとされる。

新田義重の子義俊が新田氏の所領である里見郷に築城した里見城は、高崎市史跡に指定されている。築城年代は定かではない。里見城は永禄年間(1558年～1570年)に里見河内の居城であり、この里見河内は安房里見氏の一族で、この里見城を築いて長野業正に従っていた。永禄年間(1558年～1570年)武田氏によって攻められ落城し廃城となった。

江戸時代

江戸時代の遺跡調査例は少なく、天明3年の浅間山噴火に関連する復旧坑が本郷満行原遺跡(23)と本郷鶴栗遺跡(21)で見ついているのと若田坂上遺跡(47)でAs-Aで埋もれた畑とAs-A処理坑が調査されている程度である。

調査地点の上大島町は江戸時代の上大島村にあたり、箕輪藩領、高崎藩領、佐和山藩領、前橋藩領、塚原藩領、上里見藩領、旗本領、高崎藩領と頻繁に支配が変わっている。寛文郷帳では田方193石余、畑方51石余とされ、元禄2年の検地帳(里見村誌所収)では田方19町6反余、畑方13町9反余、屋敷地2町4反余とされている。嘉永年間には家数88軒とされる。

上大島御伊勢遺跡における今回の調査地は、上大島村内で江戸時代になって利用が開始された低地部にあたる。

表1 周辺の道跡一覧

番号	道跡名	時代							主な内容	主な文献
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	近世		
1	上大島御伊勢道跡							○	本報告書掲載	
2	下里見天神前道跡		○	○				○	縄文時代集落、古墳時代後期集落、古墳、As-B下水田	1、2
3	堂尾根2号墳			○					7世紀前半墳、金銅製耳飾り	3
4	下里見上ノ原・中原道跡		○	○	○	○			縄文時代前期・弥生時代中・後期・古墳時代後期・奈良時代・平安時代 代型穴建物	3
5	里見城							△	里見氏	4、26
6	中通道跡		○				○		縄文時代晩期包含層、As-B下高	3
7	下里見諏訪山古墳				○				6世紀前半帆立貝形古墳	3
8	下里見宮谷ノ道跡		○	○	○				弥生時代中・後期集落、礎床墓、古墳時代前・中期・平安時代集落、 韓式系土器、殿治遺構、鉄製金床、As-B下高	5、6、7、8
9	赤城山古墳				○				6世紀円墳	3
10	里見館							△	里見氏	4、26
11	中里見中川道跡		○	○			○	○	縄文時代晩期包含層、弥生時代前期土器・石器、As-C下水田、平安時代 代集落、殿治遺構、As-B下水田	9
12	神戸宮下道跡				○				As-C下水田、As-B下水田	10
13	神戸宮山道跡				○				平安時代集落、灰釉陶器	10
14	伊勢殿山古墳				○				7世紀円墳、金銅製耳飾り	3
15	中尾根道跡		○	○	○				縄文時代早期から前期・古墳時代後期・平安時代・中世土器	3
16	高浜の巻(坂上城)							△	長野氏、鸞殿長臣、永祿年間	4、26
17	日輪道跡		○	○	○				縄文時代前・中期穴建物・土坑、古墳時代後期から平安時代集落	3、11
18	高浜天狗原道跡		○	○	○				縄文時代前期・中期集落、古墳時代から古代集落	1
19	本郷奥原道跡								素弁四弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦、瓦塔、須恵器	3、12
20	本郷奥原古墳群				○				7世紀前から本項に造営された古墳群	3、12
21	本郷結業道跡		○	○	○	○			As-YP下層石器、縄文時代後期集落、7世紀円墳、古墳時代から平安時代 代集落、As-A板土坑	13、14
22	本郷上ノ台道跡					○	○		奈良時代・平安時代集落	13
23	本郷溝行原道跡				○	○	○	○	縄文時代前期・古墳時代集落、古代寺院・集落、中世土壙墓、As-A復 土坑	13、14
24	本郷広神道跡							○	As-B下水田	13
25	本郷西谷津道跡							○	As-B下水田	13
26	本郷大カサ道跡								古墳の周堀、古墳時代・平安時代集落	13、15
27	本郷鶴窪道跡							○	平安時代集落	13
28	本郷菅原道跡				○				古墳時代・奈良時代・平安時代集落、米室	15
29	本郷崎上道跡				○				古墳時代型穴建物、平安時代集落	13、15
30	嶋上1道跡			○	○	○	○	○	弥生時代から平安時代集落、中近世屋立柱建物	16
31	茅畑道跡		○	○	○	○	○	○	7世紀前半円墳、平安時代集落、中近世道	16
32	七曲りの巻(日輪城)							△	16世紀	4、26
33	本郷内場古墳群								後期から終末期古墳群	3、17
33	本郷橋荷塚古墳 (的場E古墳)				○				6世紀前半帆立貝形古墳	3、17
33	本郷大塚古墳				○				4世紀前半前方後円墳、内行花文鏡	3
34	道場道跡							○	平安時代集落、墨書土器	3、18
34	道場II道跡				○				弥生時代後期集落・大型型穴建物、古墳時代居館跡、平安時代集落	3
34	道場III道跡								古墳時代・平安時代集落	3
35	しどめ塚古墳				○				7世紀前半円墳、金銅製透形飾金具、鉄地金銅装透形花弁形古葉	3
36	蔵屋敷道跡		○	○	○				弥生時代後期から古墳時代集落、古墳時代居館跡、韓式系土器、平安 時代区画溝・銅印	3
36	蔵屋敷II道跡		○	○	○				弥生時代後期から古墳時代集落、5世紀後半から6世紀初頭古墳、平 安時代集落	3
36	小石塚古墳				○				7世紀後半方墳か	3
37	供養塚道跡				○				古墳時代中期・平安時代集落	3
38	寺内道跡				○				弥生時代後期型穴建物、古墳時代集落、石塚墓、韓式系土器、平安時 代集落	3
39	稲荷森道跡				○				弥生時代後期・古墳時代集落、中期末から後期初頭石塚墓群、6世紀 前半方墳、平安時代集落	3
40	御門城							△	尾形景忠	4、26
41	権栗塚古墳				○				5世紀円墳か	3
42	麻干原道跡							○	古墳時代集落、韓式系土器、平安時代集落	3
43	上大島館							△	里見氏	4、26
44	小五郎の巻							△	里見小五郎	4、26
45	若田原道跡		○						縄文時代前期から後期集落	19
46	峯林古墳				○				7世紀後半円墳	19
46	榎ノ木塚古墳				○				6世紀前半円墳	19
46	若田大塚古墳				○				6世紀初頭円墳、鉄製矛、横別板新留短甲	19

第1章 上大島御伊勢道跡

番号	遺跡名	時代							主な内容	主な文献
		縄 石 器	弥 生	古 墳	奈 良	平 安	中 世	近 世		
47	若田坂上道跡		○	○				○	縄文時代中期集落、弥生時代後期環壕墓、弥生時代後期集落、古墳時代前期から後期集落、6世紀から7世紀前半円墳、As-A下畑、As-A畑埋坑	20, 21
47	若田金堀塚道跡			◇				○	7世紀後半円墳、近世道路遺構	22
48	劍崎長瀬西道跡		○	○	○				縄文時代草創期土器・石器、弥生時代後期から奈良時代集落、中期・終末期古墳群、金製垂飾付耳飾、轆式土器	19, 23, 24, 25
48	劍崎長瀬西古墳			◇					5世紀後半円墳、三角板葺短甲、板文鏡	19, 23
49	大島原道跡	○	○						縄文時代草創期輪先形尖頭器、縄文時代中期・古墳時代中期集落、終末期古墳群	19

参考文献

- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『年報39』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『年報40』
- 榛名町誌編さん委員会2010『榛名町誌 資料編1 原始・古代』
- 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城跡』
- 高崎市教育委員会2013『下里見宮谷戸道跡第一次』
- 高崎市教育委員会2014『下里見宮谷戸道跡2』
- 高崎市教育委員会2014『下里見宮谷戸道跡3』
- 高崎市教育委員会2019『下里見宮谷戸道跡4』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『中里見道跡群』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『高浜原道跡・神戸宮山・神戸岩下』
- 高崎市教育委員会2008『和田山古墳群』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983『奥原古墳群』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『年報37』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『年報38』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『年報36』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『茅畑道跡・鴨土1道跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『本郷的岡古墳群』
- 榛名町教育委員会1986『道場道跡』
- 高崎市史編さん委員会1999『高崎市史 資料編1』
- 高崎市教育委員会2021『若田坂上道跡』
- 高崎市教育委員会2018『若田坂上道跡2』
- 高崎市教育委員会2017『若田金堀塚道跡』
- 高崎市教育委員会2004『劍崎長瀬西道跡1』
- 高崎市教育委員会2004『劍崎長瀬西道跡2』
- 専修大学文学部考古学研究室2003『劍崎長瀬西5・27・35号墳』
- 山崎 一1978『群馬県古城址の研究 下巻』群馬県文化事業振興会



第4図 調査区位置図(高崎市都市計画基本図1:2500を使用)

第3節 確認された遺構と遺物

1号復旧坑(第6・20図, PL. 2)

位置と形状 調査区中央の石列東側に位置し、溝状を呈する。

確認数 若干主軸方位を異にする8条が確認された。

規模 長さが判明する条は3.9m~6.9m、トレンチにより判明しない条では0.9m以上1.2m以下が最も短い。幅は23cmから90cmと差が認められる。残存深度も21cmから52cmと2倍以上の差がある。各条で比較すると両端に位置する条は、幅が狭く深度も浅い。横断面形状では深い条が「コ」の字状なのに対して、浅い条は「U」字状を呈する。

間隔 各条の間隔は8cmから40cmと一定しない。

長軸方位 N-83°-W

出土遺物 明らかに近現代に属する遺物は出土していない。出土遺物のうち、18世紀前半の肥前磁器碗(第20図1)、と17世紀後葉から18世紀前葉の瀬戸・美濃陶器尾呂碗(第20図2)の2点を図示した。また、図示し得なかった遺物は、江戸時代の肥前染付磁器片3点13g、江戸時代の国産陶器片4点14g、江戸時代の在地系土器焙烙・銅片4点27g、時期不詳の土器片3点28g、同瓦片1点3gである。他には6gの縄文時代後期堀之内2式土器片1点と1.3gの赤碧玉製剥片1点が出土している。

所見 各条はAs-A純層で人為的に埋められており、明らかに19世紀以降とわかる遺物は出土していない。従って、本遺構は耕作地に降下したAs-Aの処理を行うことにより、耕作地復旧を図った復旧坑と考えられる。

2号復旧坑(第7・20図, PL. 2)

位置と形状 調査区中央の北西側に位置する。3条で構成され、2条が長く1条が短い。端部形状は条ごとに異なり、走向も直線的ではない。

確認数 規模・形状共に異なる3条が確認された。

規模 長さは短い条が3.94m、長い条が15.1mと16.0mである。幅は70cmから144cmとかなり差異がある。残存深度は12cmから24cmと2倍ほどの差が認められる。しかし、南側の浅い条は確認面が低く、同一標高から掘削されたと仮定すると、ほぼ同じ深さとなる。横断面形状は

「コ」の字状を呈する。一部の側壁は抉るように掘削している。

間隔 30cmから110cmと一定しないが、これは南側に位置する短い条の方向が異なっていることに起因する。

長軸方位 N-52°-E

出土遺物 出土遺物は陶磁器類のみで、明らかに近現代の所産と判断できる個体は認められない。これらのうち、肥前の陶胎染付碗(第20図3)1点のみ図示した。図示し得なかった遺物は、肥前陶胎染付火入れ?の体部片1点4gと江戸時代在地系土器銅の口縁部片1点7gのみである。

所見 各条はAs-A純層で埋められており、明らかに天明期以降と考えられる遺物は出土していない。従って、本遺構は耕作地に降下したAs-Aの処理を行うことにより、耕作地復旧を図った復旧坑と考えられる。後述する3号復旧坑より新しい。

3号復旧坑(第7図, PL. 3)

位置と形状 調査区中央の北西側に位置する。2号復旧坑と重複し、長軸方向がほぼ直交する。北西側は調査区外に延びるが、形状は溝状を呈すると推測される。

確認数 終端位置が異なる12条からなる。

規模 北西側が調査区外に延びるため、長さは不明である。確認長では最長7.1mである。幅は38cmから84cmで、南側2条が幅狭く途中で途切れている。残存深度は3cmから10cmと浅い。

間隔 各条の間隔は3cmほどから20cmと狭い。また、隣り合う条との間隔は一定しない。

長軸方位 N-83°-W

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見 断面観察とブラン確認時の状態(PL. 2-6)でも明らかのように、As-Aを処理した2号復旧坑より古い。埋土が細砂主体であり、洪水で耕作地に堆積した砂層の処理坑と考えられる。

4号復旧坑(第8・20図, PL. 3・4・9)

位置と形状 調査区北西端に突き出した狭い部分で確認された。南端のみの調査であり、全体形状は不明である。

確認数 南西側終端部がそろう形で20条確認された。

規模 南端のみの調査であり、長さは不明である。東側

の短い条の長さは194cm。幅は40cmから90cmであるが、東から2条目のみ幅が狭い。残存深度は40cmから50cmで横断面形状は「コ」の字状を呈する。

間隔 間隔は4cmから38cmと差があるが、各条の側縁が直線的でないことに起因する。

長軸方位 N-45°-E

出土遺物 17世紀後半から18世紀前半頃の瀬戸・美濃陶器胎丸碗を円盤状に加工した製品(第20図5)1点と北宋、1023年初鑄の「天聖元寶」(第20図4)1点を図示した。掲載しなかった遺物は次の通りで、近現代のものは認められない。江戸時代の磁器は3点8gで、1点は肥前染付磁器か白磁の碗口縁部片、1点は蛇の目凹型高台の青磁皿底部片である。もう1点は瀬戸・美濃陶器碗の体部下位片である。江戸時代の陶器は8点70gで、肥前京焼風陶器皿の底部片1点、肥前陶器器手碗の体部片1点。瀬戸・美濃陶器では御深井製品皿の底部片1点、灰釉反り皿の底部片1点、尾呂碗の口縁部片1点、筒軸筒形香炉片1点、鉄軸碗の体部片2点である。江戸時代の在地系焙烙か鍋は2点28gである。他は時期不詳土器片1点10gと古代須恵器片1点4gが出土している。

所見 土層断面による確認が行えないが、1号溝の調査を先行していることから、1号溝より古いであろう。

瀬戸・美濃磁器(非掲載)が混入でないとすれば、19世紀前葉から中葉頃以降の洪水砂処理坑となる。しかし、同じ洪水砂処理坑の3号復旧坑がAs-A処理坑の2号復旧坑より古く、距離もさほど離れていないため、瀬戸・美濃磁器が上層か1号溝の遺物であった可能性もある。

後述する13号溝は、埋土と位置が4号復旧坑と若干異なることから別遺構として調査されている。しかし、復旧坑と重なることなく掘削され、かつ間隔に不自然さが認められないことから、本復旧坑に含まれる可能性がある。

5号復旧坑(第9・20図、PL. 4・5)

位置と形状 溝状。

確認数 全体では25条確認されたが、等高線に平行するように掘削された10条の短い一群と等高線に直行するように掘削された長い15条の一群が存在する。

規模 短い一群の長さは、両端が判明する条で50cmから160cm程、幅は16cmから50cm、残存深度は14cmから52cm

である。長い一群では、長さ7.28mから9.32m、幅30cmから90cm、残存深度30cmから50cmである。

間隔 間隔は重なる箇所から40cmを超える箇所まで存在する。長い一群では、東西方向から北東方向に向きを変えるが、その北東方向端部付近の間隔が広い傾向がある。また、調査区内で直線的な条と湾曲する条との境に生じた隙間を埋めるように新たな条を掘削している。

長軸方位 北西部の短い条がN-60°-W、長い条の西側がN-82°-Eで、次第にN-45°-Eへと向きが変わる。

出土遺物 中世の龍泉窯系青磁碗(第20図6)と江戸時代の肥前京焼風陶器皿(第20図7)の2点を図示した。非掲載遺物では、江戸時代の肥前磁器皿片1点4gと陶器片10点43g及び在地系土器焙烙か鍋2点12g、在地系土器皿1点4gがある。

所見 西端は石列と4号溝に接するように位置し、4号溝の屈曲に合わせるように各条の端部も位置している。調査時の遺構原因には「畑」と記載されているが、調査担当者も調査後に復旧坑と判断を改めていうえ、畝の存在が問題となるため、本書で復旧坑として名称を改めた。ただし、耕地化する際の耕耘に伴う遺構か洪水砂の処理を目的としたものかは判断し兼ねる。

6号復旧坑(2号畑・3号畑)(第10図、PL. 4・5)

位置と形状 調査区中央の1号復旧坑と3号復旧坑の間に位置し、溝状を呈するものと推定される。確認面の標高が低くなるに従い、底面の深い場所が残ったと考えられる浅いピット状窪みが連続する。

確認数 確認面の標高が低くなるに従って残存が悪く、条数は不明である。

規模 浅いピット状部分は長さ20cm程、長い箇所でも166cmである。幅は20cmから70cm、残存深度は1cmから19cmである。

間隔 各条の間隔は重なる部分から70cmと一律ではないが、底面の深い部分が断続的に残存する箇所もあり詳細不明である。

長軸方位 西側の短い条がN-73°-Eで、本来長いと推定される条がN-73°-Eと方向が異なる。

出土遺物 江戸時代の瀬戸・美濃陶器鉄軸碗4gの体部片1点と在地系土器焙烙体部片1点18gが出土したのみ

で、図示し得る遺物の出土はない。

所見 調査時には4号溝に近い部分を「2号畑」、次第に方向を南寄りに変え、浅い溝状や浅いピット状を呈する部分を「3号畑」としていたが、一部を除き埋土に違いがないこと、他に分ける根拠が乏しいことから同一遺構として報告する。

土層断面ポイントBに近い2条は両脇より新しいようであるが、これは遺構の時期差というより掘削順を示すのであろうか。本遺構も調査時の原因には「畑」と記載されているが、調査担当者も調査後に復旧坑と判断を改めているうえ、畝の存在が問題となるため、本書で復旧坑として名称を改めた。ただし、耕地化する際の耕耘に伴う遺構か洪水砂の処理を目的としたものかは判断し兼ねる。

石列(第18・20図、PL. 5)

位置と形状 西側の低地部と東側微高地部との境を直線的に区画する40cm以下の段差部分に築かれた石列。

方位 N-19°-W

規模 調査区内確認長27.4mで、北西と南東方向の調査区外に延びる。耕作地と底部部分を区画する40cm以下の段差に川原石を積んでおり、1段から3段が残存していた。

出土遺物 図示した遺物は、染付磁器蓋(第20図8)と染付磁器小丸碗(第20図9)の2点である。非掲載遺物のうち肥前染付磁器小片2点5gと瀬戸・美濃と肥前陶器片6点34gは江戸時代の所産である。近現代の陶磁器は4点27gである。

所見 本石列は、調査区南西部に存在する低地部と復旧坑が存在する耕作地とを区画するために構築されたと考えられる。構築時期は特定できないが、調査時の土層観察から土地改良前まで使用されていた可能性が高い。

1号畦状遺構(第11・12図、PL. 5)

位置と形状 調査区北東部の遺構空白箇所に位置し、等高線とほぼ平行に走向する。

主軸方位 N-47°-E

規模 確認長は13.1m、高まり部分の幅は62cm、高さは2cm～8cmである。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 1号溝で途切れるが、直接の新旧関係は不明である。しかし、本遺構を覆う「2層」は1号溝埋土をはじめ、他の遺構埋土をほぼ水平に覆っている。このことから、1号畦状遺構は、他の遺構より新しい時期の水田遺構であろう。

2号畦状遺構(第11・12図、PL. 6)

位置と形状 調査区北東角端に位置する。調査区幅が狭い場所での確認で形状は不明である。

主軸方位 N-46°-E

規模 確認長は136cm、幅は90cmである。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 土層断面記録はないが、1号畦状遺構同様、他の遺構より新しいであろう。

1号土坑(第13図、PL. 6)

位置と形状 調査区中央付近、復旧坑北東の座標X=252、Y=-280に位置する。形状は楕円形状を呈する。

長軸方位 N-45°-E

規模 長軸165cm、短軸50cm、深さ26cmで横断面形は「コ」の字状を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 長軸が等高線とほぼ並行する。埋土と長軸方向が近似する2号土坑、3号土坑と関連性があるかもしれない。出土遺物がなく時期不詳。

2号土坑(第13図、PL. 6)

位置と形状 調査区中央付近、復旧坑北東の座標X=251、Y=-279に位置する。形状は楕円形状を呈する。

長軸方位 N-48°-E

規模 長軸217cm、短軸44cm、深さ26cmで横断面形は「コ」の字状を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 長軸が等高線とほぼ並行する。埋土と長軸方向が近似する1号土坑、3号土坑と関連性があるかもしれない。出土遺物がなく時期不詳。

3号土坑(第13図、PL. 6)

位置と形状 調査区中央付近、復旧坑北東の座標X=

250、Y=-278に位置し、楕円形状を呈する。

長軸方位 N-42°-E

規模 長軸204cm、短軸37cm、深さ25cmで横断面形は「コ」の字状を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 長軸が等高線とほぼ並行する。埋土と長軸方向が近似する1号土坑、2号土坑と関連性があるかもしれない。出土遺物がなく時期不詳。

4号土坑(第13・20図、PL. 6・9)

位置と形状 調査区中央付近、1・5・6号復旧坑北東の座標X=250、Y=-284に位置する。平面形は楕円形を呈する。

長軸方位 N-25°-E

規模 長軸80cm、短軸55cm、深さ23cm。

出土遺物 骨は遺存状態が悪く、調査時には細片状態で埋葬体位は不明であった。遺物としては陶器鉄絵皿2点(第20図10・11)と寛永通寶7枚(第20図12~18)がまとまりなく出土していた。埋納された銭貨のうち、第20図18を除く6枚は西壁際に存在し、第20図16と同17の2枚は重なっていた。7枚の寛永通寶はすべて古寛永である。鉄絵皿のうち1点(第20図10)は、横倒しの状態で割れて出土したが、3片の接合により完形品となった(出土状態の図と写真は1片ない状態で測図・撮影している)。もう1点の第20図11は中央で割れ、長軸方向両端から離れた状態で出土している。また、一方は底部付近正位での出土に対し、もう一方は横位で確認面付近からの出土で、垂直方向においても離れている。11は口縁部が欠損するが、破面が新しく、表土掘削時に欠失した可能性がある。

所見 遺構の時期は、埋納された銭貨7枚すべてが古寛永であること、同じく埋納された陶器皿との年代に齟齬がないことから、17世紀中葉頃と考えられる。土坑底面付近からは炭化物と共に骨片が少量認められた。骨片には火を受けたような黒変部があり、火葬骨と考えられる。しかし、出土した2枚の陶器皿露胎部には若干の黒変が認められるものの、軸葉が発泡するほどの二次受熱は認められない。また、銭貨も明らかな二次受熱痕は認められない。

埋土中の焼土粒に集中部は認められず、焼土塊や壁、

底面の焼土化も認められないことから、火葬跡ではなく火葬墓の可能性を考えておきたい。なお、埋葬された骨に関して、新潟医療福祉大学奈良貴史教授のご教示によれば、取り上げた骨片65.4gの全てが焼骨で、その中にヒト軸椎片1点と歯根片1点が確認されたとのことである。軸椎(第2頸椎)片は墓坑北東側中央出土であるが、歯根片の出土位置は不明である。

5号土坑(第13図)

位置と形状 先に報告した4号土坑に近接する。今回の調査で確認された唯一の円形土坑である。

長軸方位 N-25°-W

規模 長軸50cm、短軸45cm、深さ6cm

出土遺物 出土遺物はない。

所見 埋土は1号から3号土坑と同様である。出土遺物がなく時期は不詳。

6号土坑(第13図、PL. 7)

位置と形状 1号から3号土坑とやや離れて構築されるが、長軸方位は近い。形状は溝状に近い楕円形を呈する。

長軸方位 N-47°-E

規模 長軸168cm、短軸40cm、深さ13cm

出土遺物 出土遺物はない。

所見 1号から3号土坑と同様、横断面形が「コ」の字状を呈しており、似た性格の土坑と推定される。出土遺物がなく時期は不詳。

7号土坑(第14・15図、PL. 7)

位置と形状 調査区北東部で5基の土坑が密集した状態で確認された中の1基で、8・10号土坑とほぼ長軸方向を一にする。全体形状は不明であるが、溝状を呈すると推定される。

長軸方位 N-34°-W

規模 全長は不明であるが、調査長は5.8m、幅1.33m、深さ40cmで、横断面形状は「コ」の字状を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 新旧関係は10号土坑より新しく、9号土坑より古い。長軸方向がほぼ直行する11号土坑とも重複するが、本土坑を先行して調査しており、11号土坑より新しいようである。出土遺物はないが、9号土坑より古いことか

ら、江戸時代以前の遺構と推定される。

8号土坑(第14・15図、PL. 7)

位置と形状 調査区北東部で5基の土坑が密集した状態で確認された中の1基で、7・10号土坑とほぼ長軸方向を一にする。全体形状は不明であるが、溝状を呈すると推測される。

長軸方位 N-38°-W

規模 調査長5.5m、幅1.0m、深さ38cm。横断面形状は「コ」の字状を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 7号土坑、10号土坑と長軸方向をほぼ同じくし、10号土坑、11号土坑と重複する。新旧関係は、断面観察で10号土坑より新しいことが確認されている。長軸方位がほぼ直交する11号土坑との関係は、本土坑の調査を先行していることから、11号土坑より新しいようである。出土遺物がなく時期は不明である。

9号土坑(第14・15図、PL. 7)

形状 調査区北東部で5基の土坑が密集した状態で確認された中の1基である。一部の調査であり、全体形状は不明である。

長軸方位 N-44°-W

規模 長軸1.5m以上、短軸2.2m、深さ33cm。

出土遺物 図示し得なかった遺物は肥前磁器、瀬戸・美濃陶器、在地系土器片各1点の計3点23gで、いずれも江戸時代と考えられる。肥前磁器は蛇の目軸刺ぎの染付碗底部片。瀬戸・美濃陶器は尾呂碗の口縁底部片。在地系土器は焙烙か鍋の底部片である。

所見 重複関係は7号土坑、10号土坑より新しい。陶磁器類の小片3点が出土したのみであるが、江戸時代の遺構と考えられる。

10号土坑(第14・15図、PL. 7)

位置と形状 調査区北東部で5基の土坑が密集した状態で確認された中の1基で、7・8号土坑に挟まれた位置に構築される。全体形状は不明であるが、溝状を呈すると推定される。

長軸方位 N-36°-W

規模 長さ4.55m以上、幅0.94m、深さ37cm。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 重複関係は7・8・9号土坑より古い。出土遺物はないが、土層観察によって江戸時代の土器、陶磁器が少量出土した9号土坑より古いことが確認されており、江戸時代以前の遺構と推定される。

11号土坑(第14図、PL. 7)

位置と形状 調査区北東部で5基の土坑が密集した状態で確認された中の1基で、7・8・10号土坑と長軸方向がほぼ直交する。隅丸長方形。

長軸方位 N-41°-E

規模 長さ3.08m、幅0.71m、深さ11cm。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 7号土坑、8号土坑との新旧関係は、プラン確認時に本土坑が古いと判断している。また、確認面において10号土坑との重複がなく、新旧関係は確認できない。出土遺物はないが、9号土坑や7号土坑より古いため、江戸時代以前と推定される。

12号土坑(第15図、PL. 7)

位置と形状 調査区南西の低地部に位置し、6号溝と重複する。一部調査のため形状は不明である。

長軸方位 一部調査のため不明。

規模 一部調査のため長軸、短軸長は不明。深さ30cm。

出土遺物 出土遺物はない。

所見 6号溝と重複するが、重複箇所の深さが3cmと浅く、かつ調査区境の土層断面でも確認出来ず、新旧関係は不明である。

13号土坑(第15図、PL. 3)

位置と形状 調査区北端で4号復旧坑の東端付近に位置する。溝状を呈する。

長軸方位 N-47°-E

規模 長さ5.35m、幅0.56m、深さ35cm。

遺物 出土遺物はない。

所見 4号復旧坑との重複がなく、新旧は不明である。本土坑は、埋土と位置が4号復旧坑と若干異なることから、別遺構として調査されている。しかし、4号復旧坑の条間に重複することなく構築されていることから、4号復旧坑に含まれる可能性が高いのではないだろうか。

1号溝(第16図、PL. 7・8)

位置と形状 調査区北東部を南東から北西に貫くように走向し、両端は調査区外に延びる。形状はやや蛇行し、幅も一定しない。途中で分岐するが、その部分は2号溝とした。

長軸方位 北西側はN-47°-W、南東側はN-36°-Wである。

規模 両端は調査区外に延び、調査長は49mである。幅は1.5mから4m、深さは15cmから19cmと幅が広いわりに浅い。

遺物 掲載し得る遺物はない。非掲載遺物は4点で、いずれも「南部」との注記がなされている。内訳は、瀬戸・美濃陶器鉄軸皿と胎軸筒形香炉小片各1点14g、在地系の中世片口鉢12gの小片1点、時期不詳の土器10gの小片1点である。

遺物出土量は極めて少ないが、近現代と判断できるものは認められない。

所見 底面には起伏があるが、全体としては南東方向に傾斜しているが、高低差は5cm程度である。底面に垂円礫や円礫が認められるが、土層断面で見ると溝内の礫ではなく、地山中に下部礫層由来の礫が多く含まれる部分に1号溝が存在した結果と推測される。

調査時には2号溝との時期差が認められなかったが、人為的と推測される石列の存在から別名称を付している。

2号溝(第16・17図、PL. 8)

位置と形状 1号溝から分岐し、直線的に北側へ延び、調査区外に続く。

長軸方位 N-3°-E

規模 調査長は、1号溝分岐点から調査区境まで10.8m。幅は1.24mから1.8m、深さは24cmから36cmである。本溝は調査された部分の中央部が深く、36cmの最深部もこの部分に存在する。

遺物 小片のため掲載しなかったが、17世紀代志野丸皿の口縁部から体部片12gの破片が1点出土している。

所見 溝の両側には、垂円礫が小口面を内側に向けたように出土している。また、場所によってはより大きな礫を区切るように設置しているような箇所も見受けられる。明確な掘り方は確認できなかったが、人為的に並べ

られた可能性が考えられる。このような石配置は1号溝とした部分には及んでおらず、用途・性格は不詳である。

3号溝(第17図、PL. 8)

位置と形状 1号復旧坑と6号復旧坑の東側に位置し、6号復旧坑の北側に沿うように曲がる。溝中央部から南側にかけては、1号復旧坑と6号復旧坑東端付近を直線的に走向する。

長軸方位 北側はN-50°-Wであるが、N-26°-Wに向きを変える。

規模 長さ13m、幅30cm~66cmで深さは17cmから31cm。

遺物 出土遺物は出土していない。

所見 埋土は砂を主体としているようであるが、流水については不明である。

4号溝(第18図、PL. 8・9)

位置と形状 調査区南西の低地部分と耕地部分とを区画する石列北東側に位置し、緩く蛇行して南西側は石列と接する箇所を終端となる。標高がより高い北東側は調査区外に延びる。

長軸方位 N-13°-W

規模 調査長は24m。幅は、上端が残る部分で18cm~78cm、深さは7cmから14cmである。

遺物 出土遺物は、18世紀代瀬戸・美濃陶器片口鉢片と17世紀代灰軸皿小片各1点(計22g)。肥前磁器では17世紀後葉から18世紀前葉の染付皿口縁部片と江戸時代と推定される白磁碗口縁部片の2点6gであるが、いずれも小片のため掲載しなかった。

所見 石列と方位が異なること、直線的でないことから耕地と低地との区画溝ではないと考えられる。また、溝底面には小さな凹凸が認められ、深い部分(土層断面ポイントBB')には礫流水により形成 溝の可能性がある。出土遺物中に近現代陶磁器が認められず、江戸時代に形成された可能性が高い。

5号溝(第18・20図、PL. 8・9)

位置と形状 石列低地側に沿うように位置し、底面を含め形状は一定しない。

長軸方位 N-16°-W

規模 確認長は8.1m、幅は48cm~81cm、深さは2cm~

51cmである。

出土遺物 出土遺物のうち、肥前系磁器碗(第20図19・20)2点を図示し、肥前磁器染付碗体部2gの小片1点、瀬戸・美濃陶器鉄軸碗と鉄軸不明製品各1点(計8g)、近現代と推測される磁器壺類蓋2gの小片1点、時期不詳の土器小片2点7gは非掲載とした。

所見 溝形状が一定せず、底面に深い箇所が認められること、埋土が「細砂、粗砂、小礫」であることから、確認形状は流水により形成されたものと考えられる。耕作地を区画する石列外に存在することから、自然流水か排水溝であろう。明らかに近現代と判明する遺物が出土しておらず、埋没時期は江戸時代か近現代か判然としない。

6号溝(第19図、PL. 8)

位置と形状 やや蛇行し、確認した中央部分の幅が広く、深さも深い。

長軸方位 N-37°-W

規模 長さ8.64m、幅24cm~60cm、深さ3cmから30cm。

出土遺物 遺物は出土していない。

所見 12号土坑と重複し、12号土坑の土層断面で確認できないが、重複部分の深さが3cmと浅く、新旧関係は不明である。埋土は砂を主体とするようであるが、性格は不明である。

7号溝(第19図、PL. 8)

位置と形状 調査区南西側に位置し、等高線に直行するように、直線的に伸び、標高の低い側は次第に不明瞭となる。

長軸方位 N-62°-E

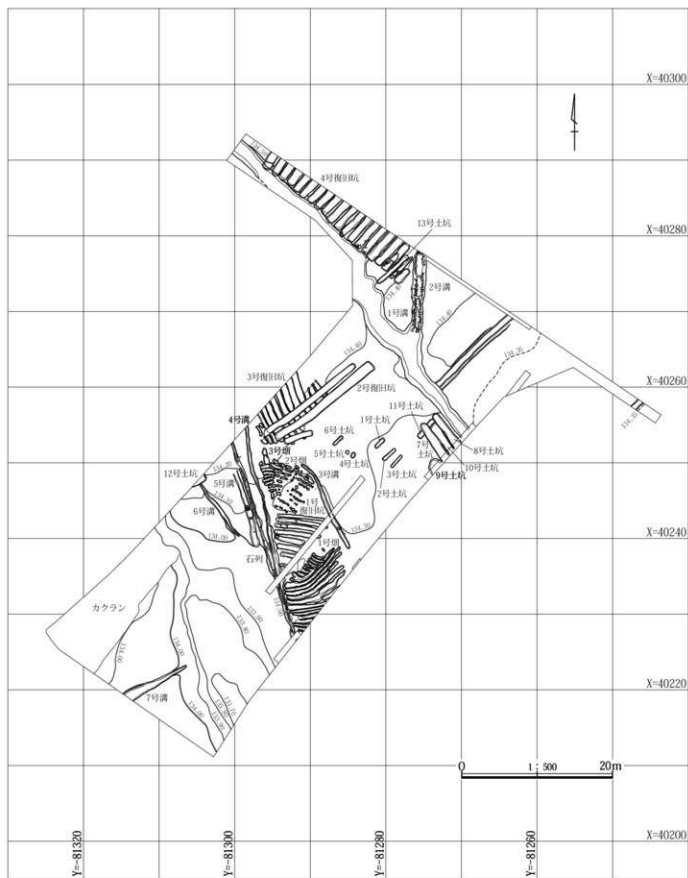
規模 南西側は調査区外に伸びるが、調査長は8.64m、幅は27cmから156cm、深さは3cmから18cmである。標高が高い南西側の幅が広く、深い傾向が認められる。

出土遺物 遺物は出土していない。

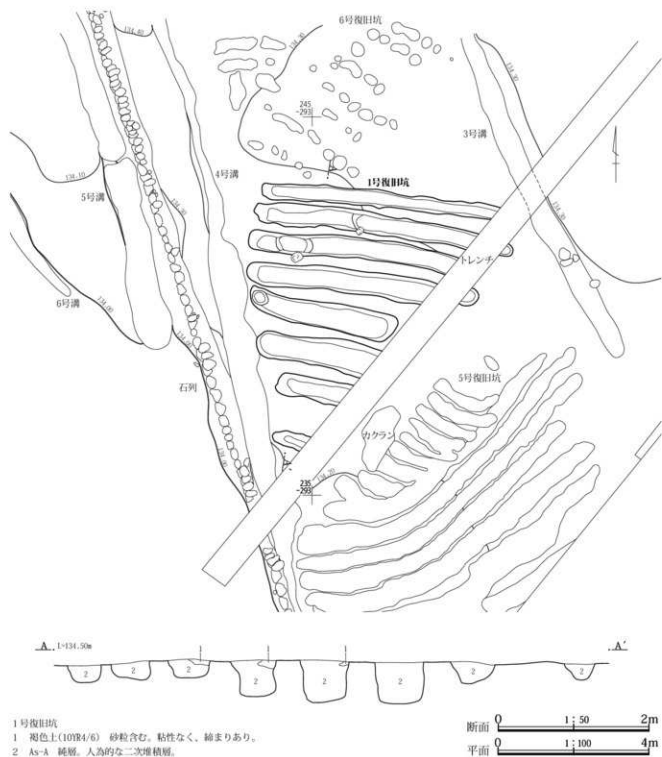
所見 埋土が砂層ではなく、底面の凹凸も認められないことから流水がなかったと推定される。周囲に遺構が存在せず、性格は不明である。出土遺物がなく時期決定が困難であるが、埋土が他の遺構に近いことから、江戸時代頃と推測される。

遺構外出土遺物(第20図、PL. 9)

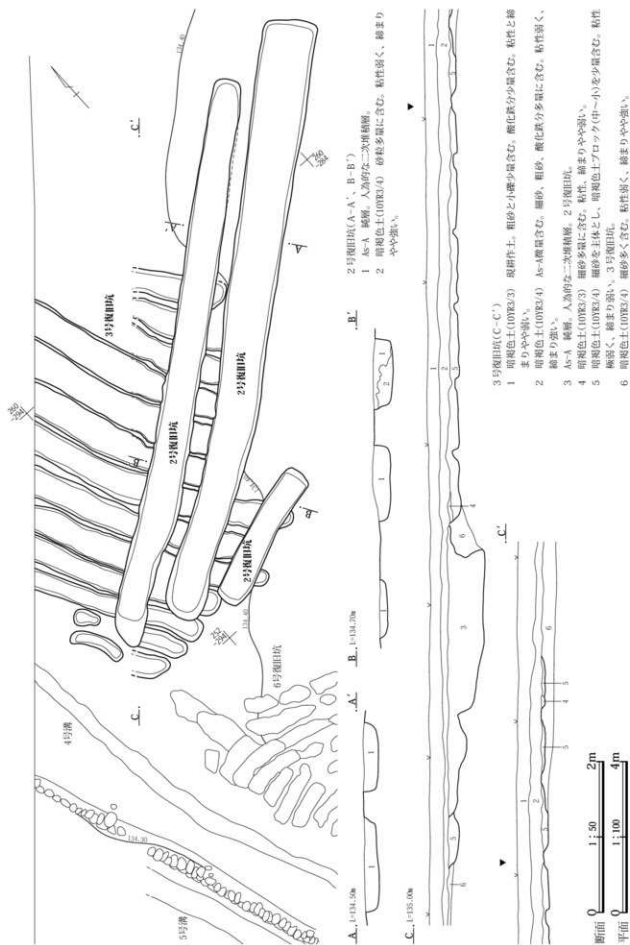
遺構確認時等に出土した遺物は少量で、図示し得たのは中世の在地系土器口縁部下位片(第20図21)と、17世紀代の瀬戸・美濃陶器白天眼碗(第20図22)、黒色安山岩製の石匙(第20図23)の3点である。図示し得なかった遺物は、古代須恵器壺・甕類片の1点23g、江戸時代国内産磁器7点44g、同陶器16点287g、江戸時代在地系土器焙烙か鍋4点54g、近現代陶磁器17点235g、同在地系土器焙烙1点36g、時期不詳土器・瓦類11点174gである。



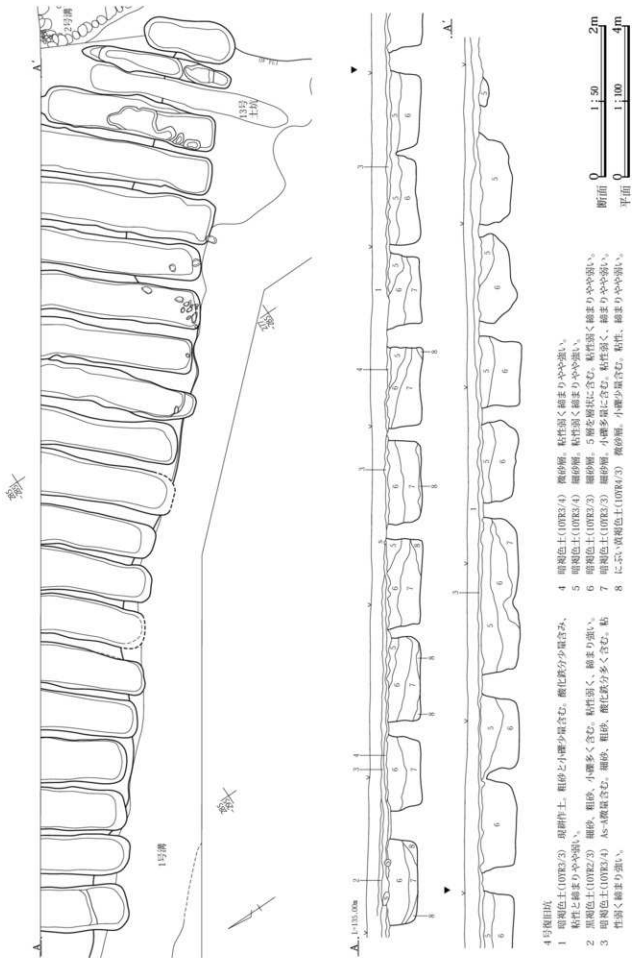
第5図 調査区全体図



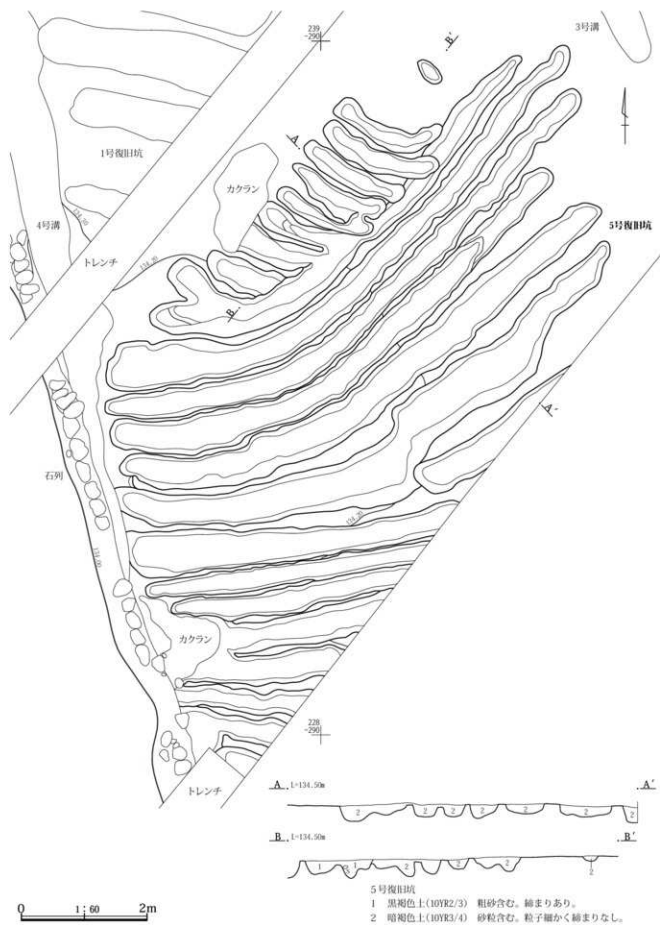
第6図 1号復旧坑



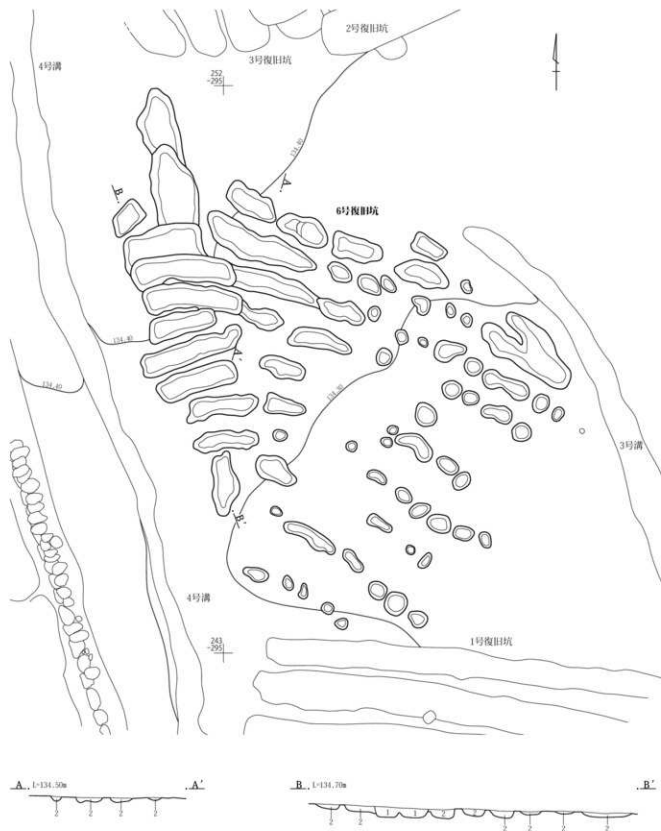
第7図 2・3号覆土坑



第8図 4号復旧坑



第9図 5号復旧坑



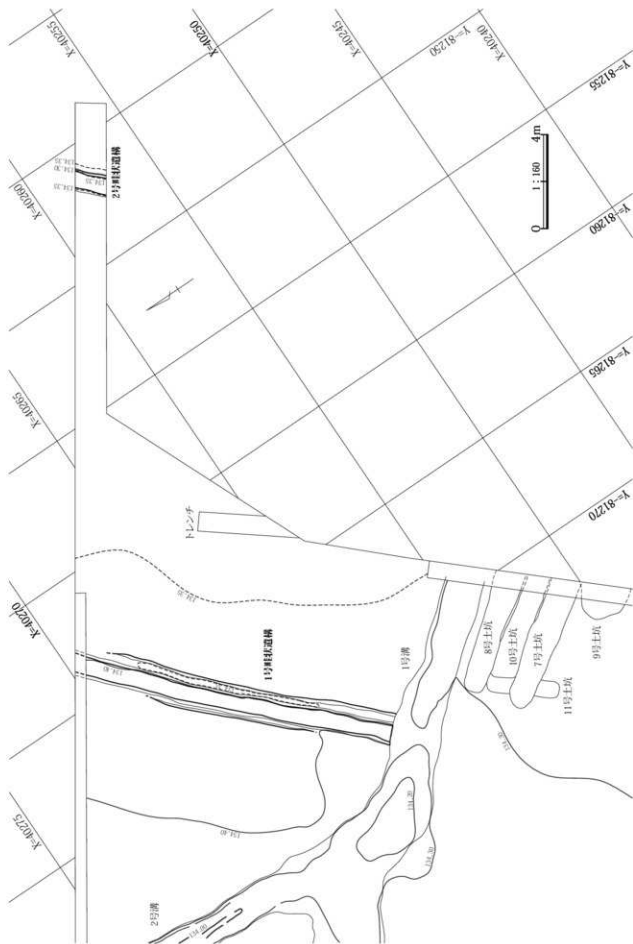
6号復旧坑

1 暗褐色土(10YR3/3) 砂質土。締まりあり。

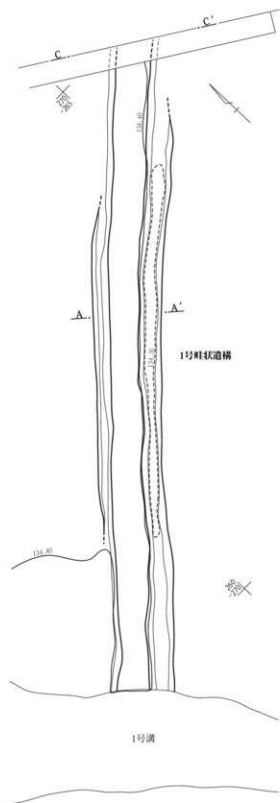
2 黒褐色土(10YR2/3) 粗砂と小礫混じる。締まりあり。

0 1:60 2m

第10図 6号復旧坑



御伊勢道跡 図11(抜)



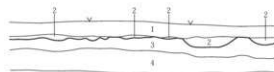
A., l=134.60m A'



B., l=134.60m B'



C., l=135.00m C'



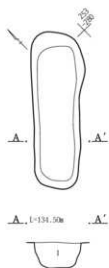
1号畦状遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 現耕作土。細砂と小礫少量含む。酸化鉄少量含む。粘性、締まりやや弱い。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 微砂層。粘性弱い。締まりやや強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) シルト質。細砂、粗砂、小礫、酸化鉄分多く含む。粘性やや弱い。締まりやや強い。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) シルト質。細砂、粗砂、小礫少量混含む。粘性やや弱く、締まりやや強い。



第12図 1号畦状遺構、2号畦状遺構

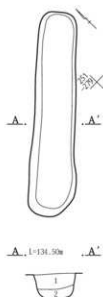
1号土坑



1号土坑

1 褐色土(10YR4/6) 粒子細かく締まりあり。

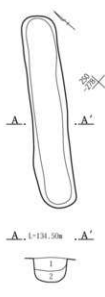
2号土坑



2号土坑

1 褐色土(10YR4/6) 粒子細かく締まりあり。
2 暗褐色土(10YR3/4) 粒子細かく締まりあり。

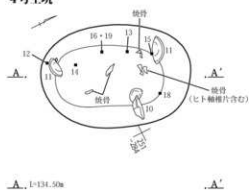
3号土坑



3号土坑

1 褐色土(10YR4/6) 粒子細かく締まりあり。
2 暗褐色土(10YR3/4) 粒子細かく締まりあり。

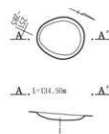
4号土坑



4号土坑

1 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物含む。焼土粒全体に少量含む。締まりあり。

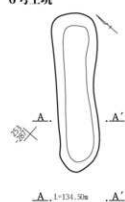
5号土坑



5号土坑

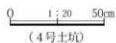
1 暗褐色土(10YR3/4) 粒子細かく締まりあり。

6号土坑



6号土坑

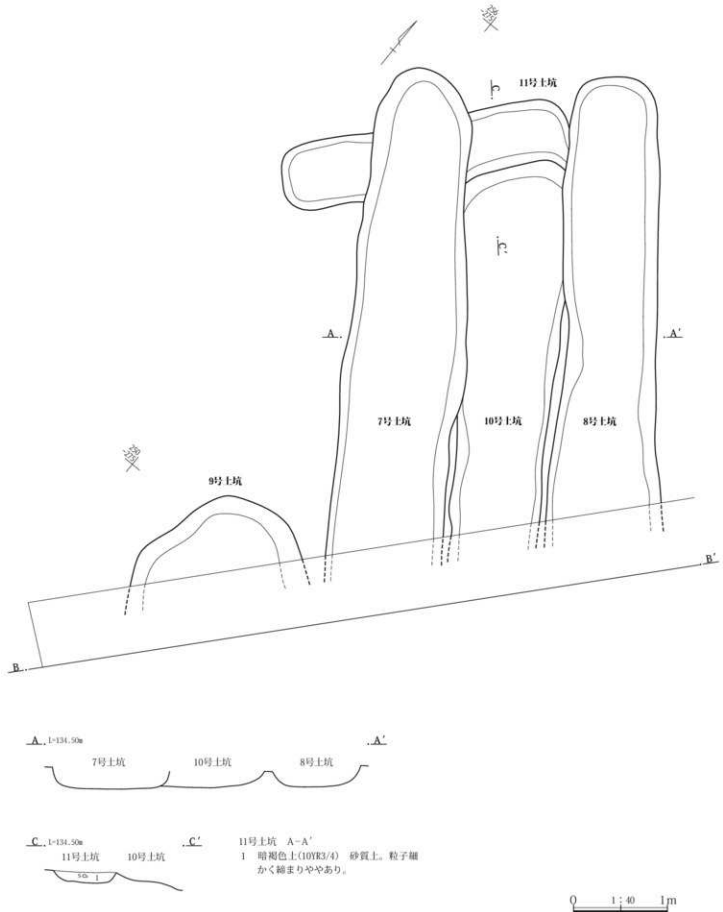
1 暗褐色土(10YR3/4) 砂粒含む。粒子細かく締まり弱い。



(4号土坑)



第13図 1号から6号土坑

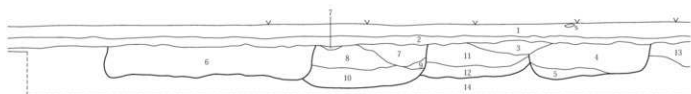


第14図 7号から11号土坑

7～10号土坑

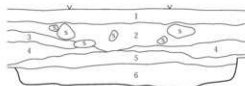
B, L=135.0m

B'



- 7～10号土坑1 暗褐色土(10YR3/3) 現耕作土。粗砂と小礫少量含む。酸化鉄分少量含む。粘性、締まりやや強い。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) As-A微量含む。細砂と粗砂を多く含む。酸化鉄分多く含む。粘性弱く、締まり強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 細砂と小礫少量含む。粘性弱く、締まりやや強い。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微砂質。小礫多量に含む。粘性、締まりやや強い。8号土坑。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 微砂質。細砂少量含む。粘性、締まり弱い。8号土坑。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 微砂質。礫中层混。粘性弱。締まりやや強い。9号土坑。
- 7 黒褐色土(10YR2/3) 微砂質。粘性弱い。締まりやや弱い。7号土坑。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) 微砂質。小礫少量含む。粘性弱く、締まりやや強い。7号土坑。
- 9 暗褐色土(10YR3/4) 微砂質。粘性弱く、締まりやや強い。7号土坑。
- 10 暗褐色土(10YR3/3) 細砂質。小礫少量含む。粘性弱く、締まりやや弱い。7号土坑。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 細砂と小礫少量含む。粘性弱い。締まりやや強い。10号土坑。
- 12 暗褐色土(10YR3/3) 細砂と小礫少量含む。粘性、締まりやや強い。10号土坑。
- 13 暗褐色土(10YR3/4) シルト質。礫中层含む。粘性やや弱く、締まりやや強い。
- 14 灰黄褐色土(10YR4/2) 細砂を主体とし、小礫少量含む。粘性、締まりやや弱い。1号溝。
- 15 暗褐色土(10YR3/4) 礫と砂粒多く含む。粘性弱く、締まりやや強い。

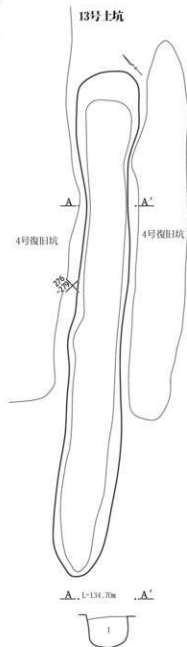
12号土坑



12号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 粗砂、小礫少量含む。酸化鉄分少量含む。粘性、締まりやや弱い。現耕作土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 礫と酸化鉄分少量含む。粘性やや弱く、締まりやや強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 酸化鉄分ブロック状に多く含む。細砂主体で粘性強い。締まりやや弱い。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2) 細砂多く含む。小礫、酸化鉄分少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。土地改良時の盛土か。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 細砂、粗砂を主体とする。酸化鉄分多く含む。小礫少量含む。粘性、締まりやや強い。12号土坑。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 細砂、小礫少量含む。粘性弱く、締まりやや強い。12号土坑。

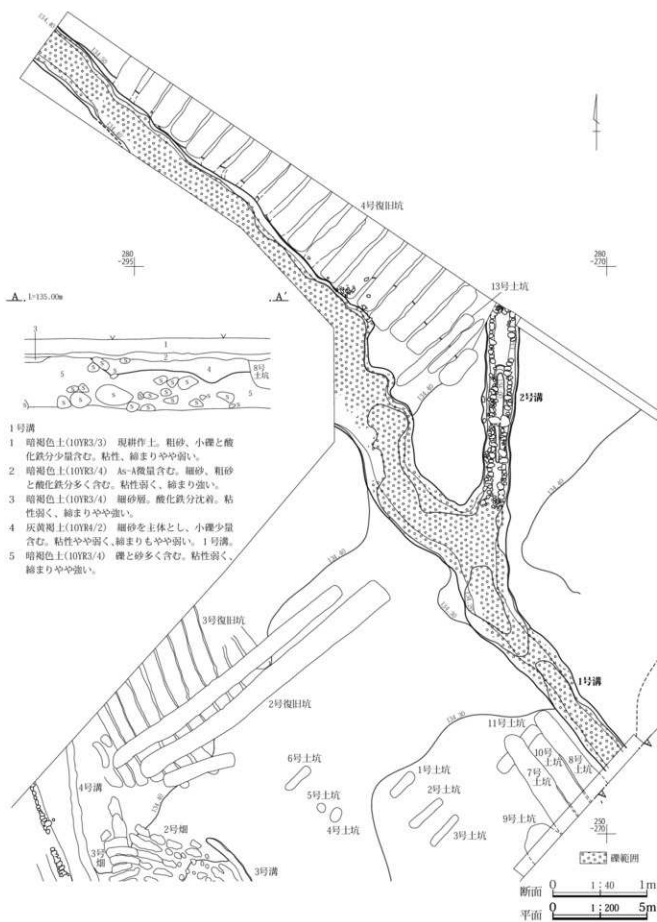
13号土坑



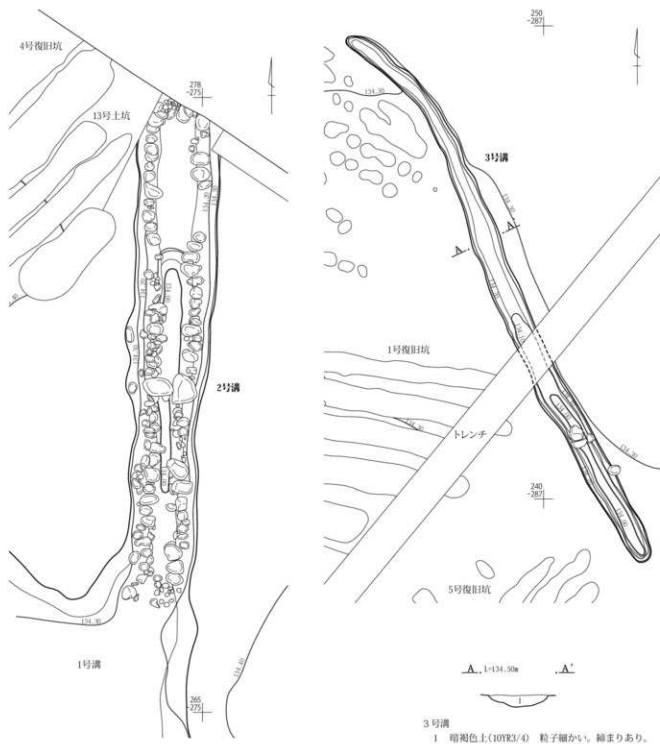
- 13号土坑
1 暗褐色土(10YR3/4) 砂質土。粒子細かく締まりあり。

0 1:40 1m

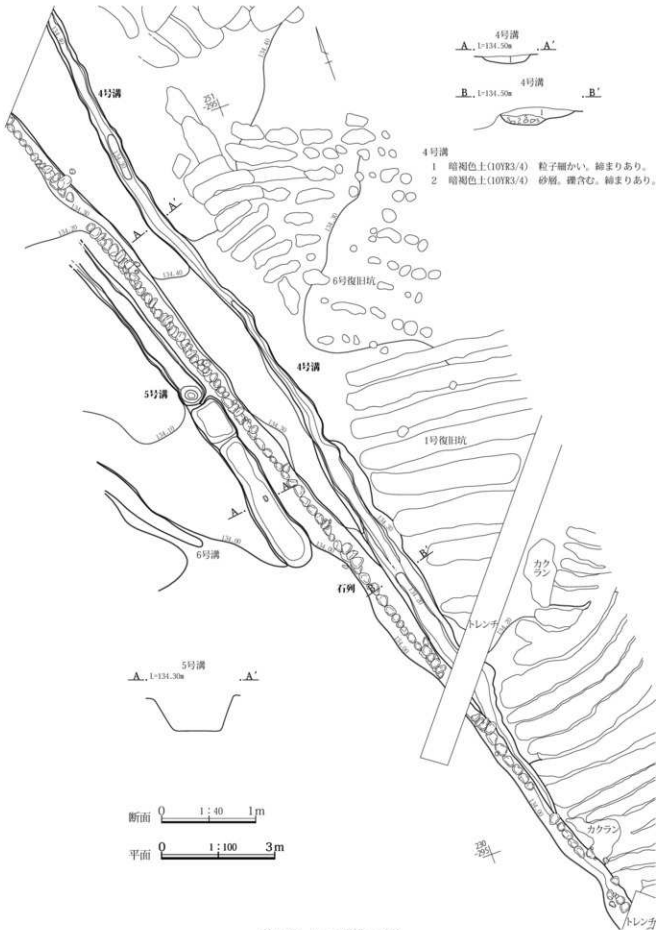
第15図 7号から10号土坑、12号土坑、13号土坑



第16図 1・2号溝

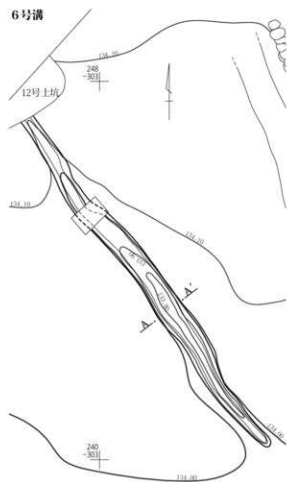


第17図 2号溝、3号溝



第18図 4・5号溝・石列

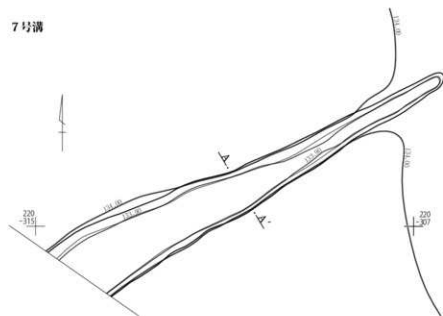
6号溝



6号溝

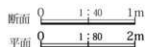
- 1 黒褐色(10YR 3/4) 粒子細かい。締まりややあり。

7号溝



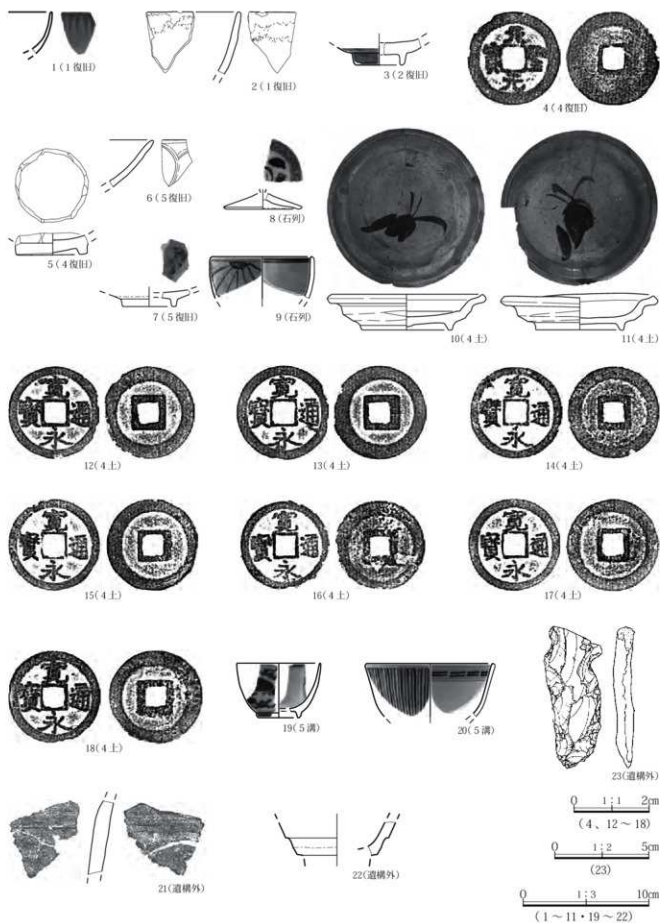
7号溝

- 1 黒褐色(10YR2/3) 粒子細かい。締まりあり。
2 黒褐色(10YR2/3) 酸化鉄分多量多く含む。粒子細かい。締まりあり。



第19図 6号溝、7号溝

第3節 確認された遺構と遺物



第20図 出土遺物

第1章 上大島御伊勢道跡

表2 出土遺物観察表

1号復旧出土遺物									
種別 PL.No.	No.	種類	出土位置	残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図	1	肥前磁器 染付小碗	口縁部片	口底	-	高-	灰白//	口縁部外面に型紙摺りによる雨降り文。	18世紀前半。
第20図	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	口縁部片	口底	-	高-	灰白//	内外面に胎軸。口縁部に蒸気軸。	17世紀後葉から 18世紀前半。
2号復旧出土遺物									
第20図	3	肥前陶器 陶胎染付碗	底部1/2	口底	(3.8)	高-	灰白//	広大外面に2重圈線。高台端部を除き灰軸。軸に貫入する。	18世紀中葉。
4号復旧出土遺物									
第20図 PL. 9	4	銭貨 天聖元寶	完形	外内	2.509 1.794	厚重 0.122 2.7	//	真書体。面の文字は一部跡詰まりにより不明瞭。特に「天」の一、二画目が詰まる。背は彫がやや浅く輪の一部が不明瞭。	
第20図 PL. 9	5	瀬戸・美濃 陶器 丸碗	底部	口底	-	高-	灰白//	内面胎軸。高台端部を除く外面は鉄化胎。高台周縁で体部を打ち欠きか。	17世紀後半から 18世紀前半。
5号復旧出土遺物									
第20図	6	龍泉窯系 青磁碗	口縁部から 体部片	口底	-	高-	にぶい黄褐//	内外面青磁軸。軸は薄い。連弁は片彫りで筋はない。	13世紀。
第20図	7	肥前陶器 京焼風皿	底部片	口底	(4.2)	高-	淡黄//	内面に呉須軸。内面から高台胎透明軸。	17世紀後葉から 18世紀初頭。
石列出土遺物									
第20図	8	肥前磁器か 染付蓋	1/5	口縁	(6.2)	高-	白//	上面酸化コバルトによる染付。	近現代。
第20図	9	肥前磁器 染付小丸碗	口縁部1/4	口底	(8.0)	高-	灰白//	焼成不良。外面に半菊文。口縁部内面2重圈線。	18世紀後葉から 19世紀初頭。
4号上出土遺物									
第20図 PL. 9	10	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	完形	口底	12.0 7.1	高 2.8	灰白//	体部外面回転造り。底部内面に鉄軸。口縁部灰軸。	17世紀中葉か。
第20図 PL. 9	11	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	一部欠	口底	11.8 7.0	高 2.8	灰白//	体部外面回転造り。底部内面に鉄軸。口縁部灰軸。17世紀。	17世紀中葉か。
第20図 PL. 9	12	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.481 1.955	厚重 0.125 3.0	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。	古寛永、1文銭
第20図 PL. 9	13	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.511 1.934	厚重 0.121 3.0	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。背の郭が右にずれる。	古寛永、1文銭
第20図 PL. 9	14	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.467 1.983	厚重 0.136 3.0	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。背の彫は面と比べて浅い。	古寛永、1文銭
第20図 PL. 9	15	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.445 1.974	厚重 0.115 2.6	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。背が右方向に輪がずれている。	古寛永、1文銭
第20図 PL. 9	16	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.420 1.913	厚重 0.157 3.8	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。背の彫はやや浅い。同一地点出土の古寛永よりやや小さい。	古寛永、1文銭
第20図 PL. 9	17	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.460 1.955	厚重 0.101 2.6	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。背の輪がわずかに上にずれる。	古寛永、1文銭
第20図 PL. 9	18	銭貨 寛永通寶	完形	外内	2.479 1.947	厚重 0.150 4.1	//	面、背の彫は深く文字、輪、郭は明瞭。	古寛永、1文銭
5号溝出土遺物									
第20図	19	肥前磁器か 染付小碗	口縁部一部、 底部1/4	口底	(6.6) (3.3)	高 4.3	白//	外面染付。口縁部内面に1重圈線。	19世紀前半から 中葉。
第20図 PL. 9	20	肥前磁器か 染付碗	口縁部から 体部	口底	(10.1)	高-	白//	外面に2条の波線と直線文。口縁部内面2条の圈線間に「工」字状文。	19世紀前半から 中葉。
遺構外出土遺物									
第20図	21	在地形土器 内耳環	体部上位片	口底	-	高-	灰白//	体部と口縁部間の屈曲部。口縁部は横なで。体部はなで。	中世。
第20図	22	瀬戸・美濃 陶器 白土 目碗	体部下位片	口底	-	高-	灰白//	内面から高台胎長石軸。貫入する。	17世紀。
第20図 PL. 9	23	剥片石器 石匙	完形	長幅	7.5 3.1	厚 1.1 2.0	黒色安山岩//	上端部に浅いノッチを入れ側削加工を施す。右辺の加工は微細で弧状を呈しているが、左辺は直線的で加工は粗い。幅広く剥片を縦位に用いる。	黒色安山岩

第4節 まとめ

本遺跡は烏川によって形成された低地に立地するが、調査区内は谷地状の低地と微高地状を呈する箇所に分かれ、後者で遺構が確認されている。谷地状地形は烏川の流れとほぼ同方向の北西から南東に延び、調査した溝も同方向に走向している。

今回の調査で確認した主な遺構は、天明3年の浅間山噴火で降下したAs-Aを溝状の土坑に埋めて耕地の復旧を図った復旧坑と天明3年以前の洪水砂処理を行って耕地復旧を図った復旧坑である。復旧坑以外で性格が判明する遺構には4号土坑の火葬墓があり、年代は17世紀中頃である。前代(中世)の遺構はなく、遺物も中世の土器片1片と北宋の遺失銭(天聖元寶)1枚であり、中世にこの地が利用された痕跡は認められない。

今回の調査によって上大島御伊勢遺跡(調査区内)は江戸時代を迎えた頃に離水して利用可能な土地となり、17世紀中頃に火葬墓が築かれた。その後もしくは同じ頃に耕地化され、洪水に見舞われても耕地を復旧して耕作を行っていた。また、天明3年の浅間山噴火に伴う軽石(As-A)降下後にも軽石処理を行って耕作を継続した。その後、土地改良事業によって耕地として利用不可能であった谷地状の低地を埋め、更なる耕地拡大が行われた様子が明らかとなった。

第2章 薬師遺跡・萬行遺跡

第1節 発掘調査の経過と方法

1 調査に至る経過

主要地方道前橋安中富岡線社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴い、平成26年度に埋蔵文化財の発掘調査が行われた。所在は、群馬県高崎市箕郷町下芝地内である。

群馬県では高速交通網の効果を全県下で生かすべく、平成20年度に「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」が策定された。このうち「鶴舞う形」と形容される群馬県の片翼といえる県南西部を貫くのが西毛広域幹線道路である。これは起点を前橋市千代田町とし、高崎市と安中

市を通過して富岡市に至る延長27.8kmに及ぶもので、前橋から高崎にかけての市街地域と、南西半の丘陵地帯を貫く。調査地点は計画区間内の「高崎西工区」のなかで、整備事業が先行して実施された場所にあたる。

道路整備事業を実施するにあたって、当該地点が周知の埋蔵文化財の範囲内であったことから、事前の埋蔵文化財発掘調査の必要性について、平成25年度に事業主体である群馬県高崎工事事務所と群馬県教育委員会文化財保護課(以下「県文化財保護課」)との間で打ち合わせが行われた。県文化財保護課では発掘調査の必要性とその調査範囲を想定するための試掘調査を平成25年12月25～27日に実施した。試掘調査の結果に基づいて、県文化財保護課は平成26年1月8日付け文書で高崎土木事務



第21図 薬師遺跡と萬行遺跡の位置(国土地理院1/25,000地形図「下室田」図幅を編集・加工)

所長宛てに発掘調査の必要性を回答した。これにより、当地点での発掘調査が実施される運びとなり、事前手続きを進める手はずが整えられた。

県文化財保護課の調整により、発掘調査事業は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなり、高崎土木事務所との間で平成26年3月28日付けの発掘調査受委託契約を締結した。当初契約の内容は、対象面積5760㎡、調査期間が平成26年4月1日から平成26年6月30日で、2名の調査担当者が対応することとなった。また、工事区同一地点で調査対象地の追加が見込まれたため、調査面積2160㎡を増し、これに合わせて調査期間を平成26年4月1日から平成26年7月31日とする。これにより調査面積を7920㎡とする変更契約書が平成26年5月12日付けで締結された。さらに、調査対象地内の一部で調査面積の増減が見込まれたため、調査面積を7120㎡とする第2回の変更契約書が平成26年6月6日付けで締結された。

調査対象となった薬師遺跡と萬行遺跡は、東側を井野川、西を白川に挟まれた中央付近に位置する。工事路線内で、薬師遺跡は西側、萬行遺跡は東側に位置して、両者の中間200mの区間は下芝内出畑遺跡として平成29・30年に発掘調査を実施し、既に報告書が刊行されている(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『下芝内出畑遺跡 和田山天神前2遺跡』)。従って、以上の3遺跡は連続するほぼ同一の遺跡と考えられる。

調査の経過 発掘調査の詳細な経過については、以下の日誌抄に替えることとする。

平成26年4月

- 18日 薬師1-1区から表土掘削開始
- 21日 薬師2-1区で1号溝を検出、土層断面調査。
- 24日 薬師1-1・2-1区As-B直下面の調査。
- 28日 薬師1-1・2-1区As-Bに覆われた水田面の写真撮影、測量開始。

平成26年5月

- 2日 薬師1-2・1-3区においてHr-FA泥流(層厚4.3m)下のHr-FA層、さらに下の黒色土を確認。
- 8日 薬師1-3区のAs-Bに覆われた水田調査終了。Hr-FA下の黒色土サンプリング後、埋め戻し。

- 9日 薬師2-2区で中世～近世遺構の確認と精査開始。
- 12日 薬師2-2区の中世～近世遺構群の全景写真撮影。
- 16日 薬師1-2区竪穴建物群の調査開始。薬師2-2区で掘立柱建物群の調査。
- 19日 薬師遺跡調査区南半の1-5区・2-3区の表土掘削と遺構確認作業開始。
- 22日 萬行遺跡の掘削調査準備。
- 27日 薬師1-5区で中世～近世土坑群の調査。
- 28日 薬師1-5区土坑群の全景写真撮影。薬師2-3区でAs-Bに覆われた水田面の検出作業。

平成26年6月

- 3日 薬師1-4区で表土掘削開始。
- 5日 薬師1-4区でAs-Bに覆われた水田面検出作業。
- 9日 薬師1-5区埋め戻し。薬師2-3区で最終面の調査。
- 10日 薬師1-4区でAs-Bに覆われた水田調査。薬師1-6区の表土掘削、遺構確認作業。
- 12日 薬師1-4区で水田土壌下の調査終了。
- 13日 薬師1-4区の埋め戻し。
- 16日 薬師1-6区で中世～近世遺構群の調査。薬師2-3区埋め戻し。萬行遺跡の表土掘削開始。
- 17日 薬師1-6区のAs-B下水田全景写真撮影。同区での竪穴建物群の調査。萬行遺跡でAs-B下位の溝確認。
- 19日 萬行遺跡の中～近世遺構群の調査。
- 26日 薬師遺跡1-6区平安遺構群と萬行遺跡の中～近世遺構群の全景写真撮影。

平成26年7月

- 3日 薬師1-6区の平安遺構群全景の高度写真撮影。萬行遺跡のAs-B下面の遺構群の全景写真撮影。
- 8日 薬師1-6区平安遺構群の掘り方調査。萬行遺跡のHr-FA泥流上面の遺構分布全景写真撮影。
- 9日 萬行遺跡のHr-FA泥流掘削、下位堆積の黒色土サンプリング。
- 10日 萬行遺跡の埋め戻し。
- 17日 薬師1-6区の平安遺構群の調査・測量終了。
- 18日 薬師1-6区の埋め戻し。
- 23日 埋め戻し完了、現場を高崎土木事務所へ引き渡し。
- 24日 出土遺物10箱を事業団本部へ搬出。
- 31日 発見届の提出。



第22図 業師遺跡と萬行遺跡の調査区配置図(高崎市都市計画図1/2,500を編集・加工)

整理の経過 「令和3年度社会資本総合整備(活力・重点)(主)前橋安中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)に伴う埋蔵文化財の整理」事業の一環で、本遺跡が整理業務の対象となった。整理事業は令和3年4月1日付けで、高崎土木事務所と契約締結をかわし、本遺跡については令和3年6月1日から令和4年1月31日の整理期間で実施することとなった。遺構測量図と遺構記録写真は報告書に掲載するための選別・編集・トレース等を行った。出土遺物に関しては、整理業務着手前に洗浄・注記が終了しており、整理業務では分類・接合・復元・実測・写真撮影・トレース等を行った。遺構と遺物の記録類についての報告書原稿については、発掘調査担当者の調査所見を参考にして、主に整理担当者が執筆を行った。なお、出土人骨の鑑定と結果報告については新潟医療福祉大学の奈良貴史教授に依頼した。

報告書の刊行は令和4年3月とし、記録類と出土遺物については、管理台帳を作成後群馬県埋蔵文化財調査センターで管理している。

2 発掘調査の方法

薬師遺跡は、本線部分の調査区と周辺地域整備に伴うアクセス道路調査区があり、各々の調査区の土工工程が異なるため、これに合わせた調査工程による発掘調査計画が立てられた。

調査区は、中央を南北に走る水路を界線として東西に分け、東側を1区、西側を2区とした。さらに調査工程の分割から、東西方向の本線部分を1-3・4区と2-2・3区、南北のアクセス道路部分は1-2・3・4・5・6区、北側住宅地の南側に沿った道路部分を1-1区、2-1区と細分呼称することとした。

調査面の設定については当地域の基本層序に基づき、第1面を浅間A軽石(天明3年-1783年)の下層で、浅間Bテフラ(天仁元年-1108年)か、その混土層上面とした。第2面は浅間B軽石かその混土層の下面とした。第3面は当地の扇状地形を形成する泥流堆積物の上面である。第1面では主に中・近世遺構、第2面では平安時代末頃の遺構、第3面では6世紀以降～平安時代の遺構を検出することとなる。なお、第3面以下の泥流堆積物は、6世紀代における榛名山二ツ岳の噴火活動に起因するもので、その下位には6世紀前葉以前の遺構と遺物が存在する可能性がある。ただし、深い部分では3mを越える層

厚であり、調査範囲内での安全で確実な発掘調査は困難と判断したため、平面的な調査については断念した。

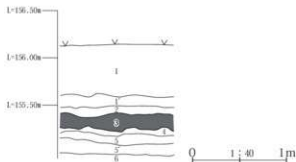
3面に分けた調査面では、上位から順に上位を覆う土層を掘削しつつ、遺構確認作業を行った。南北方向の調査区に当たる1-2・3・4・5・6区と本線部分2-2・3区西端は、微高地であるため堆積土層が薄く、表土削除によって第3面に達する地点もみられた。従って、最初から第3面相当の泥流上面において6世紀以降～近世の全ての遺構を検出することになった。

検出された遺構の測量には、世界測地系(測地成果2011)国家座標を用い、特に任意のグリッド設定は行わなかった。遺物の出土位置は、可能な限り座標で記録してあるが、遺構精査の都合により関連遺構名を付して取上げたものもある。

記録写真の撮影には、デジタル一眼レフカメラと6×7中判フィルムカメラを使用した。

基本層序 遺跡調査区内で擾乱が少なく、一時堆積物の明確な遺存がみられる2-2区北側の層序を第3図に示す。1層・1'層が表土及び浅間A軽石(As-A)混土、2層は浅間Bテフラ(As-B)を含む中世相当の堆積物、3層は浅間Bテフラ一次堆積物、5層以下が泥流堆積物である。3層が明確な鍵層となっており、その直下には4層の黒褐色土が堆積する。本遺跡においては、この黒褐色土は水田耕土の表層となっている。5層以下では色調が漸移的に変化するが、6世紀代の泥流堆積物で、本調査ではこれを遺構確認の地山面と設定した。なお、この泥流堆積物は2.5mほどの層厚が見られ、その下位には黒色土が堆積する。

調査区東西端の微高地部では、2・3・4層の堆積が薄いか、後世の削平によって失われており、表土下で直接5層以下に達する。



第23図 薬師遺跡の基本層序

第2節 周辺の環境

1 地理的環境(第24図)

薬師遺跡と萬行遺跡は、榛名山の南麓野原に位置し、白川左岸の東側に形成されたいわゆる「白川扇状地」の扇頂に近い中央付近に立地する。標高は155～153mである。扇状地は北西から南東方向への傾斜面として展開し、東側は南東方向に流下する井野川によって区切られる。

「白川扇状地」には、6世紀初から前半にかけての榛名山二ツ岳の噴火に伴う火山性泥流堆積物が厚く堆積している。本遺跡周辺の現地形は、ほぼこの泥流堆積物によって形成されており、変化の少ない傾斜面となっている。なお萬行遺跡の東側には、井野川に流れ込む小支谷が形成されている。

「白川扇状地」の西辺を流れる白川の西側対岸には、榛名山の南麓地形が延びており、その西側は烏川によって画されている。白川対岸の榛名山南麓には、「室田火砕流」あるいは「白川火砕流」と呼称される火砕流堆積物が形成した台地も展開しており、白川に流下する樹枝状の開析谷が発達している。

本遺跡付近の地形勾配は3%弱、これより南東では1.5%前後の緩斜面に続いていく。このため、本遺跡付近での現水田は段状造成が多くなっている。扇状地には自然河川が発達せず、北西から南東方向に延びる微高地や浅い窪地による小規模な凹凸面がみられる地形となっている。

2 歴史的環境

当該地域は開発行為に伴う発掘調査が群馬県内でも比較的多い方であり、これによって内容の判明した遺跡が高い密度で分布している(第25図)。各々の遺跡が帰属する時代については、第1表にまとめたので参考にされた。ここでは、本遺跡で検出された平安時代～中世に焦点を当てて記述することとし、旧石器時代～古墳時代については概略に留めたい。

旧石器時代の遺跡は、白川右岸の台地上で、主にAT下暗色帯を中心とする石器出土遺跡の分布が知られている。縄文時代についても、白川右岸台地上での遺跡分布密度が高い。和田山天神前遺跡(50)や白川笹塚遺跡(52)

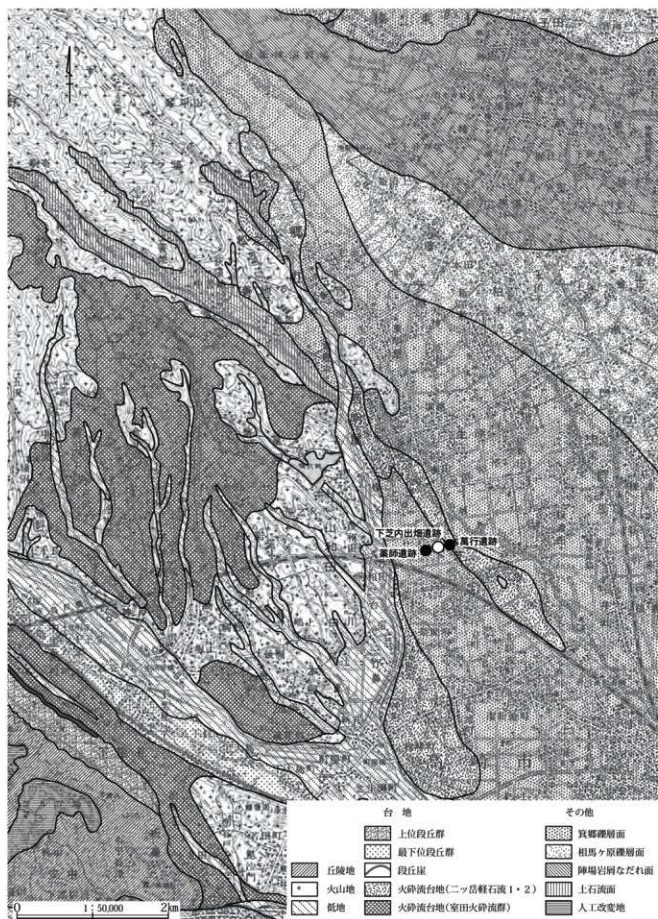
等で判明したように、前期からの遺跡形成が知られる。東方を流れる井野川の対岸では、生原善龍寺前遺跡(76)をはじめ縄文中期の遺跡分布が見られる。

本遺跡の立地する「白川扇状地」上では、泥流堆積物によって5世紀以前の旧地形面の多くが厚く覆われており、そのため縄文時代遺跡の存在は断片的な例しか知られていない。下芝谷ツ古墳(5)では、墳丘基底面で前期の土器が出土しており、泥流下の旧地形面上においても周辺地域でみられる縄文遺跡の分布が展開していた可能性が高い。

弥生時代の遺跡分布も本遺跡周辺では稀薄である。縄文時代と同じく、白川右岸の丘陵性台地上には嶋上I遺跡(57)をはじめ、後期の遺跡が各所に分布することが知られており、さらに西方の烏川沿岸には分布の集中する箇所(108～111)がみられる。本遺跡より2kmほど南東に下った井野川沿岸には中期後葉からの弥生遺跡がみられるようになるので、本遺跡周辺より緩斜面の地形に分布するらしい。

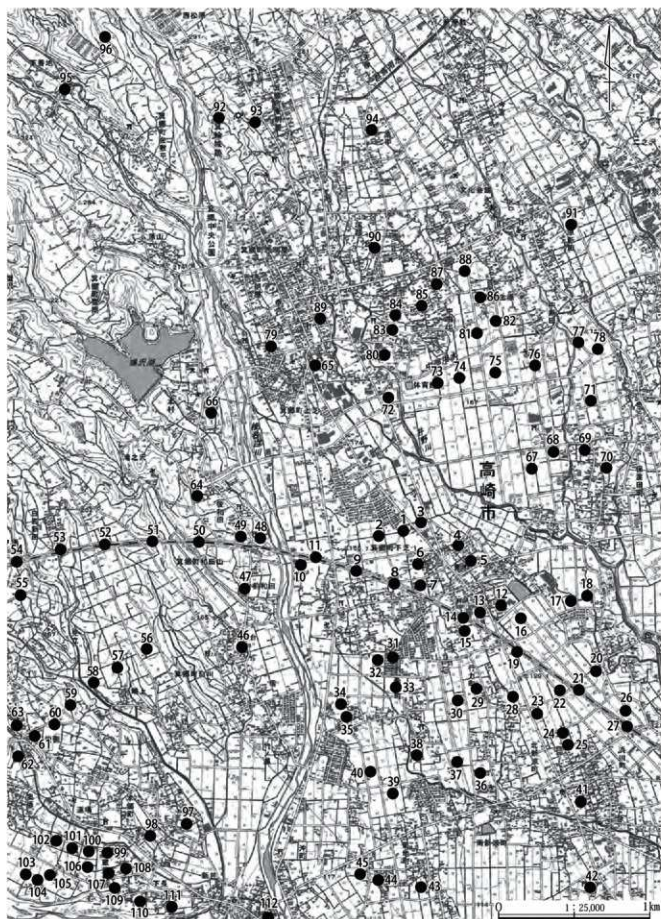
古墳時代では、本遺跡から南東に500m弱の位置に立地する下芝谷ツ古墳が注目される。一辺約20mの方墳で、上段が積石塚に類似した2段築成の墳丘、埋葬施設に堅穴系石室を設ける。墳丘形態や石室内から出土した金銅製飾履、遺跡周辺から出土する朝鮮半島系土器の分布状況から、高い階層に属する半島系の人物が被葬者であった可能性が高いと評価される。本遺跡周辺で古墳分布が知られるのは、西方に1km離れた白川対岸に展開する和田山古墳群(49)、東に約1.8km離れた保波田古墳群である。和田山天神前遺跡(50)では、和田山古墳群中の調査で、6世紀後半～7世紀の円墳26基のほか6世紀後半の集落が確認されている。

古墳時代の集落や生産関連の遺構については、本遺跡の南に近接する下芝天神遺跡(9)、下芝五反田遺跡(8)の調査成果が参考になる。下芝天神遺跡では、白川扇状地を覆う泥流下の調査が行なわれ、古墳時代前期の3世紀末頃の冨、5世紀後半～6世紀初頭の集落、土器を集積した祭祀遺構が確認された。南東に連続する下芝五反田遺跡との間には、幅50mほどの埋没河川とその左岸で5世紀後半～6世紀初頭の集落・冨が検出された。行力春名社遺跡(14)では滑石製模造品工房を伴う5世紀代の集落が判明している。一方、これらと同時期の水田



第24図 薬師道跡と萬行道跡周辺の地形

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「下芝内出畑遺跡 和田山天神前2遺跡」を編集・加工



第25図 薬師道跡と萬行道跡周辺の道跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「下室田」を編集・加工)

は、本遺跡から約1km南東の浜川遺跡群(19・21・23)に代表される井野川右岸の後背湿地で確認される。この付近から勾配が緩くなり、井野川水系の水利に恵まれた地形であったと思われる。

本遺跡周辺で、泥流堆積後しばらくは明確な遺跡の存在を欠き、9世紀代から再び集落形成が始まる。本報告で扱う薬師遺跡と萬行遺跡の中間に位置する下芝内出畑遺跡(1)では、小規模な集落が確認され、10世紀代と思われる整型製鉄が5基が検出された。南側の下芝天神遺跡でも9・10世紀代の集落の存在が判明しているが、遺存状況は不良であった。

浅間B軽石に覆われた水田は下芝天神、下芝五反田遺跡のほか、扇状地西側を流れる白川の左岸に位置する下芝上田屋(11)でも確認されている。泥流堆積物の上面で3%ほどの地形勾配でも、不定形で小規模な畦区画を工夫して水田化を図ったことが判明している。なお、下芝

天神遺跡の北西端には、幅15mほどの河川跡が検出されており、浅間B軽石下水田との関連が注目される。

中世では、この地域を開発、支配した長野氏関連の遺跡が多い。本遺跡地から北北西3kmの地点にある箕輪城(92)は、戦国時代(永世9年-1512年)に築かれた長野氏の居城で、長野氏没落後は武田、北条、徳川の有力家臣に引き継がれた。本遺跡地周辺では箕輪衆と呼ばれる長野氏家臣団の館が多く残されている。矢島氏の砦(24・25)、高田屋敷(20・21)、浜川館(21)等はこれに関連する遺跡と考えられている。

参考文献

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「下芝内出畑遺跡 和田山天神前2遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1997「白川壱松遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「下芝五反田遺跡 古墳時代編」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999「下芝五反田遺跡 奈良平安時代以降編」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999「和田山天神前遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990「本郷の古墳群」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994「行力春名社遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「浜川遺跡群」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2000「白川壱松遺跡 白石涌久保遺跡 白岩民部遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「高岡竹ノ内・和田山寺久保遺跡」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「茅畑遺跡・嶋上1遺跡」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「年報」36
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018「年報」37
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019「年報」38
- 群馬県教育委員会1988「群馬の中世城跡群」
- 群馬県教育委員会1983「保原田遺跡調査概報」
- 群馬県教育委員会1984「保原田遺跡調査概報」
- 群馬県教育委員会1988「保原田遺跡群・血掛遺跡」
- 群馬県教育委員会1974「矢島遺跡・御布呂遺跡」
- 群馬県教育委員会1981「菊地遺跡群(1)」
- 群馬県教育委員会1982「菊地遺跡群(2)」
- 群馬県教育委員会1982「北新波遺跡」
- 群馬県教育委員会1983「菊地遺跡群(Ⅲ) 当貝戸・原遺跡」
- 群馬県教育委員会1983「長野北部遺跡群 中屋敷(1)・鹿田・清水(1)・舞台(1)遺跡」
- 群馬県教育委員会1984「菊地遺跡群(Ⅳ) 上野前(1)・大明神(1)遺跡」
- 群馬県教育委員会1984「長野北部遺跡群 江原(1)・中屋敷(Ⅱ)・上屋敷(1)遺跡」
- 高崎市教育委員会1984「舞台(Ⅱ)清水(Ⅱ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1985「菊地遺跡群(V) 上野前(Ⅱ)・大明神(Ⅱ)・五反田(Ⅰ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1985「長野北部遺跡群 中屋敷(Ⅰ)舞台(Ⅲ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1985・1986「長野北部遺跡群 北新波の砦址(古城Ⅱ・Ⅲ)」
- 高崎市教育委員会1986「菊地遺跡群(VI) 石神・五反田(Ⅱ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1986「長野北部遺跡群 六反田・中屋敷(Ⅱ)遺跡」
- 高崎市教育委員会1987「長野北部遺跡群 水口替戸・石田遺跡」
- 高崎市教育委員会1988「長野北部遺跡群 一丁田・榛名社西遺跡」
- 高崎市教育委員会1988「道場遺跡群(Ⅱ) 谷津・道場遺跡」
- 高崎市教育委員会1989「浜川北遺跡」
- 高崎市教育委員会1989「道場遺跡群」
- 高崎市教育委員会1990「行力遺跡群 榛名社遺跡」
- 高崎市教育委員会2008「下芝五反田遺跡・下芝萬行遺跡」
- 高崎市教育委員会2008「和田山古墳群」
- 高崎市教育委員会2009「上芝・西金沢遺跡」
- 高崎市教育委員会2009「全徳森遺跡」
- 高崎市教育委員会2018「全徳森遺跡3」
- 高崎市教育委員会2009「生原・終木遺跡」
- 高崎市教育委員会2010「生原・天神前遺跡」
- 高崎市教育委員会2017「矢原塚遺跡」
- 高崎市誌編纂委員会1999「新編 高崎市誌 資料編Ⅰ 原始・古代」
- 榛名町教育委員会1986「道場遺跡」
- 榛名町誌編纂委員会2010「榛名町誌 資料編Ⅰ 原始・古代」
- 箕輪町誌編纂委員会1975「箕輪町誌」
- 箕輪町教育委員会、高崎市教育委員会「史跡箕輪城跡」1～Ⅷ
- 箕輪町教育委員会1982「生原田島・大清水遺跡」
- 箕輪町教育委員会1983「金敷平・長者久保遺跡」
- 箕輪町教育委員会1983「下芝・原遺跡」
- 箕輪町教育委員会1988「生原・善道寺前遺跡」
- 箕輪町教育委員会1988「南行A・B遺跡」

第3表 薬師道跡と萬行道跡周辺の道跡一覧

番号	道跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	参考文献
1	下芝内中畑道跡						○			1
2	薬師道跡						○	○		本道跡
3	萬行道跡									本道跡
4	下芝五反田道跡(高崎市調査)				○					40
5	下芝谷ノ古墳		○							57
6	下芝の沓							○		16
7	下芝萬行道跡				○	○	○			40
8	下芝五反田道跡				○					3・4
9	下芝天神道跡		○	○	○					8
10	青柳塚							○		16
11	下芝上山塚道跡							○		8
12	酒田北(西口)道跡						○			37
13	行方道跡群 権名社道跡						○	○		39
14	行方春名社道跡		○	○	○					7
15	一丁目・権名社西道跡									35
16	遊馬道跡群 長町・新分道跡									38
17	酒田北(東口)道跡						○	○		37
18	遊馬道跡群 谷津・遊馬道跡							○	○	36-38
19	酒田長町道跡		○	○	○	○	○			9
20	高田塚							○		16
21	酒田高田道跡						○	○		9
22	与平塚									16
23	長町塚									16
24	矢島沓(丸島城)									16
25	矢島道跡				○	○	○			20
26	遊馬道跡群 高田・新道跡									38
27	酒田新道跡		○	○	○	○	○			9
28	長野北部道跡群 六反田・中塚敷道跡						○			33
29	長野北部道跡群 江原1・中塚敷敷上・上塚敷1道跡							○		27
30	長野北部道跡群 中塚敷西1・柳田・清水1・舞台1道跡							○	○	25
31	長野北部道跡群 舞台2・清水2道跡									28
32	下芝・新道跡									55
33	長野北部道跡群 中塚敷1・舞台道跡							○		30
34	長野北部道跡群 水口村戸・石田道跡									34
35	丹野塚									16
36	北新保の沓									31
37	北新保道跡							○		23
38	薬師道跡群 石神・五反田道跡							○		32
39	薬師道跡群 上野前1・大明神1道跡							○		26
40	薬師道跡群 上野前2・大明神2・五反田1道跡									29
41	北沢の沓(北城)									16
42	上小麻穂稲山古墳				○					48
43	薬師道跡群Ⅱ									21
44	薬師道跡群Ⅰ									22
45	薬師道跡群 当貝戸・鹿原									24
46	白田の沓							○		16
47	新田山天神前2道跡									1
48	新田山廟									16
49	新田山古墳群									41
50	新田山天神前道跡		○	○	○	○	○	○		5
51	白田牟根道跡		○	○						2
52	白田牟根道跡									10
53	白河瀬久保道跡									10
54	白河民部道跡		○	○						10

番号	道跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	参考文献
55	子安道跡				○					50
56	茅畑道跡				○	○	○	○	○	12
57	瀬上1道跡				○	○	○	○	○	12
58	本塚町上道跡				○	○	○	○		14
59	本塚町原道跡		○							13
60	本塚町佐道跡				○	○	○	○		14
61	本塚大ノ寺道跡				○	○	○	○		14
62	本塚町谷津道跡									14
63	高沢大野塚道跡				○	○	○	○		15
64	富岡竹ノ内道跡・和山寺久保道跡					○			○	11
65	四ヶ谷古墳									37
66	富岡の沓								○	16
67	保洲山道跡								○	17
68	保洲山IV道跡								○	18
69	保洲山道跡								○	19
70	保洲山城								○	16
71	保洲山天神前道跡				○	○	○	○	○	19
72	上芝・西合道跡									42
73	生原塚ノ内道跡								○	57
74	生原塚道跡								○	57
75	生原塚清道跡								○	57
76	生原善集寺前道跡					○	○	○	○	36・57
77	海行八道跡								○	57
78	海行五道跡								○	57
79	下山塚敷(上芝の沓)									16
80	生原塚跡								○	57
81	生原塚跡								○	57
82	中塚山道跡								○	57
83	生原の内出 生原の内出									16
84	生原・天神前道跡								○	46
85	余他道跡								○	43
86	生原・枝木道跡								○	45
87	余他高道跡3								○	44
88	生原八反古道跡								○	57
89	上芝古墳									51
90	久野塚道跡									47
91	生原山鳥・大沢水道跡									53・57
92	真輪城跡									52
93	東野岡の沓									16
94	原中内出									16
95	下善保の内出									16
96	金敷平・長者久保道跡				○	○				54
97	藤十郎道跡								○	50
98	藤原塚古墳								○	50
99	磯刈道跡								○	50
100	遊馬2道跡								○	50
101	遊馬道跡								○	50
102	遊馬道跡								○	49
103	本塚町高塚古墳(約場王古墳)								○	50
104	本塚町場古墳群									6
105	本塚大塚古墳									50
106	しどめ塚古墳								○	50
107	小寺塚古墳								○	50
108	磯刈道跡								○	50
109	供養塚道跡								○	50
110	寺内道跡								○	50
111	稲刈高道跡								○	50
112	任古城								○	16

第3節 薬師遺跡で検出された遺構と遺物

概要

本遺跡の発掘調査では、工程上の都合から1区と2区に区分し、さらに1区は6細分、2区は3細分して調査を進めた。ただし、この調査区分けは遺構の時代や種類とは無関係であり、便宜的なものに過ぎない。従って、本節では判明した時代と遺構の種別に従って記述する。

本遺跡からは、平安時代の竪穴建物45棟と水田・水路1面、中世～近世の掘立柱建物23棟、柵列1条、火葬土坑・墓壇21基、土坑50基、井戸1基、畑、溝56条が検出された。

出土遺物は平安時代の土器類、中～近世の陶磁器類、銭貨、不明鉄器、石塔、石臼等である。また、縄文時代の磨製石斧1点ほか石器剥片が出土したが、縄文包含層の調査は実施していないため、別地点からの再堆積物が混入品と思われる。

1 竪穴建物

1号竪穴建物(第26図、PL.12)

位置 X=42605、Y=-78080～78085。

平面形 隅丸長方形。

主軸方向 N-17°-W。

規模 長軸方向4.03m、短軸方向3.21m 壁高0.42m。

床面の状況 重複する2・3号竪穴建物の埋土上に構築する。ほぼ平坦。標高は155.92～155.75m。

柱穴 確認できず。竈 確認できず。

壁溝 北壁から西壁にかけて廻る。幅は15cm、深さ5cmを測る。

埋土の特徴 床面直上に黒褐色土の薄層が見られ、その上に地山土主体の埋土が堆積する。壁際では地山層に含まれる小礫が多い。

遺物出土状況 甕、碗の破片が床面ないし埋土下層から出土。本竪穴に伴うと思われる。

遺構重複関係 2号竪穴建物、3号竪穴建物の上に構築され、これらより新しい。

所見 時期は9世紀代と思われる。

2号竪穴建物(第27図、PL.13)

位置 X=42600～42605、Y=-78080～78085。

平面形 隅丸長方形。

主軸方向 N-22°-W。

規模 長軸方向3.31m、短軸方向2.21m 壁高0.35m。

床面の状況 掘り方面に黒褐色土で整える。ほぼ平坦で標高は155.55m。竈焚口から床面中央の南寄りにかけて炭化物を含む薄層がみられた。

柱穴 確認できず。

竈 東壁に設置されている。壁外地山に半円形に掘り込まれた燃焼部が遺存している。燃焼部平面規模は長さ78cm、幅96cm。30cm大の割石を使って燃焼部内壁を構築し、袖部には燃焼部内に平坦を向けた状態で割石を立てる。燃焼部中央には一辺10cmの角柱状礫を立てて支脚とする。火床面は竈確認面から20cmの深さで、火床面掘り方には地山土塊と炭化物と焼土の混土が互層で堆積する。火床面を整えたものだろう。

壁溝 確認できず。

その他の施設 南壁際中央の床面下に、10～15cm大の円礫・角礫5点が楕円形に囲む形状で並べられていた(PL.13-5)。中央に長辺15cmの長方形空間があくが、床面検出時には小礫が充填していたので、ピットとして機能したとは思われない。また、角礫は人為的に割られた形跡もうかがわれる。明瞭な人為的被災痕は見られない。

埋土の特徴 全体に小礫を多く含む地山土が堆積しており、人為的に埋められた可能性が高い。

遺物出土状況 竈内から甕片、南半床面から須恵器杯・蓋が出土する。

遺構重複関係 3号竪穴建物より新しく、1号竪穴建物が上に載る。

所見 竈内出土の甕は9世紀後半代、床面出の杯・蓋は9世紀代に収まる。重複竪穴で最も新しい1号竪穴の竈が検出されていないが、2号竪穴に伴うとした竈は、本来1号竪穴に伴うものであった可能性がある。

3号竪穴建物(第28図、PL.14)

位置 X=42600～42605、Y=-78080～78085。

平面形 長方形。

主軸方向 N-11°-W。

規模 長軸方向5.08m、短軸方向3.99m 壁高0.52m。
床面の状況 地山掘り方面に同質の土を埋めて整える。
 標高は155.58m前後。

柱 穴 確認できず。

竈 東壁中央の南寄り左軸の痕跡らしき盛土がみられたが、2号竪穴竈の左軸部と同位置のため確かではない。
壁 溝 確認されなかった。

埋土の特徴 地山土に近いやや黒味を帯びる。人為的堆積かは不明。

遺物出土状況 床面レベルから須恵器杯・蓋、竈と思われた東壁際で甍片が出土。

遺構重複関係 1号・2号竪穴建物よりも古い。

所 見 東壁際出土の甍は9世紀代で1号竪穴及び2号竪穴竈出土の甍と同時期である。

4号竪穴建物(第29図、PL.15)

位 置 X=42600、Y=-78075・78080。

平面形 正方形。

主軸方向 N-37°-W。

規模 長軸方向3.25m、短軸方向3.02m、壁高0.1m。
床面の状況 遺構確認段階で検出されている。標高は155.93~155.98mで、地山の礫の多い凹凸面の掘り方に暗褐色土を埋填して平坦面を整える。

柱 穴 検出されなかった。

竈 北東壁のやや北寄りに半円形の張出部として検出された。ただし、焼土や灰などの明瞭な痕跡は見られない。火床面の掘り方に相当する可能性がある。平面規模は35×67cm。袖石等は見られない。

壁 溝 検出されなかった。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 竈火床面と西半の床面レベルから須恵器杯片が出土する。

遺構重複関係 西側に5号竪穴建物・8号竪穴建物が平行して重複するが、新旧関係は不明。

所 見 時期は出土土器から9世紀代と思われる。

5号竪穴建物(第30図、PL.15)

位 置 X=42600、Y=-78080・78085。

平面形 長方形。

主軸方向 N-58°-E。

規模 長軸方向4.09m、短軸方向2.85m、壁高0.12m。
床面の状況 遺構確認段階で検出されている。標高は155.96~156.13mで、南側がやや低いか削平を受けている。不整な凹凸面の掘り方に暗褐色土を埋填して平坦面を整える。

柱 穴 検出されなかった。

竈 南東壁のやや西寄りに半円形の張出部として検出された。わずかに焼土粒の散在がみられる。火床面の掘り方に相当する可能性がある。平面規模は38×55cm。袖石等は見られない。

壁 溝 検出されなかった。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 竪穴中央と西隅部の床面レベルから須恵器椀片が出土する。

遺構重複関係 東隅で4号竪穴建物、南東方向に建物軸を共通して8号竪穴建物が重複するが、新旧関係は不明。

所 見 時期は出土土器から10世紀代と思われる。

6号竪穴建物(第31図、PL.16)

位 置 X=42605・42610、Y=-78085。

平面形 長方形。

主軸方向 N-85°-E。

規模 長軸方向3.28m、短軸方向2.37m。

床面の状況 遺構確認段階ですでに削平されており、掘り方部分のみ検出された。掘り方面には地山の礫が露出しており、標高最高位は156.08mを測る。掘り方の凹凸面は明瞭でない。

柱 穴 検出されなかった。

竈 南壁の中央に、火床掘り方面と思われる張出部として検出された。この部分の平面規模は、85×38cm。焚口相当部分では50cmほどの幅をもつ。袖石等は見られない。

壁 溝 南半の壁に沿って確認できたが、全周の有無は不明である。幅は15cm前後で、床面部掘り方より3cm前後深い。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 南東隅で1・3号竪穴建物と接するので時差が明らかだが、新旧関係は不明。また、西半を13号掘立柱建物に切られる。

所 見 竪穴形態から平安時代と思われる。

7号竪穴建物(第32図、PL.16)

位置 X=42600・42605、Y=-78085。

平面形 隅丸長方形。

主軸方向 N-14°-E。

規模 長軸方向3.69m、短軸方向2.49m。

床面の状況 遺構確認段階で掘り方向が検出されている。掘り方面の標高は156.10m前後で、中央～北半が浅くくぼむ。

柱 穴 検出されなかった。ただし、南西部の掘り方面に露出する礫が、地山中のものか礎石か判定できないため、図示してある。

竈 東壁の北寄りに半円形の張出部として検出された。わずかに掘り込みの段差がみられ、火床面の掘り方に相当する可能性がある。平面規模は55×90cm。袖石等は見られない。

壁 溝 検出されなかった。

その他の施設 竈焚口付近の右側(南側)で、不整楕円形の浅い掘り込みがみられた。調査時点で「貯蔵穴」としたが、掘り方か重複する別遺構の可能性もある。規模は径75×65cm、深さは床面部掘り方面より2～6cm低い。この部分から土師器甍片が出土している。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 「貯蔵穴」とした窪み以外の場所からはほとんど出土していない。

遺構重複関係 竈を含む東辺の大部分が9号竪穴建物と重複するが、新旧関係は不明。

所見 時期は出土土器から10世紀代と思われる。

8号竪穴建物(第30図、PL.16)

位置 X=42595・42600、Y=-78080。

平面形 長方形。

主軸方向 N-27°-W。

規模 長軸方向4.57m、短軸方向4.07m、壁高0.1m。

床面の状況 遺構確認段階で検出されている。標高は155.85～156.02mと比高が大きく、南側が削平を受けて本来の床面ではないと思われる。地山礫の多い不整な凹凸面の掘り方に暗褐色土を埋填して平坦面を整える。

柱 穴 南東半で3基のピットが検出されたが、本遺構に伴うものと認定できなかった。

竈 南東壁の東寄りに半楕円形の張出部として検出され

た。わずかに焼土粒の散在がみられる。火床面の掘り方に相当する可能性がある。平面規模は65×55cm。袖石等は見られない。

壁 溝 検出されなかった。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 竪穴中央床面レベルから須恵器蓋片と甍片、及び北東壁際から須恵器蓋片が出土する。

遺構重複関係 北東に沿って4号竪穴建物、北西に建物軸を共通して8号竪穴建物が重複するが、新旧関係は不明。

所見 時期は出土土器から9世紀代と思われる。

9号竪穴建物(第32図、PL.16)

位置 X=42600・42605、Y=-78085。

平面形 長方形の可能性あり。

主軸方向 N-15°-E。

規模 長軸方向5.32m、短軸方向2.10m以上。

床面の状況 遺構確認段階で掘り方向が検出されている。標高は156.08～156.10mで、小さな凹凸と地山の礫が多く露出する。

柱 穴 確認できなかった。

竈 西壁以外の位置に設けられたと思われる。

壁 溝 南壁から南西隅部で、掘り方面のわずかな溝状痕跡として検出された。幅は10cm前後。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 西壁際の北寄りで蓋片が出土した。

遺構重複関係 北東半を1・3号竪穴建物、南東部を5号竪穴建物、西辺南半を7号竪穴建物。中央部は12号掘立柱建物と重複する。12号掘立柱建物に切られるが、他の竪穴建物との新旧関係は不明。

所見 わずかな出土土器から、時期は9世紀代と思われる。

10号竪穴建物(第33図、PL.16)

位置 X=42605・42610、Y=-78080。

平面形 正方形と思われる。

主軸方向 N-80°-E。

規模 長軸方向5.48m、短軸方向4.38m以上、壁高0.15m。

床面の状況 遺構確認段階で掘り方向が検出されてい

る。標高は156.10～156.17mで、南側がやや低く、地山の礫が多く露出する。

柱 穴 確認できなかった。

竈 東壁中央で、火床掘り方が検出された。平面は楕円形で、規模は92×60cmを測る。両袖部の地山を掘り残しており、右袖には地山に含まれる20cm大の円礫が露出する。この礫は右袖基礎材に使用された可能性がある。竈火床には黒褐色土が堆積し、炭化物が見られる。

壁 溝 東壁の竈左脇から北側で、掘り方面のわずかな溝状痕跡として検出された。幅は15cm前後。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 西壁際で土器小片が数点出土した。いずれも掘り方埋土内と考えてよい。

遺構重複関係 南西半を1・3号竈穴建物と重複するが、新旧関係は不明。東壁北半を1号溝に切られる。

所 見 時期は出土土器から9世紀代と思われる。

11号竈穴建物(第34図、PL.17)

位 置 X=42475、Y=-78060。

平面形 正方形と思われる。

主軸方向 N-4°-W。

規 模 長軸方向3.25m以上、短軸方向2.31m以上。

床面の状況 遺構確認段階で床面埋土が検出されている。生活時を示す床面は削平された可能性が高く、南端は失われている。床面標高は、残された地山の礫上面を参考に153.20m前後と推測される。

柱 穴 確認できなかった。東端に48×30cmの楕円形ピットがみられるが、不整形で人為的掘削とは見られない。北側に隣接する礫を参考にすれば、地山内の礫が抜けた穴と考えられる。

竈 調査範囲内では確認できなかった。重複する32号溝に削られた東壁に位置した可能性が高い。

壁 溝 確認できなかった。

埋土の特徴 浅間B軽石が混在する暗褐色土。

遺物出土状況 土器小片が数点出土したが、掘り方埋土内か床面上かは不明。

遺構重複関係 東辺を32号溝に切られる。

所 見 時期は、周辺遺構分布から平安時代の帰属と推測したいが、掘り方埋土に見られる浅間B軽石からは、降下推定年代(1108年)以降の中世の可能性も想定してお

くべきだろう。

12号竈穴建物(第35・36図、PL.17・18)

位 置 X=42480、Y=-78060。

平面形 長方形。

主軸方向 N-0°。

規 模 長軸方向4.39m、短軸方向3.29m、壁高0.31m。

床面の状況 掘り方面を埋土で整えて床面とするが、硬化面の範囲等は明確でない。床面標高は153.0～152.95mを測る。

柱 穴 竈穴壁に沿って8基(P1～P7、P9)、北半中央に1基(P8)が確認された。このうちP8は竈穴埋土を掘り抜いた後世のものである。いずれも柱痕跡や柱根は確認できない。埋土は地山の高崎泥流の砂質土が堆積する。壁際の8基の規模については以下の通り。

P1-不整形、上端径30×25cm、下端径18cm、深さ45cm

P2-楕円形、上端径26×20cm、下端径18cm、深さ40cm

P3-不整形楕円形、上端径25×18cm、下端径20cm、深さ43cm

P4-不整形楕円形、上端径28×21cm、下端径8cm、深さ28cm

P5-不整形楕円形、上端径32×25cm、下端径14cm、深さ23cm

P6-不整形楕円形、上端径28×20cm、下端径14cm、深さ25cm

P7-円形、上端径25×23cm、下端径16cm、深さ13cm

P9-不整形、上端径35×23cm、下端径17cm、深さ40cm

東西辺の柱間寸法は以下の通り。

P1-P6 4.0m P6-P7 1.1m

P3-P5 3.8m P4-P5 1.45m

南北辺の柱間寸法は以下の通り。

P1-P3 2.75m P1-P2 1.25m

P5-P6 2.5m P6-P9 1.25m

竈 東壁南寄りで、崩れた竈本体が検出された。中央付近は崩落、煙道部は後世のピット掘削によって破壊されている。最大幅は1.2m、焚口から奥壁立ち上がりまで1.2mを測る。両袖部は地山である砂質土の上に礫混の暗褐色土を20cmほど積上げ、右袖上面と外側側面に板状の自然石を置いて補強する。然焼部の横断面はU字形で、焼成変化した右側面が確認できる。焼土・炭化物・灰の明確な堆積は見られない。なお、左袖先端が焚口部左脇と思われる位置で甕の破片及び、袖材とおもわれる角閃石安山岩の角礫塊が出土している。

壁 溝 竈のある東壁以外の辺で検出されている。上端

幅は15～30cmで、下端幅は5～10cmと狭い。溝内に支柱穴らしき痕跡は確認できなかった。

埋土の特徴 小礫を含む黒褐色土が堆積する。下位には地山である高崎泥流層の土塊や砂質土が多く含まれる。

遺物出土状況 西壁際で土器小片が数点出土した。埋土中及び竈近辺から平安時代の土器片が散在出土する。使用時の状況を示す出土遺物はない。なお、床下土坑からは杯が出土している。

遺構重複関係 東の38号竪穴建物を切り、西半では33・36・55～58号土坑に切られる。なお、西に隣接して18号をはじめとした掘立柱建物群が占地しており、その東辺を構成する柱穴列の一部が重複する位置関係にある。ただし、その新旧関係は不明。

所見 時期は出土土器から9世紀第3四半期と思われる。

13号竪穴建物(第37図、PL.19)

位置 X=42475、Y=-78065。

平面形 不整形と思われる。

主軸方向 N-80°-E。

規模 長軸方向3.73m、短軸方向3.43m、壁高0.13m。

床面の状況 下位の14号・36号竪穴建物の埋土の上面に設けられている。硬化面は不明瞭で、土器出土レベルと土層断面から、検出面標高は153.0～153.1mであったと推測される。14号・36号竪穴建物埋土との間に、10～13cmの礫混暗褐色土層の堆積がみられ、本竪穴建物の掘り方埋土の可能性が高い。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁南端で、浅く掘り窪められた火床掘り方が検出された。平面は楕円形で、規模は82×62cmを測る。袖部や煙道部の痕跡はない。下位の14号竪穴建物竈とほぼ同一箇所に設けられている。

壁溝 検出されなかった。

その他の施設 南壁際に楕円形の44号土坑が検出された。遺構確認面が床面レベルとほぼ同一のため、本竪穴建物に伴うか重複遺構かの判断ができない。平面規模は57×48cm、深さ40cmで断面形は半円形である。埋土には地山内と同じ拳大礫が出土している。

埋土の特徴 不明。

遺物出土状況 北半の床面レベルから須恵器・土師器の

小片10数点が出土しており、下位竪穴に伴うか、竪穴廃絶時の廃棄ないし流れ込みと考えられる。

遺構重複関係 下位に14号竪穴建物と36号竪穴建物が埋没し、中世以降と思われる26・27号掘立柱建物、43・50・51号土坑に切られる。

所見 時期は遺構重複関係から11世紀代に下る可能性がある。出土土器のわずかな年代差や竈配置の相似性から、14・36号竪穴建物の埋没後、継起的に構築された可能性が指摘できる。

14号竪穴建物(第38・39図、PL.20・21)

位置 X=42475、Y=-78060・78065。

平面形 不整形長方形。

主軸方向 N-5°-E。

規模 長軸方向3.03m、短軸方向1.51m以上、標高0.36m。

床面の状況 地山の泥流土を平坦に整えている。貼り床のための埋土は確認されなかった。床面標高は152.65～152.70mで、中央がやや窪む。この面での地山中の礫は露出していない。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁南寄りで燃焼部→煙道部が検出された。燃焼部掘り方は方形で、煙道部へは三角形を呈する。規模は、煙道端から焚口の長さ約100cm、焚口幅は約60cmを測る。縦断面形状は、焚口→火床面がほぼ水平平坦で、燃焼部奥壁が15cmほど直立し、傾斜角35°前後の煙道部が設けられる。竈確認レベルから火床面レベルは42cmの比高を測る。地山を掘り残して両袖部を造り出し、内壁側と袖部を覆い、さらに天井部を自然礫で構築したようである。これらの礫は安山岩系が主で、地山の白川泥流に含まれるものとほぼ同じである。燃焼部中央に崩落状態で検出された礫は、長さ30cm、幅27cm、厚さ16cmの亜円礫で、竈内の出土位置と大きさ・形状から、焚口部天井石に用いられた可能性が高い(PL.20-2)。燃焼部中央の両側に置かれた礫を内壁面と想定すれば、この部分の燃焼部内幅は30cmほどを測る(竈断面D-D')。燃焼部等で焼土や灰、炭化物の明瞭な堆積は見られなかった。

壁溝 検出されなかった。

埋土の特徴 小～拳大礫が多く含まれる暗褐色土で、人為的埋土の可能性が考えられる(PL.21-1)。

遺物出土状況 竈焚口付近で出土した甍片数点が本遺構に伴うものできょう。

遺構重複関係 竈を含む東辺側を100～60cm幅で埋め、西壁に新たに竈を設けて36号竈穴建物を構築する。上位に13号竈穴建物・27号掘立柱建物・50～51号土坑がのる。

所見 13・36号竈穴建物に先行する最初期の建物と考えられる。

36号竈穴建物(第38・40図、PL.20・21・22)

位置 X=42475、Y=-78060・78065。

平面形 不整形長方形。

主軸方向 N-5°-E。

規模 長軸方向2.95m、短軸方向1.17m。

床面の状況 地山の泥流土を平坦に整えている。先行して構築された14号竈穴建物の床面をそのまま継承したと考えられる。

柱穴 確認できなかった。

竈 西壁南寄りで燃焼部～煙道部が検出された。14号竈穴建物の竈の東西対称位置にあり、規模や形状、構築方法も共通点が多い。燃焼部掘り方は隅丸方形で、煙道部は断面方形で水平方向に20cmほど延びる。両側部は地山を掘り残しているが、14号竈穴建物よりは突出が見られない。規模は、煙道端から焚口の長さ約80cm、焚口幅は約60cmを測る。竈確認レベルから火床面レベルは30cmの比高を測る。燃焼部本体は自然礫と土塊で構築したと思われる、構築材と考えられる拳～人頭大の礫が燃焼部から焚口部にかけて散在する。焚口手前には長さ50cm、幅30cm、厚さ25cmほどの被熱色変した安山岩角礫が床面に横転しており(PL.22-2)、焚口天井部に用いられたと考えられる。竈焚口手前の左側には床面上に40×30cmの範囲で炭化物が堆積する。

壁溝 検出されなかった。

埋土の特徴 小礫が多く含まれる黄褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積しており、人為的埋土の可能性が考えられる(PL.22-3)。埋土中位層の堆積は、埋めた14号竈穴建物東辺部の上位を覆っていることから、この部分が36号竈穴建物内の中段棚状部分として機能していた証左とみられる。また、人為的埋土は後続する13号竈穴建物床面構築のためと推測される。

遺物出土状況 竈焚口付近で礫下から須恵器甍片数点が

出土した。

遺構重複関係 14号竈穴建物を埋めて縦続構築され、上位に13号竈穴建物がある。

所見 14号竈穴建物の東辺を埋めて中段棚状施設を設け、西側に竈を新設した構造で、14号竈穴建物の建て替えと考えるとよい。第38図で示した破線範囲は36号竈穴建物の竈を含む土間部分と考えたい。時期は出土遺物から10世紀代後半と考えられる。

15号竈穴建物(第41図、PL.23)

位置 X=42470、Y=-78060。

平面形 隅丸長方形と思われる。

主軸方向 N-0°。

規模 長軸方向3.23m、短軸方向 2.38m以上、壁高0.14m。

床面の状況 掘り方の埋土で遺構確認されており、床面は明確ではない。拳～30cm大礫を含む黒褐色土を埋めて床面を整えたと思われる。地山の白川泥流面は凹凸があり、確認面での埋土の深さは15～5cmを測る。床面標高は埋土中礫の高さから153.10m付近と推測される。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁北寄りで燃焼部の掘り方のみが検出された。燃焼部平面形状は三角形を呈し、竈穴外へ突出する。規模は、長さ約40cm、竈穴壁での幅は約80cmを測る。燃焼部掘り方の縦断面形状はほぼ平坦で、床の掘り方面よりやや窪む。埋土は黒褐色土で、焼土・灰・炭化物等は見られない。

壁溝 検出されなかった。

埋土の特徴 確認できたのは床面掘り方埋土であり、竈穴埋土は不明。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片がわずかに出土したが、本遺構に伴う確証はない。

遺構重複関係 西側に主軸方向を同じくする16号竈穴建物が重複する。16号竈穴建物の竈掘り方が検出されたが、両者の新旧関係は確認できない。また、20号掘立柱建物の柱穴に切られている。

所見 時期は平安時代と推測される。

16号竈穴建物(第42図、PL.23)

位置 X=42465・42470、Y=-78060・78065。

平面形 隅丸長方形と思われる。南西半は調査区外のため不明である。

主軸方向 N-0°。

規模 長軸方向4.48m以上、短軸方向4.09m以上、壁高0.12m。

床面の状況 小〜人頭大の礫を含む黒褐色土の堆積範囲を確認できたが、竪穴埋土か床面下の掘り方埋土かは判断できない。ただし、確実な生活床面は不明瞭であり、竪穴北半の同一レベルから地山の白川泥流に含まれる30cm前後の礫が多く露出しているの、掘り方埋土の可能性を考えたい。確認面から地山の白川泥流面までの埋土の深さは15cm前後を測る。床面標高は埋土中礫の高さから153.10m付近と推測される。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁北寄りで燃焼部の掘り方のみが検出された。燃焼部平面形状は三角形を呈し、竪穴外へ突出する。焼土・灰・炭化物等は不明瞭。

壁溝 検出されなかった。

埋土の特徴 確認できたのは床面掘り方埋土の可能性が高く、竪穴埋土は不明。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片がわずかに出土したが、本遺構に伴う確認はない。

遺構重複関係 東側に主軸方向を同じくする15号竪穴建物が重複するが、新旧関係は確認できない。南東端を17号竪穴建物、北西部を43号竪穴建物と重複するが、新旧関係不明。また、北東部は、20号掘立柱建物の柱穴に切られている。

所見 規模と形状から、時期は平安時代と推測されるが、確定的できない。

17号竪穴建物(第43図、PL.24)

位置 X=42465、Y=-78060。

平面形 方形と思われる。

主軸方向 N-59°-W。

規模 長軸方向2.94m、短軸方向1.10m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認されず、掘り方の埋土で遺構確認できたと思われる。小〜拳大の礫を含む黒褐色土を埋めて床面を整えたと思われる。確認面から地山の白川泥流面までの埋土の深さは8cm前後を測る。

柱穴 確認できなかった。

竈 確認できなかった。

壁溝 検出されなかった。

埋土の特徴 確認できたのは床面掘り方埋土であり、竪穴埋土は不明。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片がわずかに出土したが、本遺構に伴う確認はない。

遺構重複関係 北側で重複する16号竪穴建物との新旧関係は、掘り方埋土断面の観察から16号竪穴建物より新しいと思われる。

所見 規模と形状から、時期は平安時代と推測されるが、確定できない。北東方向に、掘り方から続く地山凹凸面が見られ、本来の竪穴床面は更に東・北方向に構築されていた可能性を残す。

18号竪穴建物(第44図、PL.24)

位置 X=42460・42465、Y=-78050・78055。

平面形 方形と思われる。

主軸方向 N-80°-W。

規模 長軸方向4.26m、短軸方向3.87m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認されないが、遺構確認が床面から掘り方埋土でなされたと思われる。標高152.71～152.74mが地山の白川泥流面であり、この上に小礫混在黒褐色土を5～8cmの厚さで埋めて床面を整える。このため、床面標高は152.8m前後と推定される。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁中央付近で、壁外に突出する燃焼部掘り方を確認した。平面は三角形で、長さ90cm、焚口付近の開口部幅90cmを測る。縦断面はほぼ平坦、横断面では中央部がやや窪む。土層は小礫混在の黒褐色土が堆積し、焼土や灰・炭化物はほとんど確認できない。また、袖材を想定させる痕跡も見られない。

壁溝 検出されなかった。

埋土の特徴 断面で確認できたのは床面掘り方埋土であり、竪穴埋土は不明。

遺物出土状況 竈燃焼部内と右側焚口付近から土師器小片がわずかに出土したが、掘り方か生活面での堆積かは確認できなかった。

遺構重複関係 南側に19号竪穴建物、西側に20号竪穴建物、東側に24号竪穴建物と、各々主軸方向をほぼ同じくして重複する。土層断面による限り、新旧関係はいずれ

も不明。ただし、20号竪穴建物の竈煙道部の立ち上がり断面が18号竪穴建物掘り方土を切るように見える部分があるので(第44図A-A') 20号竪穴建物が新しい可能性も考え得る。

所見 規模と形状から、時期は平安時代と推測されるが、確定できない。本竪穴建物を中央にして、竈設置方向と主軸方向を同じくしつつ、わずかに重なり合う4棟の竪穴建物群は、時間的先後関係をもちながら継起的に構築されたと考えられよう。相互の新旧関係は確認できなかったが、13・14・36号竪穴建物の重複関係を参考にすれば、深い竪穴が先行し、これを埋め立てて浅い竪穴が築かれる傾向がみられる。土層断面観察とは矛盾するが、20号竪穴建物→18号竪穴建物の可能性も想定しておきたい。

19号竪穴建物(第44図、PL.25)

位置 X=42460、Y=-78055。

平面形 方形と思われる。

主軸方向 N-10°-E。

規模 長軸方向2.74m以上、短軸方向1.60m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認されないうが、遺構確認が床面から掘り方土でなされたと思われる。礫の露出する地山の白川泥流面は重複する18号竪穴建物よりやや低い程度であり、この上に小礫混在黑褐色土を8cm前後の厚さで埋めて床面を整えたと思われる。

柱穴 確認できなかった。

竈 確認できなかった。

壁溝 北壁に沿ってやや窪む溝状部が確認された。ただし、部分的に深い掘り方も考えられ、確定的ではない。

埋土の特徴 断面で確認できたのは床面掘り方土であり、竪穴埋土は不明。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 西側に18号竪穴建物と重複し、掘り方土断面において新旧関係を確認することはできなかった。

所見 竪穴建物の大部分が調査区外に当たるため、全体像がつかめないうが、平面プランや想定床面レベル、及び土層断面観察から、重複すると捉えられた18号竪穴建物とは同一建物の可能性を残す。

20号竪穴建物(第45図、PL.25・26・27)

位置 X=42460・42465、Y=-78055・78060。

平面形 隅丸長方形。

主軸方向 N-4°-E。

規模 長軸方向3.15m、短軸方向3.08m、壁高0.43m。

床面の状況 地山の白川泥流面を掘り方面とし、砂礫混在の黒褐色土を5~10cmの厚さで埋めて床面を整える。床面標高は152.20~152.30mで、中央付近がやや窪む。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁の南寄りに設けられ、燃焼部の奥半部は壁外、燃焼部焚口側は竪穴内に位置する。燃焼部の平面形は隅丸形状で、外傾する奥壁の中心から煙道部が傾斜して立ち上がる。両袖部は竪穴内に突出し、焚口部を形成する。焚口部から検出された煙道部立ち上がりまでの長さは90cm、燃焼部の平面規模は約60×50cm、焚口幅は55cmほどを測る。燃焼部の内法に50~20cm大の自然礫敷点が立位状態で検出されており(第45図)、竈構築材として使用された可能性が考えられる。また、焚口付近の燃焼部位置には長さ15cmの楕円礫2点が、15cmの間隔を空けた左右に立位で検出された(第45図竈断面図G)。この2点の礫は炭化物が付着し被熱変色していることから、燃焼部での支脚として機能した可能性が高い。ただし、この礫の平面位置は袖端から20cmほどしか燃焼部側に入っていない。甕の架け口の直下に支脚が位置するとの想定を前提にすれば、本来の焚口はより竪穴側に位置していたか、あるいはこの位置関係のままに焚口開口部が頑強な構造であったことが推測される。燃焼部火床面はほぼ平坦で焚口部に連続し、竪穴確認面からの深さは約40cmを測る。なお、焚口部を中心に幅100cm、奥行き70cmの範囲で炭化物と灰が分布する。

壁溝 検出されなかった。

その他の施設 竪穴の南東隅、竈焚口の右側に貯蔵穴と考えられるピットが確認された。平面は不整楕円形で、断面は円弧状を呈する。規模は45×36cm、深さ10cmを測る。ただし、周囲の標高が他の床面より10cmほど窪んでいることから、蓋で覆っていた可能性を考えたい。

埋土の特徴 40~20cm大の自然礫とともに、地山の白川泥流土が、上位で平坦になるまで全体に堆積する(PL.25、第45図土層断面)。このことから、人為的な埋没と考えられる。

遺物出土状況 竈燃焼部から焚口付近、及び貯蔵穴付近にかけて土器片が散在する。竈焚口手前に分布する炭化物・灰層にのる正位状態で出土した杯(30043)は、床面に接しており、本竈穴建物の時期認定の根拠となり得る。

遺構重複関係 北側に18号竈穴建物と重複し、新旧関係は確認できなかったが、竈上面を水平堆積土が覆っていることから、これが18号竈穴建物の掘り方埋土の可能性もある。また、南西側に本竈穴建物を囲むように平坦な落ち込みが検出された。これは調査時に「21号竈穴建物」と命名された遺構で、土層断面観察から20号竈穴建物埋没後のものと考えられる。

所見 推定時期は、出土土器の年代観から9世紀第4四半期から10世紀第1四半期と考えられる。

21号竈穴建物(第46図、PL.28)

位置 X=42465、Y=-78055・78060。

平面形 不整形で北西辺が彎曲する異形。

主軸方向 不明。

規模 長軸方向3.72m以上、短軸方向3.23m。

床面の状況 北西部で標高152.70m前後の平坦面が確認された。地山の白川泥流面がそのまま露出しており、硬化面や遺物分布がほとんど見られないため、本来の床面か、あるいは掘り方面かの確認はできない。土層断面観察から、内側に重複する20号竈穴建物が平坦に埋没した状態で床面構築がなされている。

柱穴 確認できなかった。

竈 南東壁の中央付近で壁外に突出する半円形の燃焼部底面が確認された。燃焼部全体は不整形円形で、平面規模は110×102cmを測る。奥壁には自然角礫3点がみられるが、人為的設置ではなく地山に含まれるものである。火床面や軸部及び煙道部は確認できなかった。竈燃焼部内には地山土粒主体の黒褐色土が堆積しており、焼土や炭化物は明確でない。このことから、燃焼部掘り方への埋土と推定される。

壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 小礫混在の黒褐色土で、他の竈穴建物例を参考にするならば、床面掘り方埋土の可能性が考えられよう。

遺物出土状況 わずかに土師器小片が出土。

遺構重複関係 20号竈穴建物の上に構築され、東側に重

複する18号竈穴建物との新旧関係は、土層断面観察によれば本竈穴建物が新しいと推測される(第46図土層断面図A)。また、南北に縦断する31号溝に切られる。

所見 竈と北西部については、掘り込みが確認されているが、竈から続く南東壁と北東壁のプランは推定であり、明確な方形プランとは限らない。

22・23号竈穴建物(第47図、PL.28)

位置 X=42465・42470、Y=-78055・78060。

平面形 方形プランの西部で西辺のみ検出された。なお、南西で方形プランの隅部が検出された23号竈穴建物は、本竈穴建物と一体になる可能性があり、ここで扱う。

主軸方向 西壁方向からN-14°E。

規模 長軸方向2.2m以上、短軸方向1.65m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の白川泥流の平坦面が確認された。この面の標高は152.89～152.94mを測る。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 小礫混在の黒褐色土で、他の竈穴建物例を参考にするならば、床面掘り方埋土の可能性が考えられよう。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 東側を31号溝に切られる。41・42号竈穴建物と重複するが、新旧関係は確認できない。

所見 掘り込みプランが不明瞭で、付設遺構も見られないことから、「竈穴住居跡」との認定は難しい。また、南西隅に該当する23号竈穴建物は、新たに確認された42号竈穴建物の北西辺の延長部の可能性も残すが、調査時の確認はできなかった。

41号竈穴建物(第47図、PL.28)

位置 X=42465、Y=-78055・78060。

平面形 方形プランの北西隅部のみ検出された。

主軸方向 西壁方向からN-24°E。

規模 長軸方向1.37m以上、短軸方向0.62m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の白川泥流の平坦面が確認された。この面の標高は152.90m前後を測る。自然礫が露出することから、掘り方地山面と考えられよう。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 小礫混在の黒褐色土。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 東側を31号溝に切られる。21・22・23・42号竪穴建物と重複するが、新旧関係は確認できない。

所見 重複する42号竪穴建物とは西辺走向がほぼ並行で、時間差を持ちつつ継的に構築された可能性がある。

42号竪穴建物(第47図、PL.28)

位置 X=42465・42470、Y=-78055・78060。

平面形 方形プランの西隅部のみ検出された。

主軸方向 北西壁方向からN-40°-E。

規模 長軸方向2.29m以上、短軸方向1.24m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の白川泥流の平坦面が確認された。この面の標高は152.90m前後を測る。自然礫が露出することから、掘り方地山面と考えられよう。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 小礫混在の黒褐色土。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 東側を31号溝に切られる。また中央部は後世の円形掘乱坑に切られる。22・23・41号竪穴建物と重複するが、新旧関係は確認できない。

所見 重複する23号竪穴建物とは北西辺がややずれながらも走向がほぼ一致し、本来は同一遺構であった可能性を残す。

24号竪穴建物(第48図、PL.28)

位置 X=42465、Y=-78050。

平面形 長方形プランと考えられ、南辺部は調査区外で不明。

主軸方向 N-2°-E。

規模 長軸方向4.46m以上、短軸方向3.86m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の平坦面が確認された。この面の標高は152.55~152.60m前後を測る。床面はこの上に礫混在の黒褐色土を埋めて整えたと思われる。黒褐色土上面レベルは152.75m付近で、重複する33号竪穴建物との識別が困難であった。

柱穴 確認できなかった。

竈 東壁の南寄りで壁外に突出する燃焼部掘り方向が検出された。平面形は三角形形状で、長さ(奥行き)30cm、

焚口付近の開口幅は40cmを測る。わずかに焼土粒の分布がみられる。

壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは掘り方埋土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 竈焚口右脇に土師器小片出土。

遺構重複関係 土層観察によれば、竈前に位置する66号土坑を切り、25号竪穴建物に切られると理解される。また33号竪穴建物は不明瞭であった。なお、中世以降に属す28・29号掘立柱建物の柱穴に切られている。

所見 規模と竈配置及び主軸方向をそろえて隣接する18号竪穴建物とは時期を前後して継的に営まれた可能性が考えられる。

33号竪穴建物(第48図、PL.28)

位置 X=42460、Y=-78050。

平面形 方形プランの北辺部のみ検出された。

主軸方向 北壁方向からN-79°-E。

規模 長軸方向2.91m、短軸方向1.30m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の平坦面が確認された。この面の標高は152.60m前後を測る。床面はこの上に礫混在の黒褐色土を10~15cm埋めて整えたと思われる。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは、人為的な掘り方埋土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片数点が出土した。

遺構重複関係 北側に24号竪穴建物と重複し、土層断面観察では新旧関係は確認できなかった。西側には18・19号竪穴建物と接するが、新旧関係は不明である。

所見 24号竪穴建物の掘り方面調査でわずかな落ち込みプランとして確認できたが、南調査区外で竈などの痕跡が確認できない以上、24号竪穴建物のやや低い掘り方部分との可能性を残す。

25号竪穴建物(第49図、PL.29)

位置 X=42460・42465、Y=-78045。

平面形 方形プランの北辺部のみ検出された。

主軸方向 北壁方向からN-90°-E。

規模 長軸方向2.31m、短軸方向1.11m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の平坦面が確認された。この面の標高は152.50m前後を測る。自然礫が露出する。床面はこの上に礫混在の黒褐色土を埋めて整えたと思われる。この黒色土上面レベルは152.70m前後で、床面レベルはこれよりやや上位にあったと推測される。

柱穴・竈 確認できなかった。

壁溝 掘り方面の北～東壁に沿ってやや深い溝状部分がみられた。ただし、不定形状で規模が一定しないことから、壁溝の掘り方痕跡との確認はない。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは掘り方埋土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片出土。

遺構重複関係 北西側に24号竪穴建物と接しており、土層断面観察では、本竪穴建物が後出すると考えられる。また北側に接して32号竪穴建物が存在するが、新旧関係は確認できなかった。

所見 土層断面では、西側隣接の24号竪穴建物よりも新しいとの調査所見がある。

26号竪穴建物(第50図、PL.29)

位置 X=42470、Y=-78045・78050。

平面形 正方形。

主軸方向 N-31°-W。

規模 長軸方向3.18m、短軸方向2.95m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、遺物出土層位と掘り方埋土との識別から、標高152.80m付近と考えられる。地山の掘り方面は標高152.70m前後で自然礫が露出する。床面はこの上に礫混在の黒褐色土を埋めて整えたと思われる。

柱穴 確認できなかった。

竈 北東壁の南東寄りで、壁外に半円形に張り出す燃焼部底面付近が検出された。規模は、長さ(奥行き)40cm、開口部幅70cmを測る。袖部と煙道部は確認できなかった。焚口部床面よりやや窪んだ面が火床面と考えられ、焼土化した部分が見える。燃焼部内には1～15cm大の安山岩礫がまぎらって出土している。これが竈構築材の一部を構成したか否かは確認できなかった。

壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 礫を含む黒褐色土が堆積する。掘り方埋土は近似するが、色調はやや明るい暗褐色土である。

遺物出土状況 中央の床面と思われるレベルから検片(第125図-30047)が出土している。

遺構重複関係 西側に27号竪穴建物と重複し、土層観察によれば、本竪穴建物が新しい。

所見 28・29・32・39・40号竪穴建物とは直接の重複関係にはないが、上屋構造は完全に重なる位置関係にあり、同時期存在は考えにくい。

27号竪穴建物(第50図、PL.29)

位置 X=42470、Y=-78050。

平面形 不整形長方形と思われる西辺部のみ検出された。

主軸方向 N-41°-W。

規模 長軸方向2.53m以上、短軸方向1.69m以上。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の平坦面が確認された。この面の標高は152.80m前後を測り、重複する26号竪穴建物のそれよりやや高いが、自然礫が露出するので地山と考えてよい。床面はこの上に礫混在の黒褐色土を埋めて整えたと思われる。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは掘り方埋土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 東側を26号竪穴建物に切られる。また西側には28号竪穴建物が重複し、土層断面観察では新旧関係を確認することはできなかった。

所見 南西に重複する28号竪穴建物とは、南東辺がほぼ一致しており(PL.30-2・4)、重複部分の識別が明瞭でないことから、本来は28号竪穴建物の東側部分であった可能性を残す。

28号竪穴建物(第51図、PL.30)

位置 X=42470、Y=-78050。

平面形 不整形長方形と思われ、東辺部は不明。

主軸方向 N-54°-W。

規模 長軸方向2.05m以上、短軸方向2.20m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、地山の掘り方面が確認された。この面の標高は152.70～152.83mを測り、凹凸がみられる。床面はこの上に礫混在の黒

褐色土を埋めて整えたと思われる。

柱穴・壁溝 確認できなかった。

竈 北西壁の南西に偏って、壁外に三角形に張り出す燃焼部底面が検出された。火床面は確認できない。長さ(奥行き)は76cm、壁開口部の幅65cmを測る。右袖部付近に拳大の自然礫があり、地山に含まれ露出したものと考えられる。ただし、これを右袖芯材などに利用した可能性を残す。竈内埋土は竪穴掘り方土より明るい色調で赤味(焼土粒か)がみられる。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは掘り方土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 土師器小片出土。

遺構重複関係 東側に重なる位置関係にある27号竪穴建物とは重複関係が不明。さらに東に重なる26号竪穴建物とは新旧関係が確認できなかった。なお、掘り方面まで達して70・71号溝に切られる。

所見 重複する27号竪穴建物とは、南東辺がほぼ一致しており、重複部分の識別が明瞭でないことから、本来同一であった可能性を残す。

29号竪穴建物(第52図、PL.30)

位置 X=42470・42475、Y=-78045・78050。

平面形 正方形。

主軸方向 N-63°-E。

規模 長軸方向2.57m、短軸方向2.39m。

床面の状況 遺構確認段階ですでに掘り方土面が露出していたと思われる。確認面の標高は152.85~152.77mで、本来の床面はこれより数cm高い位置と推測される。地山の掘り方面は礫の露出した凹凸面で、152.82~152.73mを測る。西壁に沿った部分がわずかに深いが、意図的なものかは不明。

柱穴・壁溝 確認できなかった。

竈 北東壁のほぼ中央に、壁外に張り出す燃焼部底面が検出された。平面形は半円形で、長さ(奥行き)45cm、壁の開口部幅は約60cmを測る。火床面は確認できず、焼土や灰等もほとんど見られない。底面の断面形は平坦で、深さは竪穴内の掘り方面と変わらない。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは掘り方土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 土師器小片出土。

遺構重複関係 重複関係は見られないが、北に30号竪穴建物、南に26号竪穴建物が30cm前後と近接しており、同時存在とは考えにくい。

所見 時期は平安時代と思われる。

30号竪穴建物(第53図、PL.31)

位置 X=42475・42480、Y=-78050。

平面形 不整形長方形と思われ、西辺は不明瞭。

主軸方向 N-71°-W。

規模 長軸方向2.56m以上、短軸方向2.51m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、土器片出土レベルから、標高152.95m前後が床面レベルと推測される。地山の掘り方面はこれより8~10cm下位の凹凸面である。床面はこの上に礫混在の黒褐色土を埋めて整えたと思われる。

柱穴・壁溝 確認できなかった。

竈 東壁のほぼ中央に、壁外に突出する半円形の燃焼部底面が検出された。火床面は不明瞭だが、構築材に用いられた可能性のある15cm大の自然礫が奥壁付近から出土した。また焚口付近にも長さ35cmを測る楕円礫が出土しており、焚口構造材の一部であった可能性がある。火熱変化は確認できなかった。燃焼部規模は奥行き約60cm、壁開口部幅は約70cmを測る。燃焼部底面の掘り方は床面部のそれよりやや深くくぼむ。

埋土の特徴 土層断面で確認できたのは掘り方土で、小礫混在の黒褐色土が堆積する。

遺物出土状況 北壁に沿って土師器破片が潰れた状態で出土している。おそらく床面上の出土位置と考えられる。

遺構重複関係 北側に重複する竪穴と思われる矩形プランの黒褐色土分布が確認された。しかし、土層断面が不明瞭で、竈等の痕跡が確認できないため、この落ち込みプランの性格や新旧関係は不明のままであった。これが重複する竪穴建物であった場合、北壁際に集中して出土した土器片群の帰属はどちらともいえない。なお、西辺部は39号土坑に切られる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。竈付近の自然礫はいずれも掘り方の地山面から高い位置で出土しており、黒褐色土内出土であることから、構築材の可能性を想定した。これ以外で中央床掘り方面には地山に含まれる大小の礫が露出している。

31号竪穴建物(第54図、PL.32)

位置 X=42480・42485、Y=-78050。

平面形 やや南北に長い長方形と思われる。北辺は不明瞭で検出できなかった。

主軸方向 N-5°-W。

規模 長軸方向2.58m以上、短軸方向2.41m、壁高0.16m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、遺構確認面がそれに近いと思われる。この面の標高は153.0m前後で、北西隅では30cm大の自然礫3点の上面が露出していた可能性がある。掘り方の地山面は標高152.85~152.90mの凹凸面で、この上に礫混在の黒褐色土を埋めて床面を整えたと思われる。

柱穴・壁溝 確認できなかった。

竈 東壁の南端で壁外に張り出した半円形の燃焼部底面が検出された。燃焼部の長さ(奥行き)は60cmほどで、奥壁は急角度で立ち上がる。ただし、煙道部の傾斜とは無関係であろう。壁開口部での燃焼部幅は65cmである。焚口付近には10cm大の円礫が出土するが、竈構築材の可否については確認できなかった。竈内埋土は10cmほどの深さで堆積し、焼土や灰は不明瞭であった。袖部は壁の内側に張り出すと考えられるが、痕跡は確認できなかった。

埋土の特徴 黒褐色土が堆積するが、掘り方埋土との識別が困難。このことから、主体は掘り方埋土であった可能性が考えられる。

遺物出土状況 竈埋土から土師器小片出土。

遺構重複関係 なし。

所見 竈燃焼部先端に接する東側に34号竪穴建物があり、新旧関係は不明ながら同時存在はありえない。

32号竪穴建物(第55図、PL.32)

位置 X=42465・42470、Y=-78045。

平面形 不整長方形と思われる。東半は調査区外で未確認。

主軸方向 N-41°-W。

規模 長軸方向4.29m以上、短軸方向3.75m以上、壁高0.11m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、土層断面で確認できる掘り方埋土の上面標高が152.70m前後であり、これよりやや上位に床面が構築されたと考えられ

る。掘り方の地山面は自然礫を多く含む凹凸面で、標高は152.55m前後を測る。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 礫を多く含む黒褐色土が堆積しており、掘り方埋土の可能性が高い。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片出土。

遺構重複関係 土層断面観察から、40号竪穴建物と69号土坑に先行すると判断される。北隅で39号竪穴建物と接するが、新旧関係は不明。

40号竪穴建物(第55図、PL.32)

位置 X=42465・42470、Y=-78045。

平面形 方形と思われるが、東半は調査区外のため未確認。

主軸方向 N-18°-W。

規模 長軸方向1.94m以上、短軸方向2.44m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、重複する32号竪穴建物と同様に、土層断面で確認できる掘り方埋土の上面標高が152.70m前後であり、これよりやや上位に床面が構築されたと考えられる。

柱穴・竈 確認できなかった。

壁溝 掘り方の壁際に沿って、溝状にやや窪む。ただし、土層断面では床面から落ち込む溝とは確認できない。壁際での深い掘り方部分と考えるべきと思われる。

埋土の特徴 礫の多い黒褐色土が堆積しており、掘り方埋土の可能性が高い。

遺物出土状況 わずかに土師器片出土。

遺構重複関係 32号竪穴建物の中で、これを切って構築される。北西端で69号土坑に切られる。

34号竪穴建物(第56図、PL.33)

位置 X=42480・42485、Y=-78045・78050。

平面形 隅丸長方形と思われる。

主軸方向 N-8°-W。

規模 長軸方向4.36m、短軸方向2.05m。

床面の状況 明瞭な床面は確認できなかったが、掘り方埋土でプランが確認された。土層断面で確認できる掘り方の標高が152.90~153.0mであり、これより黒褐色土を埋めて床面が構築されたと考えられる。

柱穴・壁溝 確認できなかった。

竈 東壁に南寄りで、壁外に細長く張り出す燃焼部底面が検出された。火床面や煙道部、袖部は確認できない。規模は長さ(奥行き)55cm以上、壁での開口部幅は約60cmを測る。

埋土の特徴 礫を多く含む黒褐色土が堆積しており、掘り方理土と思われる。この上には浅間B軽石直下の水田土壌と思われる黒褐色土が覆っている。

遺物出土状況 掘り方の礫に混在して土師器小片出土。

遺構重複関係 なし。

所見 掘り方面には、大小の自然礫が北西から南東にかけて帯状に出土している。これは遺構外にも続く帯状分布を示すので、地山の泥流層に含まれる礫群分布と考えてよい。

35号竪穴建物(第57図、PL.33)

位置 X=42480、Y=-78065。

平面形 正方形と思われる。

主軸方向 N-74°-E。

規模 長軸方向3.41m、短軸方向3.24m。

床面の状況 黒褐色土の堆積する掘り方地山面の窪みでプランが確認され、床面は検出できなかった

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方理土であり、礫を多く含む黒褐色土。

遺物出土状況 伴出遺物は不明。

遺構重複関係 12・37号竪穴建物・19～25号掘立柱建物等と重複し、掘立柱建物群が新しいとする以外は確認できなかった。

37号竪穴建物(第58図、PL.33)

位置 X=42485、Y=-78065。

平面形 方形と思われ、西辺部は調査区外のため未確認。

主軸方向 N-7°-E。

規模 長軸方向2.34m以上、短軸方向2.07m、壁高0.25m。

床面の状況 黒褐色土の堆積する掘り方地山面の窪みでプランが確認され、床面は検出できなかった。掘り方の地山面は比較的平坦で、標高は153.33～153.27mを測る。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方理土であり、小礫を

含む黒褐色土。

遺物出土状況 掘り方理土から土師器小片出土。

遺構重複関係 25・36号土坑、18号掘立柱建物に切られる。南東端が35号竪穴建物と重複するが、新旧関係は不明。

38号竪穴建物(第59図、PL.33)

位置 X=42480、Y=-78055・78060。

平面形 方形と思われるが、東西辺は遺構重複により不明。

主軸方向 N-4°-E。

規模 長軸方向1.29m以上。

床面の状況 黒褐色土の堆積する掘り方地山面の窪みでプランが確認され、床面は検出できなかった。土層断面のレベルから、床面標高は153.20m前後と推測される。

柱穴 北半部でピット1基が検出されている。平面積円形で、上端径45×35cm、深さ14cmを測る。竈を通る竪穴プランの軸線上に位置するので、柱穴とは考えにくい。掘り方理土を掘り込んで本遺構に伴う竪穴内施設の可能性がある。

竈 南壁の西側に偏って検出された。壁外に張り出す不整三角形の平面形で、燃焼部底面と思われる。火床面は不明瞭だが、堆積土に炭化物粒、焼土、被熱赤変したと思われる小礫がみられる。規模は長さ75cm、幅75cm以上を測る。掘り方底面は燃焼部奥ほど深い窪みになっているが、全体に凹凸が目立つ。

壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方理土であり、礫を含む黒褐色土。

遺物出土状況 竈手前の推定床面レベルから椀片(30055)が出土しているが、この場所が重複する12号竪穴建物の竈煙道掘り方にもあたるので、どちらに帰属するのは確定できない。

遺構重複関係 西側を12号竪穴建物と重複しており、不明瞭だが土層断面観察では12号竪穴建物が後出すると推測される。また東側は中世以降の31号溝に切られる。

39号竪穴建物(第60図、PL.33)

位置 X=42470・42475、Y=-78045。

平面形 西辺のみ検出され、方形と思われる。

主軸方向 N-3°-W。

規模 長軸方向4.51m、短軸方向1.23m以上。

床面の状況 黒褐色土の堆積する掘り方地山面の窪みでプランが確認され、床面は検出できなかった。

柱穴・竈 確認できなかった。

壁溝 掘り方で、壁に沿って全周する浅い溝が検出された。幅は15~20cm、深さ6cm前後を測る。

埋土の特徴 礫を多く含む黒褐色土が堆積しており、地山掘り方面まで同質であることから、掘り方埋土の可能性が高い。黒褐色土層の上面標高は152.80m前後で、これより若干高い位置に本来の床面が構築されたと考えられよう。

遺物出土状況 掘り方埋土から土師器小片出土。

遺構重複関係 南西端を70号土坑に切られる。

所見 確認された平面プランは整った方形であるが、竪穴壁が不明瞭で、本来の平面形については確定的でない。土層断面の観察では、掘り方埋土と思われる黒褐色土層の上位に浅間B軽石直下水田の耕土が覆う。この水田耕土層との層境界はほぼフラットであり、開田時の削平、及び耕作の繰り返された土層と考えられる。木竪穴建物の本来の床面や竪穴の大部分は、この水田耕作によって削平されたものと推測される。

43号竪穴建物(第61図、PL.33)

位置 X=42470、Y=-78065。

平面形 北東辺のみ検出され、方形と思われる。他辺は、遺構重複と調査区外のため確認できない。

主軸方向 N-57°-W。

規模 長軸方向1.65m以上。

床面の状況 削平されて不明。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方埋土であり、小礫を含む黒褐色土。

遺物出土状況 須臾器残片(30056)、土師器小片出土。

遺構重複関係 北西に44号竪穴建物、南東に16号竪穴建物と重複する。土層断面観察から、16号竪穴建物が後出するが、44号竪穴建物との関係は不明。

44号竪穴建物(第61図、PL.33)

位置 X=42470・42475、Y=-78065・78070。

平面形 北東隅部のみ検出され、方形と思われる。他の部分は調査区外のため未確認。

主軸方向 N-24°-E。

規模 長軸方向1.72m以上、短軸方向1.60m以上。

床面の状況 黒褐色土の堆積する掘り方地山面の窪みでプランが確認され、床面は検出できなかった。掘り方の地山には大小礫が多量に含まれ、もっとも大きな円礫の上面標高は153.80mであることから、本来の床面標高は、これよりやや高い位置と推測される。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方埋土であり、大小礫を多く含む黒褐色土。

遺物出土状況 掘り方埋土から椀底部片(30057)が出土。

遺構重複関係 南東に43号竪穴建物、北側に45号竪穴建物と重複するが、いずれも新旧関係は不明。

所見 時期は10世紀に下る可能性あり。

45号竪穴建物(第61図、PL.33)

位置 X=42470・42475、Y=-78065・78070。

平面形 北東隅部のみ検出され、平面形は推測不能。

主軸方向 不明。

規模 0.96m以上×0.37m以上。

床面の状況 掘り方埋土と思われる黒褐色土が堆積し、床面は検出できなかった。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方埋土であり、大小礫を多く含む黒褐色土。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 土層断面観察によれば、南東側に重複する44号竪穴建物に切られる。46号竪穴建物との関係は不明。

46号竪穴建物(第61図、PL.33)

位置 X=42475、Y=-78065・78070。

平面形 方形と思われ、西半部は調査区外のため未確認。

主軸方向 N-17°-W。

規模 長軸方向1.35m以上、短軸方向2.42m。

床面の状況 掘り方埋土と思われる黒褐色土が堆積し、床面は検出できなかった。

柱穴・竈・壁溝 確認できなかった。

埋土の特徴 確認できたのは掘り方埋土であり、大小礫を多く含む黒褐色土。

遺物出土状況 なし。

遺構重複関係 南側で重複する45号竪穴建物との新旧関係は不明。

2 水田

調査区のほぼ全域で、浅間B軽石に直接覆われた水田面と水路、浅間B軽石の堆積が認められない場合でも、同一層準の耕土層と基盤層の識別によって畦畔痕跡を検出している。浅間B軽石一次堆積物は、調査区北辺の東西に細長い1・2-1区と、中央調査区の1-3・4区、及び2-2・3区で厚い堆積がみられる(PL.11-1・2)。この調査区で浅間B軽石を除去した当時の地表面痕跡として、南北走向の畦2条(1号畦・2号畦)と水路(5号溝・42号溝等)、及び田面が検出された。ただし、基盤標高の高い調査区東辺の1-2・3・4・5・6区、及び2-2・3区西端では、浅間B軽石の堆積が薄く、さらに後世の削平によって水田耕土相当の土層が遺存しない場所もある。従って、浅間B軽石に直接覆われた確実な水田面の検出は、調査区中央付近に限られた。ここでは、まず検出された水田跡の概要について掲げることとし、次いで調査区ごとの詳細な記述を行う。

田面が明瞭に検出されたのは、1-3・4区から2-2・3区中央付近にかけての範囲である。この地点は東西約130mにわたって南に緩傾斜する平坦面となっている。調査区の西側にあたる2-2・3区の西端以西と、東側の1-2・4・5・6区は微高地となっている。この微高地部分では、平安時代(9~10世紀)の竪穴建物群が確認されている。1-6区では、浅間B軽石の下面で水田区画が検出され、さらに耕土下層から平安時代の竪穴建物が確認された。このことは、集落居住域が10世紀以降のある段階から水田化されたことを示している。

浅間B軽石に直接覆われた畦(1号畦、2号畦)以外に、水田区画を示す畦畔は不明確である。そのため水田耕土表層を削平し畦畔の基盤痕跡を確認したところ、不整形な基盤の目状の小区画が検出された。これは「疑似畦畔」とすべき下部痕跡を含む可能性が高く、全てが同時存在の水田区画を示すものとは限らない。従って、掲載した平面図や写真記録に残された畦畔区画は、本来の浅間B

軽石直下水田面に伴うものと、それ以前の水田区画が混在しているとみてよい。このことは水路と畦畔の関係性として後述する。ただし、浅間B軽石降下(1108年)より以前であっても、基盤層には6世紀代の榛名山噴火後に発生した泥流層が厚く堆積することから、検出された小区画の疑似畦畔は、それ以降の造成ということになる。

畦畔の走向は、南北ないし北北西-南南東であり、基幹水路の可能性のある5・42号溝が1-3・4区を南北に縦貫する。基幹となる大畦は見当たらない。地形面の傾斜と主幹水路と思われる5・42号溝の走向から、水回りは等高線に直交する北→南の流向を基本と考えられる。地形勾配は急な場所で3.7%に達する。このような本遺跡地の傾斜面では、平行する東西畦の間隔を5m以下に狭めるか、畦高を20cm以上とする必要があったと推測される。このように考えるならば、疑似畦畔として検出された小区画が漏水対策として浅間B軽石直下水田に伴う遺構だった可能性も残している。西方に約300m離れた下芝上屋遺跡、南方に約300mの下芝天神遺跡で検出されている浅間B軽石下水田でも、不整形小区画がみられる。かかる水田区画は、群馬県の平野部で一般的に見られる比高の少ない浅間B軽石直下水田でも、地形変換箇所など限られた地点で幅5m程度の小区画畦畔の例を見ることができる。

水路に関しては、調査段階では通番の溝として登録されている。これについて、調査時の所見と整理作業における水田区画との関係性の検討から、排水水路が畦に沿う小溝の可能性が考えられた。本節では、これらの溝を水田に伴う施設として認定し、その他の溝とは分けて扱うこととした。

1-3・4区の水田(第62・66~69図、PL.34・35)
範囲 調査区のうち、1-3・4区東端の微高地を除いて水田区画が検出されている。検出した水田面積は約540㎡を測る。

比高・勾配 北西端標高が155.15m、南東端標高が153.90mで、比高は125cm。南北方向の比高は0.6m/20mで、単純勾配とすれば約2.7%となる。

畦畔 1-3区東半で、国家座標Y軸-78095にそって1号畦、-78080~78083に沿って2号畦が検出されている(第62図、PL.34-2・3)。1号畦と2号畦の間隔は、

北側で13.5m、南側で14.5mを測る。1・2号畦の規模は、幅20～30cm、検出高は10cm前後である。1号畦の走向はN-5°-W、2号畦の走向はN-10°-Wでわずかに蛇行する。1・2号畦は浅間B軽石除去作業段階で確認できており、他の区画畦よりも畦高が高い状態で遺存していたと考えられる。なお、1・2号畦は、南に7m離れた1-4区では確認されていない。

畦区画の走向は、概ね東西-南北走向の方向に近いが、東西走向の畦をみると、N-60°85°-Eで振れており、1-3区の中央部のみがほぼ東西走向を示す。これは地形の等高線にそった畦走向としたためと思われる。1・2号畦を除く小区画の畦は、5cm以下のわずかな高さしか残っておらず、1-3区中央部分のように不連続部分もみられる。このように畦が不明瞭な場合は、本来の区画機能をもつ畦の存在が疑われる。

なお、1-4区東部南端で検出された南北走向の縦畦には自然礫が並んでおり、畦の芯材として利用された可能性がある(PL.37-3)。

水田区画 南北方向の傾斜に従って、東西方向に細長い長方形・台形を呈する。南西端では三角形や不定形もみられる。1-3区西端では極めて幅の狭い区画がみられるが、溝状機能の可能性が考えられる。中央を南北に縦断する水路と思われる5・42号溝を境に、西側では不整形区画、東側では整然とした区画配置がみられる。区画が明瞭な1-4区で、各区画面積は4.79～12.62㎡を測り、最小区画では5㎡に満たない箇所もある。

配水構造 国家座標Y軸-78114に沿って1-3区5号溝・1-4区42号溝が南北に走る。中間の約7m部分が未調査であるが、両者は連続する1条の水路である。5号溝の幅は約2m、深さは0.3m、底面標高154.95～154.91m、比高4cmを測る(PL.38-5)。断面形状は浅い皿形で、法面は明瞭でない(PL.38-6)。全体に浅間B軽石が堆積しているため、軽石降下直前まで機能していた可能性がある。5号溝と水田区画との関係は、西区画とは直接連続し、東区画では溝に沿ってわずかに畦状の高まりがある。この状態から、西側水田区画からは排水、東側には別地点での給水機能を果たしていたと考えられる。明瞭な水口はほとんど見られないが、1-3区の5号溝西側の区画と比高のみを限り、東方及び南方に配水されていた可能性が高い。

1-3区東端では10号溝、1-4区東端で49号溝が検出されており、連続する1条の水路と考えられる(第62図PL.38-7・8、PL.39-6)。走向はN-32°-Wで、等高線にほぼ直交する。延長36mが検出されており、幅は0.85m、深さ0.14m、底面標高は154.73～154.00mで比高73cmを測る。断面形は「蒲鉾」形を呈し、埋土には浅間B軽石が堆積する。1-4区の水田区画の畦に沿って走るので、検出された水田面に伴う水路として機能した可能性があるが、1-3区東側では畦を断ち切るように走行する部分も見られる。

2-2・3区水田(第63・70～72図、PL.36)

範囲 2-2・3区西端と2-2区の帯状の微高地を除いて、全体の約2/3の範囲から水田区画が検出されている。2-2区の微高地部は、地山の泥流面が露出しているが、約7m離れた2-3区では水田区画が認められるので、本来は西側微高地を除く全体に水田区画が展開していた可能性がある。検出された面積は約373㎡である。**比高・勾配** 北西端標高が155.65m、南東端標高が154.64mで、比高は101cm。南北方向の比高は0.75m/20mで、単純勾配とすれば約3.8%となる。水田区画内の等高線分布も密で、小区画内であっても比高が10cmを超える場所がある。

畦 国家座標Y軸-78180～78177、-78152～78143に基軸となり得る幅の広い畦が検出されている。前者は幅0.7～1.5mで蛇行、後者は幅0.5～0.9mでN-20°-Wの傾きをもって直線的に延びる。2-3区西半を除けば、縦畦はほぼ北西-南東に傾斜しており、等高線に直交する。畦はいずれもわずかな高まりとして検出されたもので、湛水可能な高さを示す部分はない。

水田区画 西に傾く縦畦を基軸に、等高線に沿った横畦で小区画を構成する。平面形は長方形を基本とするが、台形や楕円形、不定形の区画もみられる。面積は24.26㎡を最大として、最小は3.78㎡であり、1-3・4区水田と比べてもばらつきが大きい。このことは、2区西側と中央付近に露出する微高地が影響しているためと考えられる。2-3区東部でU字形の区画がみられるが、いかなる機能を有したのかは不明である。

配水構造 水路と推定される溝は確認できない。水口は東側と南側に設けられた部分が見られるので、全体に東

南方向に配水されたと考えられる。

1-2区水田(第64図、PL.41-5)

範囲 南北に約23mの範囲で南北に分かれて小区画が確認され、北側で7区画、南側で6区画が検出された。本来はほぼ全面に水田が展開したと考えられ、後世削平等により大部分は確認できていない。

比高・勾配 北端区画の標高156.55m、南端区画の標高156.14mで、比高41cmを測る。等高線に見られる勾配は南東方向に0.5m/20mで、約2.5%を示す。

畦 畔 北半では、北西からやや彎曲して南南東方向に向かう縦畦とこれに直交する横畦が見られ、南半では南北畦と等高線に直交する畦が見られる。北半の縦畦は幅約1mと広いが、高さは数cmでしかない。

水田区画 北半では長方形の小区画が横列に並ぶ。南半では三角形・長方形・不定形がみられ、一定しない。面積は計測可能な区画で5.74㎡、4.52㎡を測る。

配水構造 水路や水口は検出されず、確認できない。

1-5・6区水田(第65図、PL.37)

範囲 1-5・6区の調査区東壁に沿った場所で小区画が検出された。南北範囲は35mで、連続する箇所は見られず、部分的な検出に留まる。

1-6区では、新しくみて10世紀第1四半期に下る竪穴建物群が検出されており、水田区画はその上面で検出されたことになる。

比高・勾配 北端区画の標高153.33m、南端区画の標高152.68mで、南北の比高は65cmを測る。勾配は南東方向に0.6m/30mで2%を示す。

畦 畔 北西に傾く縦畦と、これに直交する横畦で構成される。基底部と思われる畦幅は100~30cmを測るが、本来の畦はもっと細かったと思われる。

水田区画 長方形で、全形の判明する区画はない。南東端の区画で面積約9㎡を測る。

配水構造 水路と水口は確認できず、配水については不明である。

3 溝

概要

本項では、調査時に登録された溝を一括して扱う。ただし、前項の「水田」で水路と認定・記述したものは除く。時期認定は、概ね浅間B軽石降下以前に遡るもの、浅間B軽石下のもの、中世以降に下るものを一括した。また、詳細な計測値等は第5表に記してある。このため、文章での説明を略したものもある。

1号溝(第73図、PL.38-1)

位置 X=45610・45615、Y=-78160・78165。

走向 北西-南東。

規模 上幅5.5m、下幅3.9m、深さ0.62m。

比高・勾配 底面標高156.50m。

断面形 片面レンズ状。

埋土 黒褐色土(4層)が一様に堆積し、上位を浅間B軽石(3層)が覆う。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 浅間B軽石の下位。

所見 泥流上面に形成されたもので、自然埋没谷か人為的溝か確認できない。埋土最上層が浅間B軽石下水田耕土となっており、開田時には埋まっていたことが明らかである。その後の沈下により窪みとなったものと思われる。従って浅間B軽石下水田に伴う水路ではない。時期は6世紀後半以降~11世紀代の範囲に収まる。

2号溝(第74図、PL.38)

位置 X=42620、Y=-78115。

走向 北-南。

規模 上幅1.08m、下幅0.32m、深さ0.24m。

比高・勾配 底面標高156.69m。

断面形 片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石が堆積する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 浅間B軽石下水田に伴う水路の可能性あり。

3・4号溝(第75図、PL.35-1)

位置 X=42530・42535、Y=-78115~78130。

走向 N-65°-E、やや彎曲。

規模 検出長16.0m、上幅0.30m、下幅0.10m、深さ0.04m、溝間隔1.36~1.50m。

比高・勾配 底面標高155.11~155.00m。一定勾配は認められない。

断面形 不整な逆台形。

埋土 浅間B軽石上位の暗褐色土。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 浅間B軽石下水田を切る。

所見 道に伴う側溝と思われる。

5号溝(第66図、PL.35-3)

詳細は「1-3区水田」の項で記載済み。

6・7・8・9号溝(第76図、PL.40)

位置 X=42535~42550、Y=-78065~78095。

走向 N-10°-EからN-70°-E方向に屈曲、さらに北東へ彎曲。

規模 検出長30.60m(7号溝)、上幅1.30m(8号溝)、下幅0.43m(8号溝)、深さ0.42m(8号溝)。

比高・勾配 底面標高154.91m~154.74m(8号溝)、154.86m~154.58m(7号溝)。底面の凹凸著しく、一定勾配は見られない。

断面形 不整な逆台形~U字形。

埋土 浅間B軽石や小礫を含む暗褐色土が堆積する。上位は浅間A軽石より古い暗褐色~灰褐色土が覆う。

出土遺物 6号溝から土器小片2点。

遺構重複関係 浅間B軽石下水田と、これに伴う1号畦・2号畦・10号溝を切る。7号溝を8号溝が切る。

所見 6号溝は7号溝からの分岐溝であろう。7号溝と8号溝は同一走向で4~5mずれており、同一機能と考えてよい。9号溝は7号溝の中間から南方向に分岐した溝である。7号・8号溝は、北東の微高地を北西から南東方向に流下する14号溝から分岐して西側へ、さらに屈曲して南流する水路と考えられる。ただし、底面はU字形跡による掘削痕が著しく、底面標高は一定の勾配を示さない。7号溝が先行して機能し、8号溝はある時期から地点をずらして付け替えられたと考えたい。時代は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切り込んでいるので、中世~近世のものとして捉えておく。

10号溝(第68・76図、PL.35-2・38-7・8)

詳細は1-3区水田で記載済み。

11号溝(第66図、PL.35・38-5)

位置 X=42530~52540、Y=-78110。

走向 N-S。

規模 検出長6.40m、上幅0.40m、下幅0.14m、深さ0.04m。

比高・勾配 底面標高155.11~155.04m。

断面形 極めて浅い片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石が堆積する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 浅間B軽石下水田の水路と考えられる5号溝の東側に並走し、5号溝との間には幅1m強の畦状部分がある。このことから、5号溝東側に沿った南北畦に沿った溝状窪みと考えられる。なお、11号溝の東に16.5m離れて浅間B軽石下水田の1号畦が南北に走る位置関係にある。

12号溝(第76図、PL.39-1)

位置 X=42540・42545、Y=-78090。

走向 N-5°-W。

規模 検出長5.80m、上幅0.62m、下幅0.20m、深さ0.04m。

比高・勾配 底面標高154.93~154.89m。南方へやや傾斜する。

断面形 極めて薄い片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石が堆積。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 浅間B軽石下水田の1号畦と平行して、その東側5mの位置に南北に走る位置関係から、浅間B軽石下水田に伴う溝状窪みと考えたい。

13号溝(第76図、PL.39-2)

位置 X=42535、Y=-78080・78085。

走向 N-33°-W。

規模 検出長3.10m、上幅0.31m、下幅0.10m、深さ0.04m。

比高・勾配 底面標高154.81m。一定勾配は認められない。

断面形 極めて薄い逆台形。

埋土 浅間B軽石を含む暗褐色土。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 西側に1.5m離れて1号道跡が並走する。浅間B軽石の直上から掘り込み、浅間B軽石降下後でさほど時間を経ずに掘り込まれたと考えておく。

14号溝(第77図、PL.40-4・5)

位置 X=42550・42555, Y=-78060~78070。

走向 N-70°-W。

規模 検出長17.00m、上幅1.80m、下幅0.38m、深さ0.22m。

比高・勾配 底面標高154.93mから比高38cmで南東に下り勾配。

断面形 不整な逆台形。

埋土 しぶい黄褐色土が堆積し、下層は洪水堆積物か流水による堆積と思われる砂層がみられる。

出土遺物 埋土から近世碗、中世青磁皿出土。

遺構重複関係 なし。

所見 本溝より北側はやや高い地形で、等高線と斜交方向に流下する。平面形状と土層断面から、数度にわたって埋没と掘り直しが行われたらしい。南西に10mほど離れた位置から7・8号溝が南西方向に流下する。この10m間隔を後世の削除と想定すれば、14号溝は地形変換線に沿った基幹水路であり、ここから分岐した灌漑用溝が7・8号溝だった可能性がある。

15号溝(第78図、PL.34-2)

位置 X=42535~42545, Y=-78085~78095。

走向 N-39°-W。

規模 検出長13.40m、上幅0.85m、下幅0.24m、深さ0.08m。

比高・勾配 底面標高154.91mから比高18cmで、南東方向に緩い下り勾配。

断面形 片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石を含むしぶい黄褐色土が堆積。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 浅間B軽石下水田を切り、水田に伴う1号畦の上ののる。

所見 1号畦にのる「道跡」とした窪みの本体遺構にあたる。水路か路面踏み固めによる溝状窪みかは判定ができない。

16号溝(第80図、PL.41-2・5)

位置 X=42600・42605, Y=-78090。

走向 N-20°-Wから緩く蛇行して、N-20°-Eに走る。等高線に沿う。

規模 検出長24.80m(中間未検出)、上幅0.85m、下幅0.50m、深さ0.15m。

比高・勾配 底面標高156.53mから比高25cmで南へ下り勾配。

断面形 浅い片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石を含む黒褐色土。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 浅間B軽石下水田区画を切る。3号高に切られる。

所見 等高線に沿っており、南方向に流水した水路の可能性はある。時期は浅間B軽石降下後で、中世段階と思われる。

17号溝(第80図、PL.41-3・4)

位置 X=42610~42620, Y=-78095。

走向 N-9°-W、わずかに蛇行する。

規模 検出長12.00m、上幅1.10m、下幅0.50m、深さ0.60m。

比高・勾配 底面標高156.04mを最高位とし、比高20cmで南に下り勾配。

断面形 逆台形。

埋土 浅間A軽石が充満する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 浅間A軽石の廃棄溝の可能性はある。

18号溝(付図1)

詳細は第5表を参照

所見 等高線にほぼ沿う直線溝で、浅間B軽石下水田畦を切る。中世以降に属し、性格は不明。

19・20・23号溝(付図1)

詳細は第5表を参照

所見 2-2区東半と西半で北西から南東にかけて走る窪みとみられる。地山に含まれる人頭大~60cmほどの礫が多量に露出する。上位を浅間B軽石がレンズ状に堆積しており、その上から攪乱、掘削を受けている。東西両側には浅間B軽石下水田区画が検出されているが、この部分では不明瞭であった。窪みと礫露出は浅間B軽石降下前の自然地形とみてよいが、浅間B軽石下水田との関係性は不明である。

21号溝(付図1)

詳細は第5表を参照

所見 表土層中から掘り込まれており、近代以降の攪乱溝と思われる。

22・25号溝(第81図)

詳細は第5表を参照

所見 両溝とも表土層直下で検出されており、近世~近代のものと思われる。両溝は7.3mの間隔を空けて並走しており、同一機能を持つと考えられる。なお、東側の22号溝は、土層断面から3回の掘り直しが認められることから、南北走向の水路と考えておく。

24号溝(欠番)

26号溝(第79図)

位置 X=42590・42595, Y=-78075・78080。

走向 N-45°-E。

規模 検出長10.10m、上幅0.58m、下幅0.13m、深さ0.05m。

比高・勾配 一定勾配は見られない。

断面形 片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石混土下で、砂と小礫が主。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 等高線に沿って走り、南東に見られた水田区画状の段差に並走することから、水田畦に伴う溝の可能性がある。ただし、明確な浅間B軽石堆積がみられないので断定は避ける。

27・28・29・30号溝(第82図, PL.43・44)

詳細は第5表を参照

所見 いずれも表土層直下で検出されており、近世~近代のものと思われる。同一規模で埋土も同じであることから機能は同じと考えられるが、性格は不明。

31・32・35・36・37・51・52・53・55号溝(付図1、第83図, PL.42・43・44・45・47)

詳細は第5表を参照

所見 調査区割のため調査時点で便宜的に名称を付したが、51・52号溝と31・32号溝は同一の溝である。ほぼ南北走向で、比高162cmで南方向に下る。幅1.5m前後の溝2条が重なって走向するが、掘り直しとみられる。55号溝は西方向、36・37号溝は南西方向に分岐する。なお、北西から32号溝が合流するが、形状が不明確な浅い窪みであることから人為的な溝とは考えにくい。機能的には、微高地上を流下する基幹水路と考えられる。掘削時期は不明だが、最終段階の埋土に現代のゴミが含まれることから、近代以降で現代圃場整備前までと考えられる。

33・34号溝(付図1, PL.42・45)

詳細は第5表を参照

所見 表土層直下で検出された。34号溝は南北走向で33号溝が分岐して東方へ折れる。極めて浅く水流痕跡が見られないことから、区画溝と思われる。時期は近代以降であろう。

38・49・56号溝(第85図, PL.37・39-6)

位置 X=42515~42530, Y=-78055・78060。

走向 N-23°-W。

規模 検出長22.20m、上幅0.84m、下幅0.40m、深さ0.19m。

比高・勾配 底面標高154.16mから比高44cmで南東へ下る。

断面形 浅い片面レンズ状。

埋土 浅間B軽石が堆積する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 51・52号溝以下、斜交する全ての溝に切られる。分岐溝である56号溝は西側の浅間B軽石下水田畦痕跡を切る。

所見 49号溝の東西に浅間B軽石下水田の縦畦が並走しており、埋土に浅間B軽石が堆積することからも、浅間B軽石下水田に伴う水路と考えられる。北側に7m離れた1-3区で、浅間B軽石下水田に伴う10号溝が検出されており、これと同一溝となる可能性が高い。56号溝は分岐して南方向に灌漑するための溝であろう。

39号溝(第84図、PL.39-7)

位置 X=42495・42500、Y=-78050~78060。
走向 N-72°-Wから西方向に彎曲。
規模 検出長12.00m、上幅0.62m、下幅0.22m、深さ0.12m。
比高・勾配 西端の底面標高153.43mから東南方向に、比高35cmで下る。
断面形 浅く不整な片面レンズ状。

埋土 暗褐色砂質土が堆積し、上面を浅間B軽石が覆う。

出土遺物 土師器小片1点。

遺構重複関係 なし。

所見 6世紀後半~11世紀代の時間幅の中で考えられ、南側に群在する9・10世紀代の堅穴建物群の北側を画する可能性がある。

40号溝(付図3、PL.38・39)

詳細は第5表を参照

所見 浅間B軽石混土層下(調査3面)で検出され、北西から南東に延びる。北側の1-4区では検出されていないが、浅間B軽石下水田の畦走向をトレースしているため、水田区画に伴う溝の可能性はあるが、確認するには至らなかった。

41号溝(付図1)

詳細は第5表を参照

所見 2-3区の西端で表土層直下から検出された東西走向の溝である。地山の泥流上面が微高地状に高くなっており、遺構面はかなり削平されている。時期や性格は不明。

42・43号溝(第69図、PL.35・39)

詳細は「1-4区水田」の項で記載済み。

44・45・46号溝(第86図、PL.46)

詳細は第5表を参照

所見 等高線に沿って並走する3条の溝群で、西壁での溝間隔は1m前後を測る。埋土はいずれも灰褐色シルト質土が堆積する。時期は中世と思われ、走向と規模から畑の畝間溝と類推できよう。

47・48・50号溝(第86図、PL.46)

詳細は第5表を参照

所見 畑と類推される44~46号溝と並走する北限の溝で、畑の区画溝の可能性はある。埋土は灰褐色シルト質土で、底部には浅間B軽石の再堆積もみられる。東半では、やや拡張して地山内の礫を廃棄したと考えられる部分がある。

54号溝(第86図、PL.47-4)

位置 X=42515~42530、Y=-78055・78060。

走向 N-13°-E。

規模 検出長10.90m、上幅0.60m、下幅0.10m、深さ0.17m。

比高・勾配 比高7cmで南東側がわずかに低い。

断面形 U字形。

埋土 暗褐色シルト質土が堆積。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 49号溝を切り、55号溝に切られる。

所見 畑と推定した44~46号溝と埋土が近似し、44号溝が本溝で合流して、これ以东に延びないことから、一連の畑関連遺構と考えておく。

57・58・59・60号溝(第86図、PL.48-1)

詳細は第5表を参照

所見 極めて浅く短い溝群で、東西方向にほぼ並走する。浅間B軽石下水田を切っており、54号溝の東側で延長部分が見られないことから、畑の畝間溝と考えておきたい。時期は中世以降。

61・62・63・65・66・67・68・69・70・71号溝(第87図、PL.48-5)

詳細は第5表を参照

所見 弱く蛇行しつつ、南北に走る溝群。溝間隔は1.0

～1.5m。溝幅は0.3m前後で極めて浅い。いずれも黒褐色土が堆積する。畑の畝間溝の可能性はあるが、削平により上位部分が不明で、確定するには至らない。

64号溝(第87図、PL.48-3)

詳細は第5表を参照

所見 東西走向の細い溝で、褐色砂質土が堆積する。浅間B軽石下水田区画を切っており、時期は中世と思われる。性格は不明。

4 掘立柱建物

概要

浅間B軽石の上面に相当する調査第1面で検出された柱穴配置から掘立柱建物を確認している。また、浅間B軽石の堆積がみられない地点においては、柱穴内埋土の特徴から同時代と確定し、それらの柱穴配置構造から掘立柱建物と認定したのもも多い。調査時点での登録は29棟に及び、整理で再考した結果微高地である1区に17棟、調査区西端の微高地2-2区で4棟、浅間B軽石下水田のみられた2-3区の低地面で2棟が分布する。帯状の細長い調査区のため、確認できた掘立柱建物の分布については大まかな傾向しか把握できないが、堅穴建物の場合と同じく、微高地地点に集中する分布傾向は明らかである。なお、調査段階で想定した柱穴配置構造のなかには、整理段階で再検討した結果、想定とは異なる配置構造で図示したものがある。これについては各遺構の記述で明記した。

1号掘立柱建物(第88図、PL.49)

位置 X=42515、Y=-78210。

規模 2×3間、長辺5.2m、短辺3.8m。床面積20.03㎡。

主軸方位 N-19°-W。

柱穴 1～8号柱穴、P1・P2の10基を認定した。東西側柱の規模はほぼ均質で、柱筋も通る。梁間柱穴に相当するP1とP2は小規模で東柱穴の可能性もある。P2は外側に突出する配置をみせる。側柱を構成する1～8号柱穴は、いずれも直径10～15cmの柱痕跡を残し(PL.49-2～9)、掘り方底面は方形で、柱径の2倍ほどの大きさである。柱痕跡には軟質な暗褐色土、掘り方にはやや締

まる黒色土が堆積する。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 中央部で6号土坑(火葬土坑)が重なるが新旧関係は不明。6号柱穴が7号土坑に切られる。

所見 北西と西側に柱列が延びる可能性があり、単純な長方形平面ではなく、西側に中心のある大型建物の一部との想定もありえよう。

2号掘立柱建物(第89図、PL.50)

位置 X=42515、Y=-78220。

規模 2×間、東辺2.7m。

主軸方位 N-24°-W

柱穴 1～4号柱穴の4基を認定した。柱穴底面の平面形は方形。埋土はいずれも黒褐色土が堆積する。柱痕跡は見られない。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 中央で9号土坑(火葬土坑)と重なるが、新旧関係は不明。

所見 1号掘立柱建物と2.3～2.5mの間隔を空けて並列するが、別建物か一連の建物かは不明である。

3～8号掘立柱建物(第90図、PL.50)

位置 X=42520、Y=-78215～78220。

規模 不明。

主軸方位 N-70°-E。

柱穴 柱穴列として想定可能なのは東西方向のピット列で、おそらく建物南辺に相当しよう。柱穴と比定し得るピットは9基で、規模は一辺20～25cmの方形を呈する。深さは20～40cmと一定しない。図示した南辺柱穴列は、同位置で南北に重複した位置に掘り込まれており、しかも規模がほぼ同じであることから、建物の建て直しに伴うものと考えたい。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 東側柱列が1号掘立柱建物と重なる。このため、1号掘立柱建物と一連の建物であった可能性も十分考えられる。

所見 調査時の所見では、6棟の建物が同一地点で重なっていると想定されたが、整理段階での検討を経て建替えの可能性ある2棟として図示した。柱列の可能性があるが矩形構造を示さないピットについては、柱筋のラ

インを示さずに図示した。これらのピットは別の建物が、同一建物を支える構造であった可能性は残る。その場合でも、建物自体は北ないし北西に構造主体が位置したと考えられ、調査区内の検出ピットのみによる建物復元は難しい。

9号掘立柱建物(第89図、PL.50-2)

位置 X=42515、Y=-78215。

規模 不明。

主軸方位 不明。

柱穴 2基を認定した。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 1号掘立柱建物の南側柱筋延長線上の西側に位置する。

所見 ピット2基のみのため、建物構造の可否は不明。1号掘立柱建物の西側に連なる構造物だった可能性は残るが、確認できていない。

10号掘立柱建物(第91図、PL.51)

位置 X=42595、Y=-78080。

規模 2×2間、長辺4.35m、短辺2.90m。床面積9.88㎡。

主軸方位 N-90°-W。

柱穴 P1~P6の6基を認定した。P4を除く5基は同形状、ほぼ同規模である。P4は浅く小規模のためP3-P5間の東柱穴か支柱穴の可能性が高い。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 北辺柱列のP1~P3を11号掘立柱建物の南辺柱列と共有する。

所見 西側柱筋が通ることから、本来は11号掘立柱建物と同一建物の可能性が高い。この場合、中央に掘り込まれたP6を床束柱と想定するならば、10号掘立柱建物部が板間で、11号掘立柱建物部が土間となろうか。

11号掘立柱建物(第91図、PL.51)

位置 X=42595、Y=-78080。

規模 2×2間、長辺4.30m、短辺3.00m。床面積12.14㎡。

主軸方位 N-90°-W。

柱穴 P1~P3、P7・P11・P15・P16・16号土坑の6基

を認定した。北辺の柱間1.5m、南辺の柱間2.1×2.3mと一致しない。東西辺の中央柱穴であるP7とP16は小規模で浅く、東柱穴か支柱穴であろう。北東隅の16号土坑は、柱筋にのるので柱穴に認定したが、規模が大きく深い。

出土遺物 16号土坑から須恵器蓋破片が1点出土しているが、重複する8号竪穴建物からの流れ込みの可能性が高い。

遺構重複関係 8号竪穴建物の上に構築される。

所見 南に連続する10号掘立柱建物と一連の建物と考えておく。

12号掘立柱建物(第92図、PL.51)

位置 X=42600、Y=-78080。

規模 北東半が河道跡により検出できず、不明。

主軸方位 N-7°-E。

柱穴 P1~P4の4基を認定した。西側柱筋に載るP1~P3は梁間か桁行かは不明。ピットは小規模で浅く、柱痕跡も不明瞭。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 1・2・3・7号竪穴建物と重複する関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。

13号掘立柱建物・1号櫛列(第93図、PL.52)

位置 X=42605・42610、Y=-78085・78090。

規模 1×2間、長辺3.95m、短辺2.90m。床面積9.23㎡。

主軸方位 N-2°-W。

柱穴 P1・P3・P4・P5・P7・P14の6基を認定した。P4とP14は隅ピットを結ぶ線より外方に出ており、平面的には不整形に近い。P14の規模が他より小さいことから、本来は正方形に近い建物の東柱穴かもしれない。柱穴埋土はほぼ同質で、P1のみ径10cmほどの柱痕跡が認められた(PL.52-2)。1号櫛列としたピット4基は、13号掘立柱建物の西辺に沿っている(PL.52-3)。このことから、13号掘立柱建物の西側柱穴列となる可能性を含む。ただし、これに対応する東側に柱穴列が確認できないので、建物構造の一部との検証はできない。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 6号竪穴建物を切る。

14号掘立柱建物(第94図、PL.52)

位置 X=42510、Y=-78170。

規模 2×3間、長辺3.40m、短辺2.10m。床面積7.34㎡。

主軸方位 N-29°-W。

柱穴 P1~P11の11基を認定した。柱穴は小規模で浅く、かなり高い位置からの掘り込みであったとするならば、検出できなかったピットの存在も無視できない。南北梁間の中間柱穴は非対称位置にある。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 浅間B軽石下水田の上から掘り込まれる。南に15号掘立柱建物の北柱筋が接している。

所見 平面形が平行四辺形状に歪むが、南北棟の簡易な建物と考えてよいだろう。

15号掘立柱建物(第94図、PL.52)

位置 X=42505・42510、Y=-78170。

規模 2×間、短辺3.60m。

主軸方位 N-66°-E(北辺)。

柱穴 P1~P5の5基を認定した。P4は極めて浅いことから、検出されなかったピットが存在した可能性がある。P4を除けば、柱間は1.8m等間で整っている。断面形でも、P1とP3は柱痕跡の形状を残す。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 棟方向を同じくして北側に接する14号掘立柱建物は、本建物跡に付属する建物の可能性がある。浅間B軽石下水田の上から掘り込まれる。

所見 南調査区外に延びる南北棟建物であろう。

16号掘立柱建物(第95図、PL.53)

位置 X=42490、Y=-78600。

規模 2×(1~2)間、長辺2.20m、短辺2.10m。床面積4.24㎡。

主軸方位 N-90°-W。

柱穴 P1~P8の8基を認定した。ピットは小規模で方形と円形、深さは一定しない。断面で柱痕跡を残すものは見られない。P5は底面に礫が露出する。柱間は1m前後。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 なし。

所見 平面正方形の簡易な建物と考えられる。

17号掘立柱建物(第96図、PL.53)

位置 X=42520、Y=-78070。

規模 2×間、短辺3.6m。

主軸方位 N-9°-W(東辺)。

柱穴 P1~P3の3基を認定した。P1では掘り方内に礫2個を置き、根固めとしたようである。3基とも掘鉢型の掘り方で、中央に直径10~15cmの柱痕跡を残す(PL.53-10)。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 浅間B軽石下水田との関係性は不明。

所見 東西棟と思われる。柱は立った状態で消滅したと思われる。

18号掘立柱建物(第97図、PL.54)

位置 X=42480、Y=-78065。

規模 2×2間、長辺2.65m、短辺2.50m。床面積6.35㎡。

主軸方位 N-10°-W。

柱穴 P3~P6、28・31号土坑、P48の7基を認定した。掘り方は円形で、柱痕跡は見られない。28・31号土坑の埋土観察では柱抜き取痕がみられる。

出土遺物 柱穴内からかわらけ小片出土。

遺構重複関係 柱穴と土坑が著しく重複しており、本来の建物構造と重複関係を見極めるのが困難である。

所見 平面正方形の四面建物で、平面規模の割に柱穴規模が大きいのが特徴。宝形の堂のような建物になろうか。重複遺構に関しても、柱穴が同一箇所ですれながら重なる位置関係にあるので、数度にわたる建替えの痕跡とみること可能だろう。この場合に、2×2間の四面か西方に延びる長方形建物が想定できるが、認定する根拠は得られなかった。

20号掘立柱建物(第98図、PL.55)

位置 X=42470、Y=-78060。

規模 2×(2)間、長辺4.80m、短辺3.60m。床面積15.71㎡。

主軸方位 N-80°-W。

柱穴 P26・97・99・100・103・104・106・109・111・

112・132・133の12基を認定した。また南東部にP110が位置するが、建物との関係性は不明。掘り方の形状と規模が一様で、柱痕跡とみられる形状もある。P26とP132は西側の桁行間の対称位置に同寸法で設けられている。東辺の柱筋P104-P111-P106は西辺と平行しないこと、P111のみ規模が小さいことから、本来はP106-P112-未検出の柱筋が存在した可能性を考えておきたい。

出土遺物 出土していない。

遺構重複関係 東側が31号溝と重複し、北西隅で棟方向の異なる27号掘立柱建物と重なるが、新旧関係は不明であった。

所見 平面長方形の東西棟と考えられ、東西棟を軸に左右対称の構造と推測できる。

19号掘立柱建物(第99図上、PL.54)

位置 X=42480、Y=-78065。

規模 2×(2)間、長辺3.50m、短辺2.70m。床面積8.56㎡。

主軸方位 N-4°-W。

柱穴 19掘立P2～P6・P36・P62・P117・28号土坑の9基を柱穴と想定した。柱穴は掘り方が円形で深さ70cm前後。19掘立P4の南東にP36、19掘立P5の南にP40が隣接し、いずれも柱穴に切られているので、建替え前の柱穴だった可能性が高い。

出土遺物 19掘立P6の掘り方埋土から完形のかわらけ1点(40010)が出土する。

遺構重複関係 柱穴と土坑が著しく重複しており、本来の建物構造と重複関係を見極めるのが困難である。

所見 調査段階で認定された南北棟の掘立柱建物である。西辺の柱間寸法が1.8m(6尺)等間、東辺が1.7m(5.5尺)と1.5m(5尺)。北辺は1.2m(4尺)等間、南辺は1.5m(5尺)と1.2m(4尺)。規模の大きいしっかりした柱穴のわりに、想定建物の規模が小さく、柱間寸法が不揃いであることは疑問点として残る。

21号掘立柱建物(第99図上、PL.56)

位置 X=42480、Y=-78065。

規模 2×(2)間、長辺2.85m、短辺2.70m。床面積7.16㎡。

主軸方位 N-9°-W。

柱穴 P39・P40・P56・P73・P91・P151・32号土坑の7基を柱穴と想定した。掘り方は不整形円で径30～50cm、深さ50～70cmと規模は大きい。柱痕跡は不明瞭だが、P73の底径から柱径は10cm程度の大きさと思われる。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 想定した19号掘立柱建物の西側に角度を若干変えて約1.2m移動した位置にある。

所見 方形に近い小規模な建物と復元想定された。北辺と東辺の柱間寸法は1.4m(4.5～5尺)、南辺は1.5m(5尺)と1.2m(4尺)で、不均等である。また、南辺中央柱穴のP40は柱筋から南に外れる。この想定案が正しければ、P40を19掘立P4が切る関係性から、21号掘立柱建物→19号掘立柱建物の新旧関係が生じる。ただし19号掘立柱建物と同様の理由で、この建物想定には疑問が残る。

25号掘立柱建物(第99図上、PL.56)

位置 X=42480、Y=-78065。

規模 2×(3)間、長辺3.35m、短辺3.15m。床面積11.01㎡。

主軸方位 N-86°-E。

柱穴 27号土坑・32号土坑・63号土坑・P67・P34・19掘立P4かP36・P40・P91・P151の9基が柱穴候補と想定した。柱穴の掘り方規模は径30～60cm、深さは50cm強で大きい。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 想定した19号掘立柱建物と21号掘立柱建物とほぼ重なる。東北隅の63号土坑がP62を切ることから、この建物想定が成り立つならば、19号掘立柱建物より新しいということになる。

所見 2×3間の東西棟として想定されたが、北辺と南辺の柱穴の一部が19・21号掘立柱建物の柱穴と同一であることから、これらと別の建物と想定することは難しい。柱穴を再利用しての建替えも考えられるが、19・21号掘立柱建物の想定に疑問があることから、確定は難しい。

19・21・25号掘立柱建物合成復元(第99図下)

位置 X=42475・42480、Y=-78065。

規模 3×3間総柱、長辺4.75m、短辺3.65m。床面

積17.4㎡。

主軸方位 N-3°-W。

柱 穴 以下の27基のピットを柱穴と想定した。

北列-27号土坑・32号土坑・63号土坑・P62

東列-63号土坑・P62・P67・P68・19掘立P2・19掘立P3・P34・P108

南辺-P92・52号土坑・P148・P108

西辺-P151・P91・P92

中央-P50・19掘立P6・P56・P57・19掘立P5・P40・19掘立P4・P36

これらは19・21・25号掘立柱建物で想定された柱穴を用いて、南側に延長し、さらに中央の柱を含めて総柱建物を想定したものである。19・21・25号掘立柱建物の南辺から南に1.5m(5尺)離れて配列するピット4基を南柱列と想定した。ただし、この南柱列のピットは深さ10cmほどと浅く、北側構造に想定した柱穴とは上部構造が異なると思われる。

出土遺物 出土していない。

所 見 建物の身舎は2×3間総柱の東西棟建物で、南側に庇や縁を設けた可能性がある。またこの身舎部分については、柱列周辺に夥しい数のピットが掘り込まれており、この地点に東西あるいは南北棟の建物が継続的に複数回建替えられたことが推測される。ここで「合成復元」とした建物想定はそのうちの一例に過ぎない。他に数種の想定が可能であるが、図面記録のみによる復元には限界がある。ここでは同一地点における建物柱穴の集積であることは間違いないことを記しておく。

なお、本建物の周辺には複数の火葬土坑と墓塚が分布しており、これと関連付けられるならば、墓地に関わる堂のような建物ではなかったらうか。

22号掘立柱建物(第101図上、PL.56)

位 置 X=42480・42485、Y=-78060・78065。

規 模 2×(3)間、長辺3.85m、短辺3.40m。

主軸方位 N-3°-W。

柱 穴 22掘立P1・22掘立P3・P58・P84・P87・P88のピット6基を柱穴と想定した。なお、西辺のP84に対応する東辺の柱穴として、12竪穴P9と22掘立P2が候補になるが、どちらも柱筋からずれる。掘り方の形状と規模はほぼ同じで、深さは50cm前後を測る。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 12号竪穴建物を掘り込んでいる。

所 見 南半部分が不明だが、梁間2間の南北棟建物と思われる。

23号掘立柱建物(欠番)

24号掘立柱建物(第101図下、PL.56)

位 置 X=42485、Y=-78060・78065。

規 模 不明。

主軸方位 N-1°-E。

柱 穴 24掘立P1~P4・P86の5基を柱穴と想定した。

柱穴掘り方は小規模で、底面は方形を呈する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 南半で24~26号土坑、30・35号土坑と重複するが、新旧関係は不明。

所 見 南方延長方向で北辺柱列に対応する南柱列が確認できない。柱穴がかなり浅いため、遺構確認の段階ですでに失われていた可能性がある。

26号掘立柱建物(第102図、PL.56)

位 置 X=42475、Y=-78065。

規 模 2×(2)間、長辺2.90m、短辺2.80m。床面積6.6㎡。

主軸方位 N-3°-W。

柱 穴 26掘立P1・26掘立P2・P30・P125・P127・P131の6基を柱穴と想定した。掘り方は円形・方形で、深さ30cmを測るP127を除けば、他は浅い。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 北半で19・21・25号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は確認できない。

所 見 東西棟の長方形建物と思われるが、西側は未調査区となるため確認できない。

27号掘立柱建物(第103図、PL.56)

位 置 X=42470、Y=-78060。

規 模 2×2間、長辺4.30m、短辺2.75m。床面積11.66㎡。

主軸方位 N-76°-E。

柱 穴 8基を柱穴と想定した。掘り方は円形か不楕円

形で、径20cm前後、深さ10cm未満と小規模である。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 南東隅で20号掘立柱建物、中央で42・43号土坑と重複するが、新旧関係は不明。

所見 建物規模や柱穴形状は異なるが、19・21・25号掘立柱建物の南側に2mほどの間隔を空けて並列する位置関係にある。また、一部重複しながらも、20号掘立柱建物と26号掘立柱建物は、近似した建物規模と棟方向を同じくすることで、継続的に建て直された可能性がある。

28号掘立柱建物(第104図、PL.56)

位置 X=42460、Y=-78045・78050。

規模 1×3間、長辺5.15m、短辺1.47m。

主軸方位 N-88°-W。

柱穴 8基を柱穴と想定した。掘り方の平面規模は径25~36cm、深さ11~68cmと一定しない。柱痕跡は不明瞭だが、底径5cmが最小で、柱径に近いと思われる。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 4号高、29号掘立柱建物と重複するが、新旧関係不明。

所見 幅が狭いため、居住用建物とは考えにくい。関連柱列が確認できないため、門のような構造物の想定も難しい。

29号掘立柱建物(第105図、PL.56)

位置 X=42460、Y=-78050。

規模 (1×2)間、長辺2.00m。

主軸方位 N-65°-E。

柱穴 6基を柱穴と想定した。掘り方の平面形は円形、規模は径18~30cm、深さは24cmを測るP1を除いて、10cm以下と浅い。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 4号高、28号掘立柱建物と重複するが、新旧関係不明。

所見 南側未調査区に延長部分が存在する可能性はあるが、確認できていない。

5 礎石列、沢遺構

1号礎石列(第106図)

位置 X=42590・42595、Y=-78070・78075。

規模 4.50m、礎石間距離1.2m等間。

主軸方位 N-32°-W。

礎石 60~30cmの亜角礫を一列に並べる。礎石上面レベルは北西隅で標高155.93m、南東隅が155.86mで比高7cm。西側にも同大の礫が6点、北西延長上に1点みられるが、矩形配置を示さない。

出土遺物 南東隅礎石の脇から平安時代の土器片出土。

遺構重複関係 なし。

所見 等間隔に並ぶ石列と捉え得るが、建物構造は想定できない。西側の石列が移動した可能性もあるが、確認はできなかった。

2号礎石列(第106図)

位置 X=42585・42590、Y=-78065・78070。

規模 3.50m、礎石間距離1.5mと1.0m。

主軸方位 N-33°-W。

礎石 1号礎石列と同様に礫4点が並ぶ。西側に隣接して礫3点が検出されたが配列しない。

1号沢遺構(第107図)

位置 X=42595~42610、Y=-78065~78080。

規模 検出長23.00m、上幅2.30~1.20m、下幅0.30m、深さ0.25m。

走向 N-35°-Wでやや蛇行する。

比高・勾配 北西から比高56cmで南東方向に下り勾配を示す。

所見 調査所見では自然河川とみる。この流向は、調査地地山に刻まれた幾筋かの溝状窪地と同一走向である。人為的溝か否かの判定は困難だが、1.7m離れて並行する礎石列は、沢の走向を意識した配置と推測される。時期は不明。

6 墓塚・土坑

本遺跡では、主に中世～近世の火葬土坑・墓塚・性格不明の土坑が検出されている。精査の段階で「柱穴」と判明した場合でも、土坑名称は替えていない。火葬土坑と墓塚については、人骨の検出や六道銭の出土、形態的特徴に基づいて分類したが、その他の性格不明の土坑については、後に「柱穴」と推定されたものを除いて、ここで扱うこととする。

なお、墓塚・土坑の詳細な計測値等については第9・11表で掲載してある。ここでは、種類ごとにその特徴について記載する。

火葬土坑(第108～110図、PL.57～62)

6号土坑、9号土坑、43号土坑、45号土坑の4基が検出された。このうち、6・43・45号土坑は隅丸長方形の長辺中央に直交する通気孔を設けたものである。土坑主軸は隣接する溝走向や掘立柱建物の方向とほぼあわせる。長軸規模は1.25～0.89mで、被葬者が成人であれば伸展状態ではなかったと考えられる。内部には炭・灰が堆積し、壁際には焼土塊が見られるので、焼けた壁土が崩落したものであろう。だが、著しく焼けた壁は見られない。

炭と灰の堆積に混じって小骨片が全体に含まれる。これらは、拾骨後の取り残しの骨とみられるが、43号土坑からは焼けた頭蓋骨と四肢骨片が多く出土した。通気孔は内径20cmほどで、壁の下位から掘り込み、緩い傾斜で立ち上がる。43号土坑と45号土坑は1.3m離れて左右対称の状態に通気孔が相対する(第109図、PL.62-5)。このことから通気孔は一定方向に限らなかったらしい。9号土坑は通気孔が確認できなかったが、西壁部中央が調査区外に接して不明瞭な傾斜面になっている(PL.58-3)。この部分が通気孔立ち上がりであった可能性は残る。なお、43号土坑は中央底面に直径0.4m、深さ0.25mの円形孔が空いている。本土坑に伴う施設か、あるいは先立つ柱穴かは確認できなかった。

43号土坑からは、男性成人と思われる一骨体の焼骨と、被熱していない歯6本が検出された。焼骨はこの土坑内で茶色にふされたと推定されるが、歯はどのような経緯でここに残されたものか。鑑定結果からは、成人男性の

の焼骨重量比の32.7%しか出土していない。これ以外は集骨された可能性が考えられる。なお、43号土坑からは「嘉祐元宝」「永楽通宝」「銭種不明」の銭貨3枚が出土している。被熱していない歯を火葬せずに埋葬したと仮定するならば、火葬後に別の個体を埋葬し、これに六道銭3枚を副葬したと想定することも可能だと思う。43号土坑の時期は、出土銭貨から15世紀代～江戸時代初頭で見込む必要がある。

火葬土坑の分布は、2-2区西端と1-6区西側に各々2基が見られる。双方とも掘立柱建物群と同一地点であり、特に後者では北側に墓塚群を伴っている。

墓塚(第108～111図、PL.58～60・63)

火葬土坑以外で、人骨が検出されたものはない。墓とした認定根拠は、かわらけや六道銭と考えられる銭貨が添えてあることを条件とし、またこれと同一規模・形状で意図的な配置関係が想定できるものも含めた。さらに、埋葬後に30～50cm大の礫を載せる傾向がうかがわれることから、これらも墓塚として扱った。

以上の特徴から墓塚と認定したのは17基である。形状は隅丸長方形か楕円形が最も多く、通気孔のない火葬土坑とほぼ同形・規模である。最も長軸寸法の大きい24・25号土坑でも長さ1.13mであり、少なくとも成人の伸展姿勢で直葬されたのでないことが分かる。火葬後の集骨を埋納した可能性もあろうが、人骨が未検出のため確認できない。18号土坑は深さが62cmと深く、23号土坑では20cmと浅い。後者は削平を受けたためとも考えられるが、埋土上に載せた礫を墓標的意味合いで考えるならば、深さは必ずしも一定でなかったようである。円形の7号土坑と楕円形の10号土坑は、埋土に炭化物が含まれており、調査時点では火葬の可能性が指摘された。ただし骨片が見られないので、火葬土坑とはせず墓塚の可能性を考えたい。炭は埋め戻した際のものであろう。19号土坑は不整円形で長径1.37mと最も規模が大きい。中央埋土からかわらけ1点と銭貨1枚が出土しており、墓塚と考えられた。底面が平坦に整えられており、江戸時代の早稲土坑にも似るが、東辺と南辺が直線的な平面形から早稲設置の土坑とは異なる。

墓塚の長軸方向は、概ね南北方向にそろえており、おそらく頭位を一定とし、他の墓塚との位置関係に限定さ

れたと考えられる。

六道銭が出土した墓壇は10基で、17号土坑と48号土坑で各5枚が出土した以外は1～3枚であった。出土銭の中では「永楽通宝」が最も新しく、宋明銭で構成される。かわりけは、19号土坑と49号土坑から出土しており、15世紀後半～16世紀代の時間幅の中で考えられ、出土銭貨の副葬年代とも矛盾はない。

墓壇の埋土上層には、18・20・23・24・25号土坑のように大きな礫を置く傾向がうかがわれ、30号土坑では五輪塔の火輪を使用している。

墓壇の分布は、火葬土坑と同じく2-2区西端と南東の1-5・6区に限られる。特に1-6区では19・21・25号掘立柱建物(第99図)の北辺と東辺に沿うような分布状況を見せ、その南側に火葬土坑2基が並列する(第109図)。このなかで北辺に沿った墓群のうち、25・29号土坑が南北主軸でわずかにずれて隣接し、24・30号土坑は東西主軸と同様にずれて隣接する位置関係にある。前者の29号土坑を後者の30号土坑が切っているの、前者の埋葬後しばらく時間をおいて後者の埋葬がなされたと考えておく。東辺に沿った墓群では、50号土坑～49号土坑の順で長軸端部が重複しており、継起的な埋葬と考えられる。なお、この東辺に沿った墓群と同軸方向で重なる55・56・57号土坑は、認定根拠を欠くために墓壇としなかった。特に55・56号土坑は多量の礫や五輪塔の一部を投棄しており、最終的には廃棄坑として使われたらしい。1-6区墓群の南西に位置する46号土坑は長軸長0.48mと墓壇の中で最小である。ここからは下顎臼歯1点が検出されており、鑑定の結果生後9か月以上2歳以下の乳児のものだった。

土坑(第112～115図、PL.64・65)

ここでは、調査で「土坑」と登録されたうち、火葬土坑と墓壇と認定した以外のものを扱う。50基が登録されており、1号井戸とされたものも含めて51基とする。各々の計測値等については第11表に記載したので割愛する。

土坑の平面形は、円形・隅丸長方形・楕円形・不定形がみられる。規模では楕円形の39号土坑が1.42mと最大で、最小は68号土坑の0.23mである。時期・性格の異なることが推測されるため、単純な比較は避けたいが、概ね小型円形のものは柱穴、長方形か楕円形で長さ1m

前後のものは墓壇の可能性が考えられる。27号土坑(第113図、PL.64-11)は、掘り方形状や断面に見られる柱痕跡、及び掘立柱建物群の集中する箇所で見られることから、これらを構成する柱穴の1本であった可能性が高い。1-6区東半に位置する39・40・41号土坑の3基はL字状に配列した同規模の楕円形土坑で、この西側に墓壇群が分布することから、これらと関連する墓壇の可能性が高い。

土坑の形状に限らず、土坑内に大型礫や石塔片・石臼片を廃棄した例がみられる(PL.65-6)。42・55・56号土坑がそれであり、いずれも墓群内に分布することから、少なくとも最終段階では不要石類の廃棄土坑の可能性があろう。

1号井戸については、調査段階で圃場整備前の廃絶と考えられており、多量の礫が投げ込まれている状態から、これも破棄坑と考えられよう。深さは1mに満たず近世以降の井戸として認めたいので、ここでは土坑として扱った。

7 ピット(第116～120図、PL.66～73)

円形平面で小規模な穴を「ピット」と分類してある。深いものは柱穴の可能性が高いが、建物構造を想定できる配置が確認できなかったため、ピットとして一括した。第118図で示したように、1-6区の掘立柱建物群に伴う多くのピットが集中分布しており、この地点のピット群は大部分が柱穴と考えられる。

ピットに関する詳細な計測値等は第12表に掲げておく。この中で掘立柱建物等の柱穴と認定したものも一括して示すこととする。なお挿図中では「1号ピット」を「P1」とする略称で示した。

8 方形区画(第121図)

位置 X=42465・42470、Y=-78060・78065。

規模 東西7.85m以上、南北6.90m以上。

平面形 方形区画の北東隅部。

主軸方向 東辺の溝走向はN-5°-Eに傾く。

構造 東辺は上幅30cm前後、深さ2～3cmの非常に浅い溝2条が並走し、北辺はやはり浅い溝で囲む。内区は南にやや傾斜する平坦面で標高153.00～152.90mを測る。北側外区より段差をもって10cmほど低い。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 東側に70cmの間隔を空けて31号溝が南北に並行する。北東隅で63号土坑を切る。北側に20号掘立柱建物の南柱列が接するが、新旧関係は不明。

所見 内区は宅地造成区画と推測されるが、建物痕跡は確認できない。時期は、63号土坑を切り、31号溝に並行する位置関係を同時期と想定すれば、近世以降のものと思われる。

9 畠

1号畠(第122図)

位置 $X=42520 \cdot 42525$, $Y=-78175 \sim 78185$ 。

規模 最長範囲で13m前後が検出された。

形状 西南西から東北東にかけて走る溝群。溝は畝間と考えられ、もっとも幅広いもので幅30cm前後、狭いもので10cm強である。畝間は10cm前後と狭く、複数回の「サク切り」に伴うものであろう。

埋土 浅間B軽石を多く含む黒褐色土。

出土遺物 なし。

所見 浅間B軽石降下以後のもので、埋土の特徴から中世と推定される。

2号畠

位置 1-2区。座標値不明。

規模・形状 遺構図に確認できず。

埋土 浅間B軽石を多く含む黒褐色土。

出土遺物 なし。

所見 浅間B軽石降下以後のもので、埋土の特徴から中世と思われる。

3号畠(第80図)

位置 $X=42620$, $Y=-78090 \sim 78095$ 。

規模 最長範囲で6m前後が検出された。

形状 西から東にかけて走る溝2条。溝の幅は20cm前後、溝間距離は1.8m。中間にも畝間溝があったと思われるが、削平されたらしい。

埋土 浅間B軽石を多く含む黒褐色土。

出土遺物 なし。

所見 浅間B軽石降下以後のもので、埋土の特徴から中世と思われる。

4号畠(第87図)

位置 $X=42460 \cdot 42465$, $Y=-78505$ 。

規模 最長範囲で3m前後が検出された。

形状 ほぼ南北方向に沿って走る小溝群。土層断面で、畝間は50cm前後の間隔を測る。畝は浅間B軽石とその上に形成された黒色土と思われるが、上面を削平されて畝形状は明瞭でない。溝の深さは13cmほどが残る。当時の畝頂からの深さは20cm前後であったろう。

埋土 浅間B軽石を多く含む黒褐色土。

出土遺物 なし。

所見 浅間B軽石直上に形成された黒色土を耕土としており、上限を12世紀とする時期で考えておきたい。

10 出土遺物

遺構に伴う遺物のうち、器形や時期認定可能なものについては、可能な限り図示した。また遺構外出土品についても、遺跡の性格を表すと考えられるものについて図示した。

図未掲載の遺物は、平安時代の土師器杯甕類7665g・須恵器及び須恵質杯碗類8655g、灰釉碗片10g(1点)、近世～近現代陶磁器類932g(63点)、黒曜石剥片14g(4点)、中近世の石臼と不明石製品2点である。

調査区ごとに出土量を見ると、微高地高位にあたる1-2区が最多で、土師器類1065g、須恵器・須恵質類2735gであった。これは、1-2区に存在する1～10号竪穴建物および滅失した竪穴建物に伴うものと考えられよう。

灰釉陶器片はわずかに小片1点と少ない。また中世陶磁器類もわずかで、在地系銅・内耳土器類がみられた。

第4表 竪穴建物一覧表

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位座標値)		平面形	主軸方向	規模(m, m)			壁高(m)
			X軸	Y軸			長辺	短辺	床面積	
1	竪穴建物	1-2	42605	-78080	隅丸長方形	N-17°-W	4.03	3.21	9.03	0.42
2	竪穴建物	1-2	42600	-78080	隅丸長方形	N-22°-W	3.31	2.21	5.71	0.35
3	竪穴建物	1-2	42600	-78080	長方形	N-11°-W	5.08	3.99	12.72	0.52
4	竪穴建物	1-2	42595	-78075	正方形	N-37°-W	3.25	3.02	9.58	0.1
5	竪穴建物	1-2	42600	-78080	長方形	N-58°-E	4.09	2.85	11.1	0.12
6	竪穴建物	1-2	42605	-78085	長方形	N-85°-E	3.28	2.37	6.31	
7	竪穴建物	1-2	42600	-78085	隅丸長方形	N-14°-E	3.69	2.49	9.02	
8	竪穴建物	1-2	42595	-78080	長方形	N-27°-W	4.57	4.07	16.44	0.1
9	竪穴建物	1-2	42600	-78085	長方形	N-15°-E	5.32	2.10以上	10.49	0.03
10	竪穴建物	1-2	42605	-78080	正方形	N-80°-E	5.48	4.38以上	18.32	0.15
11	竪穴建物	1-6	42475	-78060	正方形	N-4°-W	3.25	2.31	6.66	0.06
12	竪穴建物	1-6	42480	-78060	長方形	N-0°	4.39	3.29	9.65	0.31
13	竪穴建物	1-6	42475	-78065	不整長方形	N-80°-E	3.73	3.43	8.97	0.13
14	竪穴建物	1-6	42475	-78060	不整長方形	N-5°-E	3.03	1.51以上	1.6	0.36
15	竪穴建物	1-6	42470	-78060	隅丸長方形	N-0°	3.23	2.38	7.3	0.14
16	竪穴建物	1-6	42465	-78060	隅丸長方形	N-0°	4.48以上	4.09	13.42	0.12
17	竪穴建物	1-6	42465	-78060		N-59°-W	2.94	1.10以上	1.9	0.08
18	竪穴建物	1-6	42460	-78055	正方形	N-80°-W	4.26	3.87以上	3.17	0.11
19	竪穴建物	1-6	42460	-78055	正方形	N-80°-W	2.74	1.6以上	7.4	
20	竪穴建物	1-6	42460	-78055	隅丸長方形	N-4°-E	3.15	3.08	7.4	0.43
21	竪穴建物	1-6	42465	-78060	異形	不明	3.72以上	3.23	4.97	0.09
22+23	竪穴建物	1-6	42465	-78060	方形か	N-14°-E	2.2	1.65以上	3.16	
24	竪穴建物	1-6	42465	-78050	長方形か	N-2°-E	4.46	3.86以上	21.18	0.08
25	竪穴建物	1-6	42465	-78045		N-90°-E	2.31	1.11以上	1.39	0.1
26	竪穴建物	1-6	42470	-78050	正方形	N-31°-W	3.18	2.95	9.22	
27	竪穴建物	1-6	42470	-78050	不整長方形	N-41°-W	2.53以上	1.69	1.74	
28	竪穴建物	1-6	42470	-78050	長方形	N-54°-W	2.05	2.20	4.34	0.06
29	竪穴建物	1-6	42470	-78050	正方形	N-63°-E	2.57	2.39	5.69	0.09
30	竪穴建物	1-6	42475	-78050	長方形	N-71°-W	2.56	2.51	8.14	0.1
31	竪穴建物	1-6	42480	-78050	正方形	N-5°-W	2.58	2.41	8.47	0.16
32	竪穴建物	1-6	42465	-78045	長方形	N-41°-W	4.29	3.75	13.75	0.11
33	竪穴建物	1-6	42460	-78050		N-79°-E	2.91	1.30	4.21	0.05
34	竪穴建物	1-6	42480	-78045	隅丸長方形	N-8°-W	4.36	2.05	5.63	0.06
35	竪穴建物	1-6	42480	-78065	正方形	N-74°-E	3.41	3.24	10.3	
36	竪穴建物	1-6	42475	-78060	不整長方形	N-5°-E	2.95	1.17	4.33	
37	竪穴建物	1-5	42485	-78065		N-7°-E	2.34	2.07	3.8	0.25
38	竪穴建物	1-6	42480	-78055		N-4°-E		1.29以上	3.35	0.14
39	竪穴建物	1-6	42470	-78045	方形か	N-3°-W	4.51	1.23以上	3.41	
40	竪穴建物	1-6	42465	-78045	方形か	N-18°-W	1.94以上	2.44	3.72	
41	竪穴建物	1-6	42465	-78055		N-24°-E	1.37以上	0.62以上	0.74	0.02
42	竪穴建物	1-6	42465	-78060		N-40°-E	2.29以上	1.24以上	2.13	
43	竪穴建物	1-6	42470	-78065		N-57°-W	1.65		1.5	0.07
44	竪穴建物	1-6	42470	-78065		N-24°-E	1.72以上	1.60以上	1.18	
45	竪穴建物	1-6	42470	-78065		不明	0.96以上	0.37以上	0.3	
46	竪穴建物	1-6	42475	-78065		N-17°-W	1.35以上	2.42	2.17	

第2章 菜師遺跡・萬行遺跡

第5表 溝一覽表

遺構 番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)			走向		規模最大値(m)				底面標高(m)	
			X軸値	Y軸値		走向角	掘出長	上幅	下幅	深さ	最高値	最低値	比高
1	溝	2-1	42610~42615	-78155~-78165	直線	N-37°-W	2.06	5.50	3.90	0.62		156.50	
2	溝	1-1	42620	-78115	直線	N-9°-E	1.28	1.08	0.32	0.24	156.69	156.66	0.03
3	溝	1-3	42530~42535	-78125~-78130	彎曲	N-65°-E	8.38	0.30	0.06	0.04	155.11	155.04	0.07
4	溝	1-3	42530~42535	-78115~-78130	彎曲	N-65°-E	16.00	0.30	0.10	0.02	155.15	155.00	0.05
5	溝	1-3	42530~42540	-78110~-78115	直線	N-8°-W	10.00	3.00	0.68	0.20	154.95	154.91	0.04
6	溝	1-3	42535	-78090~-78095	彎曲	N-45°-E	4.10	0.25	0.08				
7	溝	1-3	42535~42545	-78065~-78090	屈曲	N-10°-E→N-72°-E	30.60	0.42	0.08	0.03	154.86	154.55	0.31
8	溝	1-3	42535~42550	-78070~-78090	屈曲	N-10°-E→N-70°-E	23.80	0.32	0.12	0.07	154.84	154.74	0.10
9	溝	1-3	42535~42540	-78075	直線	N-0°	3.10	0.50	0.20	0.17	154.61	154.51	0.10
10	溝	1-3	42540~42550	-78065~-78075	直線	N-32°-W	11.80	0.85	0.32	0.14	154.73	154.41	0.32
11	溝	1-3	42530~42540	-78110	直線	N-0°	6.40	0.40	0.14	0.04	154.95	154.91	0.04
12	溝	1-3	42540~42545	-78090	直線	N-5°-W	5.80	0.62	0.20	0.04	154.93	154.89	0.04
13	溝	1-3	42535	-78080~-78085	直線	N-33°-W	3.10	0.31	0.10	0.04	154.81	154.79	0.03
14	溝	1-3	42550~42555	-78060~-78070	直線	N-70°-W	17.00	1.80	0.38	0.22	154.93	154.55	0.38
15	溝	1-3	42535~42545	-78085~-78095	直線	N-39°-W	13.40	0.85	0.24	0.08	154.91	154.72	0.18
16	溝	1-2	42600~42605	-78090	直線	N-20°-W~N-20°-E	24.80	0.80	0.50	0.15	156.53	156.28	0.25
17	溝	1-2	42610~42620	-78095	直線	N-9°-W	12.00	1.10	0.50	0.60	156.04	155.84	0.20
18	溝	2-2	42530~	-78145	直線	N-66°-E	3.93	0.22	0.08	0.03	155.27	155.24	0.03
19	溝	2-2	42525~42530	-78155~-78170	自然地形	N-38°-W	7.63	10.98	1.48	0.20	155.31	154.94	0.37
20	溝	2-2	42525	-78190	自然地形	N-84°-E	3.30	0.52	0.28	0.12	155.54	155.45	0.09
21	溝	2-2	42520~42525	-78185~-78195	直線	N-48°-W	7.00	7.50	2.50	0.11	155.58	155.21	0.37
22	溝	2-2	42520	-78205	直線	N-14°-W	6.44	1.55	0.45	0.50	155.43	155.35	0.08
23	溝	2-2	42525	-78200~-78210	自然地形	N-8°-W	6.00	10.20	4.60	0.33	155.43	155.28	0.15
25	溝	2-2	42515~42520	-78210~-78215	直線	N-12°-W	3.30	1.30	0.36	0.18	155.84	155.75	0.09
26	溝	1-2	42590~42595	-78075~-78080	直線	N-45°-E	10.10	0.58	0.13	0.05	155.93	155.91	0.02
27	溝	1-5	42490	-78050~-78.55	直線	N-84°-E	4.68	1.03	0.16	0.20	153.42	153.27	0.15
28	溝	1-5	42490	-78050~-78055	直線	N-95°-E	5.92	0.25	0.12	0.15	153.28	153.14	0.14
29	溝	1-5	42490	-78050~-78055	直線	N-93°-E	6.78	0.48	0.28	0.34	153.07	153.82	0.25
30	溝	1-5	42490	-78055~	直線	N-7°-E	2.84	0.30	0.14	0.07	153.36	153.30	0.06
31	溝	1-5	42460	-78055~	直線	N-0°	41.70	1.30	0.52	0.08	153.44	152.44	1.00
32	溝	1-5	42480~42495	-78055~-78060	直線	N-0°	12.40	0.50	1.20	0.15	153.26	153.00	0.26
33	溝	1-5	42510	-78050~-78055	直線	N-90°	1.96	0.36	0.12	0.06	153.71	153.62	0.09
34	溝	1-5	42510~42515	-78055	直線	N-6°-E	6.65	0.50	0.20	0.19	152.62	152.61	0.03
35	溝	1-5	不明	不明									
36	溝	1-5	42500~42515	-78055	屈曲	N-65°-E→N-6°-E	16.20	3.10	2.60	0.32	153.61	153.44	0.17
37	溝	1-5	42500~42505	-78060~-78065	直線	N-51°-E	7.50	0.88	0.30	0.35	153.58	153.32	0.26
38	溝	1-5	42515	-78055	直線	N-55°-W	2.00	0.38	0.20	0.07	153.73	153.72	0.01
39	溝	1-5	42495~42500	-78050~-45060	彎曲	N-72°-W	12.00	0.62	0.22	0.12	153.43	153.08	0.35
40	溝	1-5	42510~42515	-78055	直線	N-27°-W	4.25	0.62	0.14	0.12	153.72	153.58	0.14
41	溝	2-3	42500~42505	-78210~-78215	直線	N-80°-E	7.30	1.10	0.66	0.17	155.23	155.14	0.09
42	溝	1-4	42520~42525	-78110	彎曲	N-8°-E	4.98	2.10	1.00	0.22	154.37	154.24	0.13
43	溝	1-4	42520~42525	-78110	直線	N-15°-W	3.00	0.58	0.10	0.10	154.57	154.50	0.07
44	溝	1-6	42520	-78060~-78065	直線	N-61°-E	7.83	0.45	0.15	0.17	154.11	154.07	0.04
45	溝	1-6	42520	-78065	直線	N-81°-E	2.38	0.35	0.06	0.15	154.14	154.11	0.03
46	溝	1-6	42525	-78055~-78065	直線	N-69°-E	13.94	1.30	1.00	0.25	154.21	154.01	0.20
47	溝	1-6	42525~42530	-78055~-78065	直線	N-47°-E	12.10	0.72	0.12	0.35	154.06	153.97	0.09
48	溝	1-6	42525~42530	-78055~-78065	直線	N-71°-E	11.95	0.70	0.40	0.28	154.16	154.08	0.08
49	溝	1-6	42515~42530	-78055~-78060	直線	N-23°-W	18.10	0.84	0.40	0.19	154.16	153.88	0.28
50	溝	1-6	42530	-78055	直線	N-62°-E	3.50	0.20	0.10	0.05	154.24	154.17	0.07
51	溝	1-6	42510~42525	-78055	彎曲	N-10°-E	13.00	0.90	0.40	0.40	154.06	153.70	0.36
52	溝	1-6	42510~42525	-78055	直線	N-10°-E	10.50	1.20	1.00	0.25	153.78	153.74	0.04
53	溝	1-6	42520~42525	-78055	直線	N-21°-E	2.30	0.42	0.06	0.09	153.90	153.94	0.04
54	溝	1-6	42515~42530	-78055~-78060	直線	N-13°-E	10.90	0.60	0.10	0.17	153.96	153.89	0.07
55	溝	1-6	42520~42525	-78055~-78060	直線	N-84°-E	3.40	0.70	0.22	0.09	154.13	154.09	0.04
56	溝	1-6	42520	-78060	直線	N-21°-E	1.35	0.50	0.20	0.03	154.02	154.00	0.02
57	溝	1-6	42515	-78060~-78065	直線	N-98°-W	3.58	0.30	0.12	0.01	154.08	153.99	0.09
58	溝	1-6	42515	-78060~-78065	直線	N-87°-W	2.96	0.21	0.06	0.02	154.12	154.04	0.08
59	溝	1-6	42515	-78060~-78065	直線	N-87°-W	5.54	0.26	0.10	0.05	154.14	154.04	0.10

第3節 築師遺跡で検出された遺構と遺物

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)		走向		規模最大値(m)				底面標高(m)		
			X軸値	Y軸値	直線	走向角	検出長	上幅	下幅	深さ	最高値	最低値	比高
60	溝	1-6	42520~42525	-78010~-78065	直線	N-80°-W	3.50	0.30	0.12	0.06	154.10	154.02	0.08
61	溝	1-6	42460~42475	-78055	直線	N-7°-E	13.65	0.50	0.30	0.10	142.99	152.79	0.07
62	溝	1-6	42470	-78055	直線	N-2°-E	2.80	0.50	2.20	0.07	152.87	152.79	0.08
63	溝	1-6	42470	-78050	直線	N-10°-W	2.22	0.40	0.14	2.40	0.05	152.90	0.04
64	溝	1-6	42465~42470	-78045~-78050	直線	N-67°-E	5.80	0.30	0.12	0.04	152.90	152.77	0.02
65	溝	1-6	42470~42475	-78055	彎曲	N-10°-E	3.66	0.36	0.24	0.06	152.99	152.91	0.08
66	溝	1-6	42470~42475	-78050~-78055	彎曲	N-7°-E	5.10	0.42	0.20	0.04	153.01	153.89	0.12
67	溝	1-6	42470~42475	-78050~-78055	直線	N-7°-E	4.60	0.46	0.20	0.05	152.99	152.89	0.10
68	溝	1-6	42470~42475	-78050~-78055	直線	N-28°-E	2.80	0.52	0.22	0.07	152.85	152.51	0.04
69	溝	1-6	42470	-78050~-78055	彎曲	N-13°-E	3.10	0.50	0.24	0.07	152.84	152.80	0.04
70	溝	1-6	42470	-78050	彎曲	N-60°-E	4.38	0.50	0.20	0.07	152.83	152.77	0.06
71	溝	1-6	42465~45470	-78050	屈曲	N-0°	6.32	0.44	0.22	0.07	152.80	152.67	0.13

第6表 掘立柱建物一覧表

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位座標値)		主軸方向	規模	柱間規模(m, m)				柱穴本数		
			X軸	Y軸			長辺		短辺			床面積	
							長値	短値	長値	短値			
1	掘立柱建物	2-2	42515	-78210	N-19°-W	2×3 間	5.20	5.10	3.80	3.80	20.03	10	
2	掘立柱建物	2-2	42515	-78220	N-24°-W	× 間	2.70		1.20			4	
3	掘立柱建物	2-2	42520	-78215~-78220	N-75°-E	× 間	3.60		1.65			4	
4	掘立柱建物	2-2	42520	-78215~-78220	N-70°-E	× 間	2.80		1.80	1.65	5.19	4	
5	掘立柱建物	2-2	42520	-78215~-78220	N-72°-E	× 間	2.20					2	
6	掘立柱建物	2-2	42520	-78215~-78220	N-77°-E	× 間	3.60		1.80			5	
7	掘立柱建物	2-2	42520	-78215~-78220	N-12°-W	× 間	1.65		1.15			3	
8	掘立柱建物	2-2	42520	-78215~-78220	N-19°-W	× 間	1.80		1.75	1.05		5	
9	掘立柱建物	2-2	42515	-78215	N-72°-E	× 間	2.00					2	
10	掘立柱建物	1-2	42595	-78080	N-90°	2×2 間	4.35		2.90			9.88	6
11	掘立柱建物	1-2	42595	-78080	N-90°	2×2 間	4.30	3.80	3.00	2.90	12.14	8	
12	掘立柱建物	1-2	42600	-78080	N-7°-E	× 間	3.40		2.00			4	
13	掘立柱建物	1-2	42605~42610	-78085~-78090	N-2°-W	1×2 間	3.95	3.05	2.90	2.60	9.23	7	
14	掘立柱建物	2-3	42510	-78170	N-29°-W	2×3 間	3.40	3.35	2.10	2.10	7.34	11	
15	掘立柱建物	2-3	42505~42510	-78170	N-66°-E	2×一 間			3.60			8.58	5
16	掘立柱建物	1-5	42490	-78600	N-90°	2×2 間	2.20	2.00	2.10	2.00	4.24	8	
17	掘立柱建物	1-4	42520	-78070	N-9°-W	× 間	3.60					3	
18	掘立柱建物	1-6	42480	-78065	N-10°-W	2×2 間	2.65		2.50		6.35	7	
19	掘立柱建物	1-6	42480	-78065	N-4°-W	2×2 間	3.50	3.25	2.70	2.40	8.56	8	
20	掘立柱建物	1-6	42470	-78060	N-80°-W	2×2 間	4.80	4.00	3.60	3.50	15.71	8	
21	掘立柱建物	1-6	42480	-78065	N-9°-W	2×2 間	2.85		2.70		7.16	7	
22	掘立柱建物	1-6	42480~42485	-78060~-78065	N-3°-W	2×(3) 間	3.75	3.45	1.56	1.35	5.40	6	
24	掘立柱建物	1-6	42485	-78060~-78065	× 間	3.85		1.90				5	
25	掘立柱建物	1-6	42480	-78065	N-86°-E	2×3 間	3.35		3.15		11.01	5	
26	掘立柱建物	1-6	42475	-78065	N-3°-W	2×2 間	2.90		2.80		6.6	6	
27	掘立柱建物	1-6	42470	-78060	N-76°-E	2×2 間	4.30	4.00	2.75		11.66	8	
28	掘立柱建物	1-6	42460	-78045~-78050	N-88°-W	1×3 間	5.15	4.90	1.47		7.09	8	
29	掘立柱建物	1-6	42460	-78050	N-65°-E	× 間	2.00				2.93	6	

第2章 築師道跡・萬行道跡

第7表 掘立柱建物柱六一覽表

遺構名稱	柱穴番号	平面形	規 模(m)			柱取跡	柱間寸法(m)		備 考
			上端径	下端径	深さ				
1号掘立柱建物	1号柱穴	楕円形	35 × 35	23 × 22	30	○	1-2	1.70	
	2号柱穴	不整形	40 × 35	26 × 25	30		2-3	1.80	
	3号柱穴	楕円形	45 × 40	25 × 24	27	○	3-7	1.65	
	4号柱穴	楕円形	45 × 35	22 × 22	49	○	7-1掘P2	2.00	
	5号柱穴	不整形	40 × 20	22 × 23	45	○	1掘P2-8	2.00	
	6号柱穴	不整形	52 × 42	28 × 26	43	○	8-4	1.70	
	7号柱穴	楕丸正方形	40 × 40	28 × 27	35	○	4-5	1.70	
	8号柱穴	楕丸長方形	40 × 30	26 × 23	48	○	5-6	1.70	
1掘P1	不整形	23 × 20	8 × 7	16		6-1掘P1	2.00		
	楕円形	42 × 30	23 × 20	15		1掘P1-1	1.80		
2号掘立柱建物	1号柱穴	楕円形	33 × 23	15 × 13	20		1-2	1.60	
	2号柱穴	楕丸長方形	30 × 24	15 × 14	21		2-3	1.30	
	3号柱穴	楕丸正方形	22 × 19	10 × 8	23		3-4	1.10	
	4号柱穴	楕円形	20 × 20	12 × 8	12				
3～8号掘立柱建物	3～8掘P1	楕丸長方形	23 × 19	18 × 14	37		1-2	1.45	
	3～8掘P2	楕丸正方形	25 × 23	17 × 15	29		2-3	2.55	
	3～8掘P3	正方形	22 × 22	13 × 13	17		3-4	1.05	
	3～8掘P4	楕円形	31 × 22	18 × 12	42				
	3～8掘P5	楕丸正方形	24 × 19	13 × 11	-		5-6	1.80	
	3～8掘P6	台形	24 × 24	16 × 11	25		6-7	1.85	
	3～8掘P7	不整形	30 × 25	15 × 15	47		7-1掘8柱穴	1.15	
	3～8掘P8	楕円形	36 × 26	20 × 15	48				
	3～8掘P9	楕丸長方形	25 × 16	13 × 16	14				
	3～8掘P10	楕円形	26 × 22	16 × 12	15				
	3～8掘P11	楕丸長方形	20 × 20	17 × 15	4				
	3～8掘P12	楕円形	30 × 13	17 × 5	47				
	3～8掘P13	不整形	17 × 17	10 × 10	5				
	3～8掘P14	正方形	20 × 20	13 × 11	10				
	3～8掘P15	楕円形	50 × 45	45 × 40	54				
	3～8掘P16	楕丸長方形	19 × 15	12 × 12	12				
	3～8掘P17	不正円形	17 × 17	10 × 10	5				
	3～8掘P18	正方形	40 × 38	22 × 25	52				
	3～8掘P19	楕円形	25 × 15	8 × 7	10				
	3～8掘P20	楕丸正方形	54 × 39	21 × 18	49				
	3～8掘P21	不整形	40 × 20	33 × 16	49				
9号掘立柱建物	9掘P1	不整形	40 × 19	30 × 11	50		P1-P2	2.00	
	9掘P2	楕円形	50 × 45	25 × 25	52				
10号掘立柱建物	10掘P1	不整形	30 × 30	19 × 20	44		P1-P2	2.10	10掘P1～3は10掘と共通
	10掘P2	楕円形	30 × 25	14 × 15	33		P2-P3	2.25	
	10掘P3	楕円形	30 × 40	23 × 16	26		P3-P4	1.45	
	10掘P4	不整形	25 × 20	13 × 11	10		P4-P5	1.45	
	10掘P5	楕円形	40 × 30	13 × 12	46		P2-P6	1.50	
	10掘P6	楕円形	30 × 25	15 × 13	36				
11号掘立柱建物	11掘P1	不整形	30 × 30	19 × 20	44		P1-P2	2.10	11掘P1～3は10掘と共通
	11掘P2	楕円形	30 × 25	14 × 15	33		P2-P3	2.25	
	11掘P3	楕円形	30 × 40	23 × 16	26		P11-P15	1.80	
	P11	楕円形	32 × 32	20 × 14	22		P15-16坑	2.00	
	P15	不整形	46 × 45	19 × 16	36		16坑-P16	1.45	
	16坑	楕丸長方形	65 × 55	22 × 18	61		P16-P3	1.50	
	P16	不整形	25 × 25	15 × 10	11		P11-11掘P7	1.45	
	11掘P7	円形	20 × 20	10 × 10	7		11掘P7-P1	1.55	
12号掘立柱建物	12掘P1	不整形	25 × 20	13 × 9	10		P1-P2	1.80	
	12掘P2	不整形	33 × 28	18 × 18	14		P2-P3	1.60	
	12掘P3	楕円形	35 × 28	25 × 19	14		P3-P4	2.00	
	12掘P4	不整形	25 × 22	20 × 13	11				
13号掘立柱建物	13掘P1	円形	35 × 32	23 × 20	34	○	P1-P3	2.60	
	P3	円形	32 × 30	23 × 20	23		P3-P4	1.40	
	P4	不整形	33 × 26	18 × 16	25		P4-P5	1.70	
	P5	不整形	31 × 28	23 × 22	21		P5-P7	2.90	
	P7	楕円形	30 × 26	23 × 16	28		P7-P14	1.80	
	P14	楕円形	22 × 15	-	-		P14-P1	1.65	

第3節 薬師遺跡で検出された遺構と遺物

遺構名称	柱六番号	平面形	規 模(cm)			柱痕跡	柱間寸法(m)	備 考
			上端径	下端径	深さ			
14号掘立柱建物	14MP1	楕円形	20 × 15	10 × 8	13		P1-P2	1.20
	14MP2	不整形円形	50 × 27	25 × 14	13		P2-P3	1.20
	14MP3	楕円形	25 × 20	10 × 10	8		P3-P4	0.45
	14MP4	不整形円形	19 × 19	-	-	9	P4-P5	1.00
	14MP5	不整形円形	22 × 20	13 × 13	4		P5-P6	0.80
	14MP6	不整形円形	30 × 20	12 × 9	6		P6-P7	1.10
	14MP7	不整形円形	25 × 20	8 × 6	9		P7-P8	0.65
	14MP8	楕円形	45 × 35	32 × 21	16		P8-P9	1.40
	14MP9	隅丸正方形	23 × 22	11 × 11	5		P9-P10	1.25
	14MP10	不整形円形	30 × 25	12 × 13	6		P10-P11	0.80
	14MP11	不整形円形	27 × 21	15 × 10	3		P11-P1	1.20
	14MP12	楕円形	26 × 23	16 × 7	4			
15号掘立柱建物	15MP1	円形	42 × 40	8 × 8	10		P1-P2	1.80
	15MP2	楕円形	45 × 35	32 × 21	16		P2-P3	1.80
	15MP3	不整形円形	3.1 × 30	8 × 8	18		P3-P4	1.60
	15MP4	楕円形	56 × 30	35 × 14	7		P1-P5	1.80
	15MP5	楕円形	25 × 15	13 × 13	15			
16号掘立柱建物	16MP1	不整形円形	20 × 17	18 × 7	10		P1-P2	1.00
	16MP2	隅丸長方形	25 × 20	14 × 8	20		P2-P3	0.90
	16MP3	楕円形	25 × 16	17 × 12	12		P3-P4	1.30
	16MP4	不整形円形	23 × 18	15 × 12	10		P4-P5	0.90
	16MP5	円形	30 × 30	19 × 16	10		P5-P6	1.20
	16MP6	不整形円形	22 × 22	13 × 12	27		P6-P7	0.90
	16MP7	楕円形	26 × 20	16 × 9	11		P7-P8	0.75
	16MP8	不整形円形	30 × 25	22 × 13	12		P8-P1	1.25
17号掘立柱建物	17MP1	楕円形	56 × 45	8 × 8	20	○	P1-P2	1.70
	17MP2	楕円形	60 × 46	10 × 8	36	○	P2-P3	1.80
	17MP3	楕円形	80 × 62	12 × 8	50	○		
18号掘立柱建物	28坑	不整形円形	52 × 45	25 × 15	56		27坑-31坑	1.45
	31坑	不整形円形	56 × 49	43 × 43	45		31坑-18MP3	1.50
	18MP3	不整形円形	74 × 45	33 × 12	26		18MP3-18MP4	1.10
	18MP4	不整形円形	45 × 45	28 × 15	42		18MP4-P115	1.50
	P48		75 × 52	15 × 10	35		P48-18MP6	1.15
	P115	円形	30 × 30	23 × 20	19		P115-18MP5	1.00
	18MP5	不整形円形	84 × 55	37 × 15	39		18MP5-P48	1.20
19・21・25号掘立柱建物	18MP6	楕円形	37 × 30	27 × 24	24			P48を切る
	27坑	不整形円形	73 × 45	35 × 35	41	○	27坑-32坑	1.10
	32坑	不整形円形	56 × 50	42 × 32	67		32坑-P62	1.50
	P62	不整形円形	35 × 36	20 × 15	55		P62-P67	1.50
	P63	不整形円形	50 × 45	20 × 20	60		P67-P34	1.65
	P67	不整形円形	29 × 28	17 × 17	50		P34-P108	1.50
	P68	不整形円形	32 × 22	17 × 15	28		P108-P148	1.10
	P34	不整形円形	40 × 35	27 × 27	43		P148-52坑	1.15
	P108	不整形円形	42 × 40	25 × 20	37		52坑-P91	1.40
	P148	不整形円形	35 × 34	27 × 20	20		P62-19MP2	1.70
	52坑	楕円形	67 × 47	50 × 30	22		19MP2-19MP3	1.50
	P92	不整形円形	52 × 25	39 × 22	12			
	P91	台形	46 × 40	27 × 25	50			P142を切る
	P151	不整形円形	30 × 25	15 × 15	32	○		
	19MP2	不整形円形	38 × 38	25 × 26	38			P142を切る
	19MP3	台形	40 × 32	24 × 18	46	○		49土坑切る
	19MP4	不整形円形	35 × 35	26 × 22	34	○		P36を切る
19MP5	楕円形	40 × 32	30 × 20	63	○			
19MP6	円形	45 × 42	11 × 9	36			かわらけ、P158・120同一	
P36	不整形円形	54 × 41	25 × 25	38				
P40	不整形円形	45 × 35	21 × 12	50				
P50	不整形円形	36 × 26	25 × 20	16				
P56	不整形円形	38 × 35	20 × 17	48			P57を切る	
P57	不整形円形	47 × 37	37 × 35	15				

第2章 築師遺跡・萬行遺跡

遺構名称	柱六番号	平面形	規 模(cm)			柱痕跡	柱間寸法(m)	備 考	
			上端径	下端径	深さ				
20号孤立柱建物	P104	不整円形	30 × 28	13 × 13	48	○	P104-P111	1.75	
	P111	楕円形	30 × 19	20 × 16	11		P111-P106	1.75	
	P112	正方形	34 × 34	25 × 25	14		P106-P109	2.20	
	P106	円形	24 × 24	11 × 13	25		P103-P132	2.60	
	P109	楕円形	48 × 45	30 × 28	10		P103-P97	1.75	
	P103	楕丸長方形	38 × 34	22 × 18	42		P97-P99	1.65	
	P97	不整方形	35 × 33	20 × 20	46		P99-P26	2.00	
	P99	不整方形	35 × 22	23 × 20	38		P26-P104	2.00	
	P100	不整円形	32 × 29	16 × 13	45				
	P26	不整方形	35 × 32	20 × 20	56				
	P110	円形	25 × 25	18 × 15	37				
	P133	不整円形	35 × 29	23 × 15	37				
	P132	楕丸正方形	34 × 30	22 × 20	32				
22号孤立柱建物	P87	不整円形	30 × 27	23 × 21	49		P58-P96	1.10	30坑に切られる
	P88	不整方形	25 × 23	13 × 13	19		P69-P84	1.30	
	22畑P1	不整円形	32 × 28	18 × 15	47		P84-P87	1.56	
	22畑P2	楕円形	30 × 22	15 × 10	17		P87-P88	1.85	
	P69	不整方形	47 × 30	40 × 25	18		P88-22畑P1	1.65	
	P58	不整円形	27 × 20	20 × 15	18		22畑P1-22畑P2	1.35	
24号孤立柱建物	P84	不整円形	46 × 34	14 × 10	45				
	24畑P1	楕円形	38 × 26	20 × 13	14		24畑P1-24畑P2	1.90	
	24畑P2	不整方形	25 × 20	7 × 5	7		24畑P2-24畑P3	1.65	
	24畑P3	不整円形	25 × 17	14 × 11	7		24畑P3-24畑P4	0.20	
	24畑P4	不整円形	22 × 20	10 × 7	7		24畑P3-P86	2.00	
	P86	不整円形	26 × 26	16 × 13	16				
26号孤立柱建物	P127	不整方形	16 × 17	12 × 10	30		P127-P125	1.80	
	P125	楕円形	20 × 12	12 × 10	15		P125-P30	1.60	
	P30	不整方形	25 × 18	10 × 10	17		P30-26畑P4	1.20	
	26畑P1	楕円形	38 × 16	20 × 8	5		26畑P4-26畑P5	1.50	
	26畑P2	楕丸正方形	20 × 18	11 × 10	10		26畑P5-P131	1.40	
	P131	不整円形	24 × 23	15 × 13	10				
27号孤立柱建物	27畑P1	楕円形	22 × 22	12 × 6	18		27畑P1-27畑P2	1.40	
	27畑P2	不整円形	20 × 20	11 × 11	7		27畑P2-27畑P3	1.40	
	27畑P3	楕円形	20 × 17	11 × 9	10		27畑P3-27畑P4	1.95	
	27畑P4	不整円形	21 × 20	12 × 9	7		27畑P4-27畑P5	2.00	
	27畑P5	不整方形	26 × 21	22 × 16	7		27畑P5-27畑P6	1.50	礎置き
	27畑P6	不整円形	16 × 15	7 × 7	4		27畑P6-27畑P7	1.25	
	27畑P7	楕円形	20 × 15	14 × 8	10		27畑P7-27畑P8	2.15	
	27畑P8	不整円形	22 × 20	13 × 12	5		27畑P8-27畑P1	2.10	
28号孤立柱建物	28畑P1	不整円形	27 × 24	15 × 15	35		28畑P1-28畑P2	1.80	
	28畑P2	円形	33 × 30	16 × 14	40		28畑P2-28畑P3	1.80	
	28畑P3	不整円形	37 × 35	7 × 6	68		28畑P3-28畑P4	1.60	
	28畑P4	不整方形	36 × 30	6 × 4	14	○	28畑P4-28畑P5	1.40	
	28畑P5	楕円形	25 × 15	5 × 3	11		28畑P5-28畑P6	1.65	
	28畑P6	不整方形	29 × 23	21 × 18	30		28畑P6-28畑P7	1.30	
	28畑P7	不整方形	25 × 22	14 × 12	15		28畑P7-P128	1.50	
P128	楕丸長方形	27 × 24	16 × 12	34		P128-28畑P1	1.40		
29号孤立柱建物	29畑P1	不整円形	22 × 22	15 × 18	24	○	29畑P1-29畑P2	0.70	
	29畑P2	不整円形	30 × 23	8 × 4	10	○	29畑P2-29畑P3	1.30	
	29畑P3	不整円形	18 × 16	7 × 7	8	○	29畑P3-29畑P4	1.30	
	29畑P4	不整円形	24 × 20	10 × 8	10		29畑P4-29畑P5	1.20	
	29畑P5	不整円形	24 × 19	14 × 10	6		29畑P5-29畑P6	1.10	
	29畑P6	不整円形	26 × 25	6 × 6	6		29畑P6-29畑P1	1.00	

第8表 礎石列一覧表

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)		主軸方向	規模(m)	柱間規模(m)	礎石数
			X軸値	Y軸値				
1	礎石	1-2	42590・42595	-78070・78075	N-32°-W	4.5	1.2	6
2	礎石	1-2	42585・42590	-78065・78070	N-33°-W	3.5	1.5/1.0	4

第9表 火葬土坑・墓塚一覧表

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)		平面形	主軸方向	規模(m)		塚高(m)	出土遺物		所見
			X軸値	Y軸値			長辺	短辺		出土遺物	骨	
6	土坑	2-2	42520	-78215	隅丸長方形、 通気口	N-26°-W	1.12	0.75	0.20		焼四肢骨片	火葬土坑
7	土坑	2-2	42515	-78215	楕円形	N-20°-W	0.90	0.84	0.18			墓塚
9	土坑	2-2	42520	-78220	隅丸長方形	N-11°-W	1.25	0.83	0.07		骨片	火葬土坑
10	土坑	2-2	42520	-78220	楕円形	N-76°-E	1.15	0.65	0.10			墓塚
15	土坑	2-2			隅丸長方形	東西						墓塚か
17	土坑	1-5	42500	-78060	隅丸長方形	N-7°-E	0.74	0.54	0.10	踐貫5	骨片	墓塚
18	土坑	1-5	42495	-78060	隅丸長方形	N-14°-E	0.95	0.78	0.62	踐貫1、蹠		墓塚
19	土坑	1-5	42490	-78060	隅丸長方形	N-70°-E	1.37	1.32	0.48	かわらけ、踐貫1		墓塚
20	土坑	1-5	42490	-78060	楕円形	N-8°-W	0.72	0.50	0.18	大礫		墓か
23	土坑	1-5	42485	-78060	台形	N-6°-W	0.95	0.73	0.20	踐貫1、蹠		墓塚
24	土坑	1-5	42485	-78060	不整形円形	N-71°-W	1.13	0.63	0.15	蹠		墓塚
25	土坑	1-5	42485	-78065	隅丸正方形	N-7°-E	1.13	0.62	0.38	蹠		墓塚
26	土坑	1-5	42485	-78065	楕円形	N-10°-W	0.99	0.66	0.30			墓塚か
30	土坑	1-5	42480	-78065	隅丸長方形	N-90°	0.93	0.57	0.30	踐貫1、火輪		墓塚
36	土坑	1-5	42480	-78060	不整形円形	N-50°-E	0.70	0.50	0.22	踐貫1		墓塚
43	土坑	1-6	42470	-78065	長方形 通気孔	N-2°-W	1.08	1.02	0.40	踐貫3		竈6、焼頭蓋・四肢骨片 火葬土坑
45	土坑	1-6	42470	-78065	隅丸長方形 通気孔	N-12°-W	0.89	1.06	0.15			竈3、焼頭蓋・四肢骨片 火葬土坑
46	土坑	1-6	42475	-78065	楕円形	N-4°-W	0.48	0.36	0.05	踐貫3	竈1	墓塚
48	土坑	1-6	42480	-78065	円形	N-39°-W	0.50	0.40	0.16	踐貫5		墓塚
49	土坑	1-6	42480	-78065	楕円形	N-33°-W	1.00	0.76	0.07	かわらけ		墓塚
50	土坑	1-6	42475	-78060	楕円形	N-10°-W	1.11	0.60	0.10	踐貫1	踐貫1	墓塚

第10表 竈一覧表

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)		最長範囲(m)	走向	埋土	推定時期
			X軸値	Y軸値				
1	竈	2-2	42520~42525	-78175~78185	13	WN-EES	浅間B軽石混黒褐色土	中世
2	竈	1-2	1-2区		-		浅間B軽石混黒褐色土	中世
3	竈	1-2	42620	-78090~78095	6	W-E	浅間B軽石混黒褐色土	中世
4	竈	1-6	42460~42465	-78050	3	N-S	浅間B軽石混黒褐色土	中世

第11表 土坑一覧表

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)		平面形	主軸方向	規模(m)		深さ(m)	出土遺物	備考
			X軸値	Y軸値			長辺	短辺			
1	井戸	2-3	42510	-78210	円形	-	1.35	1.30	0.88	埋充填	近世以降
1	土坑	2-2	42530	-78160	不整形円形	N-65°-W	0.80	0.62	0.18		礎石けり穴か
2	土坑	2-2	42530	-78160	楕円形	N-50°-E	0.78	0.54	0.29		礎石けり穴か
3	土坑	2-2	42530	-78160	楕円形	N-33°-E	0.95	0.80	0.21		礎石けり穴か
4	土坑	2-2	42530	-78145	楕円形	N-30°-W	0.35	0.30	0.11		
5	土坑	2-2	42515	-78210	楕円形	N-8°-W	1.00	0.82	0.41		泥層埋没
8	土坑	2-2	42515	-78220	円形	-	0.53	0.52	0.08	埋	中世墓か
11	土坑	1-2	42590	-78065	円形	-	0.62	0.60	0.28		中世
12	土坑	1-2	42595	-78070	円形	-	1.15	1.10	0.30		
13	土坑	1-2	42600	-78070	円形	-	0.60	5.50	0.16		
14	土坑	1-2	平面図なし		-	-	-	-	0.06	骨片	
15	土坑	2-2	42515	-78215	長方形	N-85°-E	1.22	0.64	0.08	埋	墓か
16	土坑	1-2	42595	-78080	隅丸長方形	N-13°-W	0.65	0.55	0.62		柱穴か
21	土坑	1-5	42490	-78065	不整形円形	N-18°-E	0.53	0.20	0.29		
22	土坑	1-5	42485	-78060	不整形円形	N-33°-W	0.70	0.62	0.14		
27	土坑	1-5	42480	-78065	不整形円形	N-7°-W	0.43	0.45	0.38		柱穴
28	土坑	1-5	42480	-78065	不整形円形	N-84°-W	0.52	0.45	0.56		

第2章 築師遺跡・萬行遺跡

遺構番号	遺構種	調査区	位置(5m単位)		平面形	主軸方向	規模(m)		高さ(m)	出土遺物	備考
			X軸値	Y軸値			長辺	短辺			
31	土坑	1-5	42480	-78065	不整形	N-65°-W	0.56	0.49	0.48		
32	土坑	1-5	42480	-78065	不整形	N-81°-E	0.56	0.50	0.64		
33	土坑	1-5	42485	-78060	楕円形	N-4°-E	0.66	0.40	0.27	鉄片、釘	墓か
34	土坑	1-5	42490	-78060	不整形	N-86°-W	0.75	0.48	0.38		
35	土坑	1-5	42485	-78065	不整形	N-12°-E	0.76	0.60	0.05		
37	土坑	2-3	42505	-78220	不整形	N-9°-W	1.24	0.60	0.60		墓か
38	土坑	2-3	42505	-78215	不整形	N-80°-E	1.11	0.25	0.29		
39	土坑	1-6	42475	-78050	楕円形	N-72°-E	1.42	0.75	0.41		中世墓か
40	土坑	1-6	42475	-78050	不整形	N-1°-E	1.33	0.68	0.12		中世墓か
41	土坑	1-6	42470	-78050	楕円形	N-13°-E	1.28	0.86	0.10		中世墓か
42	土坑	1-6	42470	-78065	不整形	N-3°-W	0.71	0.56	0.54	石臼、礫	廢棄坑
44	土坑	1-6	42470	-78065	不整形	N-70°-E	0.58	0.46	0.25		中世
47	土坑	1-6	42470	-78060	楕円形	N-3°-W	0.50	0.50	0.31		中世
51	土坑	1-6	42475	-78060	不整形	N-39°-W	0.50	0.40	0.80		
52	土坑	1-6	42475	-78065	楕円形	N-2°-E	0.67	0.48	0.20		中世
53	土坑	1-6									
54	土坑	1-6	12号型穴建物理上中で確認困難。								
55	土坑	1-6	42480	-78060	円形	-	0.86	0.62	0.60	石製品	廢棄坑
56	土坑	1-6	42480	-78060	楕円形	N-23°-W	0.86	0.62	0.60	礫状物	廢棄坑
57	土坑	1-6	42480	-78060	楕円形	N-7°-E	0.90	0.56	0.46		
58	土坑	1-6	42480	-78060	楕円形	N-2°-E	1.20	0.62	0.07		墓か
59	土坑	1-6	42475	-78065	不整形	N-2°-E	1.11	0.65	0.21		墓か
60	土坑	1-6	42475	-78065	不整形	N-90°	1.00	0.40	0.17		柱穴か
61	土坑	1-6	42480	-78065	不整形	N-28°-E	0.50	0.40	4.30		
62	土坑	1-6	42475	-78065	楕円形	N-22°-E	0.40	0.28	0.10		
63	土坑	1-6	42480	-78065	不整形	N-84°-E	0.71	0.50	0.39		植壇重複か
64	土坑	1-6	42480	-78065	不整形	N-12°-W	0.36	0.46	0.12		
65	土坑	1-6	42480	-78065	不整形	N-9°-W	0.46	0.40	0.13		
66	土坑	1-6	42465	-78050	楕円形	N-77°-E	0.68	0.60	0.22		
67	土坑	1-6	42480	-78060	楕円形	N-8°-E	0.74	0.38	0.09		
68	土坑	1-6	42480	-78060	円形	-	0.23	-	0.08		柱穴形状
69	土坑	1-6	42470	-78045	不整形	N-13°-W	0.55	0.39	0.08		
70	土坑	1-6	42470	-78045	不整形	N-5°-W	0.38	0.33	0.07		
71	土坑	1-6	42470	-78065	不明	不明	-	-	-		

第12表 ビット一覧表

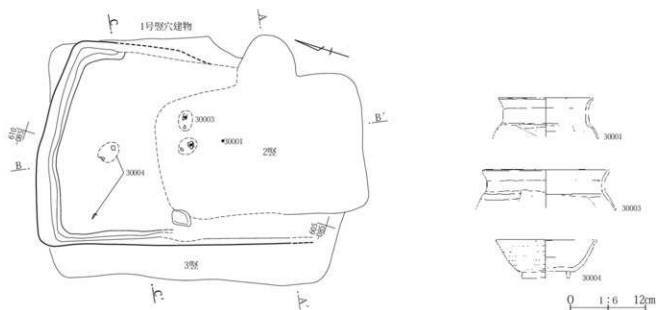
遺構番号	遺構種	区	位置(5m単位座標値)		平面形	規模(cm)		埋高(cm)	備考
			X軸	Y軸		長辺	短辺		
1	ビット	1-2	42613	-78090	不整形	28	21	14	
2	ビット	1-2	42612	-78088	楕円形	30	25	17	
3	ビット	1-2	42611	-78089	円形	32	30	23	13掘立柱穴
4	ビット	1-2	42611	-78090	不整形	33	26	25	13掘立柱穴
5	ビット	1-2	42611	-78092	不整形	31	28	21	13掘立柱穴
6	ビット	1-2	42610	-78092	円形	12	12	31	1榑
7	ビット	1-2	42608	-78092	楕円形	30	26	28	13掘立柱穴
8	ビット	1-2	42606	-78091	楕円形	32	25	19	
9	ビット	1-2	42598	-78088	不整形	20	17	10	
10	ビット	1-2	42597	-78087	隅丸正方形	30	28	19	
11	ビット	1-2	42598	-78086	楕円形	32	32	22	11掘立柱穴
12	ビット	1-2	42598	-78086	不整形	38	32	19	
13	ビット	1-2	42597	-78085	不整形	34	28	26	
14	ビット	1-2	42510	-78062	楕円形	22	15	49	13掘立柱穴
15	ビット	1-2	42599	-78084	不整形	46	45	36	11掘立柱穴
16	ビット	1-2	42597	-78081	不整形	25	25	11	11掘立柱穴
17	ビット	-	-	-	-	-	-	-	
18	ビット	1-5	42510	-78062	楕円形	18	15	3	跡き込み痕
19	ビット	1-5	42515	-78066	隅丸長方形	23	15	9	跡き込み痕
20	ビット	1-5	42510	-78066	楕円形	25	18	2	
21	ビット	1-5	42492	-78061	不整形	25	19	17	
22	ビット	1-5	42490	-78061	不整形	28	25	20	
23	ビット	1-5	42486	-78067	円形	26	25	13	
24	ビット	1-5	42486	-78065	円形	20	19	10	
25	ビット	1-5	42486	-78064	楕円形	33	22	10	
26	ビット	1-6	42476	-78062	不整形	35	32	56	20掘立柱穴
27	ビット	1-6	42480	-78065	円形	28	26	23	
28	ビット	1-6	42479	-78069	不整形	32	29	22	
29	ビット	1-6	42479	-78069	楕円形	32	18	24	
30	ビット	1-6	42479	-78097	不整形	25	18	12	26掘立柱穴

第3節 薬師遺跡で検出された遺構と遺物

遺構番号	遺構種	区	位置(5m単位座標値)		平面形 略図参照	規模(cm)		埋高(cm)	備考
			X軸	Y軸		長辺	短辺		
31	ピット	1-6	42480	-78067	不整形円形	36	31	22	
32	ピット	1-6	42480	-78067	不整形円形	33	24	11	
33	ピット	1-6	42480	-78064	不整形円形	28	25	42	
34	ピット	1-6	42481	-78065	不整形円形	45	46	27	19・21・25掘立柱穴
35	ピット	1-6	42481	-78067	不整形円形	52	53	11	柱痕跡、P125を切る
36	ピット	1-6	42480	-78066	不整形円形	54	41	38	19・21・25掘立柱穴
37	ピット	1-6	42481	-78067	不整形円形	49	42	54	柱痕跡
38	ピット	1-6	42481	-78067	不整形円形	20+	17+	9	
39	ピット	1-6	42481	-78066	不整形円形	45	43	63	19・21・25掘立柱穴
40	ピット	1-6	42480	-78068	不整形円形	45	32+	50	19・21・25掘立柱穴
41	ピット	1-6	42481	-78068	円形	30	22	32	
42	ピット	1-6	42481	-78068	円形	20	27	-	P41を切る
43	ピット	1-6	42482	-78067	不整形円形	60	60	17	
44	ピット	1-6	42482	-78067	不整形円形	26	26	21	
45	ピット	1-6	42482	-78067	不整形円形	30	26	17	
46	ピット	1-6	42481	-78068	正方形	22	20	23	
47	ピット	1-6	42481	-78068	不整形円形	34	32	16	
48	ピット	1-6	42482	-78069	不整形円形	75	52	35	18掘立柱穴
49	ピット	1-6	42482	-78068	不整形円形	27	20	15	かわらけ出土
50	ピット	1-6	42482	-78068	不整形円形	36	26	16	19・21・25掘立柱穴
51	ピット	1-6	42482	-78069	不整形円形	30	21	23	
52	ピット	1-6	42483	-78068	不整形円形	21	16	17	
53	ピット	1-6	42483	-78068	不整形円形	27	20	12	
54	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	27	23	16	
55	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	18	21	10	
56	ピット	1-6	42482	-78067	不整形円形	38	35	48	19・21・25掘立柱穴
57	ピット	1-6	42482	-78067	不整形円形	37	24	15	
58	ピット	1-6	42482	-78066	不整形円形	27	20	18	
59	ピット	1-6	42482	-78066	不整形円形	25	16	20	
60	ピット	1-6	42481	-78065	不整形円形	24	19	21	
61	ピット	1-6	42484	-78064	楕円形	35	32	13	
62	ピット	1-6	42484	-78065	不整形円形	35	35	63	19・21・25掘立柱穴
63	ピット	1-6	42482	-78066	不整形円形	33	23	21	
64	ピット	1-6	42483	-78066	不整形円形	40	22	65	P63・83を切る
65	ピット	1-6	42481	-78066	不整形円形	35	32	29	かわらけ出土
66	ピット	1-6	42482	-78066	楕円正方形	47	37	15	
67	ピット	1-6	42482	-78066	不整形円形	29	28	52	19・21・25掘立柱穴
68	ピット	1-6	42482	-78066	不整形円形	32	22	28	19・21・25掘立柱穴
69	ピット	1-6	-	-	不整形円形	47	30	18	22掘立柱穴
70	ピット	1-6	42483	-78066	不整形円形	55	37	5	
71	ピット	1-6	42483	-78066	楕円正方形	25	23	48	
72	ピット	1-6	42483	-78064	不整形円形	35	32	18	
73	ピット	1-6	42484	-78068	楕円形	25	20	55	19・21・25掘立柱穴
74	ピット	1-6	42484	-78068	不整形円形	26	28	-	
75	ピット	1-6	42483	-78068	長方形	22	16	10	
76	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	32	30	54	
77	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	38	28+	12	
78	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	36	26	26	
79	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	25	23	11	
80	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	40	25	39	
81	ピット	1-6	42483	-78067	不整形円形	25	15	17	
82	ピット	1-6	42483	-78066	不整形円形	30	26	17	
83	ピット	1-6	42483	-78066	不整形円形	23	15	12	
84	ピット	1-6	42484	-78066	不整形円形	46	34	45	22掘立柱穴
85	ピット	1-6	42484	-78067	不整形円形	37	35	31	
86	ピット	1-6	42485	-78065	不整形円形	26	26	16	24掘立柱穴
87	ピット	1-6	42486	-78066	不整形円形	30	27	49	22掘立柱穴
88	ピット	1-6	42486	-78064	不整形円形	25	23	19	22掘立柱穴
89	ピット	1-6	42481	-78070	不整形円形	48	44	66	P90を切る
90	ピット	1-6	42481	-78069	不整形円形	35	21	58	
91	ピット	1-6	42480	-78069	台形	46	40	50	19・21・25掘立柱穴
92	ピット	1-6	42479	-78069	不整形円形	50	25	17	19・21・25掘立柱穴
93	ピット	1-6	42479	-78069	不整形円形	64	38	17	
94	ピット	1-6	45480	-78098	不整形円形	46	18	15	62坑・P95を切る
95	ピット	1-6	45480	-78098	不整形円形	47	26	17	62坑を切る
96	ピット	1-6	42481	-78068	不整形円形	60	45	69	61坑を切る
97	ピット	1-6	42474	-78064	不整形円形	35	30	46	20掘立柱穴
98	ピット	1-6	42475	-78063	不整形円形	48	30	18	
99	ピット	1-6	42476	-78064	不整形円形	35	22	38	20掘立柱穴

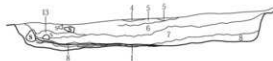
第2章 築師遺跡・萬行遺跡

遺構番号	遺構種	区	位置(5m単位座標値)		平面形 略図参照	規模(cm)		埋高(cm)	備考
			X軸	Y軸		長辺	短辺		
100	ピット	1-6	42476	-78063	不整形	32	29	45	20掘立柱穴
101	ピット	1-6	42474	-78061	不整形	37	32	47	
102	ピット	1-6	42474	-78061	不整形	22	17	9	
103	ピット	1-6	42472	-78064	竪丸長方形	38	34	42	20掘立柱穴
104	ピット	1-6	42475	-78060	不整形	30	28	48	20掘立柱穴
105	ピット	1-6	42473	-78064	不整形	30	27	12	
106	ピット	1-6	42472	-78060	円形	24	24	25	20掘立柱穴
107	ピット	-	-	-	-	-	-	-	
108	ピット	1-6	42479	-78065	不整形	42	40	37	19・21・25掘立柱穴
109	ピット	1-6	42472	-78062	楕円形	48	45	10	20掘立柱穴
110	ピット	1-6	42473	-78060	円形	25	25	37	
111	ピット	1-6	42474	-78060	楕円形	30	19	11	20掘立柱穴
112	ピット	1-6	42474	-78060	正方形	34	34	14	20掘立柱穴
113	ピット	1-6	42481	-78070	不整形	25	20	20	
114	ピット	1-6	42480	-78069	不整形	39	22	53	19・21・25掘立柱穴
115	ピット	1-6	42481	-78068	円形	30	30	19	18掘立柱穴
116	ピット	1-6	42484	-78066	不整形	25	12	25	掘出土
117	ピット	1-6	42484	-78066	不整形	37	24	44	
118	ピット	1-6	42484	-78066	不整形	36	25	60	
119	ピット	1-6	42483	-78066	円形	33	29	64	
120	ピット	1-6	42482	-78068	不整形	21	27	19	掘立柱とする
121	ピット	1-6	42485	-78064	不整形	21	20	18	
122	ピット	1-6	42485	-78065	不整形	21	21	6	
123	ピット	1-6	42483	-78064	不整形	30	23	32	
124	ピット	1-6	42481	-78064	不整形	45	44	24	
125	ピット	1-6	42481	-78067	不整形	20	13	11	20掘立柱穴
126	ピット	1-6	42481	-78067	不整形	27	12	19	
127	ピット	1-6	42481	-78069	不整形	16	17	30	20掘立柱穴
128	ピット	1-6	42465	-78049	竪丸長方形	27	24	34	28掘立柱穴
129	ピット	1-6	42473	-78066	竪丸長方形	28	25	40	
130	ピット	1-6	42473	-78066	円形	30	27	25	
131	ピット	1-6	42477	-78070	不整形	24	23	11	20掘立柱穴
132	ピット	1-6	42472	-78063	竪丸正方形	34	30	32	20掘立柱穴
133	ピット	1-6	42472	-78062	不整形	35	29	37	20掘立柱穴
134	ピット	1-6	42471	-78063	不整形	23	20	18	
135	ピット	1-6	42483	-78068	不整形	36	30	33	
136	ピット	1-6	42481	-78068	不整形	44	35	21	P137・138を切る
137	ピット	1-6	42481	-78068	不整形	46	15	17	
138	ピット	1-6	42481	-78068	不整形	30	28	44	
139	ピット	1-6	42481	-78068	不整形	28	21	18	
140	ピット	1-6	42482	-78066	不整形	15	17	13	
141	ピット	1-6	42481	-78064	楕円形	27	22	8	
142	ピット	1-6	42482	-78065	楕円形	25	12	9	19掘立柱
143	ピット	1-6	42483	-78065	竪丸長方形	21	15	9	
144	ピット	1-6	42484	-78061	不整形	24	15	15	88坑を切る
145	ピット	1-6	42484	-78061	不整形	31	28	50	68坑・P146を切る
146	ピット	1-6	42484	-78061	不整形	32	29	11	柱痕跡
147	ピット	1-6	42484	-78061	不整形	25	20	10	
148	ピット	1-6	42479	-78066	不整形	35	34	20	19・21・25掘立柱穴
149	ピット	1-6	42481	-78070	不整形	23	13	-	P150を切る
150	ピット	1-6	42481	-78070	不整形	34	13	13	柱穴形状
151	ピット	1-6	42482	-78069	不整形	30	25	26	19・21・25掘立柱穴
152	ピット	1-6	42483	-78069	楕円形	47	26	32	
153	ピット	1-6	42484	-78069	不整形	24	10	10	
154	ピット	1-6	42468	-78053	不整形	31	25	20	
155	ピット	1-6	42466	-78052	不整形	26	21	42	
156	ピット	1-6	42465	-78050	不整形	20	19	56	
157	ピット	1-6	42468	-78049	竪丸正方形	25	27	25	
158	ピット	1-6	42482	-78068	円形	45	42	22	19掘立柱とする
68	土坑		42480	-78060	不整形	18	13	8	ピットに変更



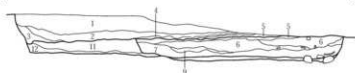
A, 1=156.50m

A'



B, 1=156.50m

B'



C, 1=156.50m

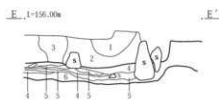
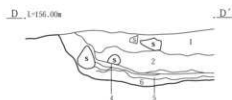
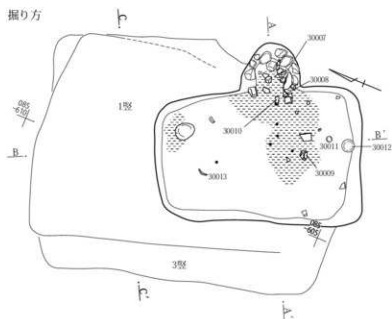
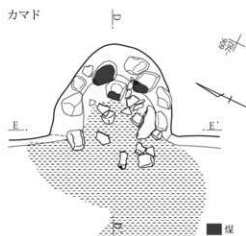
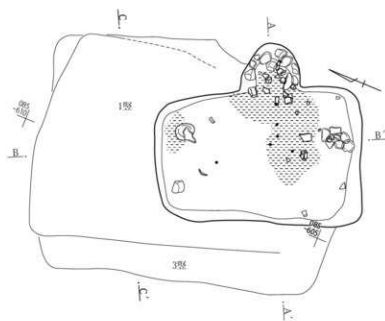
C'



0 1:60 2m

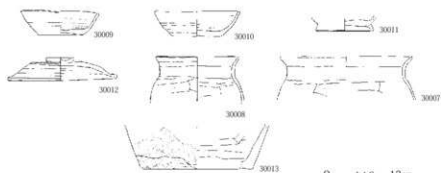
- 1 暗褐色土 酸化鉄凝集斑多い。
 - 2 暗褐色土 褐色土塊含む。
 - 3 黒褐色土 軟質。
 - 4 炭化物層 1号壑穴床面、灰含む。
 - 5 暗褐色土 褐色土塊少量含む。
 - 6 黒褐色土 礫と褐色土塊含む。
 - 7 黒褐色土 軟質。
 - 8 黒褐色土 均質。
 - 9 暗褐色土 均質、粘性帯びる。
 - 10 黒褐色土 砂質。
 - 11 黒褐色土 土塊状。
 - 12 灰黄褐色土 地山泥流。
 - 13 暗褐色土 粘性、礫材堆積。
- 1~4は1号壑穴、5~9・13は2号壑穴、10・11は3号壑穴埋土。

第26図 1号壑穴建物および1・2・3号壑穴建物断面



0 1:30 1m

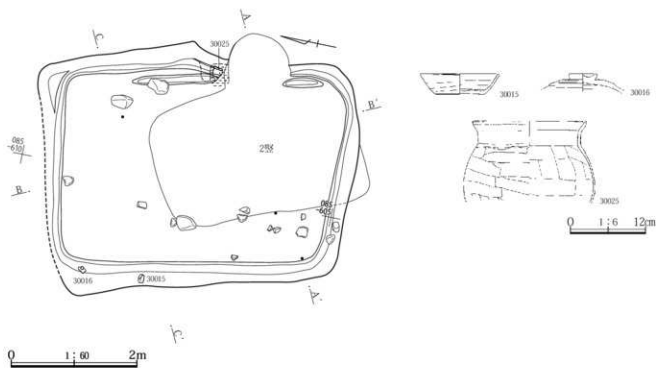
0 1:60 2m



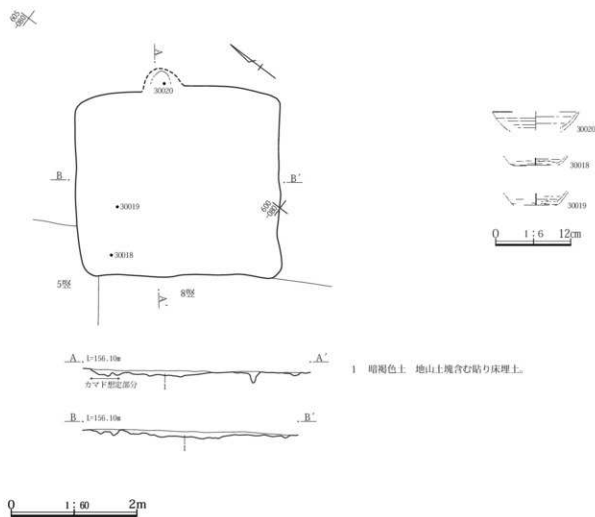
0 1:6 12cm

- 1 黒褐色土：小礫、褐色土塊含む。
- 2 黒褐色土：1より暗い。
- 3 黒褐色土：粘性、地山土塊多い、袖。
- 4 黒色土：炭化物主体、灰含む。
- 5 暗褐色土：炭土含む、硬質。
- 6 黒色土炭化物主体、灰多い。

第27図 2号型穴建物

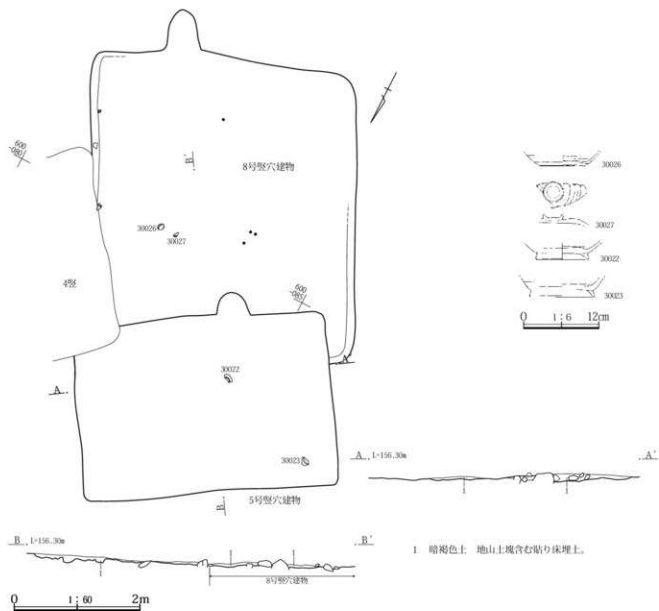


第28図 3号竪穴建物

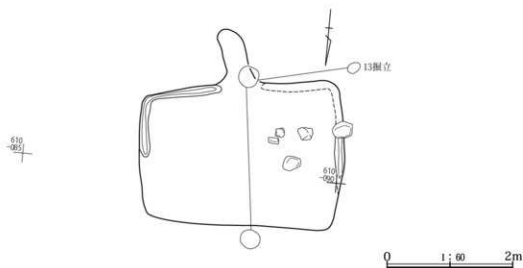


1 暗褐色土 地山土塊含む粘り床理土。

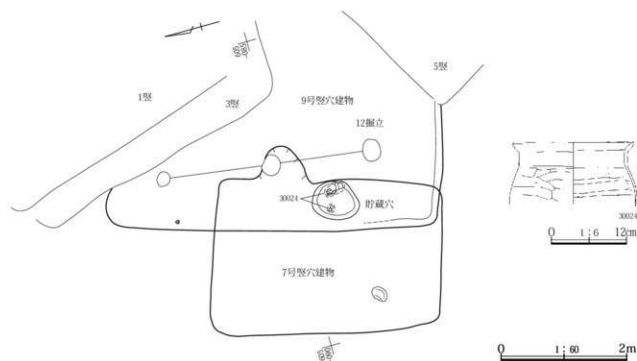
第29図 4号竪穴建物



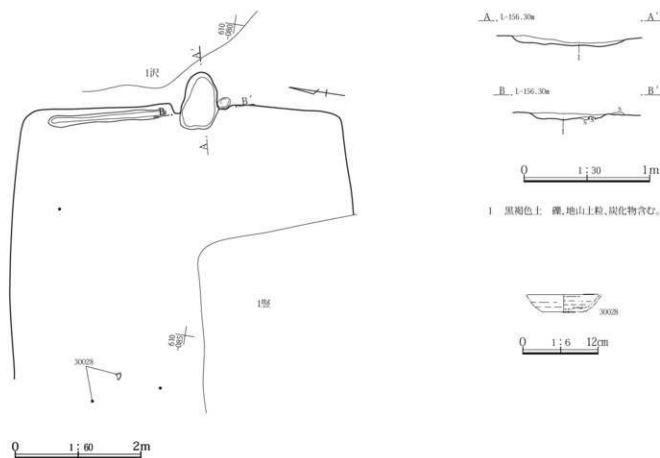
第30図 5・8号壑穴建物



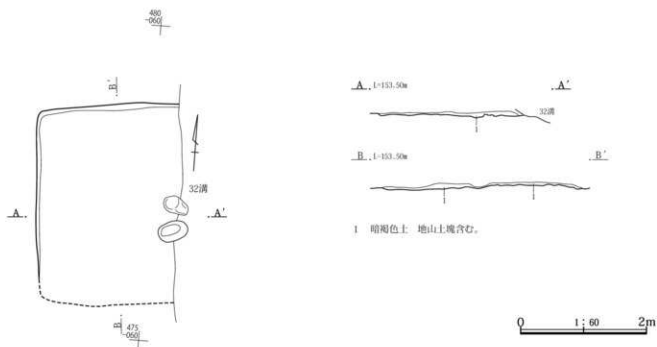
第31図 6号壑穴建物



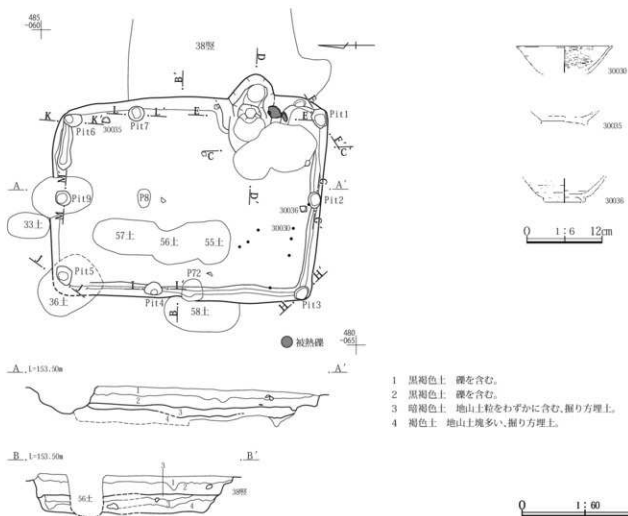
第32図 7・9号壑穴建物



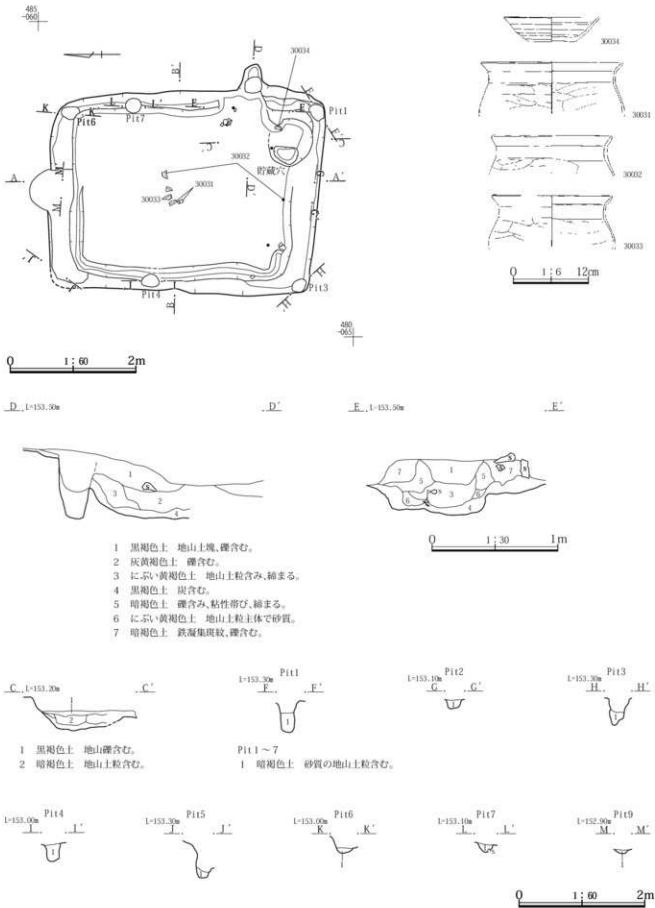
第33図 10号壑穴建物



第34図 11号竪穴建物

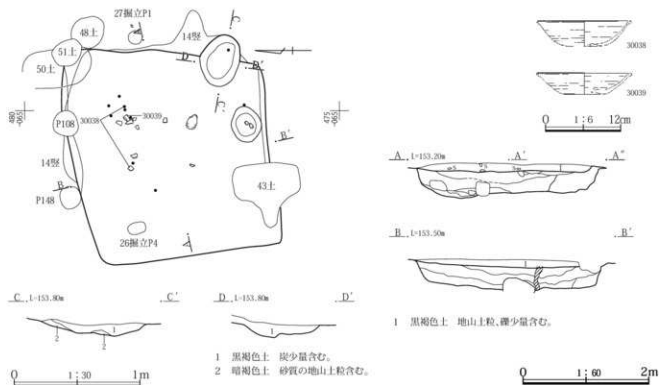


第35図 12号竪穴建物

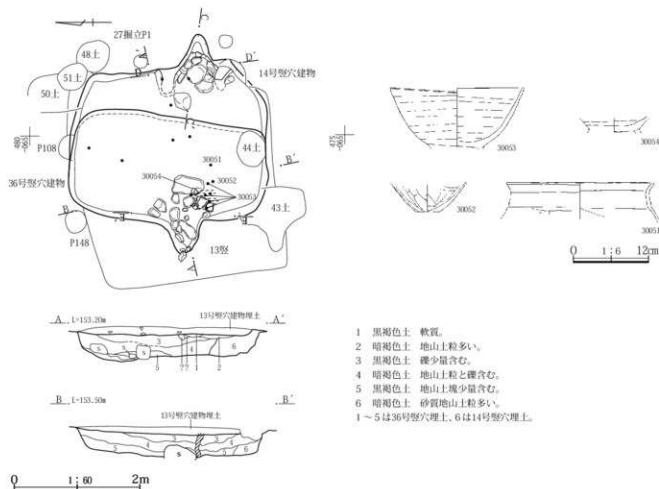


第36図 12号堀穴建物掘り方と竈・ピット断面

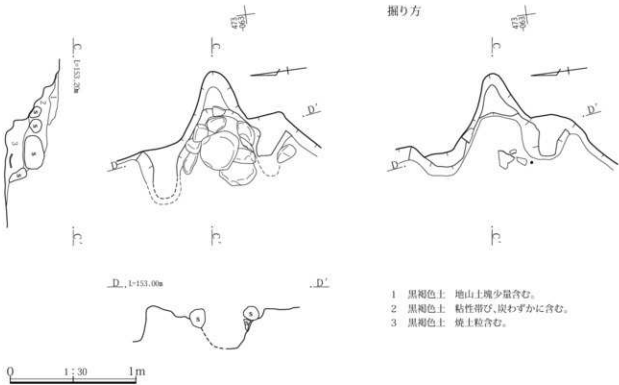
第2章 築師遺跡・萬行遺跡



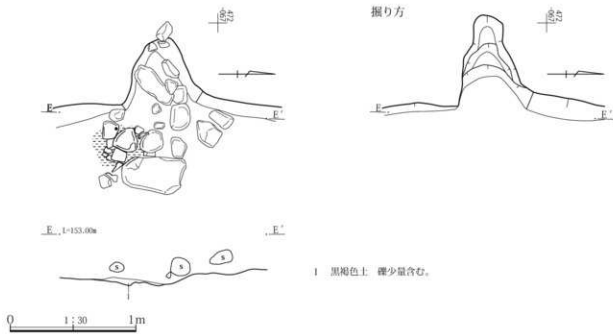
第37図 13号竪穴建物



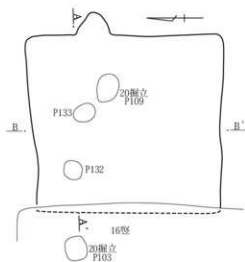
第38図 14・36号竪穴建物



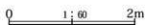
第39図 14号竪穴建物窟



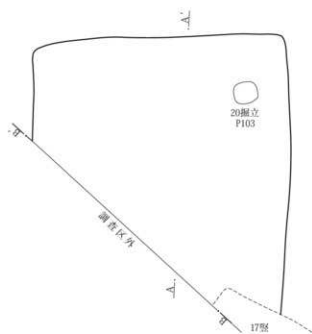
第40図 36号竪穴建物窟



I 黒褐色土 地山上塊少量含む。



第41図 15号竪穴建物

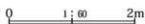


I～III 表土～浅間B軽石混土層

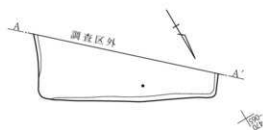
1 黒褐色土 礫と地山上塊含む。

2 黒褐色土 礫と地山上塊含む。

3 地山



第42図 16号竪穴建物



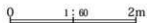
I～III 表土～浅間B軽石混土層

グレートン浅間B軽石

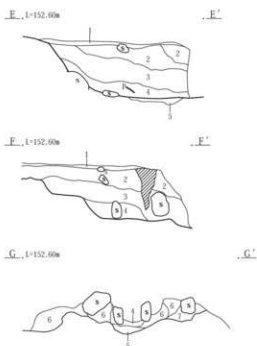
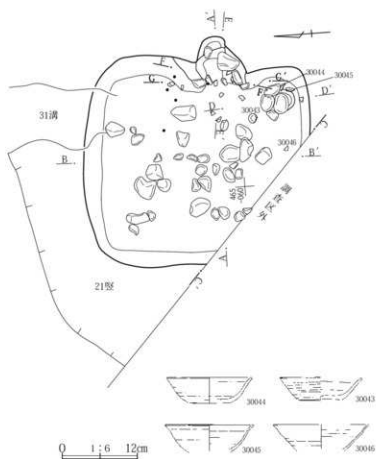
1 黒褐色土 地山上塊・土粒含む。

2 黒褐色土 地山上塊・土粒含む。

3 黒褐色土 礫含む。



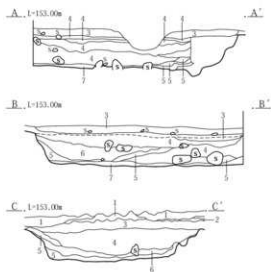
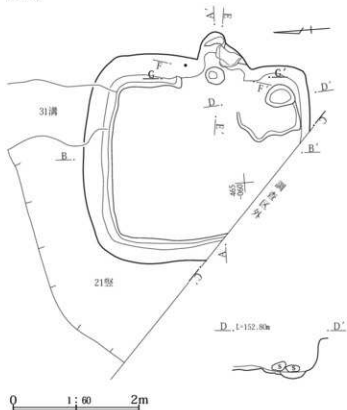
第43図 17号竪穴建物



- 1 黒褐色土 地山土塊含む。
- 2 暗褐色土 地山土塊多い。
- 3 暗褐色土 粘性帯びる。
- 4 暗褐色土 炭と灰多く含む。
- 5 火床面理上
- 6 暗褐色土 粘性帯び、炭少量含む。
- 7 暗褐色土 礫含む。

0 1:30 1m

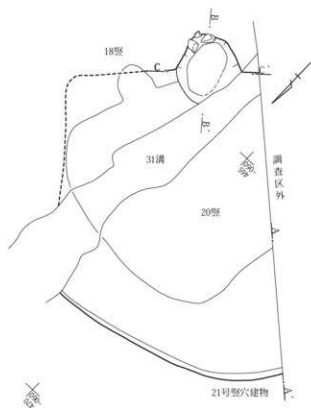
掘り方



- 1 暗褐色土 浅間B軽石混土
- 2 浅間B軽石
- 3 黒褐色土
- 4 にぶい黄褐色土 地山土塊多い、人為の理上。
- 5 黒褐色土
- 6 黒褐色土 地山土塊多い、人為の理上。
- 7 地山

第45図 20号型穴建物

第3節 築師遺跡で検出された遺構と遺物



A, L=154.00m A'



I～III 表土～浅間B軽石混土

1 浅間B軽石

2 黒褐色土

3 黒褐色土 礫含む。

0 1:60 2m

B, L=152.90m B'



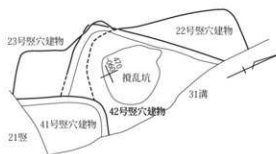
C, L=152.90m C'



I 暗褐色土 地山上粒少量含む。

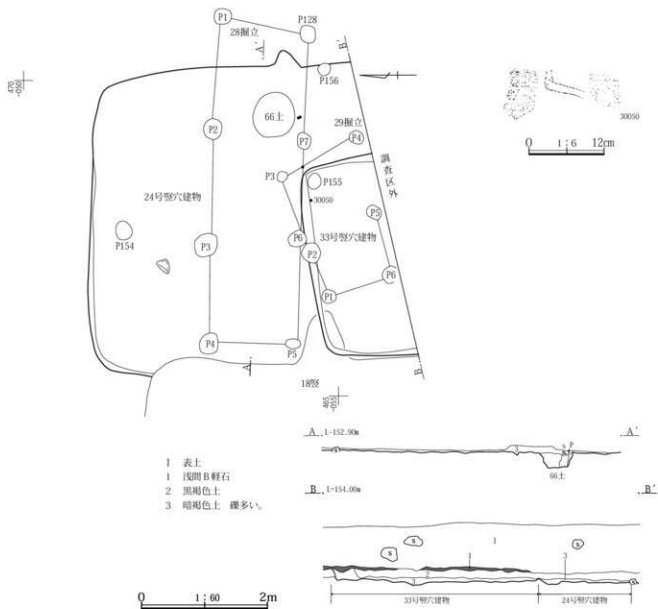
0 1:30 1m

第46図 21号竪穴建物

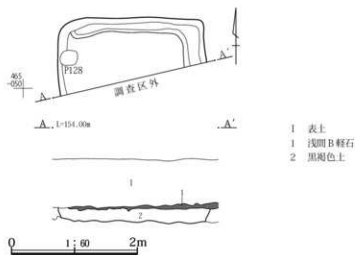


0 1:60 2m

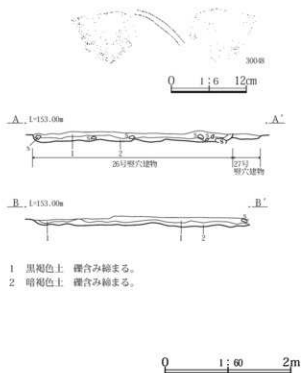
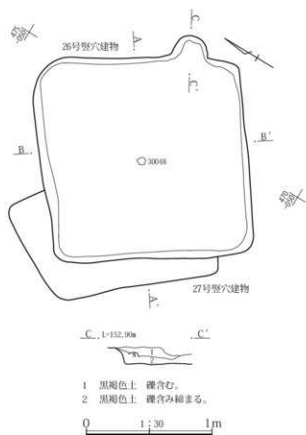
第47図 22・23・41・42号竪穴建物



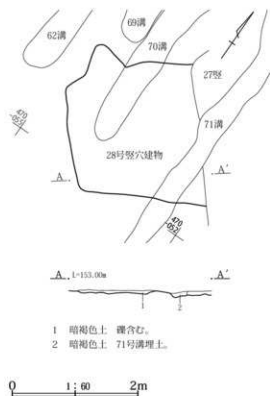
第48図 24・33号壑穴建物



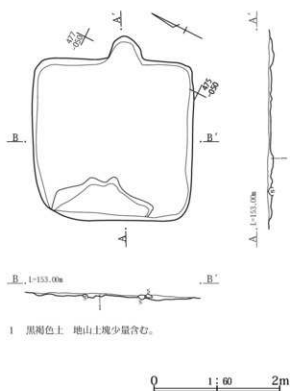
第49図 25号壑穴建物



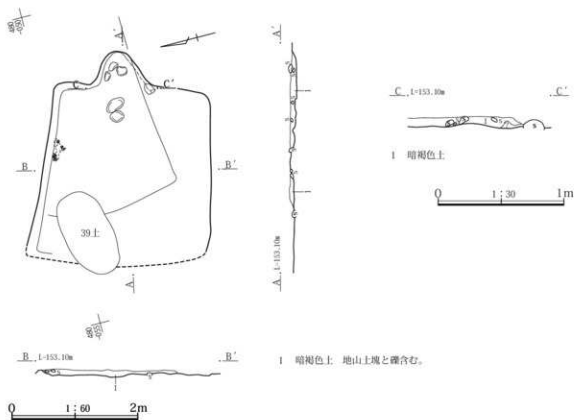
第50図 26・27号竪穴建物



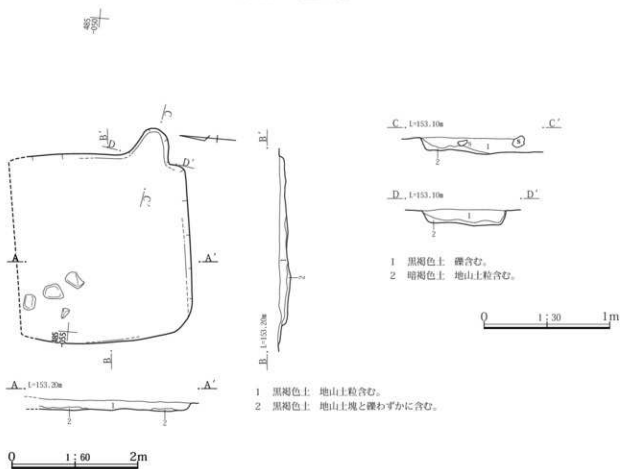
第51図 28号竪穴建物



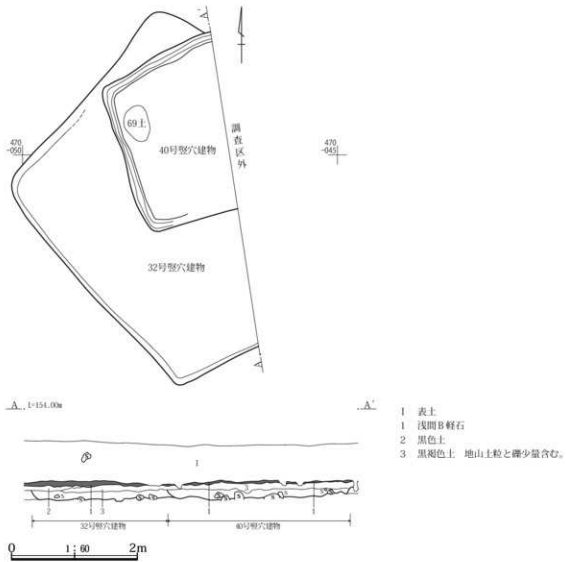
第52図 29号竪穴建物



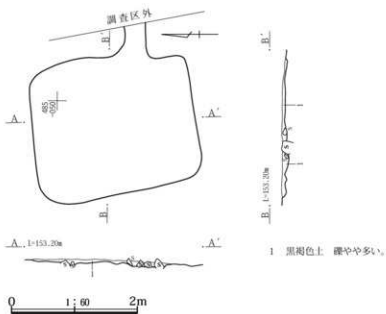
第53図 30号竪穴建物



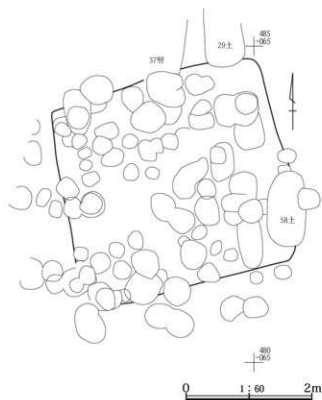
第54図 31号竪穴建物



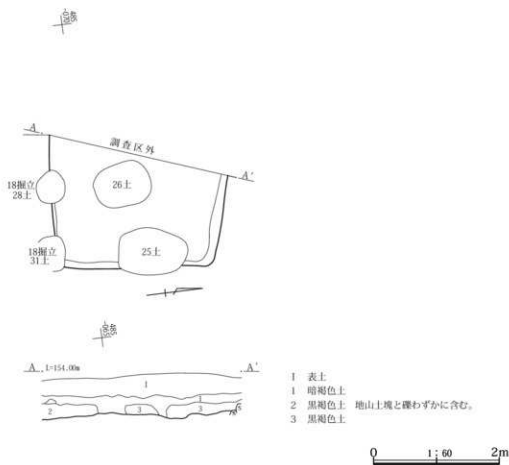
第55図 32・40号竪穴建物



第56図 34号竪穴建物



第57図 35号竪穴建物



第58図 37号竪穴建物



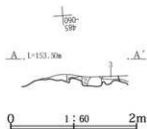
B., 1-153.00m B'



C., 1-153.00m C'

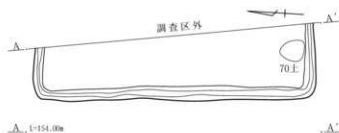


1 黒褐色土 炭をわずかに含む。

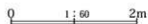


- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 内部ビット埋土。
- 3 黒褐色土 礫含む。

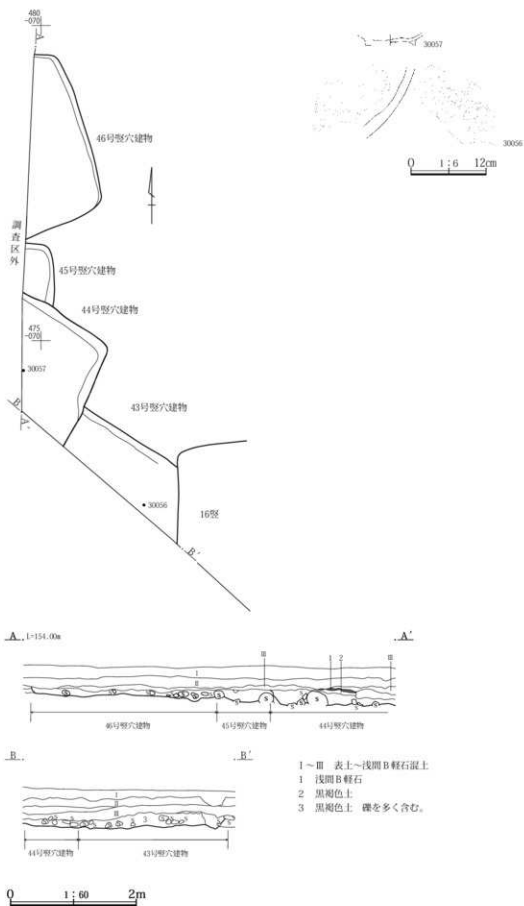
第59図 38号竪穴建物



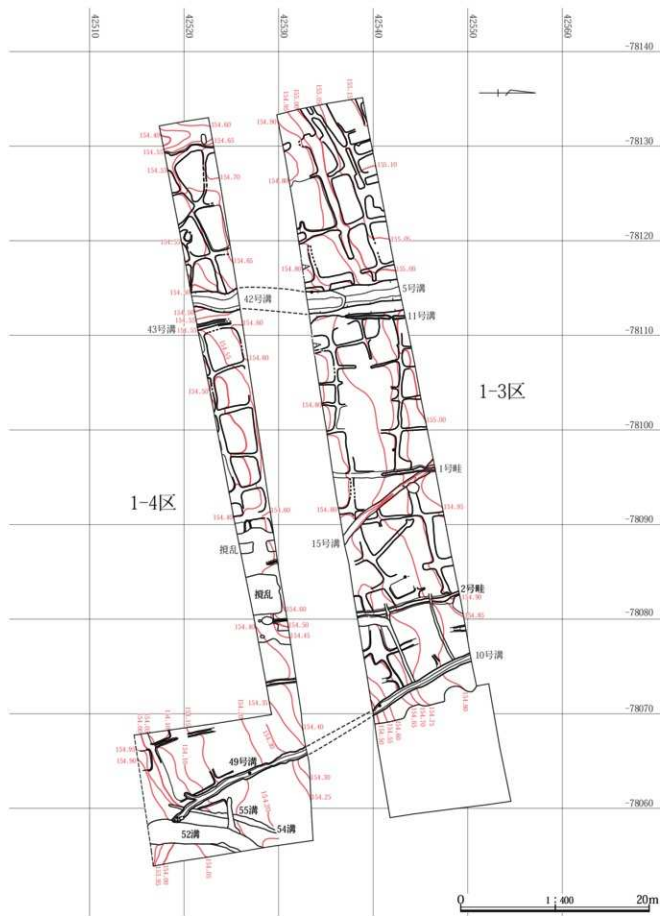
- 1 表土
- Ⅲ 浅間B軽石混土
- 1 浅間B軽石
- 2 暗褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土 礫を含む。



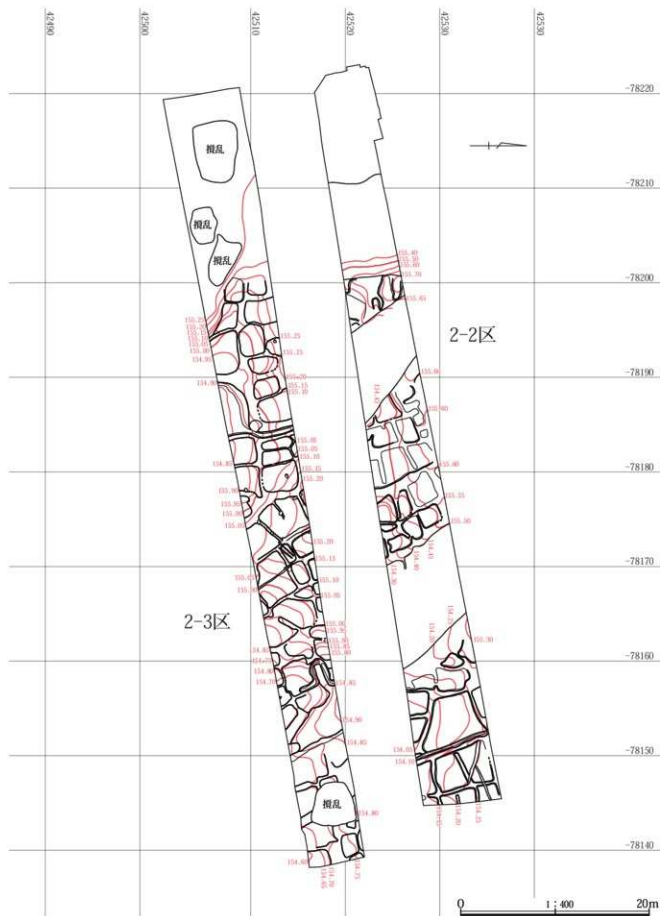
第60図 39号竪穴建物



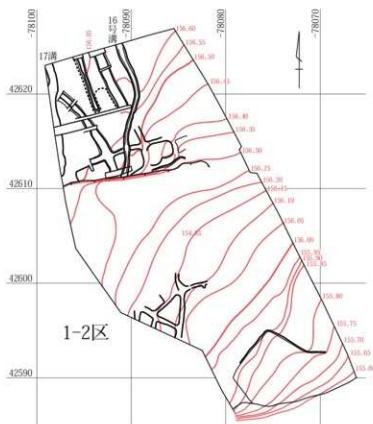
第61图 43・44・45・46号壑穴建物



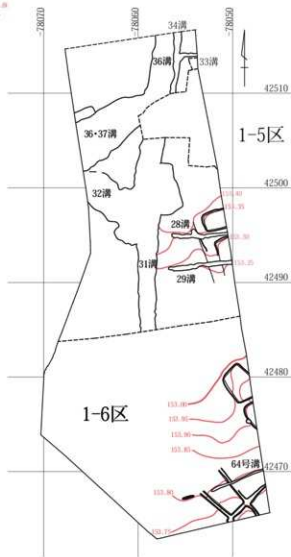
第62図 1-3・4区 As-B下水田



第63图 2-2・3区 As-B 下水田



第64図 1-2区 As-B下水田

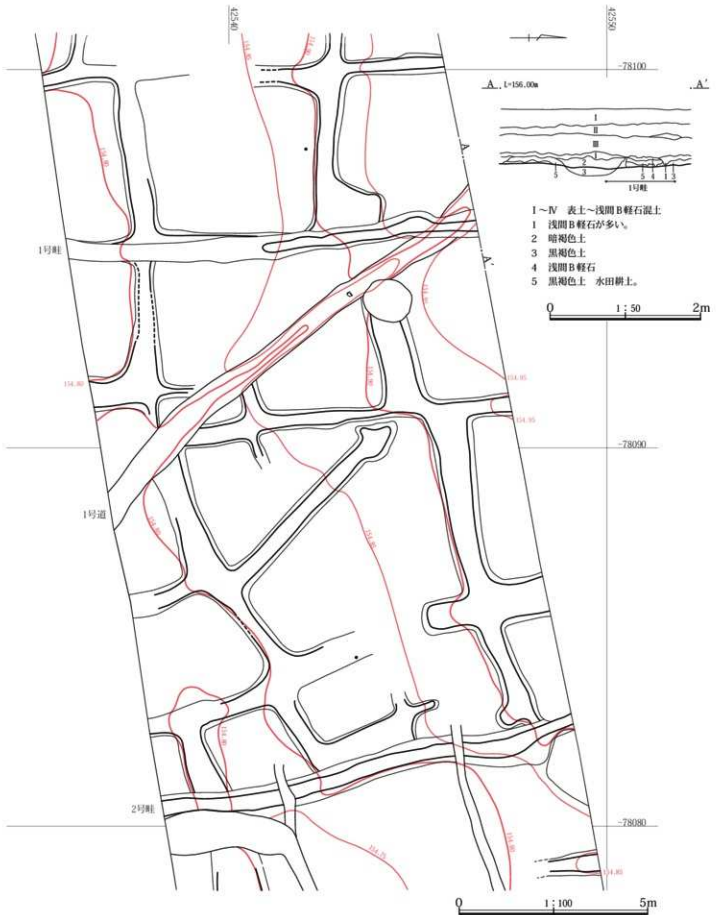


第65図 1-5・6区 As-B下水田

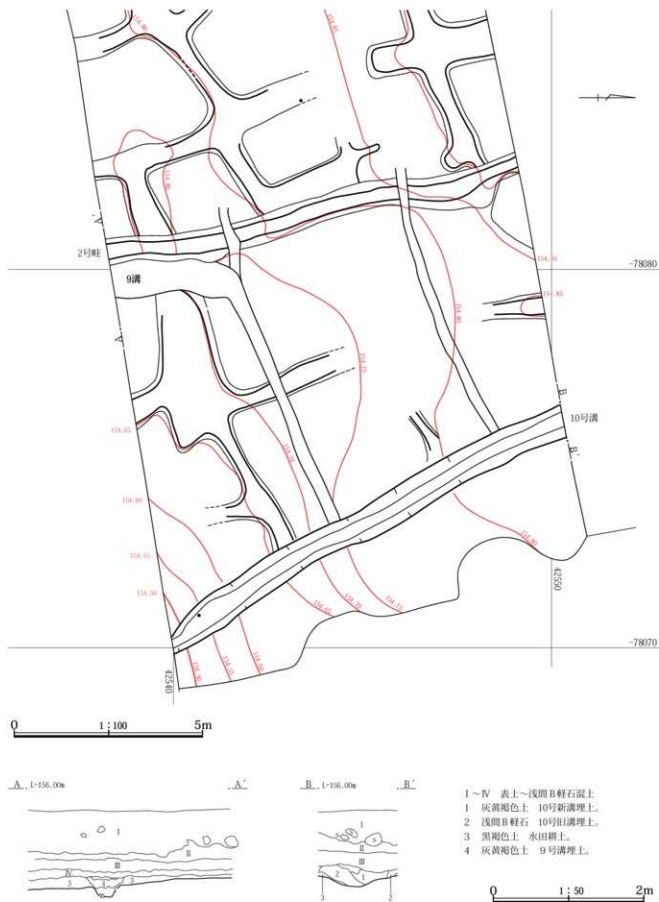
0 1:400 20m



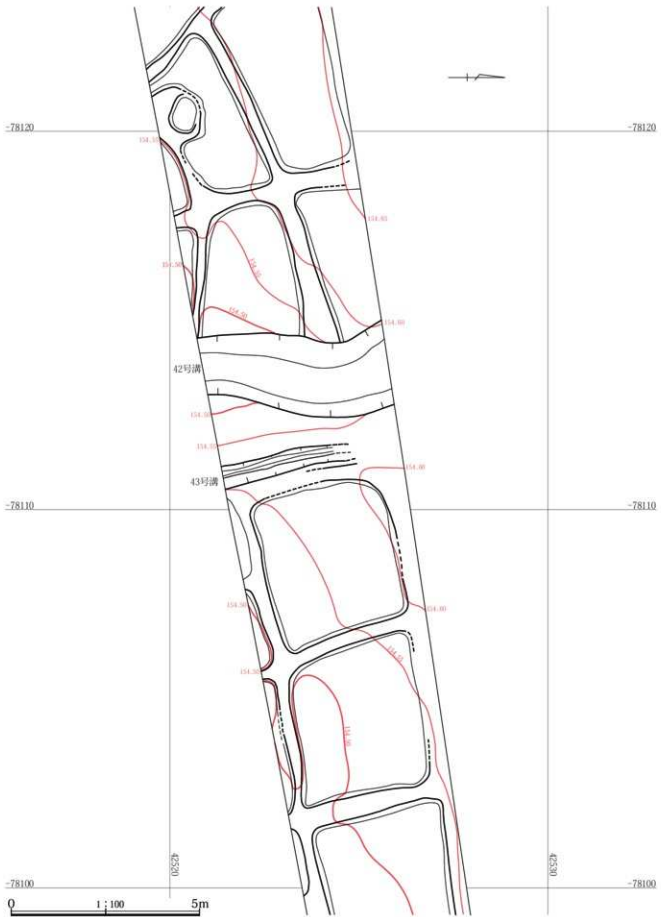
第66図 1-3区 As-B下水田と5号溝



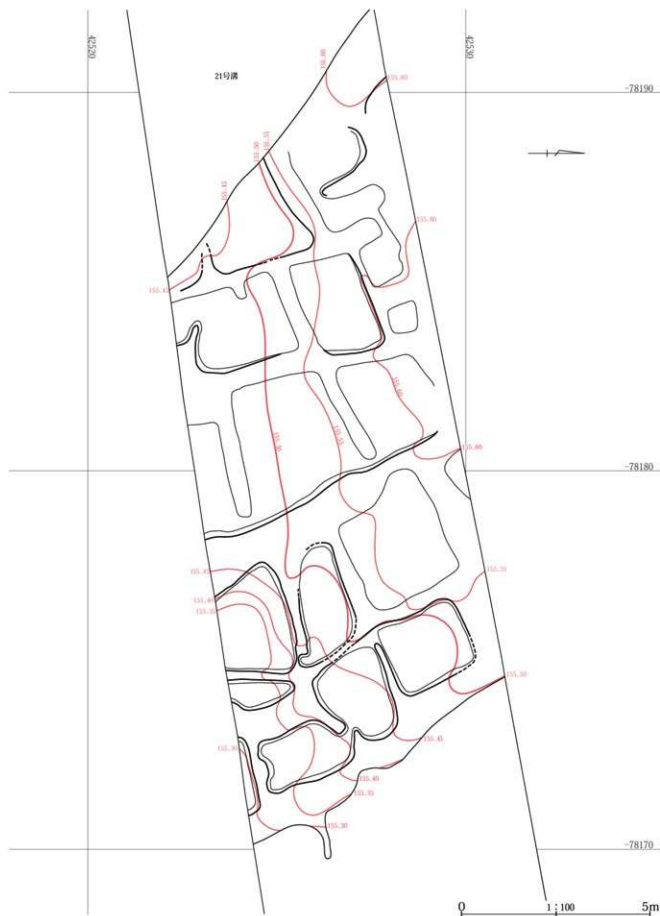
第67図 1-3区 As-B下水田と1号畦・2号畦



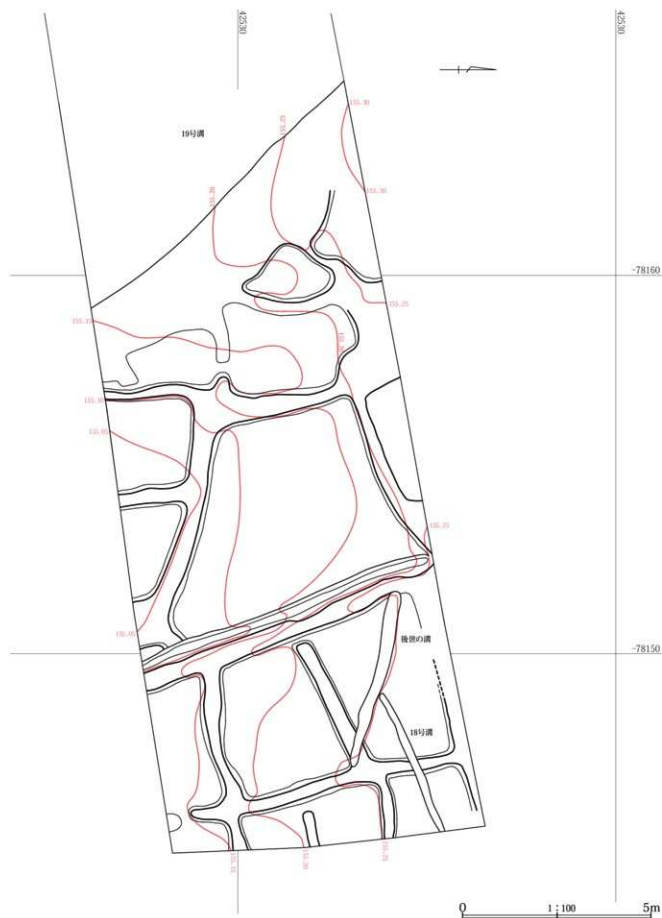
第68图 1-3区 As-B 下水田と2号畦・10号溝



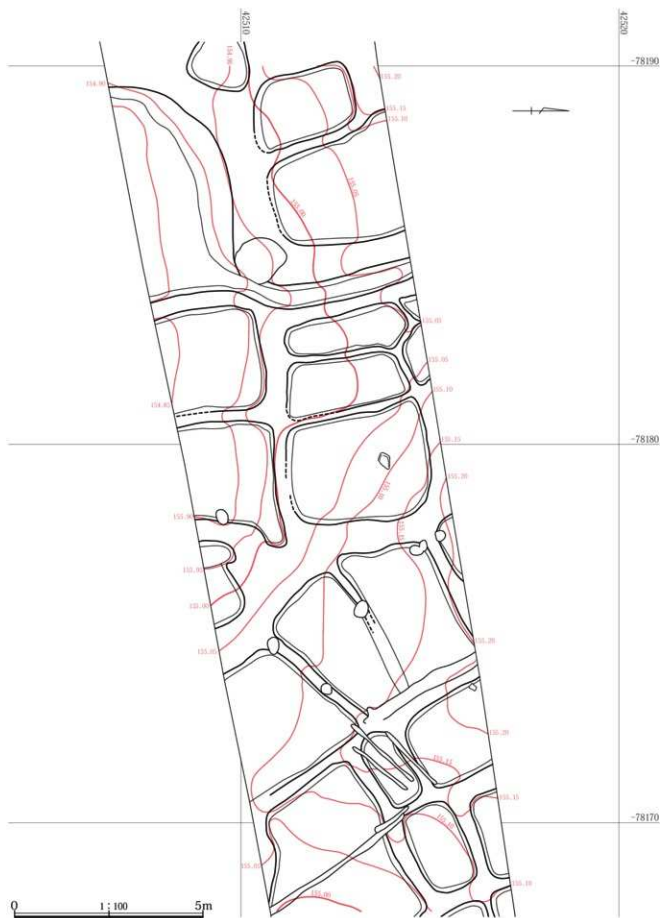
第69図 1-4区 As-B 下水田



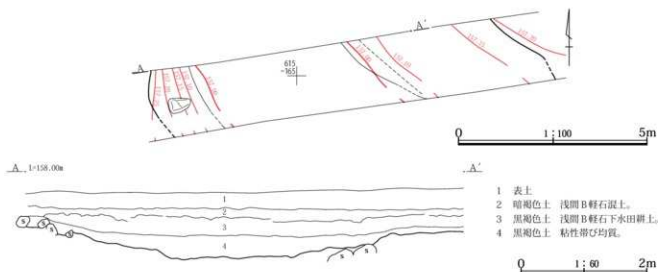
第70图 2-2区 As-B 下水田西半部



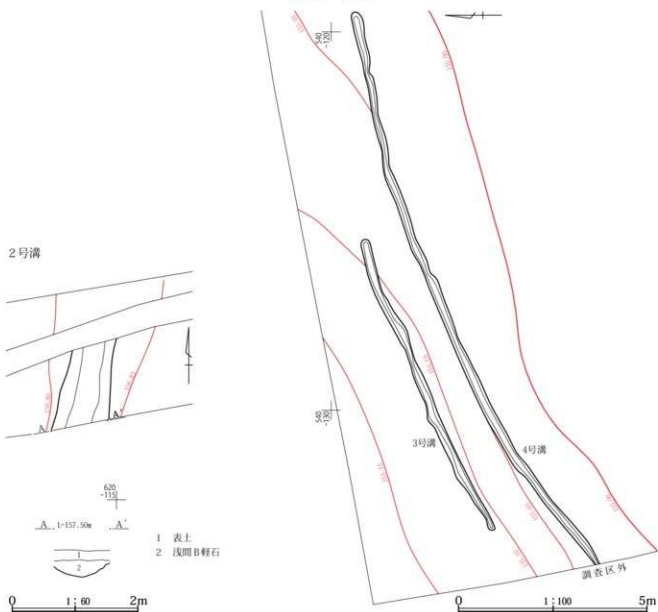
第71図 2-2区 As-B 下水田東半部

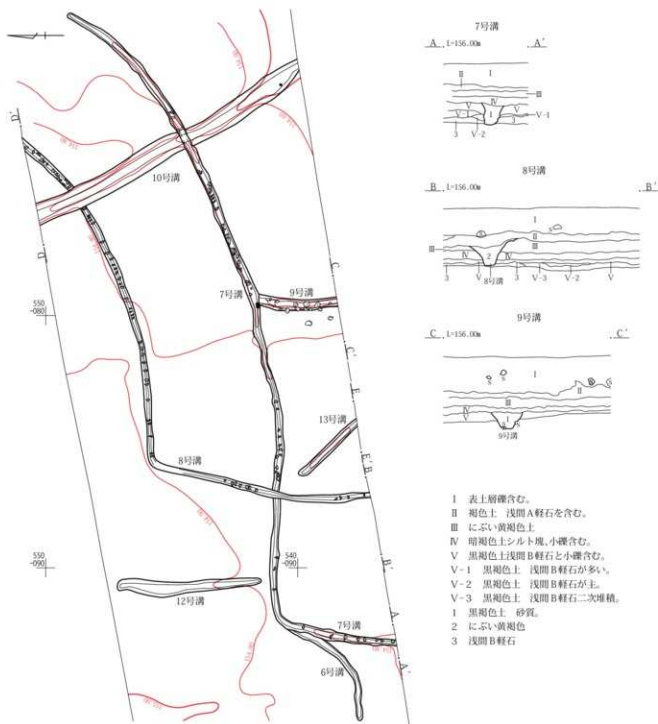


第72图 2-3区 As-B 下水田中央部

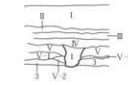


第73図 1号溝

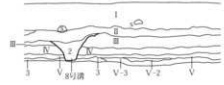




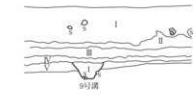
7号溝
A, 1:156.00m A'



8号溝
B, 1:156.00m B'



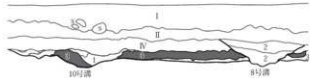
9号溝
C, 1:156.00m C'



- I 表土層雜含む。
- II 褐色土 浅間A軽石を含む。
- III にぶい黄褐色土
- IV 暗褐色土シルト塊、小礫含む。
- V 黒褐色土浅間B軽石と小礫含む。
- V-1 黒褐色土 浅間B軽石が多い。
- V-2 黒褐色土 浅間B軽石が主。
- V-3 黒褐色土 浅間B軽石二次堆積。
- 1 黒褐色土 砂質。
- 2 にぶい黄褐色
- 3 浅間B軽石

0 1:150 5m

8・10号溝
D, 1:156.00m D'

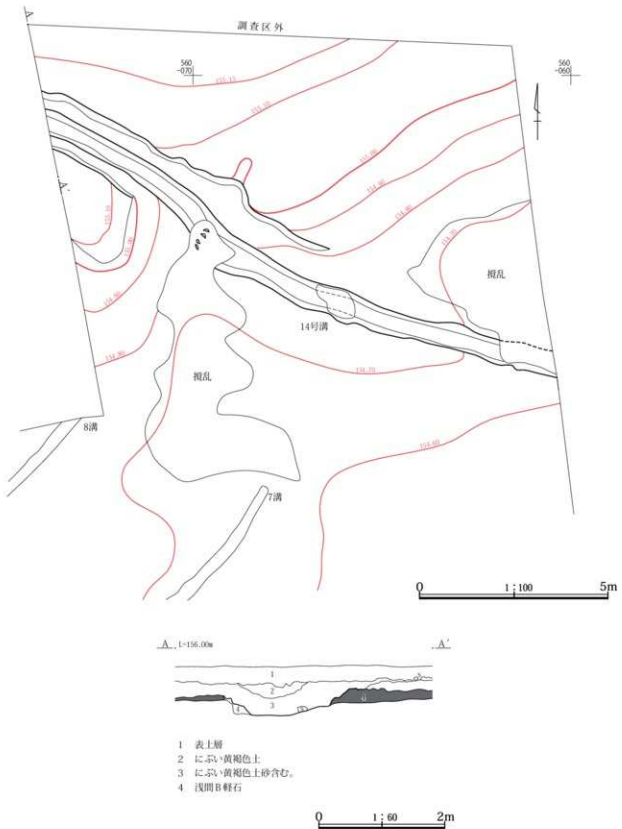


13号溝
E, 1:156.00m E'



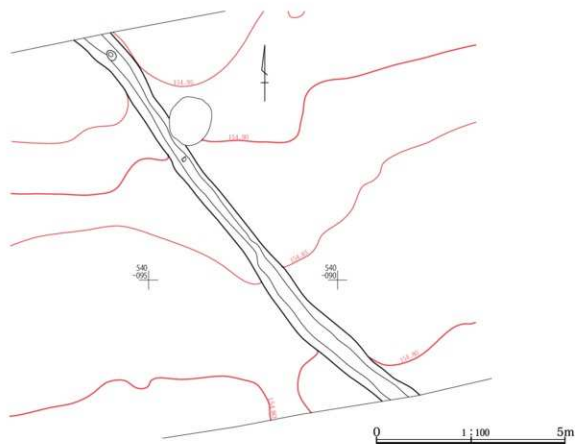
0 1:60 2m

第76図 6・7・8・9・10・12・13号溝



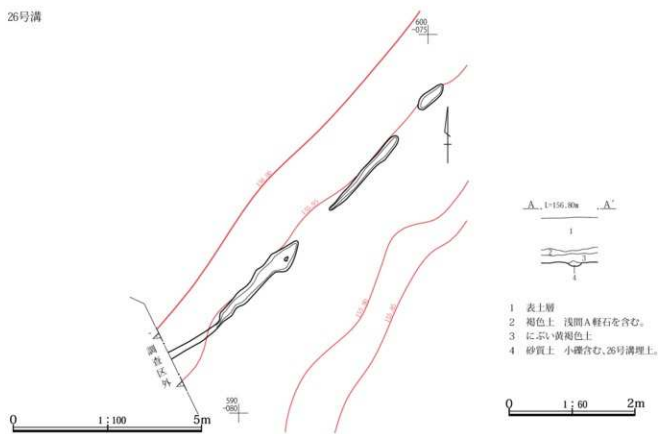
第77図 14号溝

15号溝

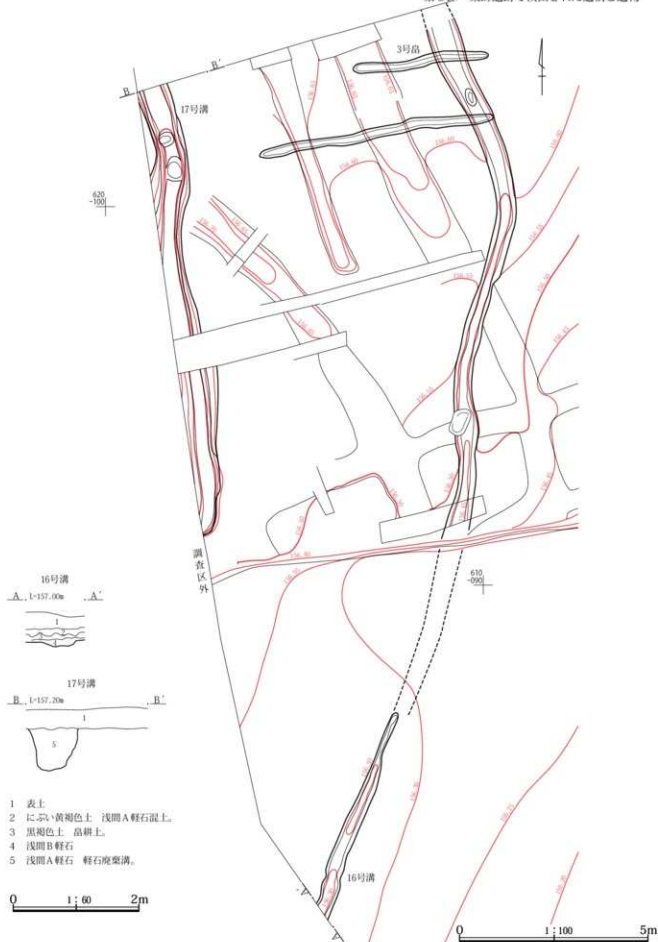


第78図 15号溝

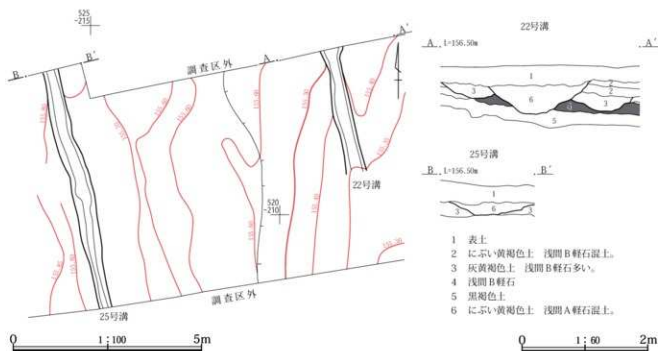
26号溝



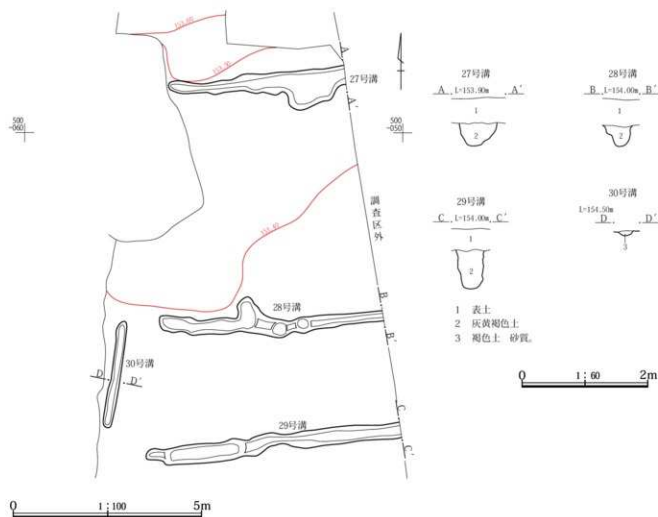
第79図 26号溝



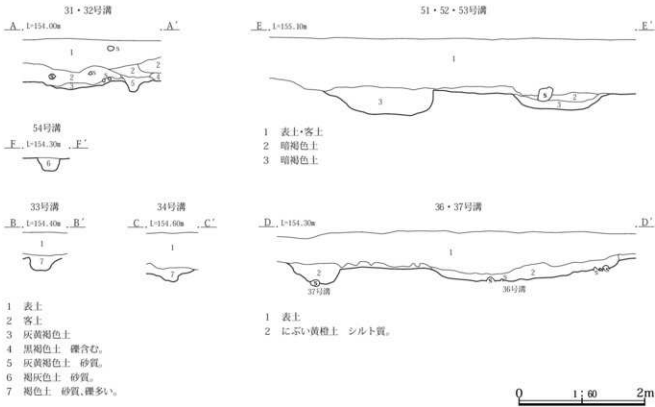
第80図 16・17号溝と3号冪



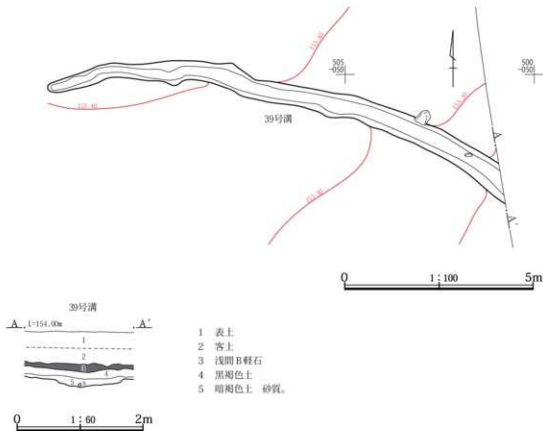
第81図 22・25号溝



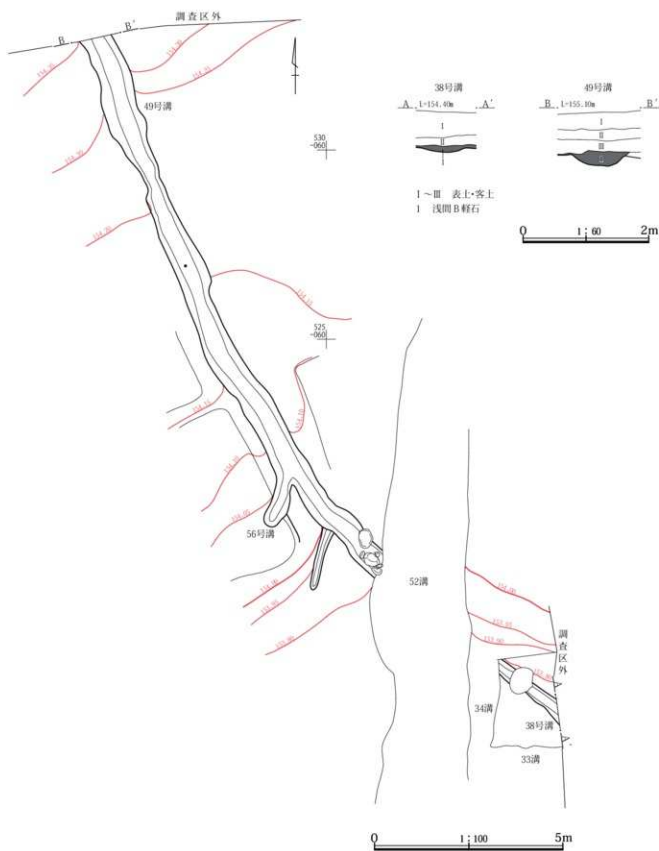
第82図 27・28・29号溝



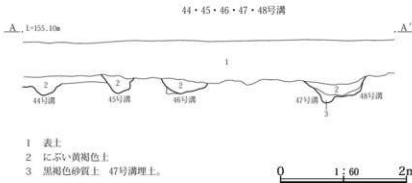
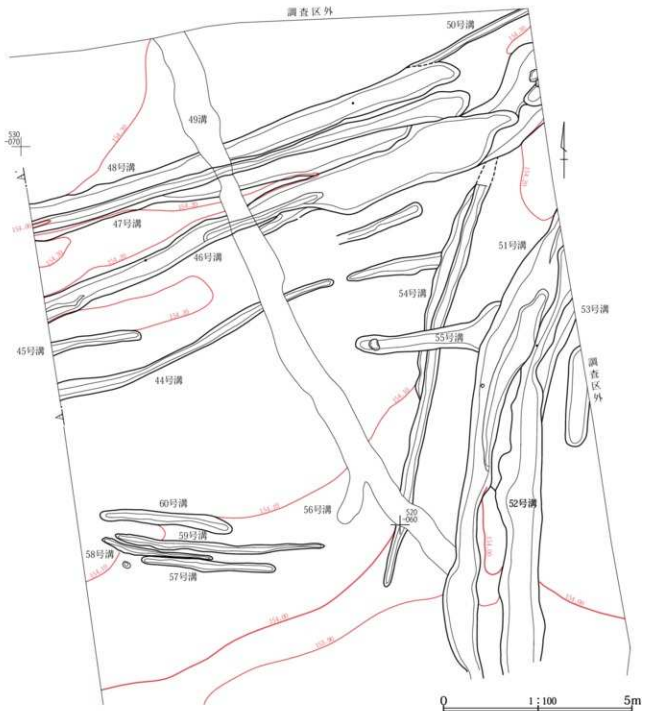
第83図 31～37・51～54号溝断面



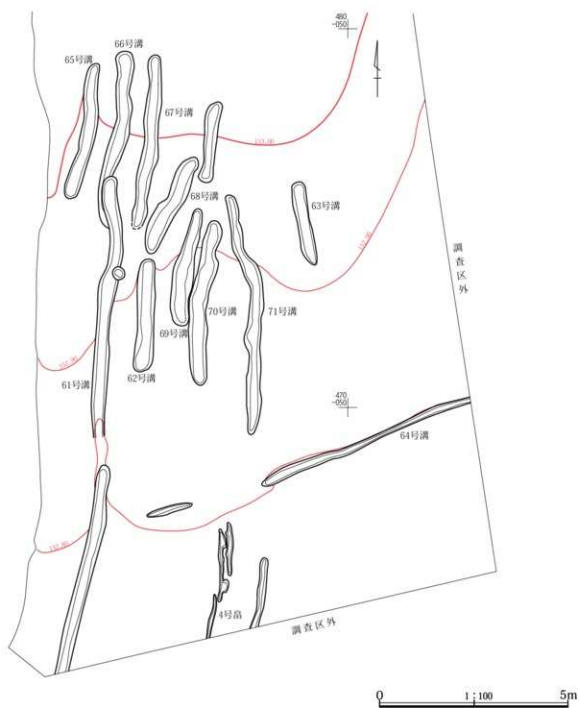
第84図 39号溝



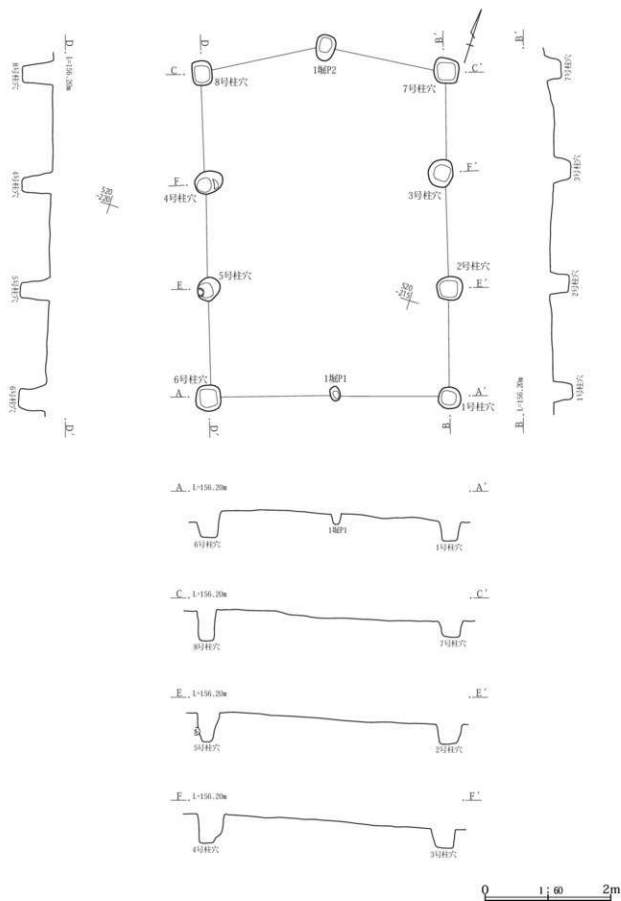
第85図 38・49・56号溝



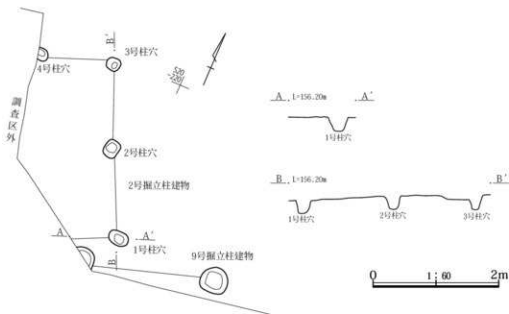
第86図 44～48・50～55・57～60号溝



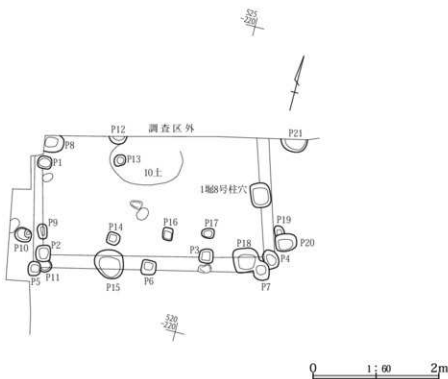
第87图 61~71号溝と4号冢



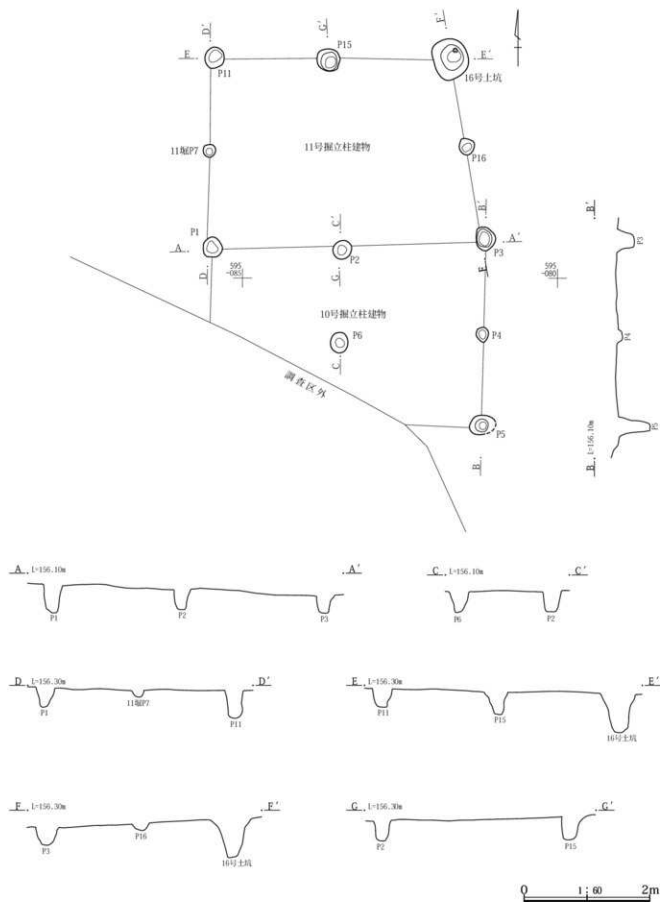
第88図 1号掘立柱建物



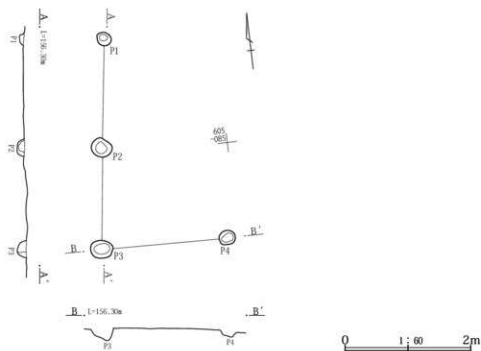
第89圖 2号掘立柱建物



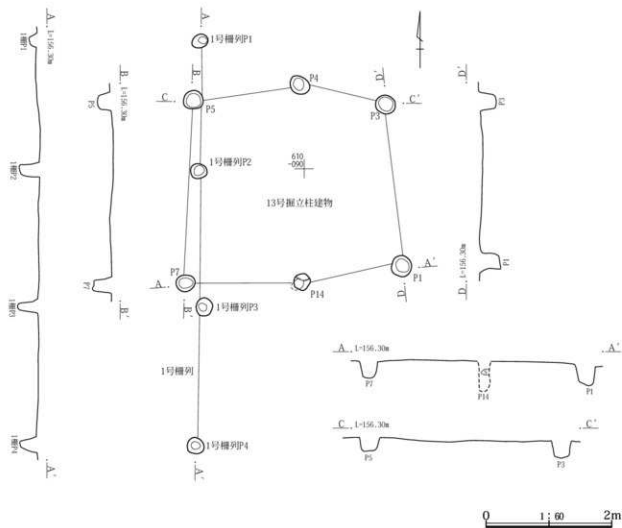
第90圖 3～8号掘立柱建物



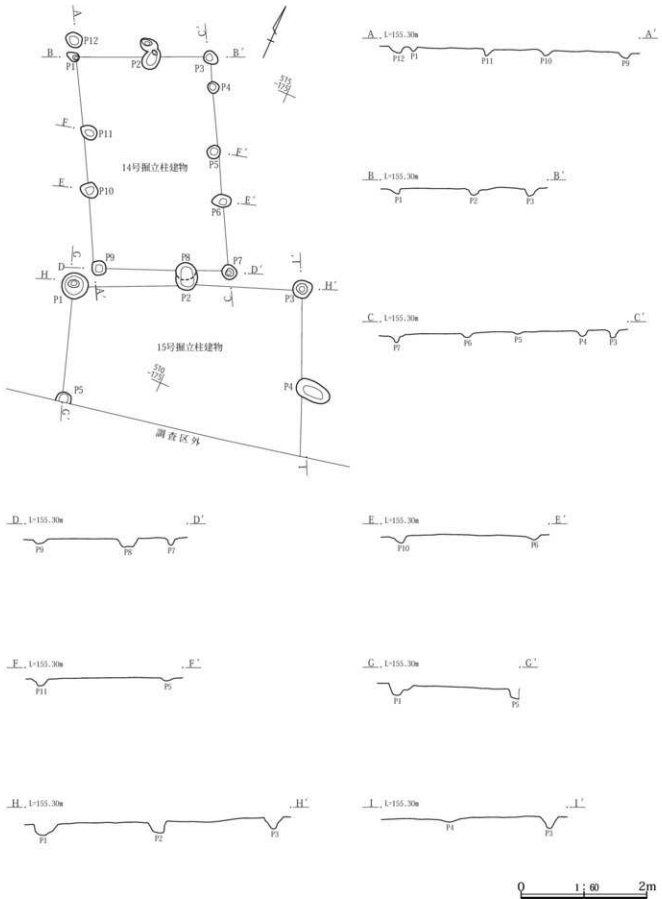
第91図 10・11号獨立柱建物



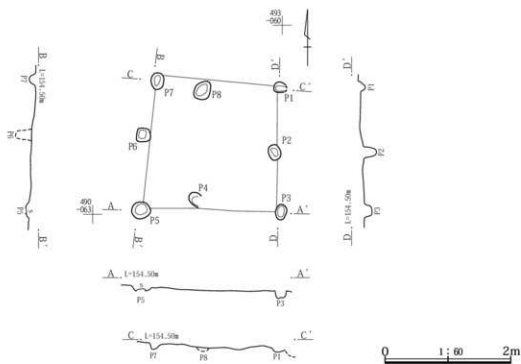
第92图 12号掘立柱建物



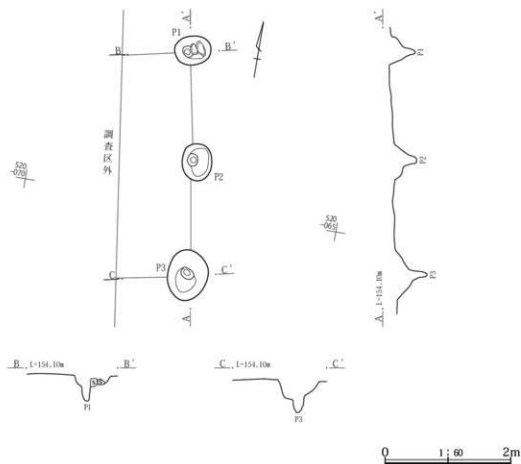
第93图 13号掘立柱建物と1号櫓列



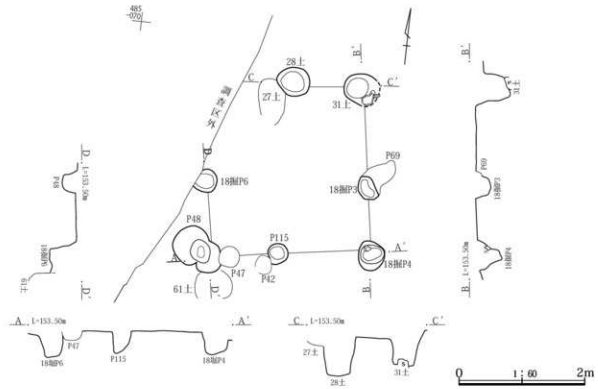
第94図 14・15号獨立柱建物



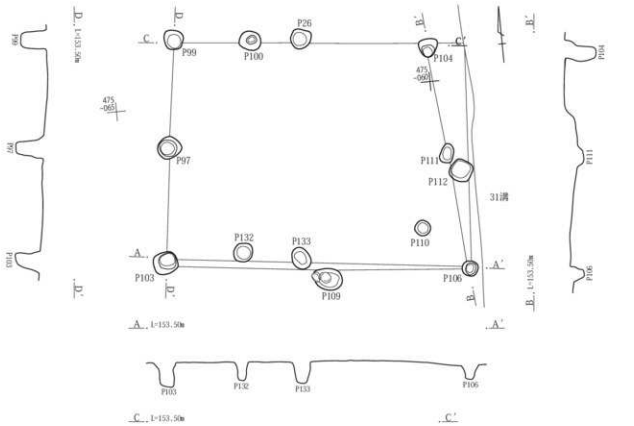
第95图 16号掘立柱建物



第96图 17号掘立柱建物

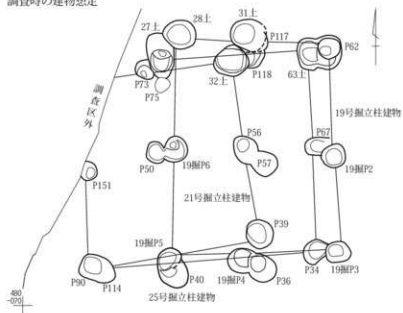


第97図 18号掘立柱建物

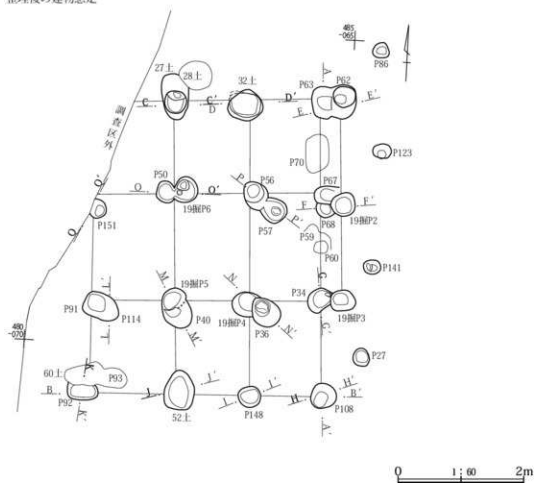


第98図 20号掘立柱建物

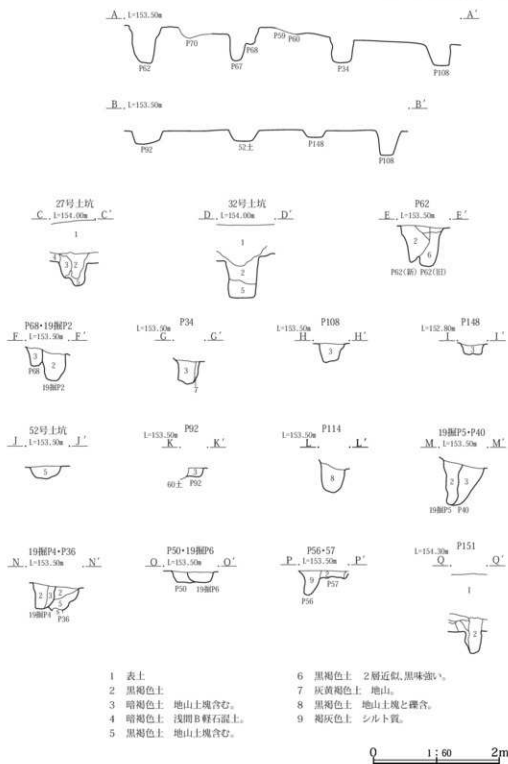
調査時の建物想定



整理後の建物想定

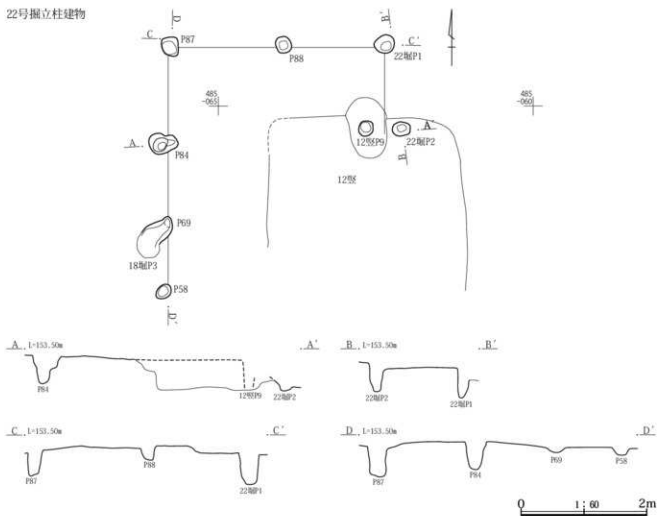


第99図 19・21・25号掘立柱建物

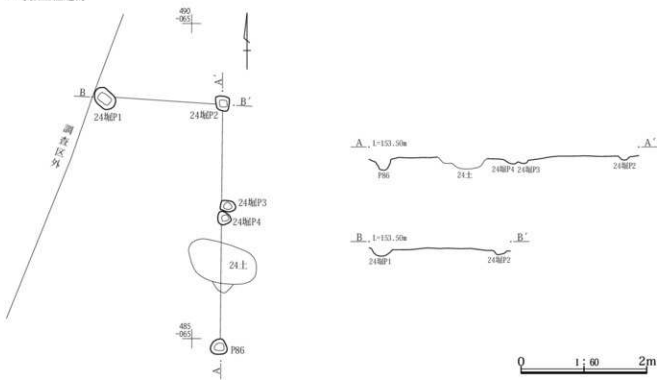


第100図 19・21・25号掘立柱建物柱穴断面

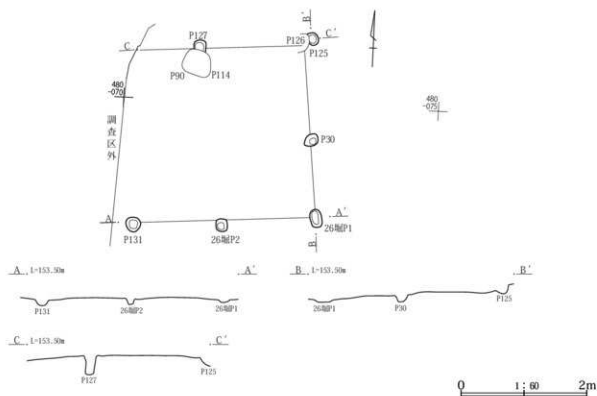
22号掘立柱建物



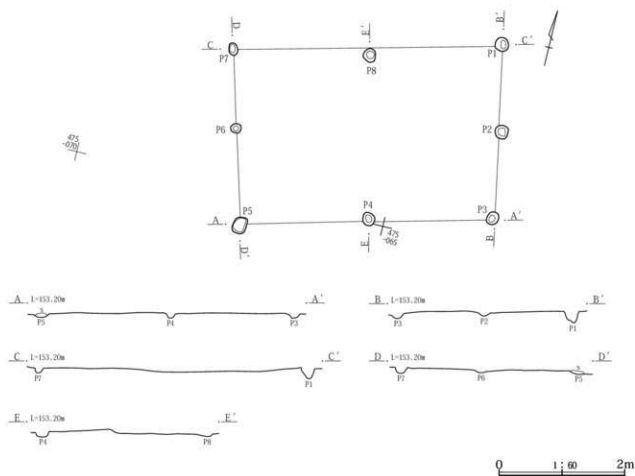
24号掘立柱建物



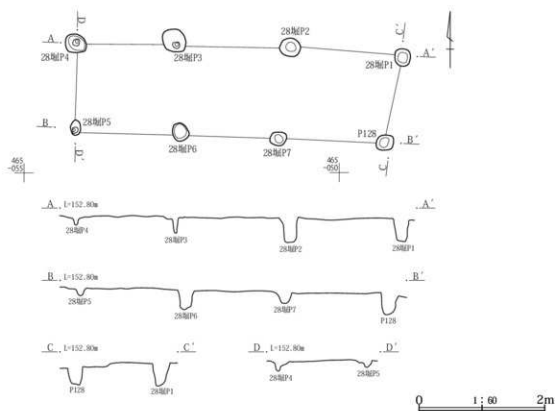
第101图 22・24号掘立柱建物



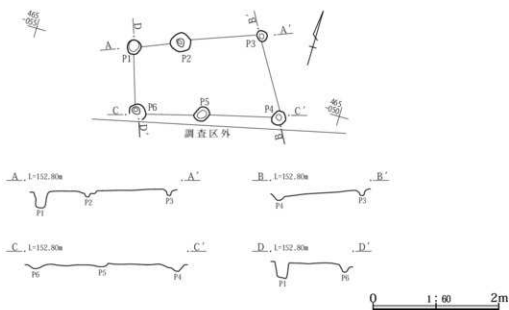
第102図 26号掘立柱建物



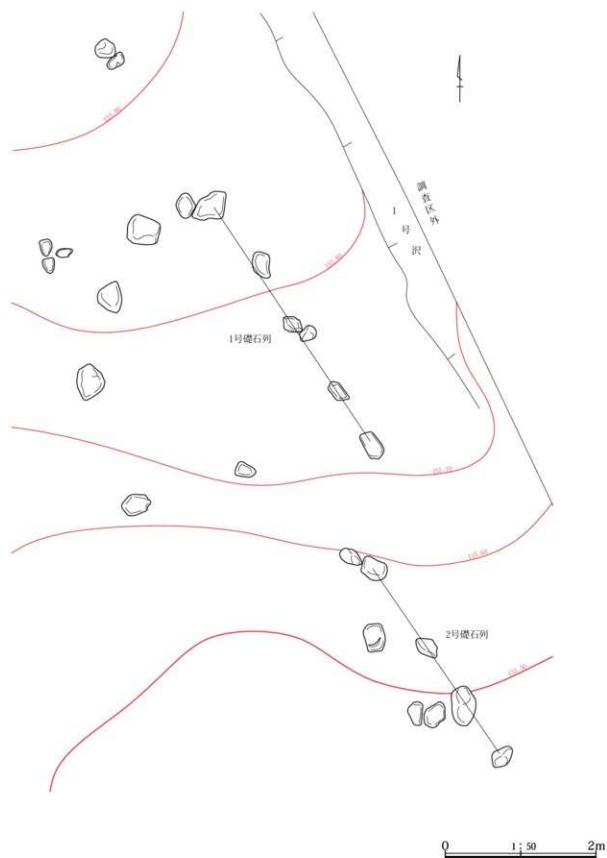
第103図 27号掘立柱建物



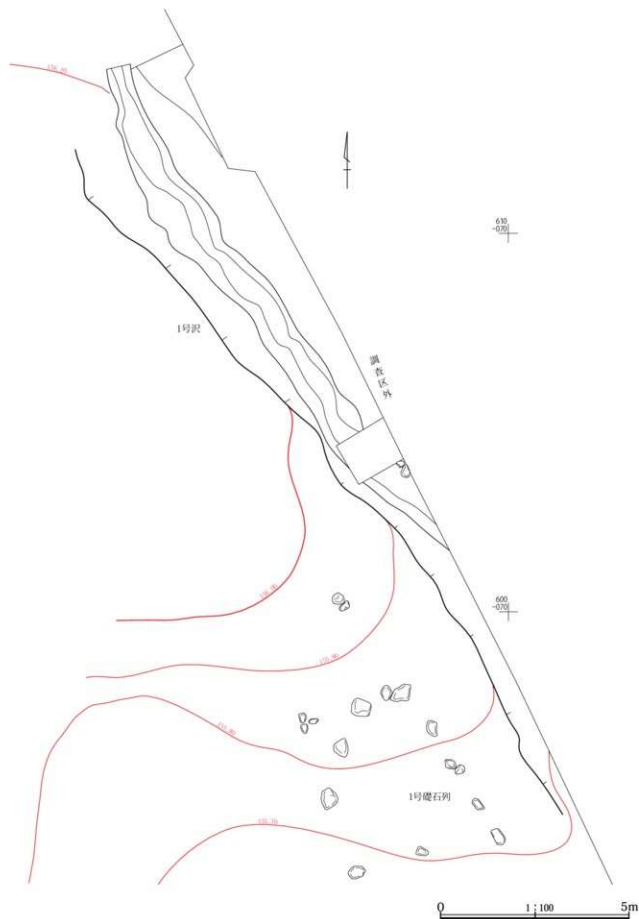
第104圖 28号掘立柱建物



第105圖 29号掘立柱建物

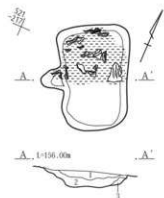


第106図 礎石列



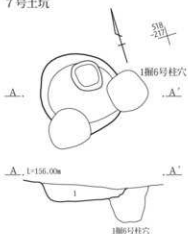
第107図 1号沢遺構

6号土坑



- 1 黒褐色土
- 2 黒色土 炭多い。
- 3 暗褐色土 地山土塊含む。

7号土坑



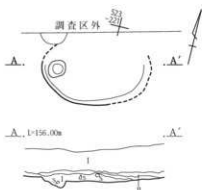
- 1 暗褐色土 炭多く、地山土塊含む。

9号土坑



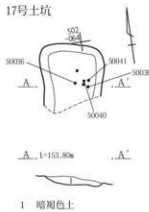
- 1 暗褐色土 骨含み、炭多い。

10号土坑



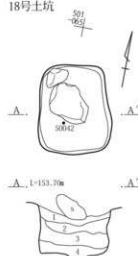
- 1 暗褐色土 炭多い。

17号土坑



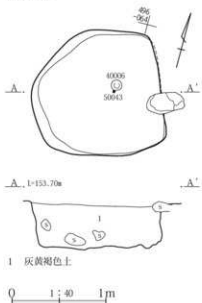
- 1 暗褐色土

18号土坑



- 1～3 灰黄褐色土 人為の埋土。
- 4 黒褐色土 地山土塊含む。

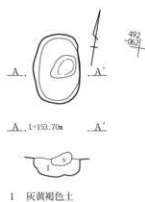
19号土坑



- 1 灰黄褐色土



20号土坑



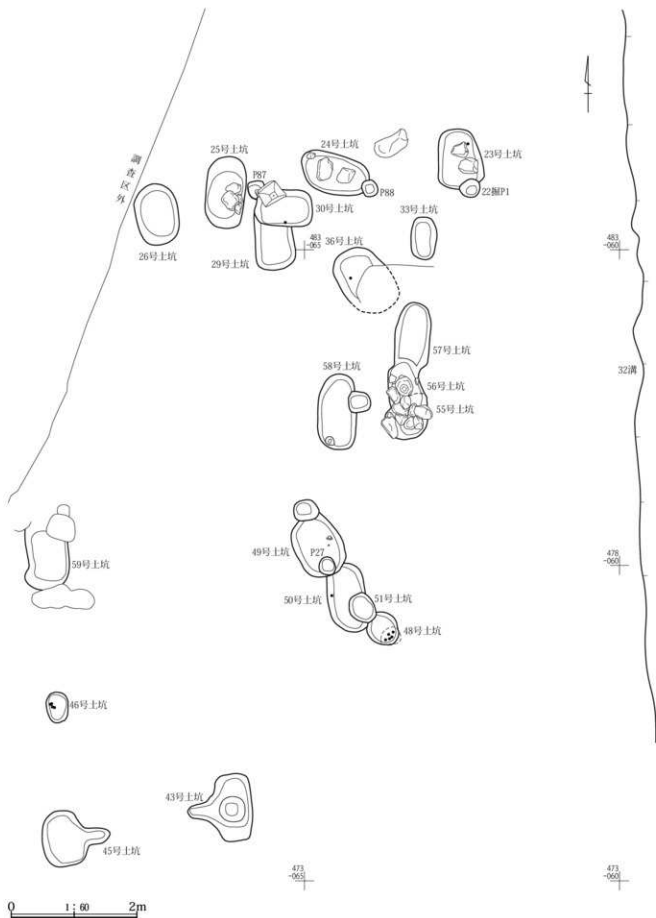
- 1 灰黄褐色土

23号土坑



- 1 灰黄褐色土

第108図 火葬土坑・墓塚(1)



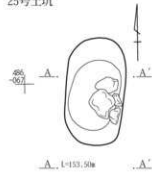
第109图 1-6区墓群配置状况

24号土坑



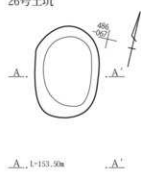
- 1 黒褐色土 浅間B軽石混土。
- 2 灰黄褐色土 地山上粒主体。

25号土坑



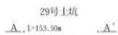
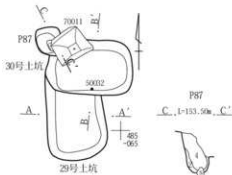
- 1 灰黄褐色土
- 2 地山

26号土坑



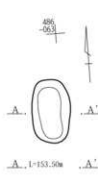
- 1 黄褐色土 地山上粒。
- 2 黒褐色土 浅間B軽石混土。

29号・30号土坑



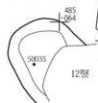
- 1 灰黄褐色土
- 2 灰黄褐色土 地山上粒主体。
- 3 黒褐色土 浅間B軽石混土。
- 4 灰黄褐色土 地山上塊多い。

33号土坑

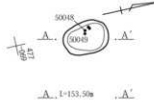


- 1 黒褐色土 浅間B軽石混土。
- 2 褐色土 地山上粒。

36号土坑

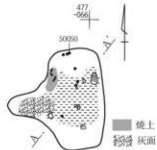


46号土坑

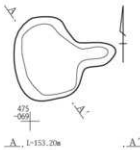


- 1 暗褐色土 浅間B軽石含む。

43号土坑



45号土坑



- 1 暗褐色土 炭、焼土含む。



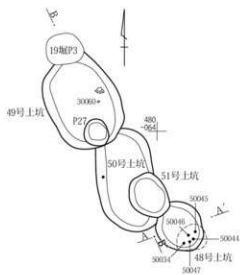
- 1 暗褐色土 浅間B軽石多い。
- 2 暗褐色土 炭、灰、骨多い。
- 3 暗褐色土 炭、焼土多い。
- 4 暗褐色土 焼土含む。
- 5 暗褐色土 2層と同じか。



第110図 火葬土坑・墓塚(2)

第2章 築師遺跡・萬行遺跡

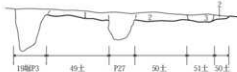
48号・49号・50号・51号土坑



..A.. l=153.50m ..A'..
1 黒褐色土 浅間B軽石多い。

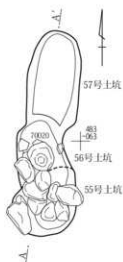


..B'.. l=153.50m

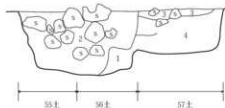


- 1 黒褐色土 浅間B軽石多い。
2 黒褐色土 浅間B軽石多い。
3 黒褐色土 浅間B軽石多い。

55号・56号・57号土坑



..A.. l=153.50m ..A'..



- 1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。
2 灰黄褐色土 浅間B軽石多い。
3 暗褐色土 礫多い。
4 暗褐色土 浅間B軽石多い。

58号土坑



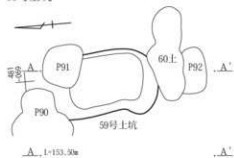
..A.. l=153.50m ..A'..



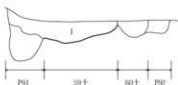
1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。



59号土坑



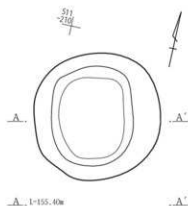
..A.. l=153.50m ..A'..



1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。

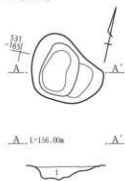
第111図 墓域

1号井戸



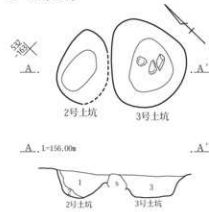
1 暗褐色土 礫投壺。

1号土坑



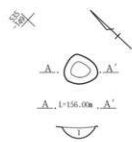
1 黒褐色土 地山土塊含む。

2・3号土坑



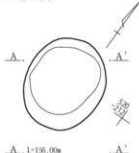
1 黒褐色土 地山土塊含む。
2 地山
3 黒褐色土 砂質。

4号土坑



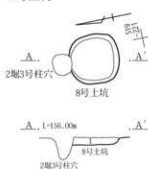
1 黒褐色土 地山土塊含む。

5号土坑



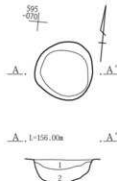
1 黒色砂互層

8号土坑



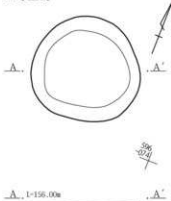
1 暗褐色土 地山土塊含む。

11号土坑



1 黒褐色土 浅間B軽石含む。
2 黒褐色土 1より軟質。

12号土坑



1 黒褐色土 軟質、浅間B軽石含む。

13号土坑

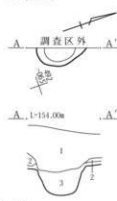


1 黒褐色土 軟質、浅間B軽石含む。

15号土坑



21号土坑

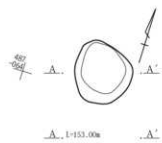


1 表土
2 客土
3 黒褐色土 地山土塊含む。

0 1:40 1m

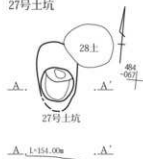
第112図 土坑(1)

22号土坑



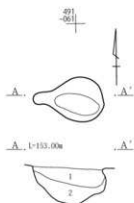
- 1 黒褐色土 浅間B軽石と礫含む。
2 地山

27号土坑



- 1 表土
2 黒褐色土
3 暗褐色土 地山上塊含む。
4 暗褐色土 浅間B軽石混入。
5 黒褐色土 地山上塊含む。
なお、27号土坑は19・21・25号掘立柱建物柱穴の可能性あり。

34号土坑



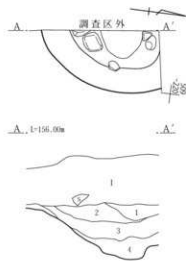
- 1 黒褐色土 浅間B軽石混入。
2 灰黄褐色土 地山上塊含む。

35号土坑



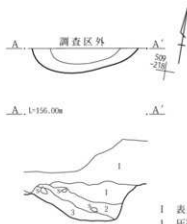
- 1 暗褐色土 シルト土塊含む。

37号土坑



- 1 表土
1 黒褐色土 地山上塊含む。
2 黒褐色土
3 暗褐色土 地山上塊含む。
4 黒褐色土

38号土坑



- 1 表土
1 灰褐色土 地山上塊多い。
2 暗褐色土 砂質土含む。
3 暗褐色土 礫含む。

39号土坑

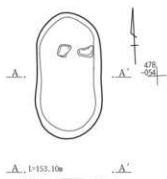


- 1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。

0 1:40 1m

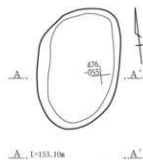
第113図 土坑(2)

40号土坑



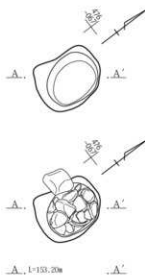
1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。

41号土坑



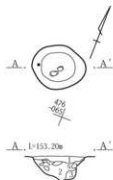
1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。

42号土坑



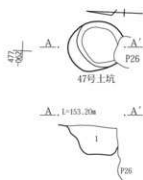
1 暗褐色土 浅間B軽石多い。

44号土坑



1 暗褐色土 浅間B軽石多い。
2 黒褐色土
3 地山

47号土坑



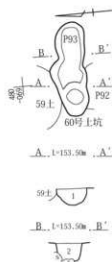
1 黒褐色土 浅間B軽石多い。

52号土坑



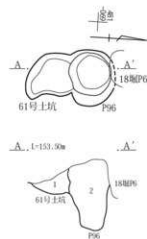
1 黒褐色土 浅間B軽石多い。

60号土坑・P93



1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。
2 にふい黄褐色土 浅間B軽石、地山上塊多い。

61号土坑・P96

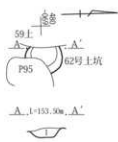


1 黒褐色土 浅間B軽石多い。
2 暗褐色土 浅間B軽石多い。



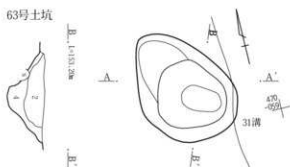
第114図 土坑(3)

62号土坑



1 黒褐色土 浅間B軽石多い。

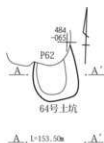
63号土坑



A-A', L=153.20m

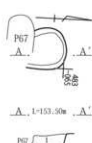
- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土 地山上粒含む。
- 4 灰黄褐色土

64号土坑



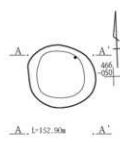
1 灰黄褐色土 浅間B軽石多い。

65号土坑



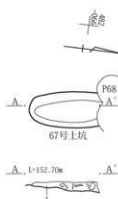
1 灰黄褐色土 浅間B軽石多い。

66号土坑



- 1 暗褐色土 砂質。
- 2 黒褐色土

67号土坑



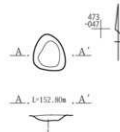
1 暗褐色土 浅間B軽石多い。

69号土坑



1 暗褐色土

70号土坑



1 暗褐色土



1-2区

P1



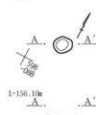
P2



P8



P9



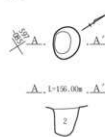
P10



P12



P13



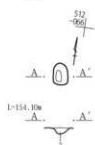
- 1 黒褐色土 砂質。
- 2 灰黄褐色土 砂質。
- 3 にぶい黄褐色土。

1-5区

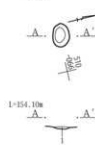
P18



P19



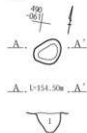
P20



P21



P22



P23



P24



P25

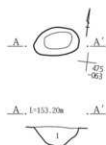


0 1:40 1m

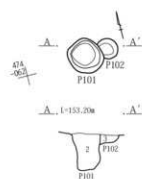
第116図 ピット(1)

1-6区

P98



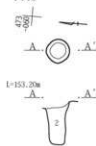
P101・P102



P105



P110



P129



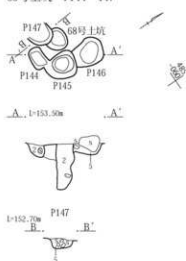
P130



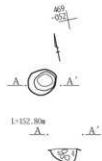
P134



68号土坑・P144~147



P154



P155



P156



P157

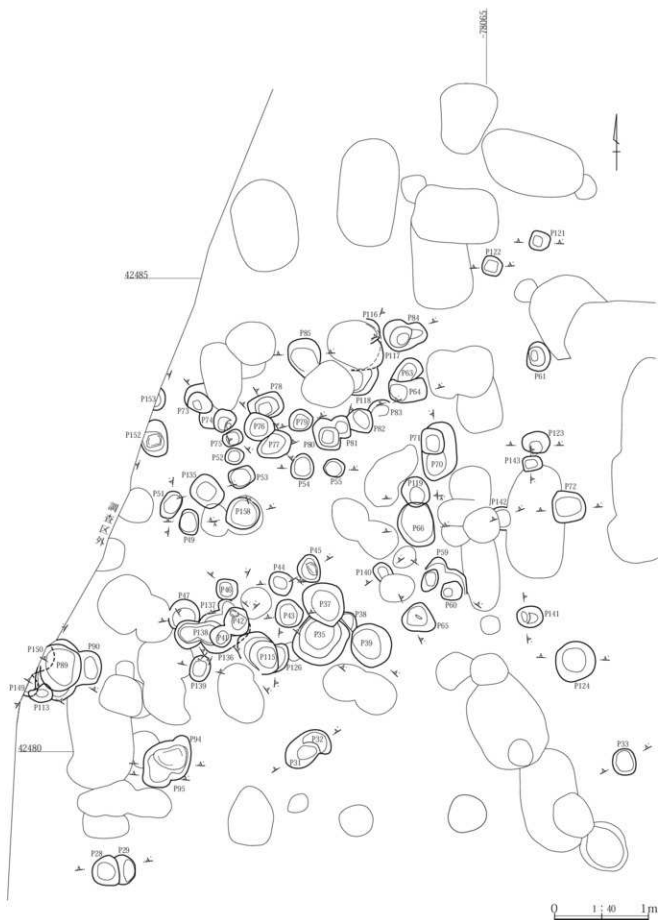


- 1 にふい黄褐色土 浅間B軽石多い。
2 黒褐色土 浅間B軽石多い。
3 褐色土

- 4 暗褐色土 砂礫多い。
5 暗褐色土 浅間B軽石多い。
6 黒褐色土 粘性帯びる。

0 1:40 1m

第117図 ビット(2)



第118図 1-6区ビット群配置状況

第2章 築師遺跡・萬行遺跡

P28・P29

△, l=153.50m △'



P31・P32

△, l=153.30m △'



P33

△, l=153.90m △'



P35

△, l=153.50m △'



P37~P39

△, l=153.50m △'



P41・P42

△, l=153.50m △'



P43

l=153.50m △, △'



P44

l=153.50m △, △'



P45

l=153.50m △, △'



P46

l=153.50m △, △'



P47

△, l=153.50m △, △'



P49

l=153.50m △, △'



P51

△, l=153.50m △, △'



P52・P53

△, l=153.50m △, △'



P54・P55

△, l=153.50m △, △'



P59・P60

△, l=153.30m △, △'



P64

△, l=153.50m △, △'



P65

l=153.50m △, △'



P66

△, l=153.50m △, △'



P70・P71

△, l=153.30m △, △'



P72

△, l=153.50m △, △'



P73~P75

△, l=153.50m △, △'



P76・P77

△, l=153.50m △, △'



P78

l=153.50m △, △'



P79

l=153.50m △, △'



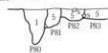
P84

△, l=153.50m △, △'



P80~P83

△, l=153.50m △, △'



P85

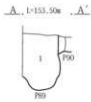
△, l=153.30m △, △'



- 1 暗褐色土 浅間B軽石多い。
- 2 黒褐色土 浅間B軽石多い。
- 3 灰黄褐色土 浅間B軽石多い。
- 4 地山土塊
- 5 にぶい黄褐色土 浅間B軽石多い。

第119図 ビット断面(1)

P89・P90



P94



P95



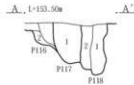
P113



P115



P116~P118



P119



P121



P122



P123



P124



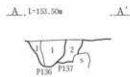
P126



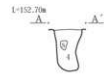
P135



P136・P137



P138



P139



P140



P141



P142



P143



P149・P150



P152・P153



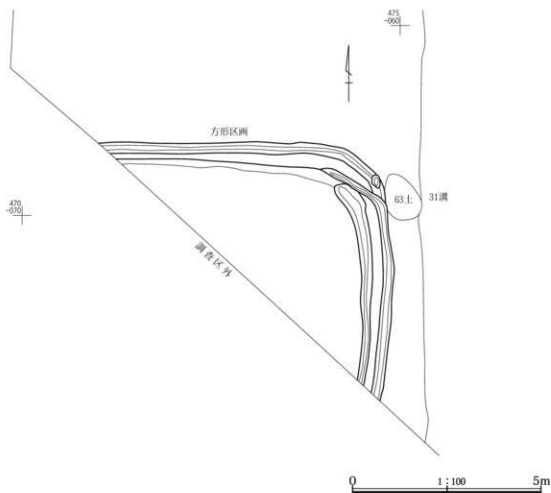
P158



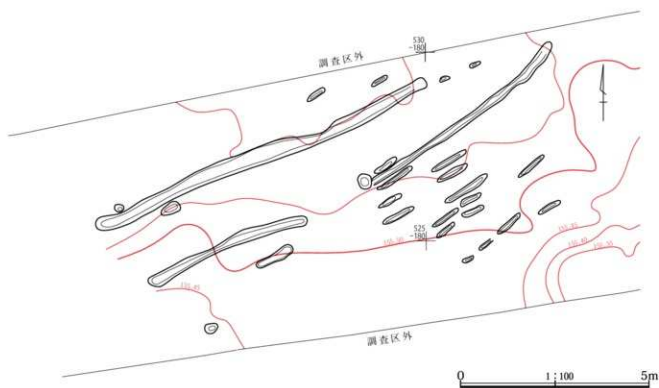
- 1 暗褐色土 浅間B軽石多い。
- 2 灰黄褐色土 浅間B軽石多い。
- 3 黒褐色土 浅間B軽石多い。
- 4 黒褐色土 粘性帯びる。



第120図 ビット断面(2)

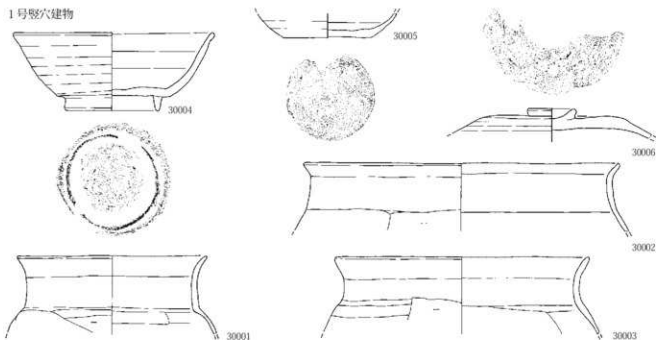


第121图 方形区画遺構

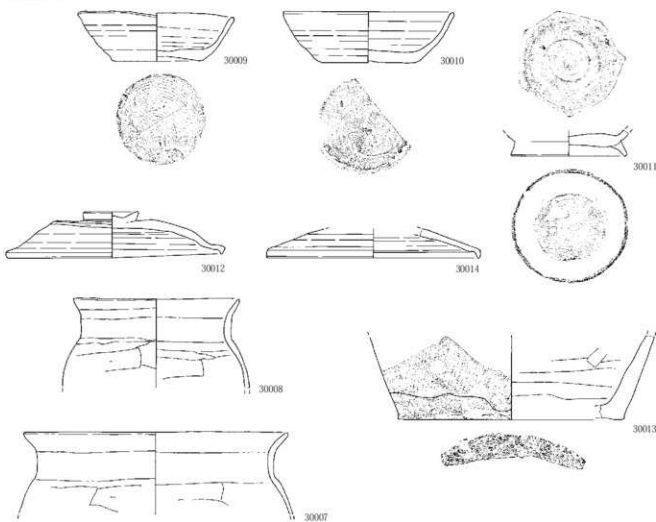


第122图 1号品

1号竪穴建物



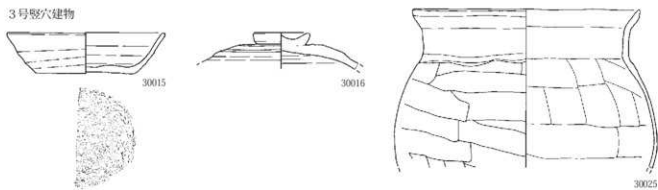
2号竪穴建物



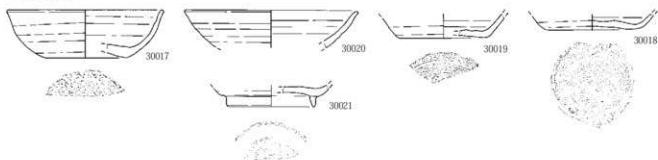
0 1:3 10cm

第123図 1・2号竪穴建物出土遺物

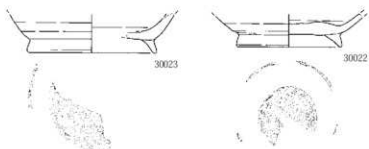
3号竪穴建物



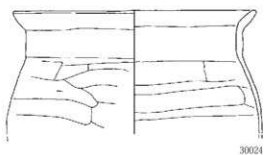
4号竪穴建物



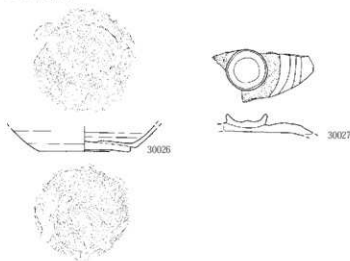
5号竪穴建物



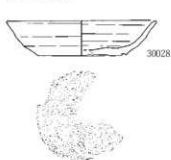
7号竪穴建物



8号竪穴建物



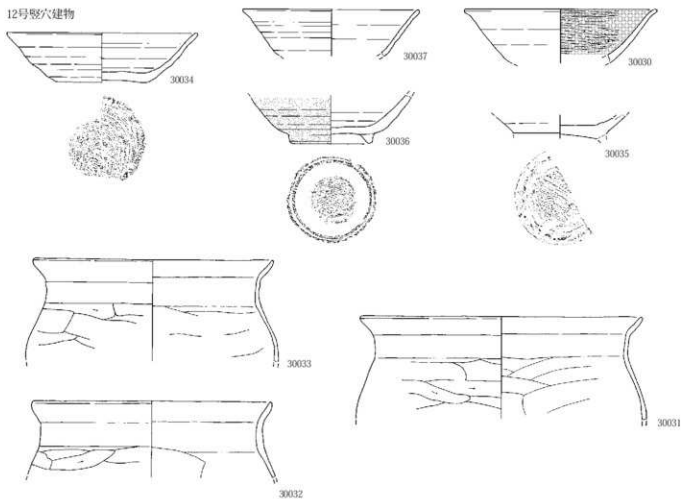
10号竪穴建物



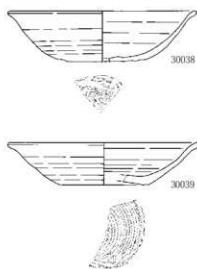
0 1:3 10cm

第124图 3・4・5・7・8・10号竪穴建物出土遺物

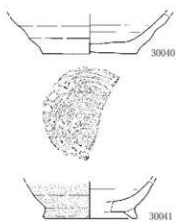
12号竪穴建物



13号竪穴建物



18号竪穴建物



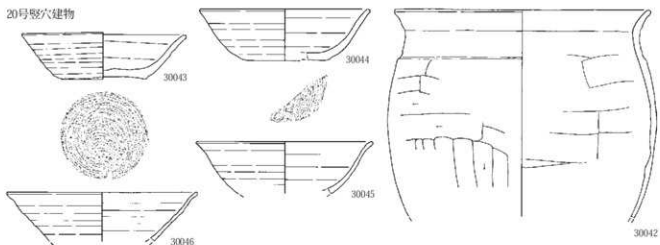
26号竪穴建物



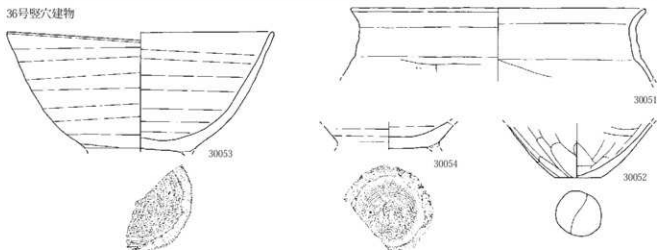
0 1:3 10m

第125図 12・13・18・26号竪穴建物出土遺物

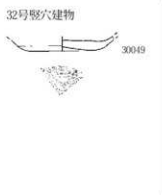
20号竪穴建物



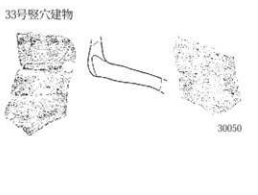
36号竪穴建物



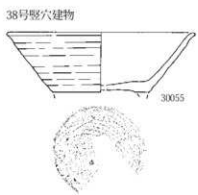
32号竪穴建物



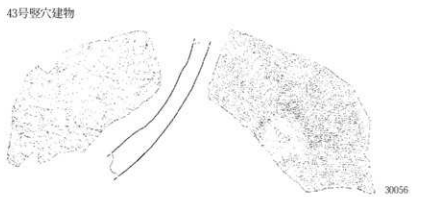
33号竪穴建物



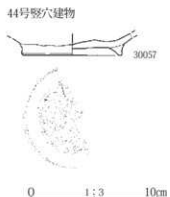
38号竪穴建物



43号竪穴建物

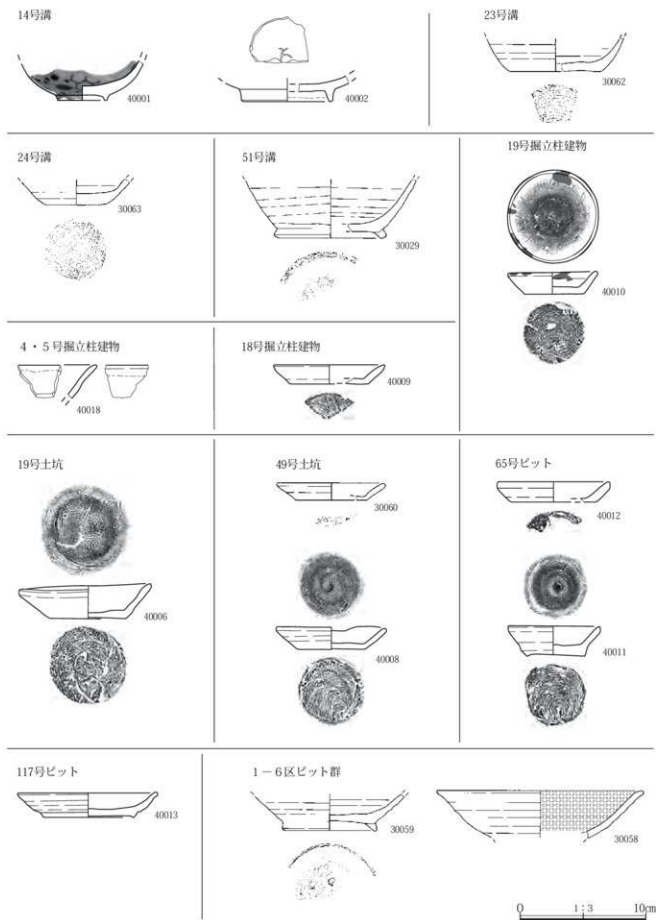


44号竪穴建物



0 1:3 10m

第126図 20・32・33・36・38・43・44号竪穴建物出土遺物

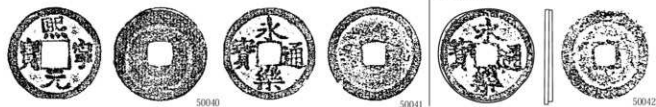


第127図 溝・掘立柱建物・土坑・ビット出土遺物

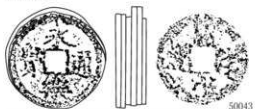
17号土坑



18号土坑



19号土坑



23号土坑



30号土坑



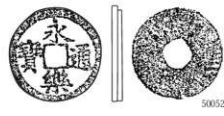
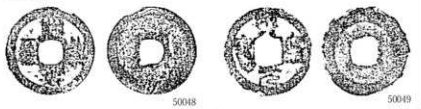
36号土坑



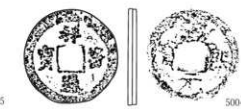
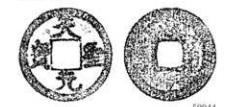
43号土坑



46号土坑



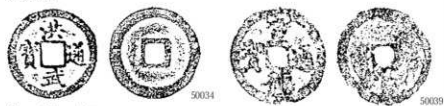
48号土坑



0 1:1 2m

第128圖 火葬土坑・墓域出土銭貨

50号土坑



北西ビット



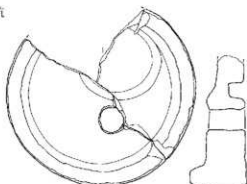
33号土坑



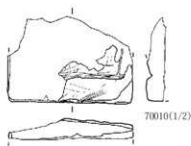
20号竪穴建物



42号土坑

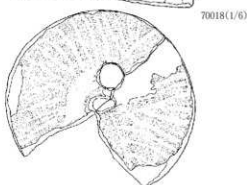
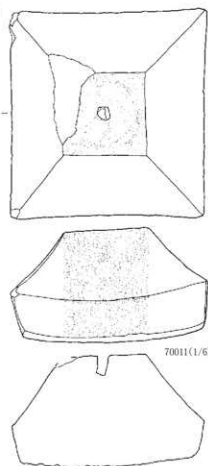


14号溝

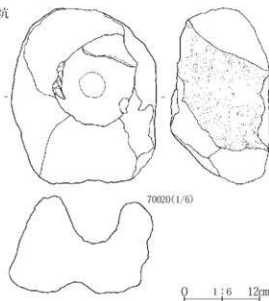


0 1 2 4cm

30号土坑

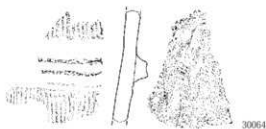


55号土坑



第129図 墓塚・土坑・溝出土の銭貨・鉄器・石造品

2-1区3面



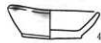
1-4区表採



1-5区攪乱



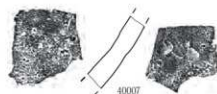
1-5区表土



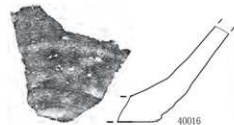
1-5区攪乱



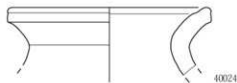
1-5区表採



1-6区攪乱



1-6区表採



第130図 道構外出土の土器・陶磁器

1面



0 1:1 2cm

50033



50053

表採



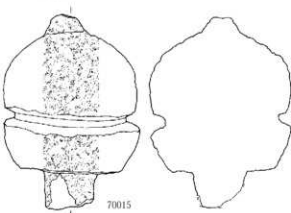
50055

遺構外

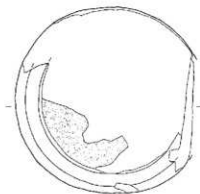


10001

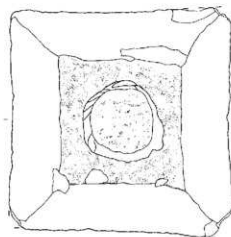
0 1:2 4cm



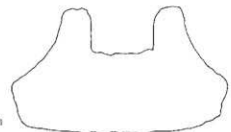
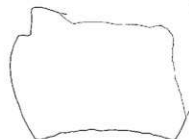
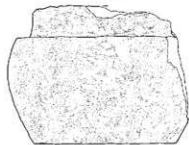
70015



70017(1/6)



70014



0 1:6 12cm

0 1:4 10cm

第131図 遺構外出土の銭貨・石器・石造品

第2章 築師道跡・萬行道跡

第13表 竪穴建物出土遺物観察表(土器)

神 洞 PL. No.	No.	種 類 種	遺物名	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12308 PL.74	30004	須恵器 椀	1号 竪穴建物	3/4	口 底	15.7 9.0	台 高 6.1	7.2 細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、 高台は貼付。高台の付位置は底部の中央ではなく 寄った位置である。	
第12308 PL.74	30005	須恵器 杯	1号 竪穴建物	底部～体部	底	7.0		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第12308 PL.74	30006	須恵器 杯蓋	1号 竪穴建物	縁～天井部片	縁	3.8		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は中程まで回 転へう割り。縁はボタン状の粘土板を貼付し周囲 をつまみ上げ環状に作る。	
第12308 PL.74	30001	土師器 甕	1号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口	14.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12308 PL.74	30002	土師器 甕	1号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口	24.8		細砂粒/良好/ふ い堀	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12308 PL.74	30003	土師器 甕	1号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口	20.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12308 PL.74	30009	須恵器 杯	2号 竪穴建物	3/4	口 底	12.2 7.3	高 3.9	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第12308 PL.74	30010	須恵器 杯	2号 竪穴建物	1/3	口 底	13.2 7.6	高 4.0	細砂粒/還元焼/灰 オリーブ	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第12308 PL.74	30011	須恵器 椀	2号 竪穴建物	底部	底 台	8.6 8.8		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、 高台は貼付。体部は打ち欠きか、内面は磨り磨か れている。	
第12308 PL.74	30012	須恵器 蓋	2号 竪穴建物	ほぼ完全	口 縁	17.0 4.4	高 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は中程まで回 転へう割り。口縁部は端部を折り曲げ。縁はボタ ン状の粘土板を貼付し周囲をつまみ上げ環状に作 る。	
第12308 PL.74	30014	須恵器 杯蓋	2号 竪穴建物	口縁部～天井部 片	口 縁	16.8		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は中程まで回 転へう割り。外面に重たききが残る。	
第12308 PL.74	30008	土師器 甕	2号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口	13.0		細砂粒/良好/明赤	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12308 PL.74	30007	土師器 甕	2号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口	20.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12308 PL.74	30013	須恵器 甕	2号 竪穴建物	底部～胴部片	底	17.8		細砂粒/還元焼/灰 白	叩き締め成形。底部と底縁周縁はへう割り、胴部 には平行叩ききりが残る。内面はへうナデ。	
第12408 PL.74	30015	須恵器 杯	3号 竪穴建物	1/2	口 底	12.3 7.8	高 3.2	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、 高台は貼付。	
第12408 PL.74	30016	須恵器 杯蓋	3号 竪穴建物	縁～天井部片	縁	4.5		細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は中程まで回 転へう割り。縁はボタン状の粘土板を貼付し周囲 をつまみ上げ環状に作るが中央に突起の突起が 残る。	
第12408 PL.74	30025	土師器 甕	3号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口 縁	17.8 20.3		細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12408 PL.74	30020	須恵器 杯	4号 竪穴建物	口縁部片	口	13.7		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。	
第12408 PL.74	30021	須恵器 椀	4号 竪穴建物	底部～体部下位 片	底	8.0 6.7		細砂粒/還元焼/灰 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、 高台は貼付。	
第12408 PL.74	30017	須恵器 杯	4号 竪穴建物	1/4	口 底	12.2 6.6	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、 高台は貼付。	
第12408 PL.74	30019	須恵器 杯	4号 竪穴建物	底部～体部下位 片	底	6.8		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第12408 PL.74	30018	須恵器 杯	4号 竪穴建物	底部～体部下位 片	底	6.7		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第12408 PL.74	30023	須恵器 椀	5号 竪穴建物	底部～体部下位 片	底	10.0 10.1		細砂粒/酸化焙き み/灰黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り、 高台は貼付。	
第12408 PL.74	30022	須恵器 椀	5号 竪穴建物	底部～体部下位 片	底	8.1		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り後 周囲をナデ。高台は貼付。	
第12408 PL.74	30024	土師器 甕	7号 竪穴建物	口縁部～胴部上 半片	口	19.0		細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう割り。内面 胴部はへうナデ。	
第12408 PL.74	30026	須恵器 杯	8号 竪穴建物	底部～体部下位 片	底	7.2		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。底部は内柱に口縁部を巻き上げているため、 内面に回転系切り痕が残る。なお、内面は底部の 一部に薄い粘土板を貼付。	
第12408 PL.74	30027	須恵器 杯蓋	8号 竪穴建物	縁～天井部片	縁	3.3		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。回転は右回り。天井部は中程まで回 転へう割り。縁はボタン状の粘土板を貼付し周囲 をつまみ上げ環状に作る。	
第12408 PL.74	30028	須恵器 杯	10号 竪穴建物	1/3	口 底	11.8 7.0	高 2.8	細砂粒/還元焼/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第12508 PL.75	30034	須恵器 杯	12号 竪穴建物	1/3	口 底	15.0 7.0	高 3.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り無 調整。	
第12508 PL.75	30037	須恵器 椀	12号 竪穴建物	口縁部片	口	13.8		細砂粒/還元焼/黄 灰	ロクロ整形。回転は右回り。	
第12508 PL.75	30030	黒色土器 甕	12号 竪穴建物	口縁部～体部片	口	15.0		細砂粒/酸化焙に ふい堀	内面黒色処理。ロクロ整形。回転は右回り。内面 は縦方向のヘラミガキ。	
第12508 PL.75	30036	須恵器 椀	12号 竪穴建物	底部～体部下 半片	底	6.7 6.0		細砂粒/還元焼・ 焼/黒	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転へうナデ。 高台は貼付。外面は焼し焼成。	

第3節 築師遺跡で検出された遺構と遺物

採掘 PL.No.	No.	種 類 種	遺構名	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12590	30035	須恵器 椀	12号 竪穴建物	底部～体部下位 片	口 5.8 底	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付が剥落。	
第12590	30033	土師器 甕	12号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口 18.8 底	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面 胴部はへうナデ。	
第12590	30032	土師器 甕	12号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口 18.8 底	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面 胴部はへうナデ。	
第12590 PL.75	30031	土師器 甕	12号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口 22.2 底	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面 胴部はへうナデ。	
第12590 PL.75	30038	須恵器 椀	13号 竪穴建物	1/4	口 14.7 底 5.7	4.0 細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12590 PL.75	30039	須恵器 杯	13号 竪穴建物	1/3	口 14.8 底 7.2	3.4 細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12590 PL.75	30040	須恵器 杯	18号 竪穴建物	底部～体部片	口 7.4 底	細砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12590	30041	須恵器 椀	18号 竪穴建物	底部～体部片	口 7.0 底 6.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へうナデ、 高台は貼付、外面は焼し焼成。	
第12590	30047	須恵器 椀	26号 竪穴建物	底部～体部片	口 6.6 底	細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へうナデ、 高台は貼付、内面は磨り削かれている。	
第12590	30048	須恵器 志	26号 竪穴建物	胴部片		細砂粒/還元焰/灰	明き締め成形。外面はカキメ、内面は花卉状アテ 具痕が残る。	
第12690 PL.75	30043	須恵器 杯	20号 竪穴建物	3/4	口 12.9 底 6.5	3.7 細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12690 PL.75	30044	須恵器 杯	20号 竪穴建物	1/4	口 13.2 底 7.4	4.1 細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12690 PL.75	30042	土師器 甕	20号 竪穴建物	口縁部～胴部上 半片	口 20.0 胴 21.3	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面 胴部はへうナデ。	
第12690	30046	須恵器 椀	20号 竪穴建物	口縁部～体部片	口 15.0 底	細砂粒/酸化焰ダ ミ/灰黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。	
第12690	30045	須恵器 椀	20号 竪穴建物	口縁部～体部片	口 13.8 底	細砂粒/酸化焰ダ ミ/黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第12690 PL.75	30053	須恵器 台付鉢	36号 竪穴建物	1/4	口 21.0 底 8.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付が剥落。	
第12690 PL.75	30051	土師器 甕	36号 竪穴建物	口縁部～胴部上 位片	口 23.2 底	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面 胴部はへうナデ。	
第12690	30054	須恵器 椀	36号 竪穴建物	底部～体部下位	底 8.0 底	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転糸切り後 ナデ、高台は貼付。	
第12690	30052	土師器 甕	36号 竪穴建物	底部～胴部下位	底 3.7 底	細砂粒/良好/にぶ い褐	底部と胴部はへう削り。内面は底部から胴部がへ うナデ。	
第12690	30049	須恵器 杯	32号 竪穴建物	底部～体部片	底 5.0 底	細砂粒/還元焰/暗 灰褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12690	30050	須恵器 甕	33号 竪穴建物	頸部～胴部上位 片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	頸部にて口縁部と胴部を接合。胴部外面には平行 明き直、内面はへうナデ。	
第12690	30055	須恵器 椀	38号 竪穴建物	1/3	口 14.5 底 7.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付が剥落。	
第12690	30056	須恵器 椀	43号 竪穴建物	胴部片		細砂粒/還元焰/灰	明き締め成形。外面はカキメ、内面は無文アテ具 痕が残るがほとんどナデ消されている。	
第12690	30057	須恵器 椀	44号 竪穴建物	底部～体部下位 片	口 8.0 底 7.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へうナデ、 高台は貼付。	

第14表 溝出土遺物観察表(土器・陶磁器)

採掘 PL.No.	No.	種 類 種	遺構名	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12790 PL.75	40001	肥前磁器 染付皿	14号溝	底部1/2	口 底 (3.9)	高 -/白	外面に染付。内面無文。高台は低い。	18世紀前 葉～中葉
第12790 PL.75	40002	龍泉窯系? 青磁面か	14号溝	底部1/4	口 底 (7.0)	高 -/灰白	青磁部に貫入する。高台内無紋。底部内面へう 描き印付文。	中世
第12790	30062	須恵器 杯	23号溝	底部～体部下位 片	口 7.2 底	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12790	30063	須恵器 杯	24号溝	底部～体部下位	口 4.9 底	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無 調整。	
第12790 PL.76	30029	須恵器 椀	51号溝	底部～体部片	口 8.4 底 8.0	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 周囲は回転へうナデ、高台は貼付。	

第15表 掘立柱建物出土遺物観察表(陶磁器)

採掘 PL.No.	No.	種 類 種	遺構名	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12790	40018	瀬戸・美濃 陶器 不詳	4・5号 掘立柱建物	口縁部片	口 底 -	高 -/灰白	口縁部に鉄輪。古瀬戸の鉢か皿類であろう。	中世
第12790	40009	在地系土器 皿	18号 掘立柱建物	1/4	口 (8.3) 底 (6.2)	高 1.6	赤色粒含む。/に ぶい黄橙	底部左回転糸切り無調整。体部外面やや窪む。3片 接合。
第12790 PL.76	40010	在地系土器 皿	19号 掘立柱建物	完形	口 7.0 底 4.7	高 1.7	赤色粒少量含む。 /にぶい黄橙/	底部左回転糸切り無調整。底部内面周縁緩く窪む。 内面と口縁部内面油塗付着。口縁部部の油塗は灯 芯によるものであろう。

第2章 薬師道跡・萬行道跡

第16表 火葬土坑・墓壇出土遺物観察表(土器・陶磁器)

種別 PL.No.	No.	種類	遺構名	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12789 PL.76	4006	在地系土器	19号土坑	一部欠	口 底	10.3 6.0	高 2.3~ 2.8	1.6 黒色黏物粒含む。 /にぶい橙	体部外反。底部内面直。底部左回転系切無調整。 3片接合。	16世紀
第12790 PL.76	30060	須恵器 灰	49号土坑	口縁部~底部片	口 底	8.5 5.7	高 1.4	細砂粒/酸化塩/ ぶい黄橙	ロクロ整形。回転は右回りか。底部は回転ヘラナ ずい黄橙貼付。	
第12791 PL.76	4008	在地系土器	49号土坑	完形	口 底	8.6 5.2	高 1.4~ 1.7	1.6 赤色粒含む。/浅 黄橙	底部左回転系切無調整。底部内面螺旋状轆轤口。 口縁部の一部歪む。13片接合。	16世紀

第17表 ビット出土遺物観察表(土器・陶磁器)

種別 PL.No.	No.	種類	遺構名	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第12792 PL.76	40012	在地系土器	65号ビット	1/8	口 底	(8.8) (6.7)	高	1.6 /にぶい橙	1.6 尖錐物微量含む。 /にぶい橙	底部回転系切無調整。底部器壁薄い。2片接合。	15世紀後 葉~16世 紀
第12793 PL.76	40011	在地系土器	65号ビット	完形	口 底	7.2 4.6	高 2.3	2.3 白色黏物少量含 む。/にぶい黄橙	2.3 底部器壁厚い。底部左回転系切無調整。口縁端 部には直立気味。	14世紀~ 15世紀	
第12794 PL.76	40013	瀬戸・美濃 陶器	117号 ビット	口縁部1/5欠	口 底	10.9 7.1	高 2.0	2.0 -/灰白	2.0 内外面長石釉。外面口縁部以下回転削削り。口縁 部小さく外反。3片接合。	17世紀中 葉	
第12795 PL.76	30059	須恵器 灰	1-6区 ビット群	底部~体部片	底 台	7.2 7.2	高	細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転系切り。 高台は貼付。		
第12796 PL.76	30058	黒色土器	1-6区 ビット群	口縁部~体部片	口 底	16.0	高	細砂粒/酸化塩/ ぶい黄橙	16.0 内面黒色焼成。外面の一部にも黄炭。ロクロ整形。 回転は右回り。内面はヘラミガキ。器面摩擦のた め単位不明。		

第18表 火葬土坑・墓壇・ビット出土遺物観察表(銭貨)

種別 PL.No.	No.	種類	遺構名	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12896 PL.77	50036	銭貨 天聖元宝	17号土坑	完形	外 径	2.452 2.067	厚 重	0.120 2.0	0.120 篆書体。面の輪、郭は明瞭。文字は一部跡詰まり をしており見えづらい。背は彫が浅いが、輪、郭は 明瞭。	
第12897 PL.77	50037	銭貨 錢種不明	17号土坑	完形	外 径	2.301 1.777	厚 重	0.121 1.18	0.121 下の字の「元」が確認できるがその他の文字は劣化 により判読できない。面、背の輪、郭はからうじ て確認できる。	
第12898 PL.77	50038	銭貨 治平元宝	17号土坑	完形	外 径	2.400 1.771	厚 重	0.138 3.2	0.138 面、背ともに文字、輪、郭は明瞭。背の凹み部分 が黒くなっており、輪、郭が右下にずれている。	
第12899 PL.77	50040	銭貨 熙寧元宝	17号土坑	完形	外 径	2.499 2.049	厚 重	0.142 3.5	0.142 面の彫は深く、文字、輪、郭が明瞭。背は彫が浅 く、輪、郭が不明瞭。	
第12900 PL.77	50041	銭貨 永樂通宝	17号土坑	完形	外 径	2.498 2.074	厚 重	0.127 2.7	0.127 面の彫は深く、文字、輪、郭が明瞭。背は彫が浅 く、郭が不明瞭。	
第12901 PL.77	50042	銭貨 永樂通宝	18号土坑	完形	外 径	2.502 2.153	厚 重	0.329 5.9	0.329 2枚が癒着しており、1枚は面が確認できる。面が 見える1枚はやや劣化しているが、文字、輪、 郭は明瞭。背能が見えている1枚は輪、郭が明瞭。	2枚重ね
第12902 PL.77	50043	銭貨 永樂通宝	19号土坑	完形	外 径	2.455 1.959	厚 重	0.832 17.6	0.832 6枚が癒着しており、両端が面になっており、	数枚重ね
第12903 PL.77	50031	銭貨 紹聖元宝	23号土坑	完形	外 径	2.384 1.856	厚 重	0.142 2.3	0.142 篆書体。面、背ともに彫は深く、郭は明瞭。面 の文字はやや不明瞭。	
第12904 PL.77	50032	銭貨 錢種不明	30号土坑	完形	外 径	2.218 1.819	厚 重	0.161 0.9	0.161 面、背ともに劣化と鋳造時の状態がよくなく文字、 輪、郭が不明瞭。	
第12905 PL.77	50035	銭貨 永樂通宝	36号土坑	完形	外 径	2.498 20.77	厚 重	0.153 2.4	0.153 面、背ともに文字、輪、郭は明瞭。背の郭の右側 がやや傾い。	
第12906 PL.77	50050	銭貨 嘉祐元宝	43号土坑	完形	外 径	2.451 1.857	厚 重	0.115 2.2	0.115 文字は一部跡詰まりが見られる。面、背ともに輪、 郭は明瞭。	
第12907 PL.77	50051	銭貨 錢種不明	43号土坑	完形	外 径	2.377 1.834	厚 重	0.286 6.5	0.286 2枚が面側で癒着して出土している。輪、郭は2 枚とも確認できる。1枚の穴がやや角が無く丸み を帯びている。	2枚重ね
第12908 PL.77	50052	銭貨 永樂通宝	43号土坑	完形	外 径	2.488 2.054	厚 重	0.245 6.5	0.245 2枚が癒着し、内1枚は面が見えているが、もう 一枚は錢種不明。永樂通宝は彫が深く、文字、輪、 郭が明瞭。もう一枚の背は輪、郭が不明瞭。	2枚重ね

第3節 築師遺跡で検出された遺構と遺物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第12896 PL.77	50048	銭貨 元豊通宝か	46号土坑	完形	外径 内径 2.361 1.940 厚 重 0.146 2.6		下の字の「通」の篆書体だけ確実に判読できる。その他の字は跡詰まりによりかなり見えづらい。背の形も浅く輪、郭が不明瞭。	
第12896 PL.77	50049	銭貨 熙寧元宝	46号土坑	完形	外径 内径 2.367 1.903 厚 重 0.134 2.2		篆書体。文字は一部跡詰まりにより不明瞭。輪、郭は明瞭。背の形は浅いが輪、郭は確認できる。	
第12896 PL.77	50056	銭貨 〇〇元宝	46号土坑	3/4	外径 内径 2.317 1.820 厚 重 0.178 1.6		右の字が潰れており、判読できない。背の形も浅くなっている。	
第12896 PL.77	50044	銭貨 天聖元宝	48号土坑	完形	外径 内径 2.510 2.088 厚 重 0.153 2.7		面の形が深く文字、輪、郭が明瞭。背の形が浅く、一部郭、郭が不明瞭。	
第12896 PL.77	50047	銭貨 銭種不明	48号土坑	1/2	外径 内径 - - 厚 重 0.124 1.1		下の字が「通」であることだけ判読できる。跡詰まりか盛り上がっている状況しか確認できない。一部変形が見られ、面の中心部がへこんでいる。	
第12896 PL.78	50045	銭貨 政和通宝	48号土坑	完形	外径 内径 2.553 2.144 厚 重 0.144 2.8		篆書体。面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。穴がやや向が丸みを帯びる。	
第12896 PL.78	50046	銭貨 祥符通宝	48号土坑	完形	外径 内径 2.494 1.911 厚 重 0.292 5.4		2枚が背同士で癒着している。1枚は祥符通宝だが、跡詰まりにより文字が見えづらい。もう1枚は下の字が元ということしか確認できない。右の字が門構えのように見えるが、判読できなかった。	2枚重ね
第12906 PL.78	50034	銭貨 洪武通宝	50号土坑	完形	外径 内径 2.426 1.909 厚 重 0.170 2.7		面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。背の郭がやや右にずれる。	
第12906 PL.78	50039	銭貨 宣和通宝か	50号土坑	完形	外径 内径 2.551 2.085 厚 重 0.179 2.4		面の文字、郭は劣化により不明瞭。一部文字は跡詰まりもしているか。背の形は浅く、郭の一部が不明瞭。	
第12906 PL.78	50054	銭貨 古甕水	北西ピット	完形	外径 内径 2.481 1.987 厚 重 0.122 2.4		面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。	

第19表 竪穴建物・土坑出土遺物観察表(鉄器)

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第12906 PL.78	50026	鉄製品 釘	33号土坑	一部欠損	長 幅 5.9 0.3 厚 重 0.3 3.1		頭部が欠損している釘。脚部はやや曲がっている。	
第12906 PL.78	50027	鉄製品 釘	20号 竪穴建物	完形	長 幅 5.0 1.0 厚 重 0.4 2.9		頭部は薄くのびし、下方に折り曲げられている。脚部がわずかに曲がる。	

第20表 土坑出土遺物観察表(石造品)

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第12906 PL.78	70010	- 硯	14号溝	不明	長 幅 (4.5) 6.6 厚 重 (1.1) 28.3	佳質粘板岩	丁寧に研磨整形される。	
第12906 PL.78	70011	- 火輪	30号土坑	ほぼ完形	長 幅 33.7 31.4 厚 重 18.3 183.0	粗粒輝石安山岩	丁寧な成形。上面はほぼ平坦であり中央に円形に孔が認められる。脚部の反りはわずかに認められ、底面のみはわずかに認められる。軒の上辺と下辺は曲線を生じほぼ並行である。底面の加工は全体的に粗い。	
第12906 PL.78	70018	- 石臼(上)	42号土坑	2/3	径 幅 30.3 - 厚 重 11.0 7100.0	粗粒輝石安山岩	表面の上方には径12cm程度の円形の窪みがあり底面はほぼ平坦である。底面のすり合わせ面には挽き目の痕跡が明瞭に認められ供給孔からの溝状痕跡が明瞭に残る。軸受孔は楕円状である。	1-4区 表探と接 合
第12906 PL.78	70020	- 石製品	55号土坑	完形	長 幅 28.1 23.4 厚 重 16.0 6200.0	二ツ岳軽石	表面の中央に漏斗状の孔が認められその内部は比較的精滑からである。下面にも浅鉢状の窪みが認められる。側面には全体的に作出面で構成されわずかに平み状の工具痕が認められる。下面は曲面で構成され浅鉢状の窪みを除いて自然面の可能性がある。	

第21表 遺構外出土遺物観察表(土器・埴輪)

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第13096 PL.76	30061	須恵器 瓶か	2-1区 竪穴建物南	底部～胴部下位 片	底 幅 8.9	細砂粒/還元層/灰 オリーブ	外面は不定方向のハラ削り、内面はハラナデ。	
第13096 PL.76	30064	埴輪 円筒	3面	胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 酸化層/橙	胴部はハケメ(2cmあたり6本)後凸帯を貼付。内面はナデ。	

第2章 薬師道跡・萬行道跡

第22表 遺構外出土遺物観察表(陶磁器)

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
					口 底	高	厚			
第13008	40005	在地系土器 皿	1-4区 表探	1/4	口 底	(8.1) (6.0)	高	1.8	赤色粘土量含む。 夾雑物少ない。/ にぶい。橙	底部器壁薄い。左回転軸成型。回転系である。 16世紀か
第13008	40004	在地系土器 皿	1-4区 表探	1/4	口 底	(8.6) (6.4)	高	1.9	黒炭物粒少量含む。 /灰	底部左回転系切無調整。口縁端部に灯芯による油 燭。/灰 15世紀後半 ～16世紀 前半
第13008 PL76	40017	在地系土器 皿	1-5区 覆瓦	完形	口 底	7.0- 7.6 4.5- 4.7	高	2.1- 2.6	赤色粘土量含む。 /浅黄釉	内外面1/2ほど油と油押付着。約1/2の体部から口 縁部まで。底部左回転系切無調整。4片接合。 14世紀～ 15世紀
第13008	40019	在地系土器 皿	1-5区 表上	一部欠	口 底	7.3 5.4	高	1.9	赤色粘土量含む。 /灰	底部左回転系切無調整。底部内面と体部境明確。 4片接合。 14世紀
第13008	40020	在地系土器 皿	1-5区 表上	底部	口 底	-	高	-	黒色鉱物粒含む。 /灰	底部左回転系切無調整。 中世
第13008	40021	在地系土器 片口鉢	1-5区 覆瓦	体部片	口 底	-	高	-	白色鉱物少量含む。 /灰	内面使用により器表平滑となる。 中世
第13008	40022	在地系土器 片口鉢	1-5区 覆瓦	口縁部片	口 底	-	高	-	白色鉱物少量含む。 /灰	口縁端部器表厚。片口部片。 中世
第13008	40023	在地系土器 内耳鉢	1-5区 覆瓦	口縁部片	口 底	-	高	-	白色鉱物少量含む。 /灰	器壁やや薄く。口縁部は短い。 15世紀前 葉～中葉
第13008	40007	常滑陶器 壺・甕	1-5区 表探	体部下位片	口 底	-	高	-	/灰白	外面器表灰赤色。内面器表に自然釉。 中世
第13008 PL76	40015	在地系土器 片口鉢	1-6区 覆瓦	体部下位片	口 底	-	高	-	白色鉱物含む。/ にぶい。橙	断面にぶい。橙。断面内側灰色。器表灰黒色。器 壁厚。使用による内面の摩滅認められない。口 縁部は外反。 中世
第13008 PL76	40016	在地系土器 片口鉢	1-6区 覆瓦	体部下位から底 部片	口 底	-	高	-	白色鉱物含む。/ 橙	器表灰色。底部回転系切無調整。底部内面を中心 に使用による摩滅あり。 中世
第13008 PL76	40014	瀬戸・美濃 陶器	1-6区 覆瓦	1/3	口 底	(11.9) (7.0)	高	2.3	/灰白	体部と口縁部は厚肉し口縁端部は小さく立ち上 がる。口縁部灰黒。底部内面は鉄粒の薄く。薄く。輪。 口縁部外面以下は回転器作りで高台貼り付け。 17世紀
第13008	40024	製作地不詳 陶器 壺	1-6区 覆瓦	口縁部1/3	口 底	(15.0) -	高	-	白色鉱物少量含む。 /灰	器壁厚く。口縁部上面部。 中世
第13008 PL76	40003	製作地不詳 陶器 皿	表探	1/2	口 底	(9.4) (3.7)	高	2.9	/灰白	体部外面下位以下回転器作り。削り出し高台。内 面から体部外面に透明感のある釉。貫入入る。口 縁部欠損後も灯火皿として使用。5点接合。 江戸時代

第23表 遺構外出土遺物観察表(銭貨)

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
					外 径 内 径	厚	重			
第13108	50033	銭貨 至道元宝・ 天禄通宝	1面	完形	外 径 内 径	2.445 1.957	厚 重	0.315 7.6	3枚が癒着している。内2枚は面が見えており、 至道元宝は裏書体。2枚は彫が深く文字、輪、郭 が明瞭。	
第13108	50053	銭貨 銭種不明	1面	1/2	外 径 内 径	- - -	厚 重	0.115 0.8	面の文字が跡詰まりしており、判読ができない。 背の彫はほぼ確認できない。	
第13108 PL78	50055	銭貨 古銭永	表探	完形	外 径 内 径	2.443 1.966	厚 重	0.124 3.3	面、背ともに彫が深く、文字、輪、郭が明瞭。	

第24表 遺構外出土遺物観察表(石器・石造品)

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	遺構名	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
					長 幅	厚 重	重			
第13108 PL76	10001	別片石器 磨製石斧	遺構外	ほぼ完形	長 幅	(5.6) 3.3	厚 重	1.1 29.2	変質蛇紋岩	全体的に丁寧に磨製整形されており光沢がある。 細かい縦条痕が散在する。
第13108 PL79	70015	- 空風輪	1-5区 覆瓦	ほぼ完形	長 幅	20.7 14.4	厚 重	15.1 3161.2	二ツ石	成形は均質。全体的に丁寧な整形を施す。側面 のくびれ部は明瞭である。
PL79	70013	- 水輪	1-5区 覆瓦	4/5	長 幅	21.2 20.8	厚 重	15.3 650.0	粗粒輝石安山岩	側面は中央よりわずかに上方に膨らみのピークを もつ。上面と下面は中央がわずかに窪んだ浅鉢状 である。上面と側面には棒状あるいは平ノミ状の 工具痕が認められる。下面には棒状の工具痕が認 められる。
第13108 PL79	70014	- 火輪	1-5区 覆瓦	ほぼ完形	長 幅	24.3 23.7	厚 重	13.5 560.0	粗粒輝石安山岩	丁寧に成形される。上面はほぼ平坦であり中央に円形 に孔が認められる。孔の内面には棒状の工具痕が 明瞭に認められる。側面の反りはわずかに認めら れる。底面はほぼ平らに認められる。料の上辺と下 辺はわずかに面磨を呈しほぼ並行である。
第13108 PL79	70017	- 塔身	1-5区 覆瓦	2/3	長 幅	(30.0) (30.0)	厚 重	(22.0) 3630.4	粗粒輝石安山岩	側面中央に梵字(アーク)が認められる。全体的 に丁寧に整形される。側面と底面には棒状の工 具痕が認められる。

第4節 萬行遺跡で検出された遺構と遺物

遺跡の概要

萬行遺跡は下芝内出畑遺跡の東側を調査対象とする遺跡である。地形は、薬師・下芝内出畑遺跡から東南方向に傾斜しており、萬行遺跡の調査面における最低標高は152.10mで、薬師遺跡の最高標高157.30mから比高5.2m低位である。萬行遺跡の調査区は北西から南東方向にかけて長さ52mの台形区画を呈している。調査区内においても、北西から南東にかけて傾斜しており、標高153.50mから比高100cm/37mで、2.7%の勾配を持つ。遺構の地山である泥流の層厚は2.3~2.4mで、下層には黒褐色土層が堆積している(PL.84-7)。この黒褐色土層面を調査第4面として遺構確認を行ったが、人為的遺構は検出されなかった(PL.84-6)。

検出された遺構は、溝7条、土坑4基、ピット1基、畑3カ所である。

1 溝

1号溝(第132・133図、PL.80)

位置 X=42595・42600、Y=-77850。

走向 南北方向で蛇行する。

規模 検出長7.10m、上幅0.95m、下幅0.72m、深さ0.11m。

比高・勾配 北端底面標高153.30mから5cmの比高で南方へわずかに下る。

断面形 浅い片面レンズ状。

埋土 灰褐色シルト質土が底面に堆積。削平のため、埋土中位以上は不明。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 1号畑に切られる。2号溝と直交するが、新旧関係は不明。

所見 走向が蛇行するが、等高線に併行するように走ることから、人為的な施設と推測される。

2号溝(第132・133図、PL.80・81)

位置 X=42570~42600、Y=-77820~77850。

走向 N-45°-Wで直線的に延びる。

規模 検出長39.70m、上幅1.06m、下幅0.32m、深さ0.38m。

比高・勾配 北西端の底面標高152.99mから81cmの比高で南東端に下る。単純勾配だと約2%。

断面形 浅いV字か逆台形。底面は部分的に侵食が著しく、水流の激しかったことがうかがえる。

埋土 下層には大小の礫、上層には砂とシルトの互層が堆積する。このことから、地山に含まれる礫が流下堆積し、さらに洪水により埋没した可能性が高い。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 5・6号溝が斜交して重なるが、土層断面では6号溝を切るかと判断された。ただし、埋土が類似しており、明確な新旧関係の判定は得られなかった。

所見 等高線に直交する主幹水路と思われるが、3・5号溝が両岸から並走して合流する配置関係を見せるが、同時存在の確認はできなかった。

3号溝(第132・133図、PL.81)

位置 X=42575~42590、Y=-77825~77840。

走向 N-42°-Wで直線的に延びる。2号溝の左岸に沿って並走する。

規模 検出長25.50m、上幅0.38m、下幅0.18m。

比高・勾配 北西端の底面標高152.97mから、43cmの比高で南東に下り、2号溝に合流する。

断面形 浅い半円形。

埋土 砂礫の多い黒褐色シルト質土で、下層堆積物と考えられる。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 2号溝に合流するが、同時期か先後関係にあるのかは確認できなかった。

所見 西側に位置する谷状窪地の中央を7号溝が流下する。3号溝はこの左岸斜面にあって、窪地に向けて排水する機能があった可能性がある。

4号溝(第132・133図、PL.81)

位置 X=42585・42590、Y=-77825・77830。

走向 調査区北東際に沿って、直線から東方向に屈曲する。直線箇所はN-44°-W。

規模 検出長6.55m、上幅1.00m、下幅0.40m、深さ0.42m。

比高・勾配 北西端の底面標高152.36mから24cmの比高で南東へ下る。

断面形 V字～U字形で、侵食が著しい。

埋土 黒褐色砂質土で、下層には砂礫が堆積する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 なし。

所見 法面には地山礫の抜け穴が多く見られ、激しい水流のあったことがうかがわれる。

5号溝(第132・133図、PL.81・82)

位置 X=42575・42580、Y=-77825・77830。

走向 N-51°-Wで直線的に伸び、南東端で2号溝に合流する。

規模 検出長9.50m、上幅0.48m、下幅0.30m、深さ0.13m。

比高・勾配 北西端の底面標高152.35mから21cmの比高で南東に下る。

断面形 逆台形～片面レンズ状。

埋土 砂礫の多い暗褐色砂質土で、下層の堆積物と思われる。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 2号溝との合流地点で、新旧関係は確認できなかった。

6号溝(第132・133図、PL.81・82)

位置 X=42575～42590、Y=-77820～77840。

走向 N-45～54°-Wでほぼ直線状に東南流する。

規模 検出長22.70m、上幅1.30m、下幅0.50m、深さ0.25m。

比高・勾配 7号溝と重なる地点の底面標高152.48mから35cmの比高で南東に下る。

断面形 不整な逆台形状。

埋土 砂礫を多く含む黒褐色砂質土で、上層には暗褐色シルト質土が堆積する。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 2号溝に切られるとの調査所見がある。7号溝との関係は不明。

所見 シルトや砂の互層が見られず、洪水埋没ではないようだが、底面には地山礫が露出しており、水流侵食のあったことがうかがわれる。

7号溝(第132・133図、PL.81・82・83)

位置 X=42570～42590、Y=-77825～77850。

走向 やや蛇行して南東に流下する。直線部分の走向角はN-50～70°-W。

規模 検出長36.70m、上幅3.32m、下幅1.55m、深さ0.63m。

比高・勾配 北西端の底面標高152.39mから79cmの比高で南東に下る。

断面形 不整な逆台形。

埋土 西側法面に砂礫層、中央にはシルト質土、東側には砂礫を多く含むシルト質土が堆積しており、西から順に少なくとも3回の埋没を経たことが分かる。

出土遺物 なし。

遺構重複関係 6号溝が分岐して東南流する位置関係から、新旧関係があったと思われるが、確認できなかった。

所見 本遺跡調査区の中央を縦貫する主線水路と思われる。埋没と掘り直しが繰り返されたと考えられ、6号溝との関係も、その経緯の中で流路変更した結果と推測する。埋没土の層位関係から、浅間B軽石降下以降の中世段階と想定される。

2 土坑・ピット(第134図、PL.83)

1～4号土坑、ピット2基を検出した。詳細は第26表による。

所見 1号土坑は形状から樹木根の痕跡の可能性がある。2～4号土坑は連続して位置し、底面は平坦でほぼ深さが揃う。礫の多い土塊状の黒褐色土が堆積しているが、性格は不明である。ピット2基も人為的遺構との確証はない。

3 畑(第132図、PL.83・84)

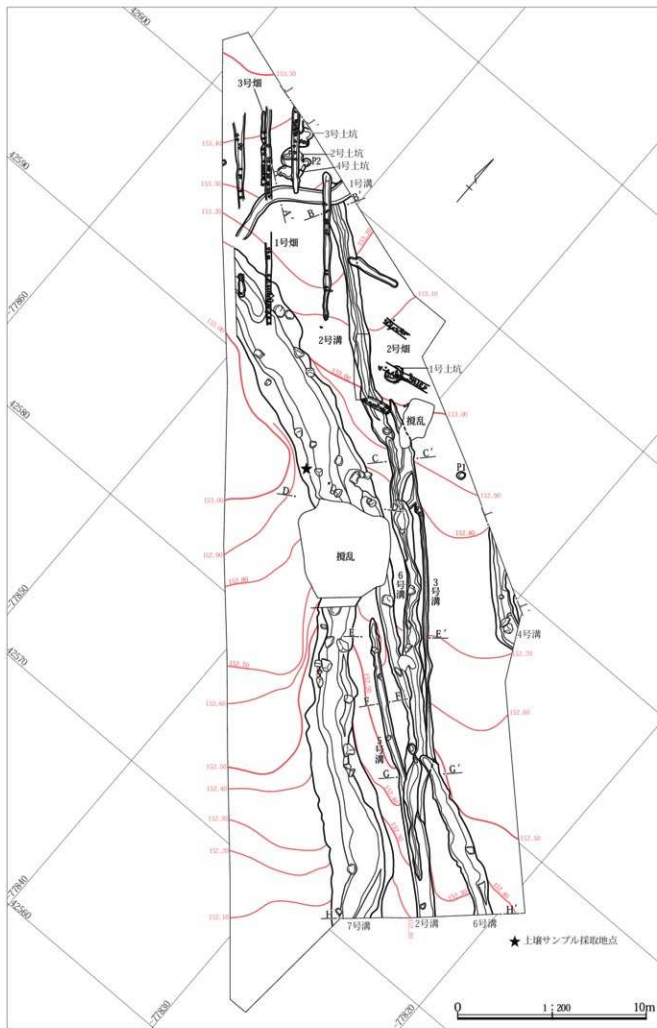
調査区の北西半で溝群の上位で確認されている。走向の違いから1～3号畑と調査時に命名された。規模計測値等の詳細は第27表に記した。

所見 1号畑は北西から南東に走る畝間溝群で、4条が検出された。溝間の畝幅は1.5m前後でかなり広い。畝間溝底面には半円形の鋤掘痕が連続して残る。また、溝に隣接・並走する同一規模の溝が下位から検出され、調査時にこれを「3号畑」と命名したが、1号畑の前段階の「サク切り」溝だろう。

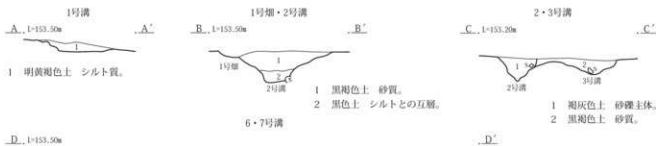
2号畑は東西方向に走る3条の畝間溝群として検出された。溝間の畝幅は1.8・2.0mとかなり広い。溝幅も40cm前後と広い。

ここで検出された畑は、中世と考えられる溝群を覆う厚いシルト質土を耕土としたものである。溝埋土は塊状の灰褐色砂質土が堆積する。畑検出面の直上には圃場整備時点のものと思われる重機械跡があるとの調査所見があり、時期は近世・近代と考えておく。

また、畑と同一検出面で、調査区北西部全体に鑑とみられる方形掘削痕がみられた(PL.83-4、84-1)。これらは多少の粗密は見られるが、全面的に分布し、しかも方向が一定しないことから、畝等とは無関係に耕した痕跡とみられる。水田か畑かは不明だが、南東に傾く傾斜面であることから、畑と推測しておく。

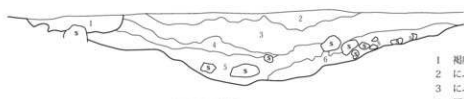


第132図 萬行遺跡全体図



D, I=153.50m

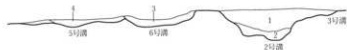
D'



- 1 褐灰色土 浅間B軽石多い。
- 2 にふい黄褐色土 浅間B軽石、地山上粒含む。
- 3 にふい黄褐色土 砂質、一部ラミナ状。
- 4 灰黄褐色土 シルト質。
- 5 褐灰色土 砂礫主体。
- 6 にふい黄褐色土 地山上境、礫含む。

E, I=154.10m

E'



F, I=154.20m, F'

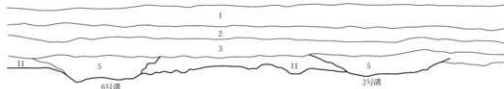
G, I=154.40m, G'



- 1 暗褐色土 砂含み軟質。
- 2 褐灰色土 砂質。
- 3 黒褐色土 砂質。
- 4 暗褐色土 砂質。
- 5 褐灰色土 砂礫主体。

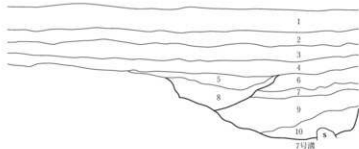
H, I=153.50m

2・6・7号溝

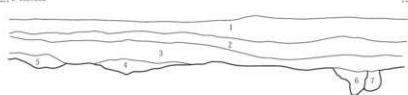


- 1 表土
- 2 灰黄褐色土
- 3 暗褐色土 浅間B軽石混土。
- 4 黒褐色土 浅間B軽石、砂礫含む。
- 5 黒褐色土 砂礫多い。
- 6 浅間B軽石主体二次堆積か。
- 7 浅間B軽石主体二次堆積。
- 8 礫層
- 9 黒褐色土
- 10 黒褐色土 砂質。
- 11 黒褐色土 シルト質。

H'



I, I=153.50m, I'



J, I=154.20m, J'



- 1 表土
- 2 灰黄褐色土
- 3 暗褐色土 浅間B軽石混土。
- 4 黒褐色土 浅間B軽石、砂礫含む。
- 5・6 暗褐色土 ビット状落ち込み。



- 1 表土
- 2 灰黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 灰黄褐色土 浅間A軽石含む。

第133図 1～7号溝・1号畑断面

第2章 薬師遺跡・萬行遺跡

1号土坑



1号土坑

A., l=153.50m .A'

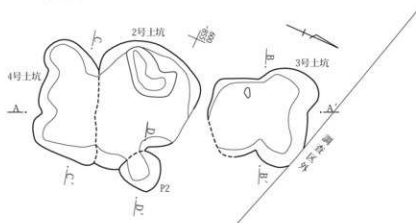


1 黒褐色土

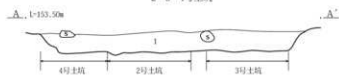
P1



2～4号土坑・P2



2・3・4号土坑



A., l=153.50m .A'

3号土坑



B., l=153.50m

.B'

4号土坑



C., l=153.50m

.C'

P2



D., l=153.50m

.D'

1 黒褐色土 地山土塊と雜含む。



第134図 1～4号土坑、1・2号ピット

第25表 溝一覧表

遺構 番号	遺構種	位置(5m単位座標値)		走 向		規模最大値(m)				底面標高(m)		
		X軸	Y軸	直線/彎曲/屈曲	走向角	横出長	上幅	下幅	深さ	最高値	最低値	比高
1	溝	42595・42600	-77850	蛇行	S-SW-S	7.10	0.95	0.72	0.11	153.30	153.25	0.05
2	溝	42570~42600	-77820~77850	直線	N-45°-W	39.70	1.06	0.32	0.38	152.99	152.18	0.81
3	溝	42575~42590	-77825~77840	直線	N-42°-W	25.50	0.38	0.18	0.14	152.97	152.54	0.43
4	溝	42585・42590	-77825・77830	直線・屈曲	N-44°-W	6.55	1.00	0.40	0.42	152.36	152.12	0.24
5	溝	42575・42580	-77825・77830	直線	N-51°-W	9.50	0.48	0.30	0.13	152.56	152.35	0.21
6	溝	42575~42590	-77820~77840	やや蛇行	N-45~54°-W	22.70	1.30	0.50	0.25	152.48	152.13	0.35
7	溝	42570~42590	-77825~77850	やや蛇行	N-50~70°-W	36.70	3.32	1.55	0.63	152.39	151.60	0.79

第26表 土坑一覧表

遺構番号	遺構種	位置(5m単位)		平面形	主軸方向	規模(m)		深さ (m)	出土遺物	所 見
		X軸値	Y軸値			長辺	短辺			
1	土坑	42590	-77840	不整形	-	0.98	0.80	0.22	なし	樹根跡
2	土坑	42595	-77850	不定形	-	1.40	1.10	0.21	なし	
3	土坑	42600	-77850	不定形	-	1.04	1.05	0.23	なし	
4	土坑	42595	-77850	不定形	-	1.34	0.65	0.22	なし	
1	ピット	42590	-77835	不整形	-	0.45	0.40	0.14	なし	
2	ピット	42595	-77850	不整形	-	0.40	-	0.20	なし	

第27表 畑一覧表

遺構番号	遺構種	位置(5m単位)		最長範囲 (m)	走 向	埋 土	推定時期	所 見
		X軸値	Y軸値					
1	畑	42590~42600	-77845~77855	11.8	N-40°-W	灰褐色砂質土	中・近世	
2	畑	42595	-77840・77845	7.3	N-78°-E	灰褐色砂質土	中・近世	
3	畑	42595・42600	-77855	3.9	N-40°-W	灰褐色砂質土	中・近世	1号畑と同じ

第5節 薬師遺跡・萬行遺跡の理化学分析

薬師遺跡と萬行遺跡では、榛名山二ツ岳を給源とする6世紀初頭前後と6世紀前半期の2回にわたる噴火活動に伴う火山性泥流が厚く堆積している。この泥流下には泥流被覆以前の地表面が残されており、遺構が存在した可能性も考えられた。しかし、泥流の層厚が深い部分で3mを越え、しかも脆弱な堆積状況であるため面的な掘削調査を断念した。そこで、次善の方法として泥流下の土壌の理化学分析を行うこととした。目的は、泥流直下に堆積する黒色土が水田・高等の耕地であったかどうかを判定することである。このため、土壌中の植物珪酸体分析を行うこととし、分析を株式会社パレオ・ラボに依頼した。試料土壌の採取は薬師遺跡で2箇所(1-2区、1-3区)、萬行遺跡1箇所である。

薬師遺跡からは中世と考えられる墓壇・火葬土坑が複数確認されており、そのうちの数カ所から人歯骨が出土している。墓壇の規模や形態に違いがみられることから、被葬者の年齢や性別との関係性を調査するため、出土した人歯骨の人類学的鑑定分析を行うこととした。分析は新潟医療福祉大学の奈良貴史教授にお願いした。

以下に分析結果の報告を掲げる。

1 萬行遺跡・薬師遺跡のプラント・オパール分析

森 将志(パレオ・ラボ)

1. はじめに

群馬県高崎市に所在する萬行遺跡・薬師遺跡において、Hr-FA火山灰の直下で黒色土が検出された。この黒色土は傾斜地に堆積しており、斜面を300mほど下った場所には同時期と考えられる水田が検出されている。以下では、黒色土について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、黒色土が水田土壌か否か、堆積当時の遺跡周辺のイネ科植生などについて検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、萬行遺跡・薬師遺跡から採取された黒色土3点である(第28表)。これらの試料について、以下の手順でプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版に載せた。

第28表 分析資料一覧表

試料No.	遺跡名	調査区	地点	土質
1	萬行遺跡	-	深瀬トレンチ	黒色(7.5Y2/1)砂礫、シルト混じり微粒砂
2	薬師遺跡	1-3区	西端深掘地点	灰オリーブ色(7.5Y5/2)微粒砂
3		1-2区	南端深掘地点	黒褐色(2.5Y3/1)シルト混じり微粒砂

3. 結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(第29表)、分布図に示した(第135図)。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当り

の検出個数である。

検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の6種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネ機動細胞珪酸体はNo. 3で産出しており、1,200個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体はNo. 1とNo. 2で産出しており、それぞれ1,200個、2,000個である。ヨシ属機動細胞珪酸体とシバ属機動細胞珪酸体はNo. 1とNo. 3で産出しており、それぞれ1,200個である。キビ族機動細胞珪酸体はNo. 1で32,100個、No. 2で8,000個、No. 3で85,700個産出した。ウシクサ族機動細胞珪酸体はNo. 1で38,100個、No. 2で11,000個、No. 3で67,400個産出した。

第29表 試料1g当たりのプラント・オパール個数

試料No.	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)
1	0	1,200	1,200	1,200	32,100	38,100
2	0	2,000	0	0	8,000	11,000
3	1,200	0	1,200	1,200	85,700	67,400

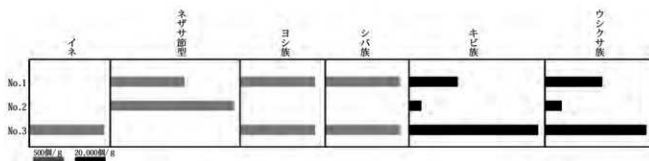
4. 考察

今回の分析結果では、No. 3でイネ機動細胞珪酸体が産出した。イネ機動細胞珪酸体については、試料1g当り5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており(藤原, 1984)、試料1g当り5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。No. 3から産出するイネ機動細胞珪酸体の量は、この目安と比べるとかなり少ない。また、他の2試料についてはイネ機動細胞珪酸体が産出しておらず、今回のプラント・オパール分析の結果から、黒色土が水田土壌であったとは言えない。よって、試料採取地点までは水田は広がっていなかった可能性が考えられる。

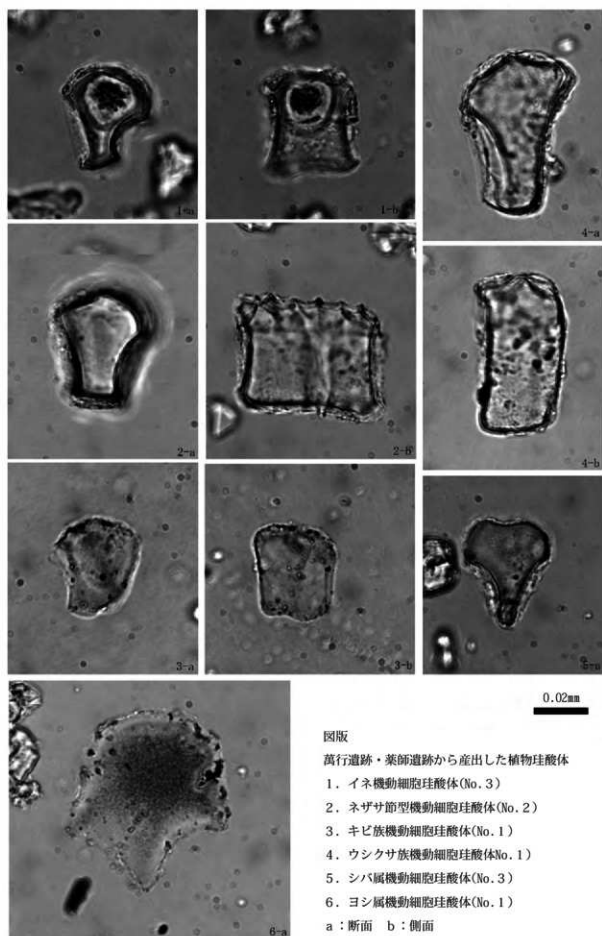
イネ以外の分類群では、いずれの試料においてもキビ族とウシクサ族の機動細胞珪酸体が多く産出している。キビ族はアワやヒエ、キビなどの栽培種だけでなく、その他野生種も含まれる分類群であり、機動細胞珪酸体の形態で種を特定するのは難しい。また、ウシクサ族は乾燥的環境に生育するススキやチガヤや湿地的環境に生育するオギなどを含む分類群であるが、機動細胞珪酸体の形態で種を特定するのは難しい。種は不明であるが、試料採取地点周辺のイネ科植物相では、キビ族やウシクサ族が優勢であったといえる。なお、No. 2では、他の2試料に比べて、キビ族とウシクサ族の産出が少ないように見えるが、No. 2は淘汰の良い堆積物であるため、機動細胞珪酸体が留まり難かった可能性が考えられる。

引用文献

藤原宏志(1984)プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—。考古学ジャーナル, 227, 2-7。



第135図 萬行遺跡・薬師遺跡における植物珪酸体分布図



図版

萬行遺跡・薬師遺跡から産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体(No. 3)
2. ネザサ節型機動細胞珪酸体(No. 2)
3. キビ族機動細胞珪酸体(No. 1)
4. ウシクサ族機動細胞珪酸体(No. 1)
5. シバ属機動細胞珪酸体(No. 3)
6. ヨシ属機動細胞珪酸体(No. 1)

a : 断面 b : 側面

図1 萬行遺跡・薬師遺跡における植物珪酸体分布図

2 薬師・萬行遺跡遺跡出土人骨の人類学的報告

奈良貴史・佐伯史子(新潟医療福祉大学)

波田野悠夏・鈴木敏彦(東北大学大学院歯学研究所)

はじめに

2021年の群馬県埋蔵文化財調査事業団による薬師・萬行遺跡の発掘調査において、複数の土坑から人骨が検出された。本編はこれらの人類学的調査研究報告である。

6号土坑

細片化の著しい四肢骨片が少量遺存する。総重量9.1gである。骨片は灰白色から白色の色調を呈する。全て焼成されている人骨と思われる。細片化が著しいため、年齢・性別は現段階では不明である。

43号土坑

被熱していない歯が6本と焼骨片が多数確認される。焼骨の焼成状況から別個体と思われるが確証はない。

[被熱していない歯] (写真1-A)

全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない。以下に残存歯の歯式を示す。水平線は上下顎の境界を、垂直線は正中線を表し、向かって左側が個体の右を意味する。歯の記号が記されている箇所は歯の存在が確認された部分で、Iは切歯、Cは犬歯、Pは小臼歯、Mは大臼歯、diは乳切歯、dcは乳犬歯、dmは乳臼歯をそれぞれ表し、また数字は同一歯種内での順位を表す。歯の状態を表す記号の意味は下記の凡例の通りである。歯の咬耗度(Mojar, 1971)にもとづき鑑定し、齶触およびエナメル質減形成の有無についても注記した。

歯冠計測値は表30に示した。歯冠計測の方法は、藤田(1949)、杉山(1964)に準拠した。

▽		▽				▽					▽				
I3	=	M1	=	=	=	I2	=	=	=	=	P1	=	=	=	=
=	=	M1	=	=	=	=	=	=	=	=	P1	=	=	=	=
		▽									▽				

歯の記号

▽：歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するもの(遊離歯)

=：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

齶触は認めない。上顎右側側切歯及び上顎左側第一小臼歯にのみ、エナメル質減形成をみとめた。咬耗度は下顎右側第一大臼歯が4度、上顎右側第一大臼歯が3度、上顎右側側切歯が2度、上顎右側第三大臼歯が1度で未萌出だった。上下顎左側第一小臼歯は咬耗度の観察は不可であった。年齢は、上顎右側第三大臼歯の歯冠が完成していることから15歳以上であり、歯の咬耗度から成人段階に達していたと思われる(Ube Iaker, 1989)。性別は不明である。

[焼骨] (写真1-D・E)

細片化が著しい頭蓋骨・四肢骨片が多数遺存する(写真1)。総重量615gである。灰白色から白色の色調を呈する破片と黒色を呈する破片が混在する。全て焼成されている人骨と思われる。四肢長骨片の随所に輪状に走る亀裂がみられる。部位が確認できた頭骨は、前頭骨グラベラ部片・右上顎骨前頭突起部片(写真1-D-3)、右側頭骨内耳孔部(写真1-D-9)、左頬骨片、後頭骨内後頭隆起部片、下顎骨下顎枝部片(写真1-D-10)、下顎骨前歯部片(写真1-D-11)、

されないと説明がなされている(May 1988)。本遺構の焼骨は、色調にはむらがあるもののいずれも生焼けでないことから、埋存過程で消失したと考えるよりも、埋められたか当初から現在ある量しかなかったと推定するほうが蓋然性が高い。火葬して焼骨を取めるなどした際、すべてを取得しなかったものと思われる。

取得に際して、頭骨を選択的に選ぶ場合が知られているが、頭骨の割合が極めて高いわけではなく、取得に際して意図的に頭骨を取得した傾向は認められなかった。

45号土坑(写真1-B)

被熱していない歯冠が3個と焼骨片が少量確認できる。焼骨の焼成状況から別個体と思われるが確認はない。

[被熱していない歯]

歯種の同定できたものは以下の歯式に示す。

					▽							▽				
=	=	=	=	=	C	=	=	=	=	=	=	P1	=	=	=	=
=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	P2	=	=	=
												▽				

歯の記号

▽：歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するもの(遊離歯)

=：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

残存する上顎右側犬歯には、唇側面に赤色の着色を認める。エナメル質減形成が全ての歯種について認められた。齶触は認めない。咬耗度は下顎左側第二小臼歯では3度、その他の歯種では鑑定が不可であった。

[焼骨]

細片化の著しい頭骨・四肢骨片が少量遺存する。総重量9.1gである。骨片は灰白色から白色の色調を呈する。全て焼成されている人骨と思われる。細片化が著しいため、年齢・性別は現段階では不明である。

46号土坑(写真1-C)

被熱していない右下顎第2乳臼歯の歯冠が1個確認される。

=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=
=	=	=		▽ds2	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=
				▽												

歯の記号

▽：歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するもの(遊離歯)

=：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

齶触・エナメル質減形成共に認めない。頬側の一部に破損を認めるが、未萌出歯であると推定される。年齢は、下顎第2乳臼歯の歯冠は完成して、見萌出であることから生後9ヶ月以上、2歳以下と推定される。この年齢段階の性別推定は困難であり、現時点では不明である。

文献

- 馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治 1986 根古屋遺跡出土の土人骨・動物骨、霊山根古屋遺跡の研究。霊山根古屋遺跡調査団報, pp.93-113.
- 藤田 恒太, 1949. 歯の計測基準について. 人類誌 61: 27-31.
- 平野賢二 1935 歯牙の熱処理に対する研究(第一編)人類歯牙の熱処理について. 口腔病学会雑誌. 9:375-393.
- 池田次郎 1981 出土火葬骨について. 太安萬朝墓, 奈良県立橿原考古学研究所編. pp.79-88.
- Mays, S. 1998 Cremated bone. The Archaeology of Human Bones, Routledge, London, pp.207-224.
- Molnar S. 1971. Human tooth wear, tooth function and cultural variability. American Journal of Physical Anthropology, 34: 175-190.
- Nicholson, R. A. 1993 A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. J. Archaeol. Sci., 20: 411-428.
- Shipman, P., Foster, G. and Schoeninger, M. 1984 Burnt bones and teeth: an experimental study of color, morphology, crystal structure and shrinkage. J. Archaeol. Sci., 11: 307-325.
- 杉山兼也, 黒須一夫, 1964. 乳歯の計測基準について. 小児歯誌 2: 1-8.
- Ubleker III. 1989. Human skeletal remains: Excavation, Analysis, Interpretation (2nd edition). Washington, DC.: Taraxacum: 172.
- 山口 敏 1983 出土人骨についての分析. 竜ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書Ⅱ, 小千谷市教育委員会, pp.41-43.

第30表 歯冠計測値

		43号土坑墓				45号土坑墓			
		右側		左側		右側		左側	
		近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径
【乳歯】	上顎	乳中切歯(d11)	—	—	—	—	—	—	—
		乳側切歯(d12)	—	—	—	—	—	—	—
		乳犬歯(dc)	—	—	—	—	—	—	—
		第一乳臼歯(dm1)	—	—	—	—	—	—	—
	第二乳臼歯(dm2)	—	—	—	—	—	—	—	
	下顎	乳中切歯(g11)	—	—	—	—	—	—	—
		乳側切歯(g12)	—	—	—	—	—	—	—
		乳犬歯(gc)	—	—	—	—	—	—	—
		第一乳臼歯(dm1)	—	—	—	—	—	—	—
		第二乳臼歯(dm2)	—	—	—	—	—	—	—
—		—	—	—	—	—	—	—	
【永久歯】	上顎	中切歯(I1)	—	—	—	—	—	—	—
		側切歯(I2)	6.87	*	×	—	—	—	—
		犬歯(C)	—	—	—	—	×	×	—
		第一小臼歯(P1)	—	—	×	×	—	—	×
		第二小臼歯(P2)	—	—	—	—	—	—	—
		第一大臼歯(M1)	10.70	12.42	—	—	—	—	—
		第二大臼歯(M2)	—	—	—	—	—	—	—
	第三大臼歯(M3)	9.15	11.72	—	—	—	—	—	
	下顎	中切歯(i1)	—	—	—	—	—	—	—
		側切歯(i2)	—	—	—	—	—	—	—
		犬歯(c)	—	—	—	—	—	—	—
		第一小臼歯(p1)	—	—	×	×	—	—	—
		第二小臼歯(p2)	—	—	—	—	—	—	7.72
		第一大臼歯(m1)	12.10	11.83	—	—	—	—	8.53
第二大臼歯(m2)		—	—	—	—	—	—	—	
第三大臼歯(m3)	—	—	—	—	—	—	—		

—: 該当歯が存在しないもの

×: 破損等のため計測値が得られない計測項目

*: 咬耗, エナメル質の欠損等によって計測点を欠くために, 計測点の近くを用いて計測した近似値である。

写真1

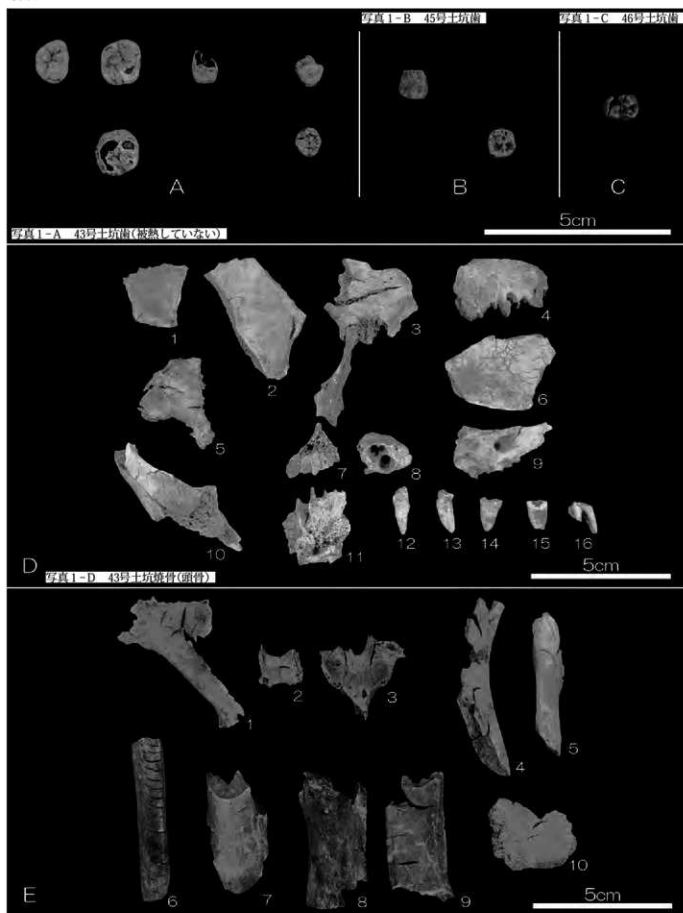


写真1-E 43号土坑遺物(体幹・四肢)

第6節 まとめ

1 薬師遺跡

薬師遺跡では、東側に隣接する既報告の下芝内出畑遺跡(群理文2019)で判明している遺構群の連続性や範囲が課題となった。

本遺跡で検出された遺構は、竪穴建物45棟、12世紀初頭埋没水田面(浅間B軽石下水田面)、溝70条、掘立柱建物23棟、礎石列2列、火葬土坑・墓壇21基、土坑・井戸51基、竪4カ所であった。

出土土器の様相から9世紀後半代を中心とする竪穴建物群が東側微高地に密集して分布し、この地点(1-2区・1-6区)が本地域における平安時代の集落居住域の中心的位置を占めることが分かった。下芝内出畑遺跡では、竪穴建物7棟が疎らな間隔で分布しており、本遺跡で確認された居住域の東側外縁部分を形成していたと推測される。また下芝内出畑遺跡が居住域外縁にあたることは、5基の製鉄炉が検出されていることも関連するだろう。なお、下芝内出畑遺跡では平安時代集落に伴う掘立柱建物4棟が報告されているが、薬師遺跡では当該時期と認定される掘立柱建物は見られなかった。地点の違いによる建物構成の相違であろうか。下芝内出畑遺跡3号掘立柱建物は鍛冶跡に伴う上屋との推測もなされており、集落全体の中で職掌別配置による建物構成がなされていた可能性がある。

薬師遺跡で検出された竪穴建物は、床面付近まで削平されてしまったものが大部分で、時期認定の根拠となる遺物も掘り方埋土出土の疑いが強い。個々の竪穴建物の時期認定が難しい。ここでは、出土遺物から9世紀第2四半期～10世紀第1四半期の時間幅の中で捉えておく。竪穴建物同士の重複が3～4棟に及ぶことから、居住域として継続的かつ数世代にわたって竪穴建物が群在したと考えてよい。なお、南東端調査区に当たる1-6区では、竪穴建物の上位で浅間B軽石下水田が検出されているので、10世紀第2四半期を上限として水田域に転換した可能性が高い。

本遺跡で検出された水田は、天仁元(1108)年に推定されている浅間山の噴火に伴う浅間B軽石で覆われたもの

である。水田検出面は11世紀末段階のものといえるが、明瞭な畦畔はほとんど残っていない。検出された水田区画は、疑似畦畔ともいえる畦基底部の痕跡によるものである。これによれば、水田区画の規模は極小であり、その平面形も辺部では三角形や不定形など多様である。この様相は、傾斜の少ない低地域での浅間B軽石下水田との大きな相違である。その理由は、扇状地形の傾斜面に湛水・及び効果的な配水を行うための区画設定ゆえと考えられ、規模や形状にこだわらず効果的な配水のための畦を設けていったと考えられる。本地点は単純勾配が3%ほどで、圃場整備が実施された現在においても、南北幅が20m前後しかない東西に細長い短冊形水田区画となっている。広い低地域では規格性の高い条里型水田のみられる浅間B軽石下水田も、本遺跡のような傾斜面では土木工事を伴う棚田状の段構造ではなく、古墳時代に一般的であった極小区画の技術がそのまま応用されていたということであろう。

浅間B軽石下水田の範囲については、削平が及んで検出できなかった微高地部分も含め、調査区のはほぼ全域が対象地だったと考えられる。地形的には本遺跡地よりも傾斜が緩く標高も低い東～南～西方向は、大部分が水田化されたと推定できるのではないだろうか。灌漑用と思われる水路は、水田区画中央を南流する2号溝、5号-42号溝、東側微高地を南東流する10号-38号溝、14号溝の4条が判明した。これ以外にも効果的な配水とみられる小規模な溝も数条確認されている。調査範囲が限られるため、溝同士の関係性を把握するには至らなかったが、これらが同時期に機能したと仮定するならば、その走向から、調査区北側において主幹水路から南側と東南側を灌漑するために分岐した水路と想定できよう。

中世の遺構については、火葬土坑を含む墓群と掘立柱建物群が目目される。墓群は、約150m離れた東西端の微高地上に分かれて営まれたのは確かで、両者の間には畝間溝群の検出から高地が存在したと推測される。墓壇出土の六道銭で「永楽通宝」が最も新しいことから、墓群の年代下限は江戸時代初期と考えられる。年代上限の決め手となる根拠を欠くが、埋土の特徴から浅間B軽石降下直後までは遡らないと思われる。概ね室町時代から戦国期と想定しておく。

墓壇から出土した人歯骨の鑑定分析結果からは、成人

の焼骨と2歳以下の幼児の歯が判明した。前者は長辺1m前後の火葬土坑から出土したもので、屈臥状態での茶毘が推測される。後者は被熱痕のない歯で、小規模な土坑にそのまま土葬された可能性を考えたい。東西に分かれた墓群は、各々が年齢と無関係に一放的なまとまりで葬られたと考えられよう。

墓塚については、埋土の上層に大型の礫を埋置する例が目立ち、一種の墓標の意味合いをもつとも考えられた。また30号土坑からは、埋土上層に火輪が正位で埋置されていたことから、これも墓標代わりに利用されたものだろうか。一方では墓群中に多量の礫を投入した土坑もみられ、墓以外の廃棄坑の存在も判明した。調査地では地山である泥流中に多くの大小礫が含まれていることから、墓塚掘削時に掘り出された礫の処理を現地で行ったと考えてよからう。

掘立柱建物群については、屋敷の一部を構成するとも考えられたが、東西の墓群に伴う分布状況や、南東調査区の1-6区で検出された小規模な四面構造と考えられる建物の存在から、墓地と関連する「堂」も推測された。掘立柱建物群と墓群の先後関係は確認できないが、小規模四面建物と推測される19・21・25号掘立柱建物は、柱穴重複から数度にわたる建替えが行われたと考えられ、相応の存在期間が見込まれる。墓群配置もこの建物を取り巻くように分布することから、これらが同時存在の時期を持っていたことは想定可能である。

なお、而調査を断念した6世紀代泥流以前の遺構の有無を確認するため、泥流下黒色土壌のプラント・オパール分析を実施した。この結果、本遺跡の東端で採取した黒色土壌から、イネのプラントオパールが1200個/g検出された(第2章第5節)。これは、稲作の目安とされる5000個/gには及ばず、この地点が5世紀以前に水田化されていた証拠とはならなかった。

2 萬行遺跡

下芝内出畑遺跡の東側に位置する萬行遺跡は、扇状地形の東側傾斜地にあり、井野川の谷を見下ろす地点に位置する。この位置関係から、西側の薬師遺跡・下芝内出畑遺跡で検出された遺構群の東限を把握することが求められた。

萬行遺跡で検出された遺構は、溝7条、土坑とピット

6基、近世畑2箇所であった。出土遺物は見られず、確実な時期認定可能な遺構は見られなかった。平安時代の集落関連遺構が確認できなかったことから、集落居住域は下芝内出畑遺跡のなかに留まり、萬行遺跡地点は東側を画する水路や畑地として利用されたと推測される。検出された7条の溝のうち、規模の大きい2・3・5～7号溝はいずれも地形縁辺にそって南東方向に流下する直線の水路で、著しい侵食と洪水埋没がみられた。これらは浅間B軽石の堆積がみられないことから、中世以降のものだと推測され、その機能は排水機能を備えた灌漑用の主幹水路と考えられよう。この場合には、東側に展開する低い傾斜面への給水機能が想定される。

萬行遺跡においても、泥流下の黒色土壌についてイネのプラントオパール分析を実施した。この結果、イネの存在は認められず、少なくともこの地点における泥流下が水田耕土でないことは明らかとなった。

註・参考文献

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019「下芝内出畑遺跡 和田山天神前2遺跡」

写 真 図 版

上大島御伊勢遺跡····· PL. 1～9

薬師遺跡····· PL.10～79

萬行遺跡····· PL.80～84



1 調査区全景 (南西から)



2 調査区北東部 (南西から)



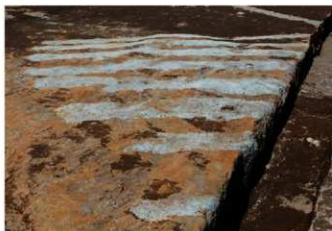
3 調査区北東部 (南西から)



4 調査区中央部 (南西から)



5 調査区中央部西側 (南西から)



1 1号復旧坑確認状態（南から）



2 1号復旧坑土層断面（西から）



3 1号復旧坑土層断面（西から）



4 1号復旧坑全景（西から）



5 1号復旧坑全景（東から）



6 2号復旧坑確認状態（南西から）



7 2号復旧坑土層断面（南西から）



8 2号復旧坑全景（南西から）



1 3号復旧坑土層断面（南東から）



2 3号復旧坑全景（北東から）



3 4号復旧坑全景（南西から）



4 4号復旧坑全景（南東から）



5 4号復旧坑東側（南東から）



6 4号復旧坑東側（北東から）



7 4号復旧坑西側（北西から）



8 4号復旧坑土層断面（南西から）



1 4号復旧坑土層断面（南西から）



2 4号復旧坑土層断面（南西から）



3 5号復旧坑確認状態（北東から）



4 5号復旧坑土層断面（南西から）



5 5号復旧坑土層断面（南西から）



6 5号復旧坑全景（北東から）



7 5号復旧坑西側（北東から）



8 6号復旧坑全景（北から）



1 6号復旧坑土層断面（西から）



2 6号復旧坑土層断面（西から）



3 石列全景（北から）



4 石列全景（西から）



5 石列中央部（西から）



6 石列北側（西から）



7 石列南側（西から）



8 1号畦状遺構全景（北東から）



1 2号畦状遺構全景（北西から）



2 1号から3号土坑全景（北東から）



3 1号土坑全景（北東から）



4 2号土坑全景（北東から）



5 3号土坑全景（北東から）



6 4号土坑全景（北東から）



7 4号土坑南側（北西から）



8 4号土坑北側（北西から）



1 6号土坑全景(北東から)



2 7号から9号土坑全景(北西から)



3 7号から11号土坑全景(北西から)



4 12号土坑全景(南東から)



5 1号溝南東側(南東から)



6 1号溝中央部(北西から)



7 1号溝北西部(南東から)



8 1号溝北西部(南東から)



1 1号溝北西部（南東から）



2 2号溝全景（北から）



3 2号溝中央部（北から）



4 2号溝全景（北から）



5 3号溝全景（南東から）



6 5号溝全景（北から）



7 6号溝全景（南東から）



8 7号溝全景（北東から）



4(4枚目)



10(4上)



11(4上)



5(4枚目)



12(4上)



13(4上)



14(4上)



15(4上)



16(4上)



17(4上)



18(4上)



20(5溝)



23(遺構外)



1 調査区1-2区と背景の榛名山(S→)



2 1-5区調査状況(S→) 微高地部で全域に地山礫が露出する。



1 2-2区土層断面(N→) 中位白色層は浅間B軽石の一次堆積物



2 2-1区土層断面(S→)中位に浅間B軽石



3 榛名火山泥流堆積物(6世紀代)



1 1-6区竪穴建物群調査状況(N→)



2 1号竪穴建物(W→)右は2号竪穴



3 1号竪穴建物土層断面B-B'



4 1号竪穴建物遺物出土状況



5 1号竪穴建物裏(30003)出土状況



1 2号竪穴建物検出状況(W→)



2 2号竪穴建物土層断面(S→)



3 2号竪穴建物竈検出状況(W→)



4 2号竪穴建物東遺物出土状況



5 2号竪穴建物の根巻石状施設



1 3号竪穴建物全景(W→)



2 3号竪穴建物遺物取上げ作業



3 3号竪穴建物北西遺物出土状況



4 3号竪穴建物蓋(30016)出土状況



5 3号竪穴建物嚢(30025)出土状況



1 4号竪穴建物検出状況(SW→)



2 4号竪穴建物床付近断面



3 4号竪穴建物遺物(30017)出土状況



4 4号竪穴建物土層断面(SW→)



5 5号竪穴建物検出状況(N→)



6 5号竪穴建物地山露出状況(N→)



7 5号竪穴建物遺物(30022)出土状況



8 5号竪穴建物遺物(30023)出土状況



1 6号竪穴建物検出状況(N→)



2 7号竪穴建物検出状況(W→)



3 8号竪穴建物検出状況(N→)



4 8号竪穴建物中央部遺物出土状況



5 8号竪穴建物遺物(30026・30027)出土状況



6 9号竪穴建物検出状況(S→)



7 10号竪穴建物検出状況(W→)



8 10号竪穴建物壙底面検出状況



1 11号竪穴建物検出状況(W→)



2 11号竪穴建物掘り方埋土断面



3 12号竪穴建物全景(N→)



4 12号竪穴建物南半土層断面(E→)



5 12号竪穴建物東半土層断面(S→)



1 12号竪穴建物竈 後世柱穴が掘り抜く



2 12号竪穴建物Pit4



3 12号竪穴建物Pit3



4 12号竪穴建物竈焚口遺物出土状況



5 12号竪穴建物掘り方全景(W→)



1 13号竪穴建物検出状況(W→) 下位に14号竪穴建物が見える。



2 13号竪穴建物竈底面



3 13号竪穴建物室内土坑



4 13号竪穴建物床面に散在する土器片



5 13号竪穴建物土層断面A-A'



1 14(上)・36号竪穴建物全景(W→)



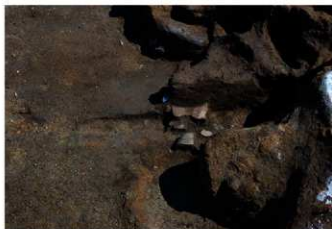
2 14号竪穴建物礎全景(W→) 構築材の大小礫は崩落する。



1 14号竪穴建物土層断面A-A'



2 14号竪穴建物竈縦断面



3 14号竪穴建物竈焚口部遺物出土状況



4 14号竪穴建物竈掘り方



5 14(上)・36号竪穴建物掘り方全景(W→)



1 36号竪穴建物全景(E→)



2 36号竪穴建物竈検出状況



3 36号竪穴建物土層断面A-A' (N→)



4 36号竪穴建物竈焚口遺物(30053ほか)出土状況



5 36号竪穴建物竈掘り方



1 15号竪穴建物検出状況(W→)



2 15号竪穴建物掘り方調査



3 16号竪穴建物検出状況(W→) 上は15号竪穴建物



4 16号竪穴建物掘り方調査



5 16号竪穴建物掘り方埋土断面



1 17号竪穴建物検出状況(S→)



2 17号竪穴建物土層断面 右側に16号竪穴



3 手前から20・18・24号竪穴建物検出状況(W→)



4 18号竪穴建物



5 18号竪穴建物断面



1 19号竪穴建物検出状況(N→)



2 19号竪穴建物掘り方面(N→)



3 20号竪穴建物検出状況(W→)



4 20号竪穴建物土層調査状況(S→)



5 20号竪穴建物土層断面(N E→)



1 20号竪穴建物礎散在状況(W→)



2 20号竪穴建物竈検出状況



3 20号竪穴建物竈縦断面



4 20号竪穴建物竈断面調査と炭化物層



5 20号竪穴建物竈掘り方



1 20号竪穴建物床面遺物(30043)出土状況



2 20号竪穴建物貯蔵穴脇遺物(30044・30043)出土状況



3 20号竪穴建物竈焚口遺物出土状況



4 20号竪穴建物床面遺物(30046)出土状況



5 20号竪穴建物掘り方全景(W→)



1 21号竪穴建物検出状況(W→)



2 21号竪穴建物西壁部(N E→)



3 22・23・41・42号竪穴建物の重複状況(S→) 左上は15号竪穴



4 24・33(右)号竪穴建物検出状況(W→)



5 33号竪穴建物土層断面(N→)



1 25号竪穴建物掘り方面(N→)



3 1-6区東半遺構群(S→)



2 26号竪穴建物(中央)と隣接遺構(SW→)



4 26・27(左下)号竪穴建物検出状況(SW→)



5 26号竪穴建物調査状況(SW→)



6 26号竪穴建物土層断面B-B'



7 26号竪穴建物掘り方全景(SW→)



1 27号竖穴建物検出状況(SW→)



2 28号竖穴建物検出状況(SE→)



3 28号竖穴建物竈調査状況(SE→)



4 28号竖穴建物掘り方全景(SE→)



5 29号竖穴建物検出状況(W→)



6 29号竖穴建物竈調査状況(W→)



7 29号竖穴建物掘り方面調査状況



8 29号竖穴建物掘り方面全景(W→)



1 30号竪穴建物検出状況(W→)北に方形落ち込み



2 30号竪穴建物掘り方埋土断面B-B'



3 30号竪穴建物掘検出状況(W→)



4 30号竪穴建物北壁際遺物出土状況



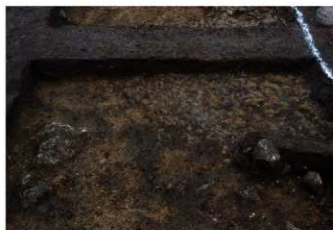
5 30号竪穴建物掘り方全景(W→)



1 31号竪穴建物検出状況(W→)



2 31号竪穴建物竈調査状況(W→)



3 31号竪穴建物掘り方面と埋土断面B-B'



4 31号竪穴建物掘り方面全景(W→)



5 32号竪穴建物検出状況(W→)



6 32号竪穴建物掘り方面全景(W→)



7 40号竪穴建物掘り方面全景(W→)



8 40(左)・32(右)号竪穴建物掘り方埋土断面(W→)



1 34号竪穴建物検出状況(W→)



2 34号竪穴建物掘り方面全景(W→)地山礫が露出



3 35号竪穴建物検出状況(W→)



4 37号竪穴建物掘り方面全景(E→)



5 38号竪穴建物全景(N→) 31号溝(左)、12号竪穴(右)



6 39号竪穴建物検出状況(W→)



7 左から43・44・45号竪穴建物検出状況(NE→)



8 46号竪穴建物掘り方面検出状況(E→)



1 1-4区(手前)、2-3区(奥)の水田調査全景(S E→)



2 1-3区1号畦と15号溝(S→)



3 1-3区2号畦(S→) 右は10号溝



4 1-3区西端水田区画(W→)



5 1-3区西端水田区画(E→)



1 1-3区水田面検出状況(SW→)



2 1-3区水田面と水路の10号溝(S→)



3 1-3区水田面と5・11号溝(S→)



4 1-3区水田面と土層断面(S→)



5 1-4区西半水田検出状況(E→)



6 1-4区畦状部分(左)と42号溝(S→)



7 1-4区水田検出状況(E→)



1 1-1区・2-1区水田調査状況(E→)



2 2-1区浅間B軽石堆積状況(S E→)



3 2-2区水田検出状況(E→)



4 2-3区水田検出状況(W→)



5 2-2区水田区画(S→)



6 2-3区水田と微高地の境界(N→)



1 1-4区水田面(中央上白色部)と水路の49号溝(中央縦断)(N→)



2 1-4区水田区画(S→) 中央に大畦痕



3 1-4区水田区画(S→) 左畦に右列



4 1-5区水田区画(E→)



5 1-6区水田区画(N→)



1 2-1区1号溝土層断面(W→)



2 1-5区40号溝検出状況(S→)



3 1-1区2号溝検出状況(NW→)



4 1-1区2号溝土層断面



5 1-3区5(左)・11(右)号溝検出状況(S→)



6 1-3区5号溝土層断面(S→)



7 1-3区10号溝検出状況(S→)



8 1-3区10号溝土層断面(SW→) 白層が浅間B軽石



1 1-3区12号溝(S→)



2 1-3区13号溝(S→)



3 1-5区38号溝(W→)



4 1-5区42号溝土層断面(S→)



5 1-4区43号溝検出状況(N→)



6 1-4区49号溝(中央縦断)全景(S→)



7 1-5区39号溝土層断面



8 1-5区40号溝検出状況



1 1-3区溝群(E→) 7(左)8(右)号溝が並走し、10号溝が横断



2 1-3区7号溝の掘削跡



3 1-3区8号溝土層断面



4 1-3区14号溝土層断面



5 1-3区14号溝全景(E→)



1 1-2区調査状況全景(E→)



2 1-2区16号溝全景(S→)



3 1-2区17号溝検出状況(S→)



4 1-2区17号溝土層断面 浅間A 軽石で埋まる



5 1-2区水田区画とこれを切る16号溝(N→)



1 1-5区調査状況全景(N→) 中央を縦断する31・32号溝



2 1-5区33~37号溝(S→) 中央を35・36号溝が横断する



1 1-5区27~31号溝(E→) 中央を横断する31号溝、右から27・28・29号溝が並走



2 1-6区31号溝(N→)



1 1-5区27号溝全景(W→)



2 1-5区27号溝土層断面



3 1-5区28号溝全景(W→)



4 1-5区28号溝土層断面



5 1-5区29号溝全景(W→)



6 1-5区29号溝土層断面



7 1-5区30号溝検出状況(S→)



8 1-5区32号溝土層断面



1 1-5区33号溝検出状況(W→)



2 1-5区33号溝土層断面



3 1-5区34号溝(S→) 左の31号溝に並走



4 1-5区36(右)・37号溝重複状況(E→)



5 1-5区35号溝土層断面



6 1-5区36号溝土層断面



7 1-5区37号溝検出状況(E→)



8 1-5区37号溝土層断面



1 1-4区溝群(E→) 左から44・45・46・47・48号溝



2 1-4区44号溝土層断面



3 1-4区45号溝土層断面



4 1-4区46号溝土層断面



5 1-4区47・48号溝土層断面



1 1-4区東端の溝群(S→)



2 1-4区51号溝土層断面



3 1-4区東半の溝群(S→) 右端白色部が51・52・53号溝



4 1-4区54号溝土層断面 55号溝が切る



5 1-4区55号溝 51号溝から分岐、横断する



1 1-4区57~60号溝(E→)



2 1-6区61・62号溝(N→)



3 1-6区64号溝(W→)



4 1-6区66号溝土層断面



5 1-6区溝群 畝の可能性あり、竪穴建物を切る



1 2-2区1(右)・2号掘立柱建物(S→)



2 1号掘立柱建物1号柱穴断面



3 1号掘立柱建物2号柱穴断面



4 1号掘立柱建物3号柱穴断面



5 1号掘立柱建物4号柱穴断面



6 1号掘立柱建物5号柱穴断面



7 1号掘立柱建物6号柱穴断面



8 1号掘立柱建物7号柱穴断面



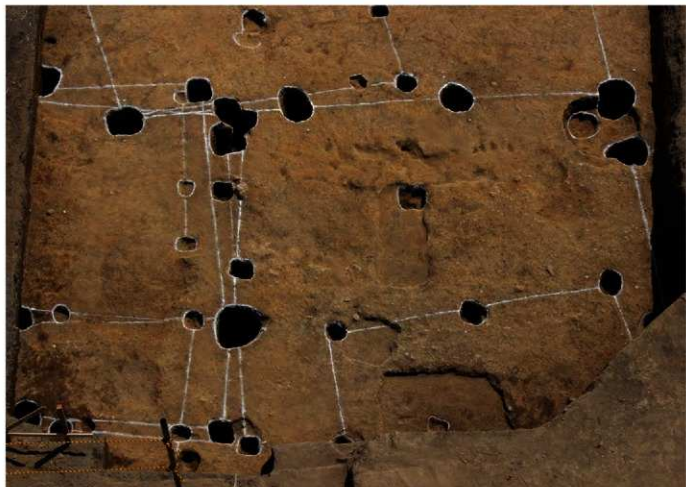
9 1号掘立柱建物8号柱穴断面



10 2号掘立柱建物2号柱穴断面



1 2-2区掘立柱建物群(S→)



2 2-2区掘立柱建物群(W→)



1 1-2区10号掘立柱建物(S E→)



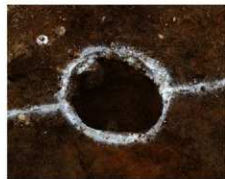
2 10号掘立柱建物P1



3 10号掘立柱建物P2



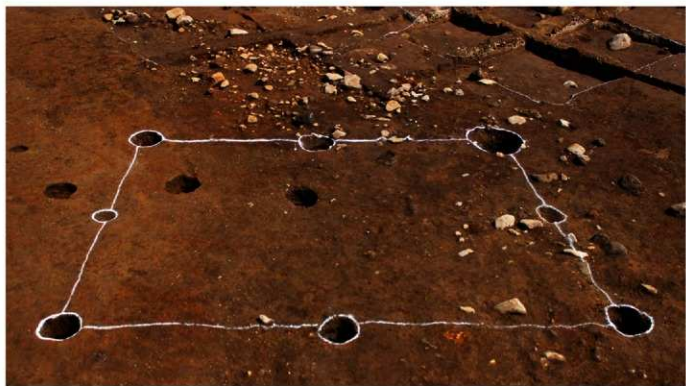
4 10号掘立柱建物P3



5 10号掘立柱建物P4



6 10号掘立柱建物P6



7 1-2区11号掘立柱建物(S→)



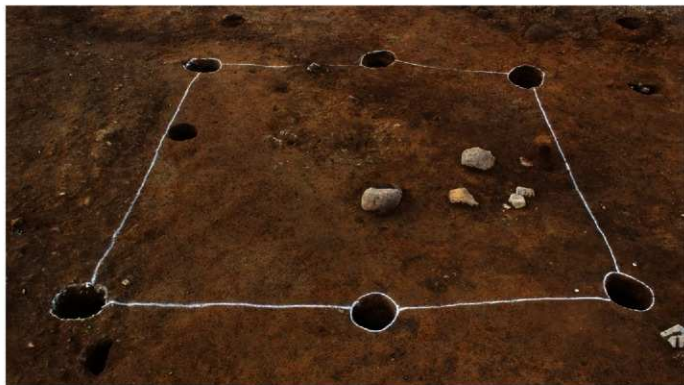
8 1-2区12号掘立柱建物(S→)



9 12号掘立柱建物P2



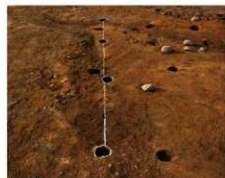
10 12号掘立柱建物P3



1 1-2区13号掘立柱建物(S→)



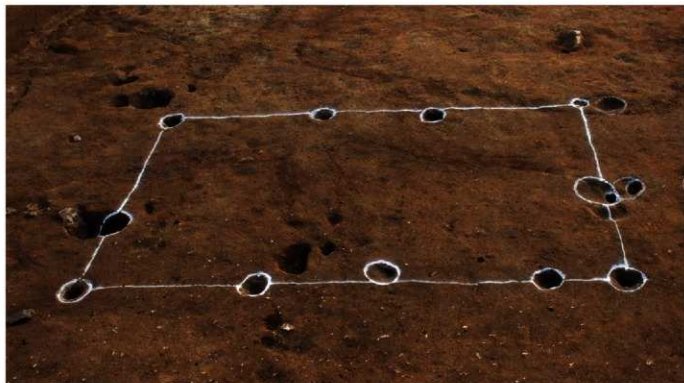
2 13号掘立柱建物P1断面



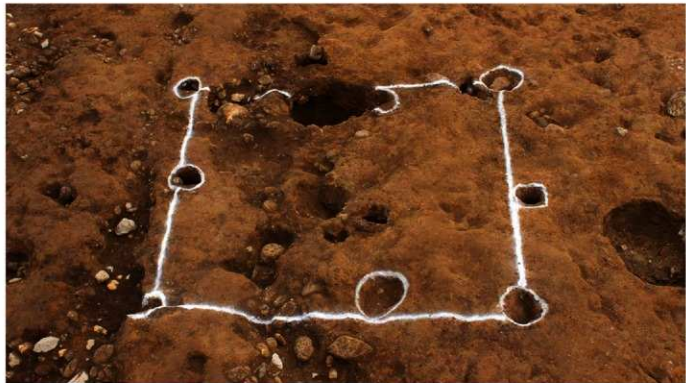
3 1-2区1号横列(S→)



4 2-3区15号掘立柱建物(N→)



5 2-3区14号掘立柱建物(E→)



1 1-5区16号掘立柱建物(N→)



2 16号掘立柱建物P2断面



3 16号掘立柱建物P3断面



4 16号掘立柱建物P6断面



5 1-4区17号掘立柱建物(E→)



6 17号掘立柱建物P1断面



7 17号掘立柱建物P2断面



8 17号掘立柱建物P1検出状況



9 17号掘立柱建物P3断面



10 17号掘立柱建物P3検出状況



1 1-6区18号掘立柱建物(E→)



2 1-6区19号掘立柱建物(W→)



3 19号掘立柱建物P5・P40断面



4 19号掘立柱建物P3断面



5 1-6区19号掘立柱建物(N→)



1 1-6区20号掘立柱建物と周辺道横(S E→)



2 1-6区20号掘立柱建物(W→)



1 1-6区21・25号掘立柱建物(S→)



2 1-6区22号掘立柱建物(S→)



3 1-6区24号掘立柱建物(N→)



4 1-6区26号掘立柱建物(S→)



5 1-6区27号掘立柱建物(S→)



6 1-6区28号掘立柱建物(N→)



7 1-6区29号掘立柱建物(N→)



1 2区6号土坑(火葬土坑)検出状況(N→)



2 2区6号土坑の炭、灰、骨片出土状況



3 2区6号土坑の炭と骨片出土状況



4 2区6号土坑土層断面



5 2区6号土坑下層の炭と灰の堆積



1 2区6号土坑(墓壇)



2 2区7号土坑(墓壇)



3 2区9号土坑(墓壇)



4 1区15号土坑(墓壇)



5 1区17号土坑(墓壇)(S→)



1 1区18号土坑(墓墳)全景(S→)



2 1区18号土坑底面と錢貨出土状況(E→)



3 1区18号土坑土層断面と磔埋置状況



4 1区19号土坑(墓墳)全景(E→)



5 1区19号土坑かわらけ出土状況



6 1区19号土坑錢貨出土状況



7 1区23号土坑(墓墳)(W→)



8 1区23号土坑土層断面



1 1区23号土坑礫出土状況



2 1区23号土坑底面と錢貨出土状況



3 1区24号土坑(墓壙)全景(S→)



4 1区25号土坑(墓壙)全景(W→)



5 1区26号土坑(墓壙)全景(W→)



6 1区36号土坑(墓壙)と錢貨出土状況(N E→)



7 1区43号土坑(左)、42号土坑(右)(W→)



8 1区43号土坑(火葬土坑)全景(E→)



1 1区43号土坑(火葬土坑)検出状況 煙道部に焼土、土坑内に骨片と炭片



2 1区43号土坑の土層断面



3 1区43号土坑人骨片出土状況



4 1区43号土坑残骨出土状況



5 1区43号土坑骨片 中央ビットにもみられる



1 1区45号土坑(火葬土坑)全景(W→)



2 1区45号土坑検出状況(E→)



3 1区45号土坑内に散乱する骨片と炭片



4 1区45号土坑底面付近の骨片出土状況



5 1区45号土坑(手前)と43号土坑(奥)



1 1区46号土坑(墓壇)検出状況(E→)



2 1区46号土坑の骨片と銭貨出土状況



3 1区46号土坑踐貨出土状況



4 1区48号土坑(墓壇)土層断面



5 1区48号土坑踐貨出土状況



6 1区48(左)、51号土坑(右)



7 1区49号土坑検出状況(W→)右はP27



8 1区49号土坑かわらけ出土状況



1 2区1号土坑断面



2 2区2(左)・3号土坑断面



3 2区4号土坑断面



4 2区5号土坑断面



5 1区8号土坑全景(S→)



6 1区11号土坑断面



7 1区12号土坑断面(樹根跡)



8 1区13号土坑断面



9 1区21号土坑断面



10 1区22号土坑断面



11 1区27号土坑断面



12 1区33号土坑全景(E→)



13 1区34号土坑全景(S→)



14 1区35号土坑全景(S→)



15 2区37号土層断面



1 2区38号土坑断面



2 2区39号土坑全景(S→)



3 1区40号土坑全景(E→)



4 1区41号土坑全景(E→)



5 1区42号土坑全景(W→)



6 1区42号土坑遺物出土状況



7 1区44号土坑遺物出土状況



8 1区47号土坑全景(W→)



9 1区63号土坑断面



10 1区64号土坑断面



11 1区65号土坑断面



12 1区66号土坑(S→)



13 1区67号土坑断面



14 1区69号土坑断面



15 2区1号井戸全景(S→)



1 1区P1



2 1区P2



3 1区P3



4 1区P4



5 1区P5



6 1区P6



7 1区P7



8 1区P8



9 1区P9



10 1区P10



11 1区P11



12 1区P12



13 1区P13



14 1区P14



15 1区P15土層断面



1 1区P16土層断面



2 2区P17



3 1区P18



4 1区P19



5 1区P21断面



6 1区P22断面



7 1区P23断面



8 1区P24断面



9 1区P25断面



10 1区P28・29断面



11 1区P30断面



12 1区P31断面



13 1区P33断面



14 1区P34断面



15 1区P35断面



1 1区P37断面



2 1区P41・42断面



3 1区P43断面



4 1区P44断面



5 1区P45断面



6 1区P46断面



7 1区P47断面



8 1区P48断面



9 1区P49断面



10 1区P50断面



11 1区P51断面



12 1区P54



13 1区P55断面



14 1区P56断面



15 1区P57断面



1 1区P58断面



2 1区P59断面



3 1区P60断面



4 1区P65



5 1区P65かわらけ出土状況



6 1区P68断面



7 1区P69断面



8 1区P70(左)・P71断面



9 1区P73断面(21号掘立柱穴)



10 1区P74断面



11 1区P76(中央)・P77(右)・P78



12 1区P76断面



13 1区P79(左上)・左からP80・81・82



14 1区P80断面



15 1区P84断面(22掘立柱穴)



1 1区P85断面



2 1区P86断面(24掘立柱穴)



3 1区P87断面(22掘立柱穴)



4 1区P88断面(22掘立柱穴)



5 1区P89断面



6 1区P91断面(25掘立柱穴)



7 1区P93 奥は60土坑



8 1区P94断面・P95(手前)



9 1区P97断面



10 1区P98断面



11 1区P99断面



12 1区P101(左)・102断面



13 1区P103断面



14 1区P104断面



15 1区P106断面



1 1区P108断面



2 1区P109断面(20掘立柱穴)



3 1区P110断面



4 1区P112断面



5 1区P113断面



6 1区P114断面(25掘立柱穴か墓塚)



7 1区P115断面



8 1区P116断面(19掘立柱穴)



9 左から1区P117・P116・P118



10 1区P116内陶器皿・碟出土状況



11 1区P119断面



12 1区P121断面



13 1区P122断面



14 1区P123断面



15 1区P124断面



1 1区P127断面(26掘立柱穴)



2 1区P128断面



3 1区P129断面



4 1区P132断面



5 1区P133断面



6 1区P135断面



7 1区P138断面



8 1区P139断面



9 1区P140断面



10 左から1区P144・68土坑・P145・P146断面(E→)



1 1区P148断面



2 1区P149(左)・P150(中央)断面



3 1区P151断面(21掘立柱穴)



4 1区P152断面



5 1区P153断面



6 1区P154断面



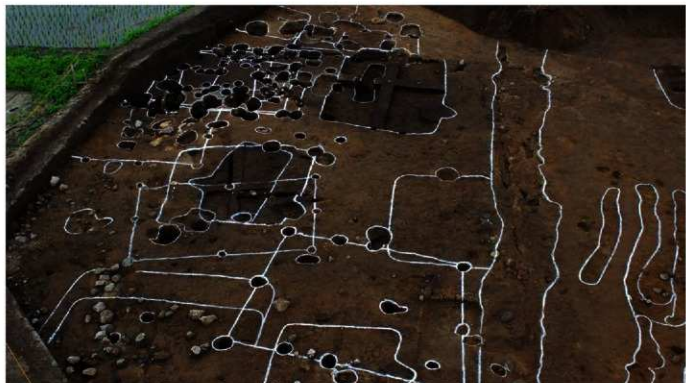
7 1区P155断面



8 1区P156断面



9 1区P158断面とかわらけ出土状況



10 1-6区の遺構群(S→) 西半に掘立柱建物が集まる

1号竪穴建物



30004



30001

2号竪穴建物



30009



30011



30012

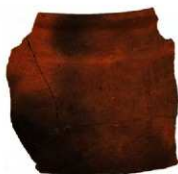
3号竪穴建物



30015



30016



30025

4号竪穴建物



30017

5号竪穴建物



30022

7号竪穴建物



30024

8号竪穴建物



30027

10号竪穴建物



30028

菜師道跡

12号竪穴建物



13号竪穴建物



18号竪穴建物



20号竪穴建物



36号竪穴建物



14号溝



51号溝



30029

19号掘立柱建物



40010

19号土坑



40006

49号土坑



40008

65号ピット



40011

117号ピット



40013

ピット一括(1-6区)



30058

遺構外



10001



30064

1-5 覆乱



40017

1-5 表採



40014



30061

1-6 覆乱



40015



40016



40003

萊師遺跡

17号土坑



50036



50037



50038



50040



50041



50042

19号土坑



50043

23号土坑



50031

30号土坑



50032

36号土坑



50035

43号土坑



50050



50051



50052

46号土坑



50048



50049



50056

48号土坑



50044



50047



50号土坑



1面



表採



20号竖穴建物



14号溝



42号土坑



39号土坑



55号土坑



菜師道跡

1-5区掘乱



70015



70013

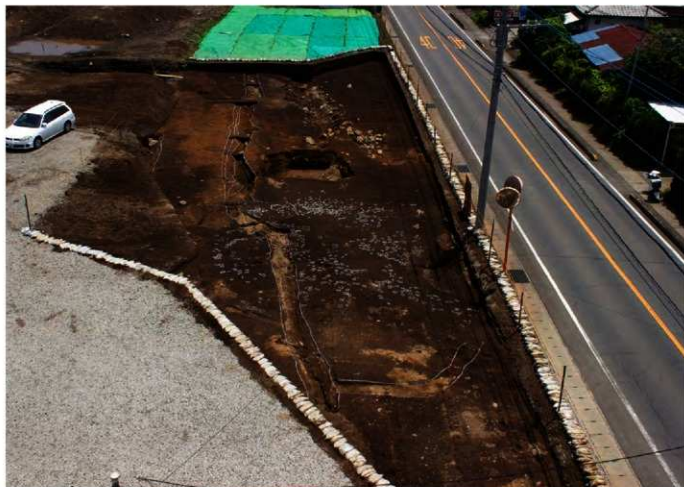


70014

表採



70017



1 調査1面全景(NW→)



2 1号溝検出状況(NW→)



3 1号溝土層断面



4 2号溝土層断面(左5溝、右3・6溝)



5 2号溝土層断面(2・6・7溝断面A)



1 2号溝検出状況(S E→) 右は3号溝



2 4号溝検出状況(S E→)



3 5・2・6号溝(左から)土層断面



4 6・5・7号溝(左から)(NW→)



1 6・2・7号溝(左から)土層断面



2 7・5・2・6号溝(左から) (S E→)



3 6号溝土層断面



4 7号溝土層断面



1 7号溝検出状況(NW→)



2 1号土坑(N E→)



3 1号土坑土層断面



4 調査1面畑耕作痕(SE→)



1 畑耕作痕



2 1号畑(S E→)



3 2号畑(S→)



4 2号畑断面



5 3号畑(S E→)



6 泥流下面の状況(N→)



7 泥流掘削断面

抄 録

書名ふりがな	かみおおしまおいせいせき・やくしいせき・まんぎょういせき
書 名	上大島御伊勢遺跡・葉師遺跡・萬行遺跡
副 書 名	(主)前橋安中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第701集
編 著 者 名	大木紳一郎/大西雅広
編 集 機 関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発 行 機 関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20220309
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地 2

遺跡名ふりがな	かみおおしまおいせいせき
遺 跡 名	上大島御伊勢遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしかみおおしままち
遺 跡 所 在 地	群馬県高崎市上大島町444、446番地
市町村コード	102024
遺 跡 番 号	04022
北緯(世界測地系)	36.359431(10進法表記)
東経(世界測地系)	138.927274(10進法表記)
調 査 期 間	20200401-20200430
調 査 面 積	2172.1㎡
調 査 原 因	道路建設
種 別	生産/墓
主 な 時 代	近世
遺 跡 概 要	近世-復旧坑 6 + 火葬墓 1 + 土坑 12 + 溝 7 / 時期不詳石列 1 + 畦状遺構 2 / 近世陶磁器
特 記 事 項	
要 約	烏川右岸の低地に位置する。低地の利用は江戸時代以降。

遺跡名ふりがな	やくしいせき
遺跡名	薬師遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしみさとまちしもしばやくし
遺跡所在地	群馬県高崎市箕郷町下芝薬師570ほか
市町村コード	10202
遺跡番号	03380
北緯(世界測地系)	36.379956(10進法表記)
東経(世界測地系)	138.962844(10進法表記)
調査期間	20140401～20140731
調査面積	6,464㎡
調査原因	道路建設
種別	生産/集落
主な時代	平安/中世
遺跡概要	集落-平安-竪穴建物45 / 生産-平安-水田+溝-中世-畠/墓-中世-掘立柱建物23+火葬土坑4+墓壇17+土坑51
特記事項	9世紀後半を中心とする集落、浅間B軽石で覆われた水田、中世墓群。
要約	扇状地斜面に進出した9世紀の集落が営まれ、10世紀中葉以降に水田化された。中世では、火葬土坑を伴う墓群とこれに関連する建物群が密集して検出された。

遺跡名ふりがな	まんぎょういせき
遺跡名	萬行遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしみさとまちしもしばまんぎょう
遺跡所在地	群馬県高崎市箕郷町下芝萬行764ほか
市町村コード	10202
遺跡番号	03379
北緯(世界測地系)	36.380823(10進法表記)
東経(世界測地系)	138.965661(10進法表記)
調査期間	20200701～20200731
調査面積	656㎡
調査原因	道路建設
種別	生産
主な時代	中世
遺跡概要	生産-中世-溝7+土坑・ピット6+畠
特記事項	洪水で埋もれ、掘り直された水路群。
要約	扇状地東端の斜面で地形に沿って掘開された灌漑用と思われる用水路。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第701集

上大島御伊勢遺跡・葉師遺跡・萬行遺跡

(主)前橋女中富岡線(西毛広域幹線道路 高崎西工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4(2022)年3月3日 印刷

令和4(2022)年3月9日 発行

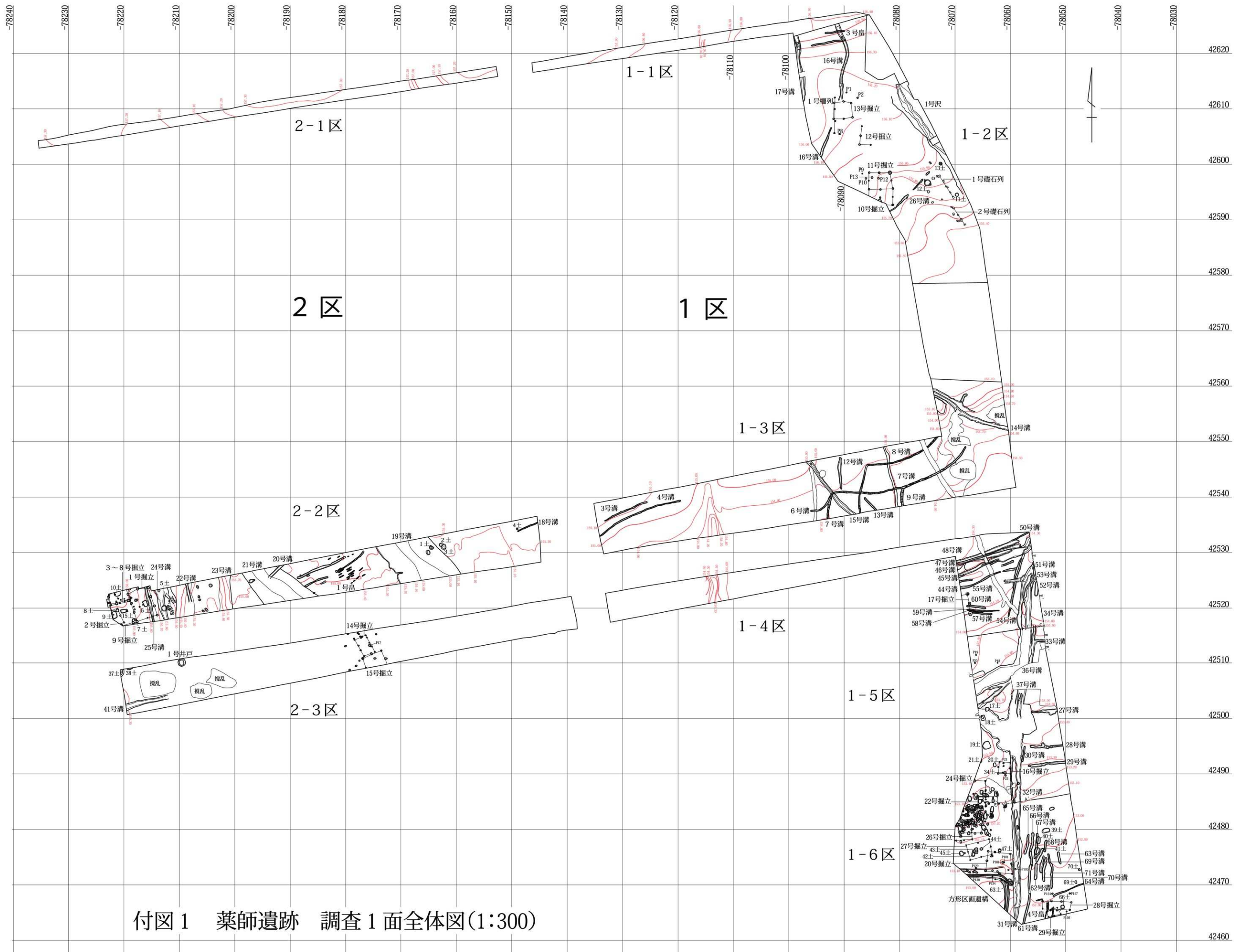
編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田1784番地2

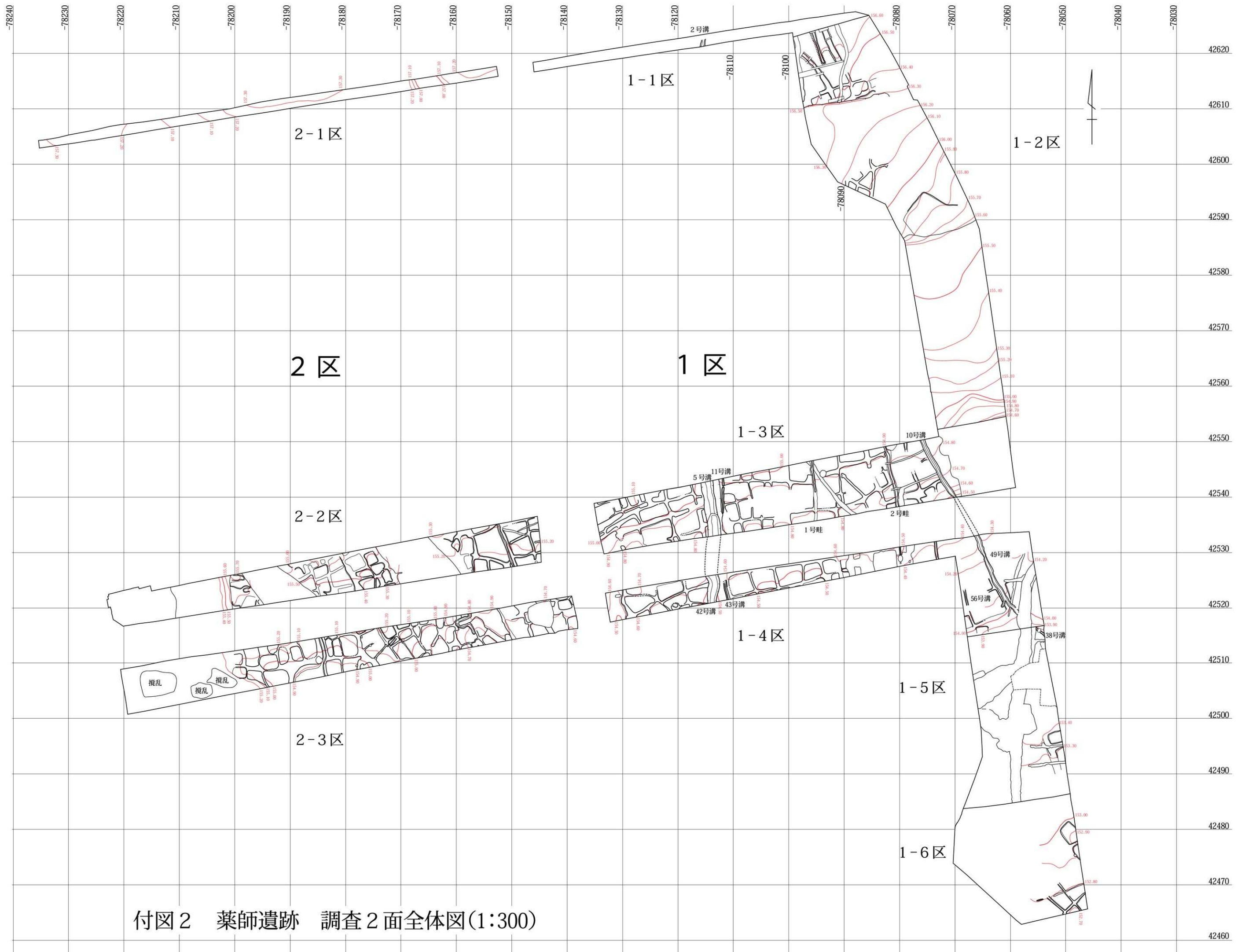
電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/株式会社開文社印刷所



付図1 薬師遺跡 調査1面全体図(1:300)



付図2 薬師遺跡 調査2面全体図(1:300)

